

— 茨城県土浦市 —

# 坂田台山古墳群 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）  
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

土浦市教育委員会  
有限会社 毛野考古学研究所

— 茨城県土浦市 —

# 坂田台山古墳群 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）  
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

土浦市教育委員会  
有限会社 毛野考古学研究所

## 序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川など豊富な水資源に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところでありました。そのため市内には、集落跡や貝塚、古墳など数多くの遺跡が存在しています。これらの遺跡は、当時の人々の生活や環境を知る手掛かりとなります。また、現代に生きる私たちが、豊かな生活を送ることのできる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化財を保護し後世に伝えることは、私たちの重要な任務であり、また、郷土の発展のために大切なことであります。

この度、上坂田地区と下坂田地区において大規模な畑地帯総合整備事業が計画され、今年度は下坂田中台遺跡と下坂田貝塚、坂田台山古墳群の記録保存を目的とした発掘調査が行われました。

調査の結果は本文に記載されているとおりですが、土浦の古代の解明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書刊行にあたり、関係者の皆様のご協力とご支援に対し厚く御礼を申し上げます。

平成25年3月  
土浦市教育委員会  
教育長 井坂 隆

## 目次

ごあいさつ	第5章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区	17
例言・凡例	第1節 竪穴住居跡	17
目次・図版目次・表目次・写真図版目次	第2節 溝跡	37
第1章 調査に至る経緯と経過	第3節 土坑	42
第1節 調査に至る経緯	第4節 井戸跡	52
第2節 調査の経過	第5節 建物跡	54
第2章 遺跡の位置と環境	第6節 ピット	54
第1節 遺跡の位置と地理的環境	第7節 地点貝塚	57
第2節 歴史的環境	第8節 遺構外出土遺物	59
第3章 調査の方法と基本層序	第6章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区	62
第1節 調査の方法	第1節 竪穴住居跡	62
第2節 基本層序	第2節 溝跡	63
第4章 坂田台山古墳群	第3節 土坑	64
第1節 竪穴住居跡	第4節 ピット	68
第2節 溝跡	第5節 遺構外出土遺物	69
第3節 土坑	第7章 まとめ	71
第4節 古墳	付章	74
第5節 ピット	写真図版	
第6節 遺構外出土遺物	報告書抄録・奥付	

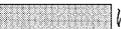
## 挿図目次

第1図 調査地点位置図	第15図 1～3・6号ピット	2	15
第2図 遺跡分布図	第16図 3号ピット出土遺物	4	15
第3図 基本層序	第17図 遺構外出土遺物	5	16
第4図 調査区位置図	第18図 1号住居跡	6	17
第5図 グリッド配置図	第19図 1号住居跡カマド	7	18
第6図 坂田台山古墳群全体図	第20図 1号住居跡出土遺物	8	19
第7図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区全体図	第21図 1号住居跡出土遺物	9	20
第8図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区全体図	第22図 1号住居跡出土遺物	10	21
第9図 1号住居跡・1号住居跡出土遺物	第23図 2号住居跡	11	22
第10図 1号住居跡出土遺物	第24図 2号住居跡出土遺物	12	23
第11図 1・2号溝跡	第25図 3号住居跡	12	24
第12図 1～3号土坑	第26図 3号住居跡出土遺物	13	25
第13図 1号土坑出土遺物	第27図 4号住居跡・4号住居跡出土遺物	13	26
第14図 屋敷付古墳・1号周溝	第28図 5号住居跡・5号住居跡出土遺物	14	27

## 例 言

1. 本書は、土浦市坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚の発掘調査報告書である。
2. 調査は、土浦市より委託契約を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
3. 調査については、土浦市教育委員会の指導の下に行った。
4. 遺跡の所在地・調査面積・調査期間等は下記の通りである。  
所在地 茨城県土浦市下坂田 1467 番地外  
調査面積 2760㎡  
調査期間 平成 23 年 12 月 14 日～平成 24 年 3 月 21 日  
調査指導 比毛君男（土浦市教育委員会）  
調査担当 柴田洋孝（有限会社毛野考古学研究所）  
調査作業員 市村浩男 江口弥男 榎戸洋子 遠藤幸子 大沼義則 表豊 加藤通紀 清原卓  
小角みや子 相良麻美 下山豊二 寺崎清次 萩原和宏 針ヶ谷紀夫 平林敬子  
宮本富夫 矢口克（50 音順）
5. 整理期間と整理従事者は以下の通りである。  
整理期間 平成 24 年 10 月 6 日～平成 24 年 3 月 8 日  
整理作業員 荒井佳子 石山亜希子 大滝千晶 鬼山由子 木村宏次 菅谷万須美 仙波菜津美  
高橋真弓 土井航平 成田恵美 根本正子
6. 本書の原稿執筆分担は以下の通りである。  
第 1 章第 1 節を比毛、第 1 章第 2 節～第 7 章を柴田が担当した。
7. 住居跡出土物の写真撮影は有山径世（毛野考古学研究所）、その他は柴田が担当した。
8. 本遺跡から出土した貝・獣骨類の分類作業は常深尚（毛野考古学研究所）が担当した。
9. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の方々、諸機関より御教示・御協力を賜った。記して謝意を表す次第である。（敬称略）  
茨城県教育委員会文化課 茨城県南農林事務所 国立歴史民俗博物館 常洋建設工業株式会社  
坂田地区県営畑地帯総合土地改良事業実施協議会 土浦市産業部耕地課  
独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所  
富山県教育委員会埋蔵文化財センター 魚津市教育委員会  
青木正博 斎藤弘道 下川浩一 高山茂樹 納屋内高史 西本豊弘 町田賢一
10. 本報告書に関わる出土品および記録図面・写真などは、一括して上高津貝塚ふるさと歴史の広場で保管している。

## 凡 例

1. 本書に記している座標値は、世界測地系に基づく。挿図のうち、平面図の方位は座標北を、土層断面図の水準高の数値は海拔標高を示す。
2. 出土遺物の注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。  
S I：竪穴住居跡 S D：溝 S K：土坑 S E：井戸 S B：掘立柱建物跡 S Z：周溝 貝：貝塚  
S X：性格不明遺構 P：ピット K：カクラン
3. 遺構平面図・断面図の縮尺は 1/30・1/60・1/150・1/200、遺物実測図の縮尺について土器は 1/3、土製品は 1/1・1/2・1/3、石製品は 1/1・1/3、貝製品・骨角器は 1/1・1/2・1/3 にて掲載し、スケールを明示している。また、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
4. 観察表における（ ）は推定値を、〈 〉は残存値を示す。
5. 各遺構番号は調査区ごとに振り分けを行い、本報告書においても一部を除き調査時の番号のまま報告している。なお、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 1 区における 12 号住居跡、4・17 号土坑、2・13～15・25・26・28 号ピット、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 2 区における 3・9・23 号ピットは欠番となっている。
6. 遺構図中における  は炭化物を、 は焼土を、 は硬化面（柱あたり）を、 は貝を示す。
7. 遺物実測図中における  は黒色処理を、 は赤彩を、 は油煙を、 は鉄釉を、 は被熱を、 は繊維を示す。
8. 本書中の色調に関する表現は、『新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2002 年版）』に従った。
9. 引用・参考文献は一括して文末に記した。

第 29 図	6号住居跡・6号住居跡出土遺物・・・28	第 51 図	23・25～27号土坑出土遺物・・・49
第 30 図	6号住居跡出土遺物・・・29	第 52 図	27号土坑出土遺物・・・50
第 31 図	7号住居跡・・・29	第 53 図	1号井戸跡・・・52
第 32 図	7号住居跡出土遺物・・・30	第 54 図	1号井戸跡出土遺物・・・53
第 33 図	8号住居跡・・・30	第 55 図	1号建物跡・・・54
第 34 図	8号住居跡出土遺物・・・31	第 56 図	1・5～8号ピット・・・55
第 35 図	9号住居跡・10号住居跡・・・32	第 57 図	20～24・35号ピット・・・56
第 36 図	11号住居跡・11号住居跡出土遺物・・・33	第 58 図	ピット位置図・・・56
第 37 図	13号住居跡・・・34	第 59 図	ピット出土遺物・・・57
第 38 図	13号住居跡出土遺物・・・35	第 60 図	地点貝塚・地点貝塚出土遺物・・・58
第 39 図	14号住居跡出土・14号住居跡出土遺物・・・36	第 61 図	遺構外出土遺物・・・59
第 40 図	15号住居跡・・・37	第 62 図	遺構外出土遺物・・・60
第 41 図	3・5・7・8・10・11号溝跡・・・38	第 63 図	1号住居跡・・・62
第 42 図	9・12～14号溝跡・・・39	第 64 図	2号住居跡・・・62
第 43 図	2・3・5・7・8・9・11・12号溝跡 出土遺物・・・40	第 65 図	1・2号溝跡・・・63
第 44 図	12・13・16号溝跡出土遺物・・・41	第 66 図	1号土坑・・・64
第 45 図	2・3号土坑・・・43	第 67 図	2・3・6・9・14号土坑・・・65
第 46 図	6・9・11～13号土坑・・・44	第 68 図	1号土坑出土遺物・・・65
第 47 図	15・16・21・23～27・29号土坑・・・45	第 69 図	1・2・3・6号土坑出土遺物・・・66
第 48 図	9・11・12号土坑出土遺物・・・46	第 70 図	6・9・14号土坑出土遺物・・・67
第 49 図	12・13・15号土坑出土遺物・・・47	第 71 図	ピット出土遺物・・・69
第 50 図	15・16号土坑出土遺物・・・48	第 72 図	遺構外出土遺物・・・69
		第 73 図	遺構外出土遺物・・・70

## 表 目 次

表 1	調査地点周辺の遺跡一覧表・・・4	表 14	6号住居跡出土遺物観察表・・・29	表 27	11号溝出土遺物観察表・・・42
表 2	1号住居跡出土遺物観察表・・・12	表 15	7号住居跡出土遺物観察表・・・30	表 28	12号溝出土遺物観察表・・・42
表 3	溝跡一覧表・・・12	表 16	8号住居跡出土遺物観察表・・・32	表 29	13号溝出土遺物観察表・・・42
表 4	土坑一覧表・・・13	表 17	11号住居跡出土遺物観察表・・・33	表 30	16号溝出土遺物観察表・・・42
表 5	1号土坑出土遺物観察表・・・13	表 18	13号住居跡出土遺物観察表・・・35	表 31	土坑一覧表・・・43
表 6	ピット一覧表・・・15	表 19	14号住居跡出土遺物観察表・・・36	表 32	9号土坑出土遺物観察表・・・50
表 7	3号ピット出土遺物観察表・・・15	表 20	溝跡一覧表・・・37	表 33	11号土坑出土遺物観察表・・・50
表 8	遺構外出土遺物観察表・・・16	表 21	2号溝跡出土遺物観察表・・・41	表 34	12号土坑出土遺物観察表・・・50
表 9	1号住居跡出土遺物観察表・・・21	表 22	3号溝跡出土遺物観察表・・・41	表 35	13号土坑出土遺物観察表・・・50
表 10	2号住居跡出土遺物観察表・・・23	表 23	5号溝出土遺物観察表・・・41	表 36	15号土坑出土遺物観察表・・・50
表 11	3号住居跡出土遺物観察表・・・25	表 24	7号溝跡出土遺物観察表・・・41	表 37	16号土坑出土遺物観察表・・・51
表 12	4号住居跡出土遺物観察表・・・27	表 25	8号溝出土遺物観察表・・・41	表 38	23号土坑出土遺物観察表・・・51
表 13	5号住居跡出土遺物観察表・・・28	表 26	9号溝出土遺物観察表・・・41	表 39	25号土坑出土遺物観察表・・・51

表 40	26号土坑出土遺物観察表・・・51	表 49	溝跡一覧表・・・・・・・・・・63	表 58	ピット出土遺物観察表・・・69
表 41	27号土坑出土遺物観察表・・・51	表 50	土坑一覧表・・・・・・・・・・64	表 59	遺構外出土遺物観察表・・・70
表 42	1号井戸跡出土遺物観察表・・・53	表 51	1号土坑出土遺物観察表・・・67	表 60	土壌洗浄・貝分類表・・・・・・・・73
表 43	ピット一覧表・・・・・・・・・・55	表 52	2号土坑出土遺物観察表・・・67		
表 44	ピット出土遺物観察表・・・57	表 53	3号土坑出土遺物観察表・・・68		
表 45	地点貝塚一覧表・・・・・・・・・・58	表 54	6号土坑出土遺物観察表・・・68		
表 46	1号地点貝塚出土遺物観察表・・・58	表 55	9号土坑出土遺物観察表・・・68		
表 47	2号地点貝塚出土遺物観察表・・・59	表 56	14号土坑出土遺物観察表・・・68		
表 48	遺構外出土遺物観察表・・・60	表 57	ピット一覧表・・・・・・・・・・68		

## 写真図版 目次

P L . 1	1号住居跡全景・1号住居跡遺物出土状況・1・2号溝跡全景・1号土坑全景・2号土坑全景・3号土坑全景・屋敷付古墳調査前全景・1号周溝全景	P L . 6	24号土坑全景・25号土坑注口土器出土状況・1号建物跡検出状況・1号井戸跡全景・地点貝塚検出状況・20～23号ピット全景・1区南側東西路線全景・1区北側東西路線全景
P L . 2	1号住居跡全景・1号住居跡カマド・2号住居跡全景・2号住居跡白玉出土状況・3号住居跡全景・3号住居跡遺物出土状況・4号住居跡全景・4号住居跡遺物出土状況	P L . 7	1号住居跡全景・2号住居跡全景・1号溝跡全景・2号溝跡全景・1号土坑セクション・2号土坑セクション・3号土坑全景・2区全景
P L . 3	5号住居跡全景・5号住居跡遺物出土状況・6号住居跡全景・6号住居跡遺物出土状況・7号住居跡全景・7号住居跡遺物出土状況・8号住居跡全景・8号住居跡遺物出土状況	P L . 8	出土遺物
P L . 4	9号住居跡全景・10号住居跡全景・11号住居跡全景・11号住居跡遺物出土状況・13号住居跡全景・13号住居跡遺物出土状況・13号住居跡土製模造鏡出土状況・14号住居跡全景	P L . 9	出土遺物
P L . 5	14号住居跡石製模造品出土状況・2号溝跡遺物出土状況・6号溝跡全景・7・8・10号溝跡全景・9号溝跡硬化面検出状況・12号溝跡全景・13号溝跡全景・11号土坑馬骨出土状況	P L . 10	出土遺物
		P L . 11	出土遺物
		P L . 12	出土遺物
		P L . 13	出土遺物
		P L . 14	出土遺物
		P L . 15	出土遺物
		P L . 16	出土遺物
		P L . 17	出土遺物
		P L . 18	出土遺物
		P L . 19	出土遺物
		P L . 20	出土遺物
		P L . 21	出土遺物

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

1995（平成7）年2月、新治村（当時）教育委員会教育長宛に茨城県土浦土地改良事務所から、下坂田・上坂田の台地上縁辺部にかけて県営畑地帯総合土地改良事業を計画しており、その予定地内の埋蔵文化財の有無について照会が提出された。現地踏査を行ったところ、包蔵地・貝塚・古墳群の存在が確認されたため、試掘確認調査が必要である旨を回答した。2002（平成14）年8月、茨城県土浦土地改良事務所から、埋蔵文化財の有無と遺跡が存在した場合の取扱についての照会が提出された。

2006（平成18）年2月に新治村が土浦市と合併すると、当事業は計画が具体化し、同年6月に土浦市教育委員会は全域の現地踏査を行った。2008（平成20）年3月には、赤弥堂遺跡の西側から事業区域西端の坂田峯の台古墳群にかけて、事業区域内全体に試掘確認調査を行った。これら試掘確認調査の結果をもとに、土浦市教育委員会は茨城県土浦土地改良事務所・土浦市産業部耕地課と協議を継続し、道路建設対象箇所に対して記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。2008（平成20）年3月25日、茨城県知事と土浦市長との間で坂田地区の埋蔵文化財取扱全般に関する覚書を締結。2011（平成23）年度は、事業地のほぼ中央にあたる下坂田中台遺跡・下坂田貝塚・坂田台山古墳群と、事業地の東端にあたる下坂田塙台遺跡・坂田塙台古墳群の2地点の発掘調査を実施しており、当報告書は前者分に当たっている。

今回の調査に関する文化財保護法関連の手続は、2008（平成20）年6月17日付けで茨城県土浦土地改良事務所長（呼称は当時）より当事業全体に関する埋蔵文化財の発掘の通知（文化財保護法第94条）が土浦市教育委員会に提出され、6月27日付けで茨城県教育長宛に進達した。調査年度の2011（平成23）年度には、一部道路の線形変更があったため、これにつき平成23年9月6日付けで茨城県南農林事務所長より埋蔵文化財の発掘の通知が土浦市教育委員会に提出され、9月29日付けで茨城県教育長宛に進達した。発掘調査は有限会社毛野考古学研究所が実施することとなり、埋蔵文化財発掘調査の届出（文化財保護法第92条）を、9月30日付けで茨城県教育委員会教育長宛に進達した。11月10日付けで茨城県教育長より埋蔵文化財発掘調査の通知を受けている。なお、平成24年3月29日付けで発掘調査の終了確認依頼の進達を行い、同年3月31日付けで茨城県教育委員会教育長より終了確認の通知を受けた。

## 第2節 調査の経過

発掘調査は平成23年12月14日～平成24年3月21日まで、整理作業は平成24年10月6日～平成25年3月8日まで行った。経過は以下の通りである。

平成23年12月期：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材の搬入。坂田台山古墳群から調査を開始する。また、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区（以下1区）の表土除去も一部行う。坂田台山古墳群における調査は28日で終了。平成24年1月期：1区の調査を開始。住居・土坑を複数確認。調査区の西端で地点貝塚を確認。工事の進捗状況に伴い、終了した区域から部分的に明け渡しを行う。2月期：下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区（以下2区）の重機掘削を行う。3月期：2区の調査を開始。土坑とピットを多数検出した。1区の調査は13日で、2区の調査は16日で終了。21日、発掘器材の撤収を行い、全ての発掘調査業務は終了となる。

平成24年10月期：遺物の洗浄作業を開始し、洗浄終了したものから注記作業を行う。遺構平面図・セクション図のデジタルトレースを行う。11月期：遺物の接合作業を開始。12月期：遺物の写真撮影・実測作業を開始する。平成25年1月期：引き続き遺物の実測作業を行い、中旬に終了。遺物実測図のデジタルトレース作業を開始し、1月中に終了。2月期：図版の版組み・原稿作成・編集作業を行い、中旬に入稿。3月期：報告書を刊行し、教育委員会に納品する。

## 第2章 遺跡の位置と環境

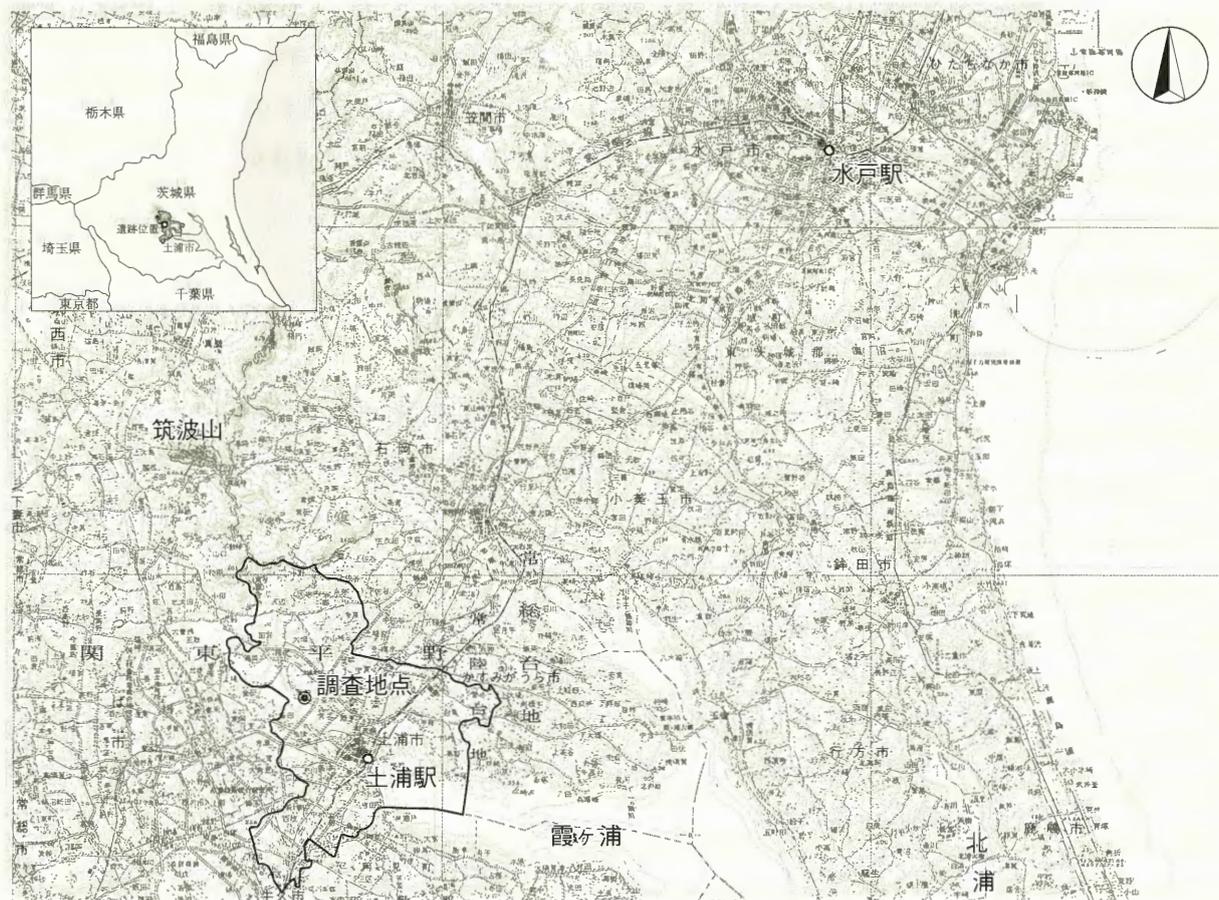
### 第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図）

坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚は、現在土浦市下坂田に所在しているが、2006年の合併以前は新治郡新治村の所在であった。土浦市は茨城県の南部に位置し、北は石岡市、西はつくば市、東はかすみがうら市、南は牛久市・稲敷郡阿見町と接し、北西には筑波山を望むことができる。

土浦市の中央部には桜川が霞ヶ浦に向かって流れ、河口部は土浦入りを形成している。土浦市はこの桜川を境に、左岸は新治台地、右岸は筑波・稲敷台地が広がり、桜川の周囲は低地（幅2～3km）となっている。本遺跡は桜川の左岸である新治台地の縁辺部（標高28～29m）に位置している。

土浦市を含む霞ヶ浦周辺の地形の形成は今から約30,000年前までさかのぼると考えられ、古鬼怒川によって形成された谷地形（桜川周辺の低地帯も含む）が元になっている。約18,000年前（後期旧石器時代）から温暖化に伴う海面の上昇が徐々に始まり、約9,000年前頃（縄文早期）から谷地形に海水が流入し始め、入江が形成される。約6,000年前の縄文海進期（縄文前期）には海水の流入がピークを迎え、桜川低地帯の汽水域（淡水と海水の混在域）は現在の湖岸より4kmほど内陸まで広がっていたとされる。ちょうど、本遺跡が位置している下坂田地区辺りの低地までと考えられている。

現在、本遺跡を含む下坂田周辺は畑地・果樹園が広がり、台地の縁辺部には針葉樹林が形成されている。遺跡の北部には土浦市街地に向かう国道125号線が走り、西部には国道を縦断する形で常磐自動車道が走るなど、交通の要所が集中する地域でもある。また、下坂田の西側は上坂田となり、両地区を合わせて坂田地区と呼称している。



第1図 調査地点位置図（国土地理院発行『水戸』1：200,000を50%縮小して加筆）

## 第2節 歴史的環境

本遺跡を含めた新治台地の周辺で確認されている遺跡の概要について各時代別に述べることにする。

旧石器時代 旧石器時代の遺跡は常磐自動車道の東側に位置している常名台遺跡群【25～30】で確認されているが、その数は少ない。神明遺跡【27】第4次調査ではローム層中から石器ブロック1基、隣接する山川古墳群【29】第2次調査でもローム層中から石器ブロック3基と炉跡を検出している。炉跡から採取した炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、約32,000年前のものであるとした測定結果が示されている。

縄文時代 縄文時代の遺跡は集落だけでなく地点貝塚も広く分布している。上坂田北部貝塚【4】は前期の地点貝塚で、ハイガイを主体とした貝層が住居内に確認されている。また、上坂田寺裏貝塚【8】・下坂田馬場先貝塚【14】・赤弥堂【18】でも前期の地点貝塚が確認されている。神明遺跡【27】では中期の土坑からサルボウやハマグリが主体の地点貝塚が、下坂田貝塚【★】は筑波大学による畑地帯の確認調査によって後晩期の地点貝塚であることが確認されている。新治台地で確認された地点貝塚はいずれも小規模なものであるが、広範囲にわたって点在している状況が調査によって判明している。

弥生時代 弥生時代に該当する遺跡は少なく、確認されていたとしてもその遺構数はさらに乏しいものである。山川古墳群【29】第3次調査では後期に比定される住居跡2軒が確認されているが、依存状態が悪く遺物も小片が出土したに留まっている。北西原遺跡【28】第2次調査でもわずかに1軒の住居跡が確認されたのみである。本遺跡周辺の赤弥堂遺跡【18】や下坂田塙台遺跡【12】などでもわずかに弥生土器の小片が採集されているが、現時点で該期の遺構を確認している遺跡はない。

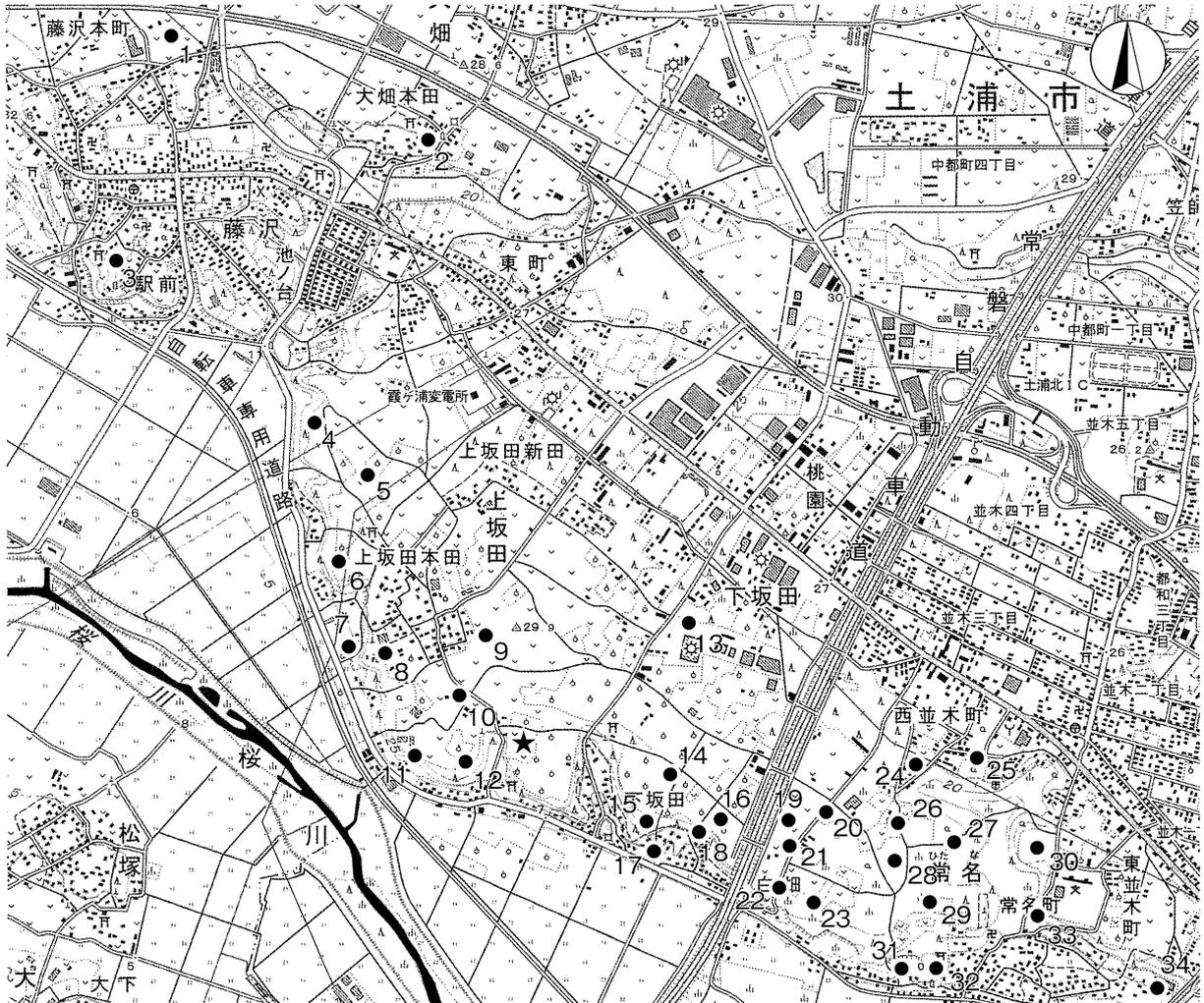
古墳時代 古墳時代に該当する遺跡は弥生時代から格段に増え、台地の縁辺部に多くの古墳が築かれているが、湮滅してしまったものも多いとみられる。集落跡は常名台遺跡群【25～30】で多く確認され、古墳時代前期・後期の竪穴住居跡が多く確認されている。神明遺跡【27】第3次調査では古墳時代前期の住居跡からパレススタイルの壺や結合器台などが出土している。下坂田周辺では赤弥堂遺跡【18】で前期の住居跡が確認されているが、後期の住居跡は確認されていない。上坂田周辺では現時点で集落跡は確認されていないが、上坂田塚原古墳群【5】や上坂田立野古墳群【6】が存在していることから、上坂田にも古墳群の埋葬者に関する集落が展開していた可能性は十分考えられる。坂田・常名地区で確認された古墳は、前期から終末期まで多岐にわたり、武者塚古墳群【10】と常名天神山古墳【32】は市の指定史跡となる。武者塚古墳群【10】は2基の古墳からなるが、墳丘は削平されてしまっている。古墳時代終末期（7世紀後半）に築造されたとみられる1号墳の主体部は箱型横穴式石室を有し、6体分の人骨が確認され、一部髭や美豆良が残存していた。前室からは全国的にも珍しい青銅製の杓が出土するなど貴重な発見が相次いだ。本調査にかかる坂田台山古墳群【★】は現在3基の古墳からなり、1号墳は昭和39年に國学院大学と土浦第二高等学校により主体部のみの調査が行われ、武者塚古墳1号墳とほぼ同時期の7世紀に築造された終末期の古墳であるとされる。

奈良・平安時代 奈良・平安時代になると遺跡数は古墳時代の半分以下となるが、大多数は常名台遺跡群【25～30】に集中している。弁才天遺跡【30】では竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多く確認され、奈良時代の竪穴住居跡のカマド内からは和銅開珎が出土、隣接する西谷津遺跡【25】の奈良時代の竪穴住居跡からは青銅製帯金具が出土している。八幡下遺跡【34】の平安時代の竪穴住居跡からは円面硯が出土している。また、同遺跡1号土坑内から丸瓦が出土していることから周辺において寺院の存在を窺わせるが、確証を得るものではない。

中世 遺跡周辺には藤沢城跡【3】、峯台館跡【7】、上坂田館の内館跡【9】などの城館跡が台地の縁辺に沿うように存在しており、現在も土塁や堀の跡が確認できる。しかし、調査が及ぶものは少なく、遺跡の範囲

や建物配置等は明瞭になっていない。神明遺跡【27】では薬研堀や建物跡、山川古墳群【29】では井戸跡などが確認され、13～14世紀における常名地区の大規模な居館跡の存在が明らかとなっている。

近世 明確に近世に属する遺跡は少なく、赤弥堂遺跡【18】・神明遺跡【27】・山川古墳群【29】などで道路跡や溝跡・土坑などが確認されるに留まる。山川古墳群【29】で確認された溝跡は畑の境界溝と考えられている。



第2図 遺跡分布図（国土地理院発行『常陸藤沢』1：25,000に加筆）

第1表 調査地点周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代								
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世
1	高岡愛宕塚古墳				●				19	中畑遺跡									●
2	大畑本町貝塚		●						20	アラク遺跡									
3	藤沢城跡							●	21	小坂の上遺跡									
4	上坂田北部貝塚		●						22	坂の上遺跡									
5	上坂田塚原古墳群				●				23	羽黒後遺跡									
6	上坂田立野古墳群				●				24	西谷津西遺跡				●					
7	峯台館跡							●	25	西谷津遺跡				●		●			
8	上坂田寺裏貝塚		●						26	北西原古墳群				●					
9	上坂田館の内館跡							●	27	神明遺跡	●	●		●				●	●
10	武者塚古墳群				●				28	北西原遺跡	●	●	●	●					
11	坂田塙台古墳群				●				29	山川古墳群	●	●	●	●		●		●	●
12	下坂田塙台遺跡		●		●		●		30	弁才天遺跡				●					
13	坂田稲荷山塚群								31	瓢箪塚古墳				●					
14	下坂田馬場先貝塚		●						32	常名天神山古墳				●					
15	下坂田八幡神社古墳群				●				33	天神脇遺跡		●		●					
16	下坂田向山古墳群				●				34	八幡下遺跡				●		●			
17	下坂田屋敷内館跡							●		下坂田中台遺跡	●			●		●		●	●
18	赤弥堂遺跡		●			●		●	★	下坂田貝塚	●								
										坂田台山古墳群	●			●				●	

### 第3章 調査の方法と基本層序

#### 第1節 調査の方法（第3～8図）

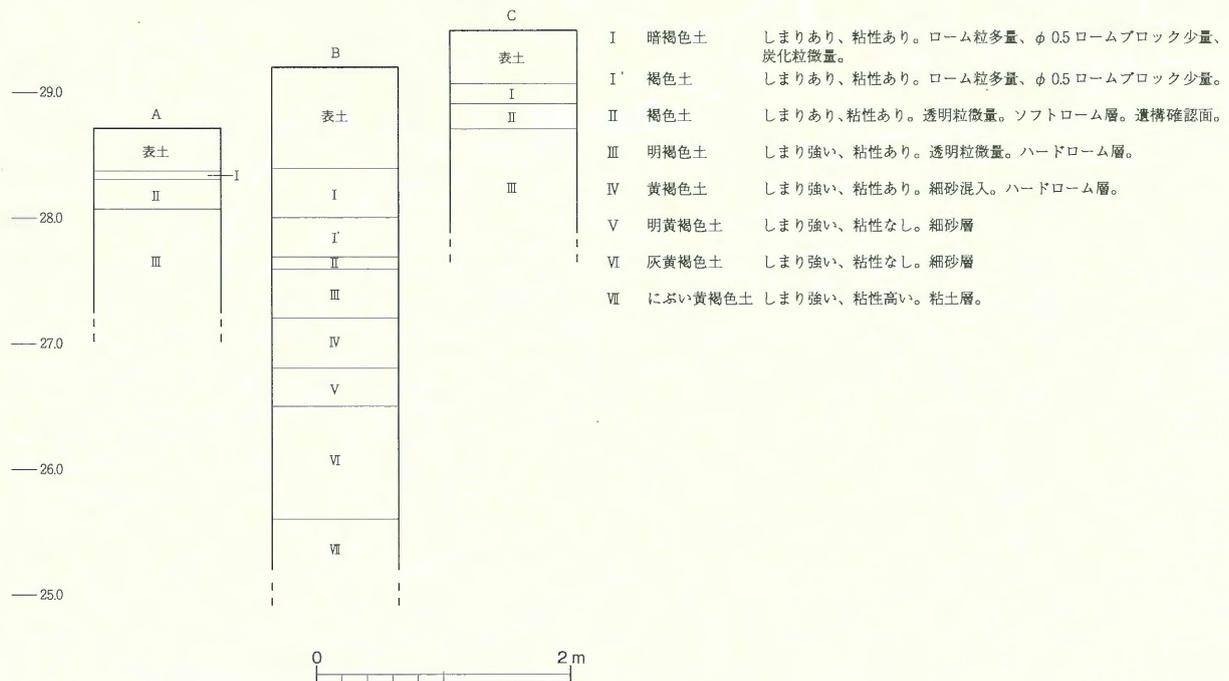
本発掘調査は、坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う下坂田中台遺跡（南地区）外埋蔵文化財発掘調査として行われ、調査対象地域は事前の試掘調査によって遺構の有無を確認し、調査地区の設定を行った。調査対象地域には3つの遺跡が複合しており、坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚が確認されている。調査は坂田台山古墳群→下坂田中台遺跡・下坂田貝塚（1・2区）の順で行った。発掘調査を進めるにあたり、平面測量は世界測地系の公共座標に基づいて行い、3つの調査区を包括する形で20mの大グリッドを設定。グリッド名は北からA・B・C・・・、西から1・2・3・・・とし、A1・A2といったような名称を付けて各遺構の位置を示すものとした。

調査方法は表土掘削→遺構確認作業→遺構掘削作業→土層確認→遺構完掘の順で行い、写真撮影・遺構測量は進捗状況に合わせて適宜行った。遺構確認作業にはジョレン、遺構掘削作業には移植ゴテを使用して掘り下げを行い、出土遺物は可能な限り平板とトータルステーションを併用して3次元計測による記録を行った。

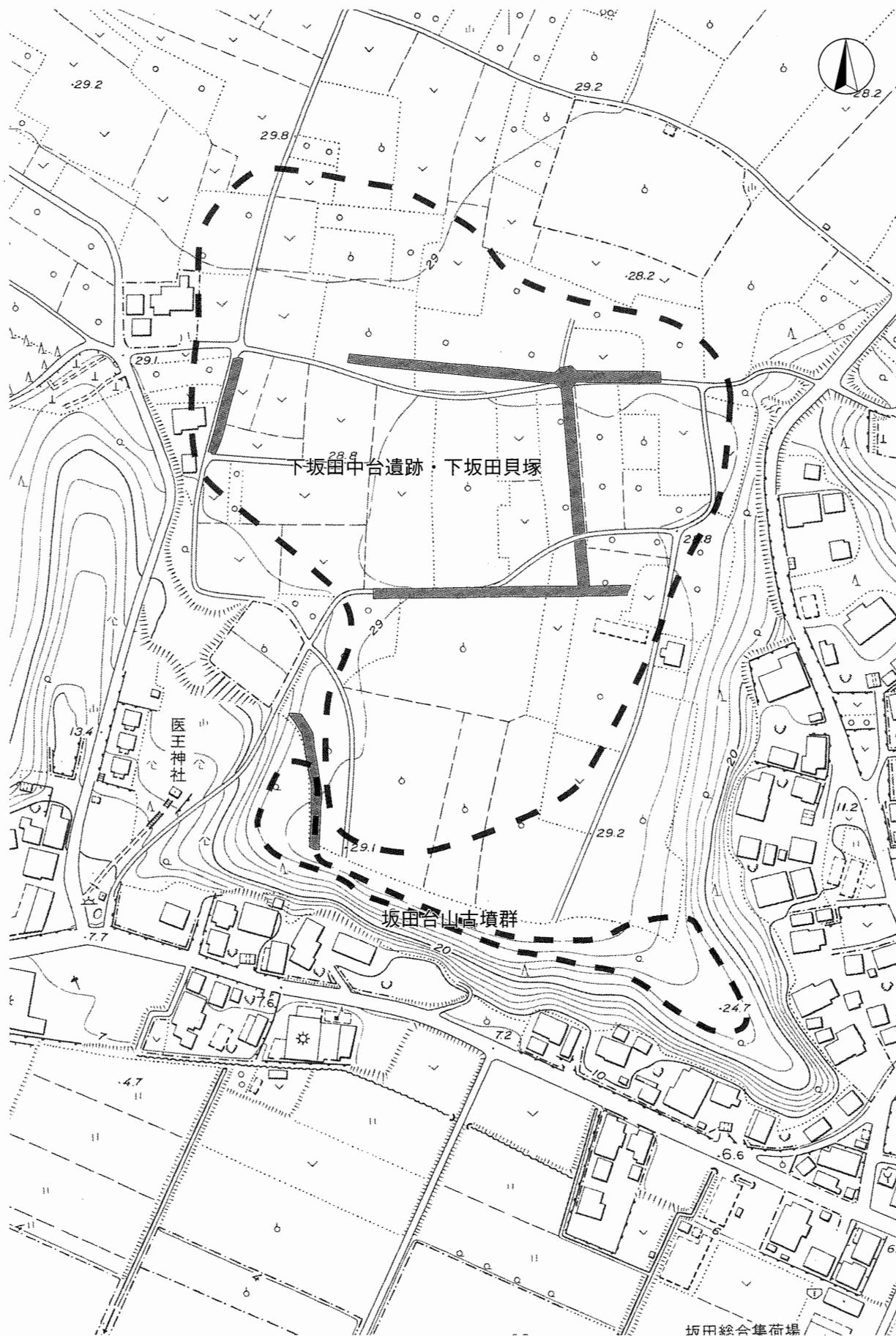
遺構の記録方法は、平面図・セクション図は基本1/20で作成し、平面図はトータルステーションを用いて測量している。遺構の写真撮影は、35mm白黒フィルム・35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ（1,400万画素）を使用した。

#### 第2節 基本層序（第3図）

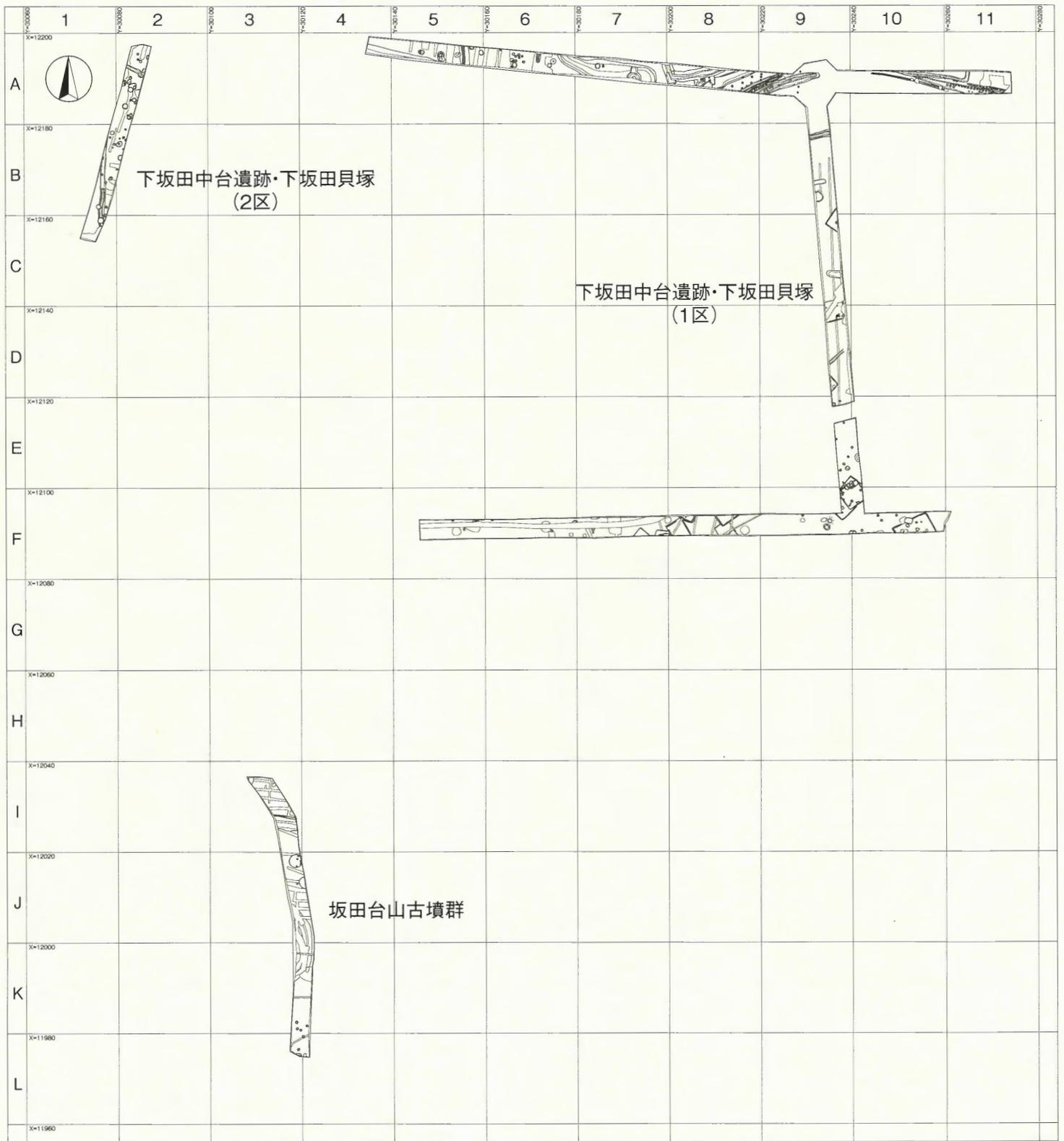
本調査において、3地点で基本層序の確認を行った。A地点は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区北側、B地点は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区井戸跡壁面、C地点は同区東側にあたり、遺構確認面はいずれもII層上面である。A・C地点においてはIII層までしか確認できなかったが、B地点は安全に留意し可能な限り井戸跡の壁面において土層の変化を確認したところ、VII層まで確認することができた。



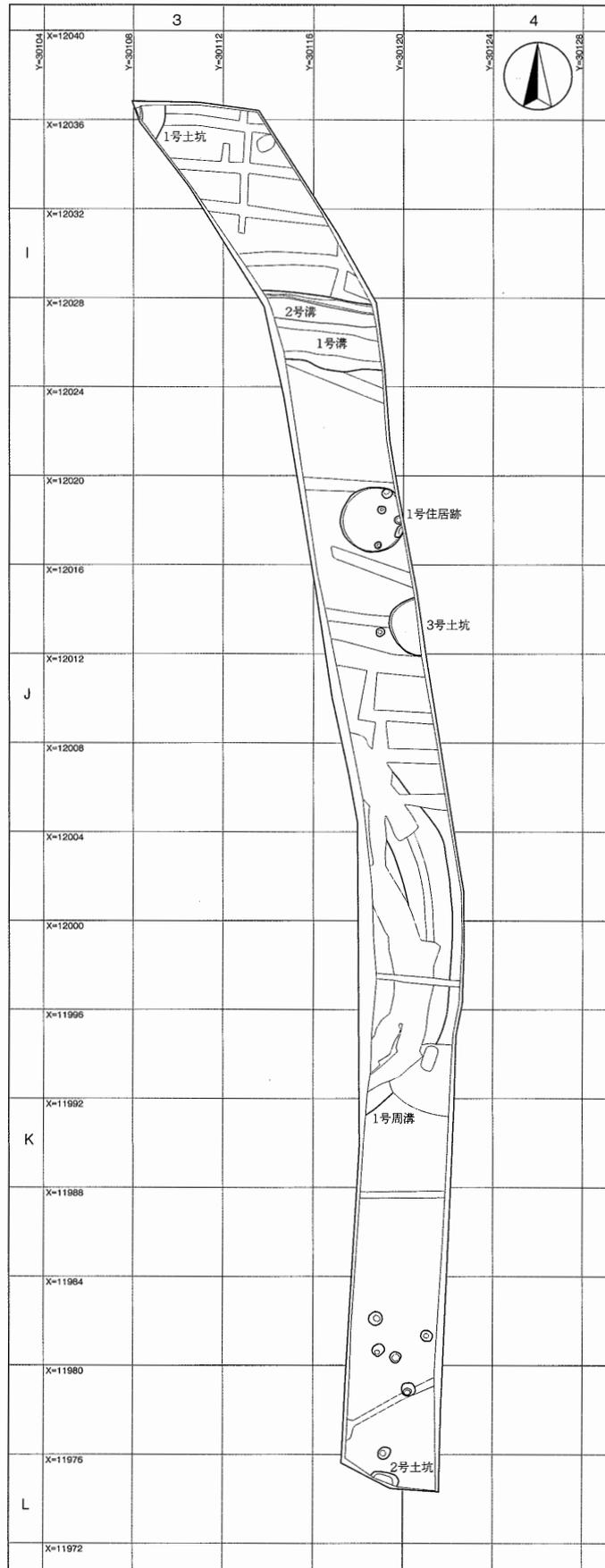
第3図 基本層序（1：60）



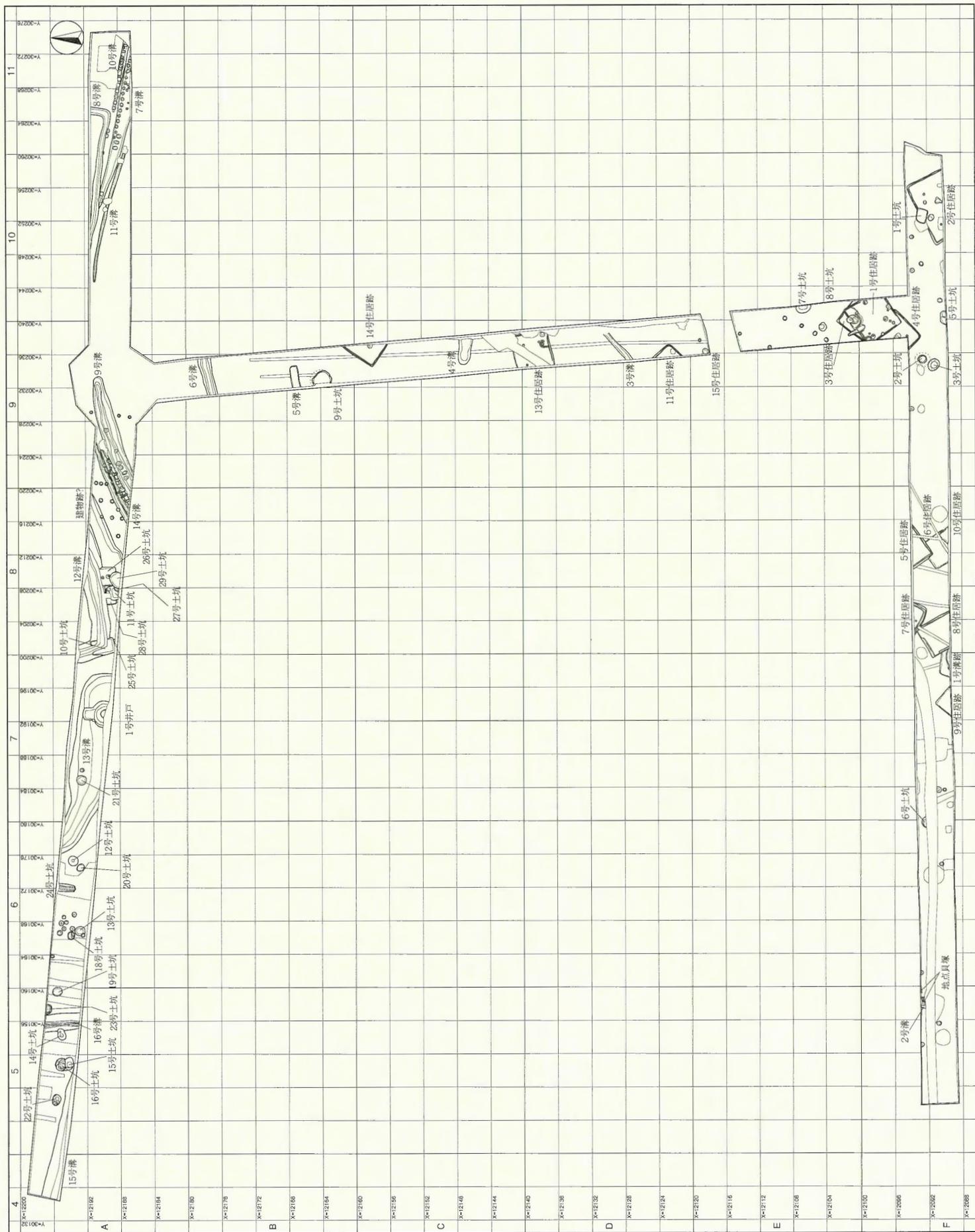
第4図 調査区位置図（新治村都市計画図1：2,500に加筆）



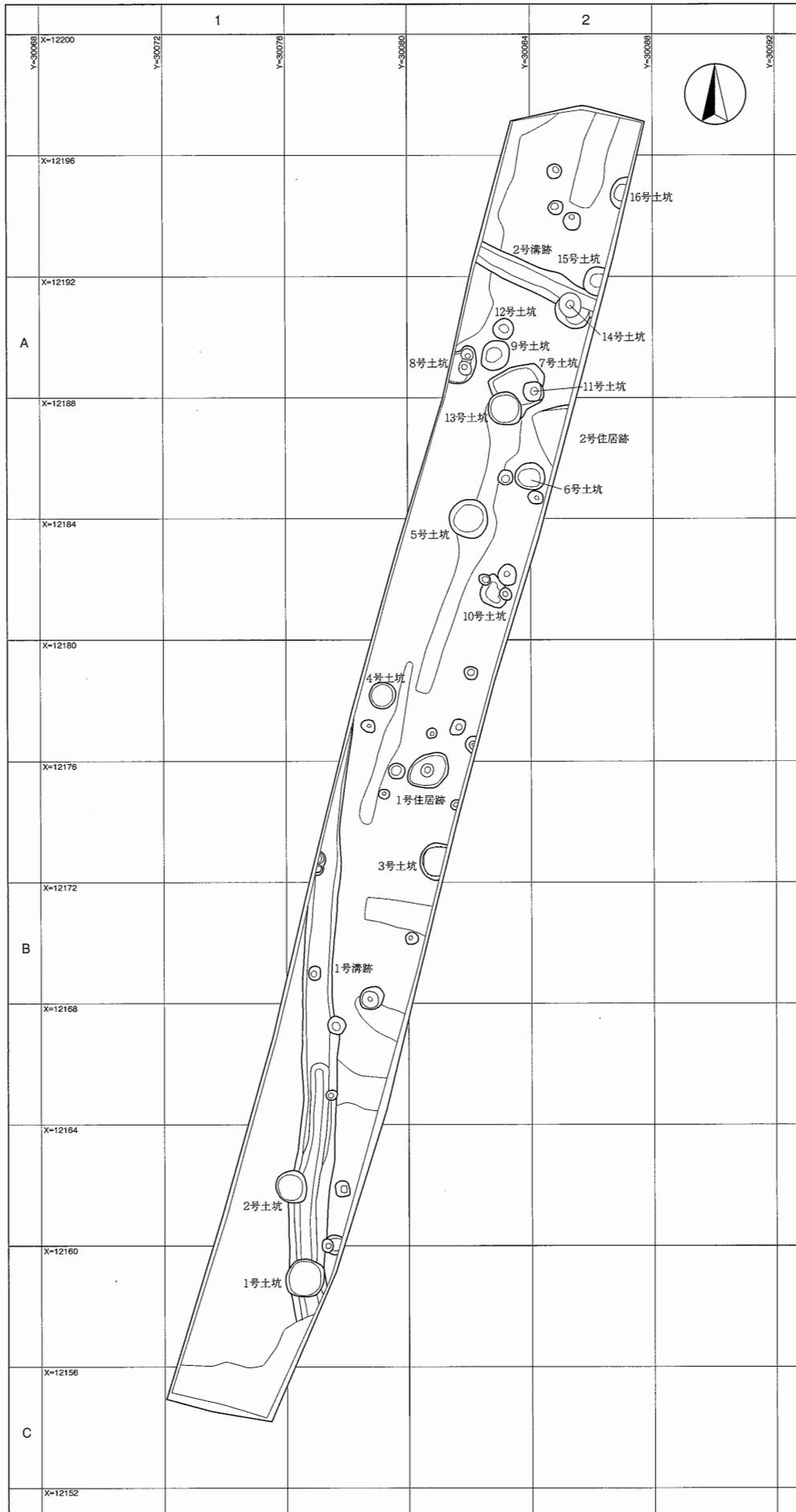
第5図 グリッド配置図 (S = 1 : 1,200)



第6図 坂田台山古墳群全体図 (S = 1 : 300)



第7図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区全体図 (S = 1 : 600)



第8图 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区全体図 (S = 1 : 200)

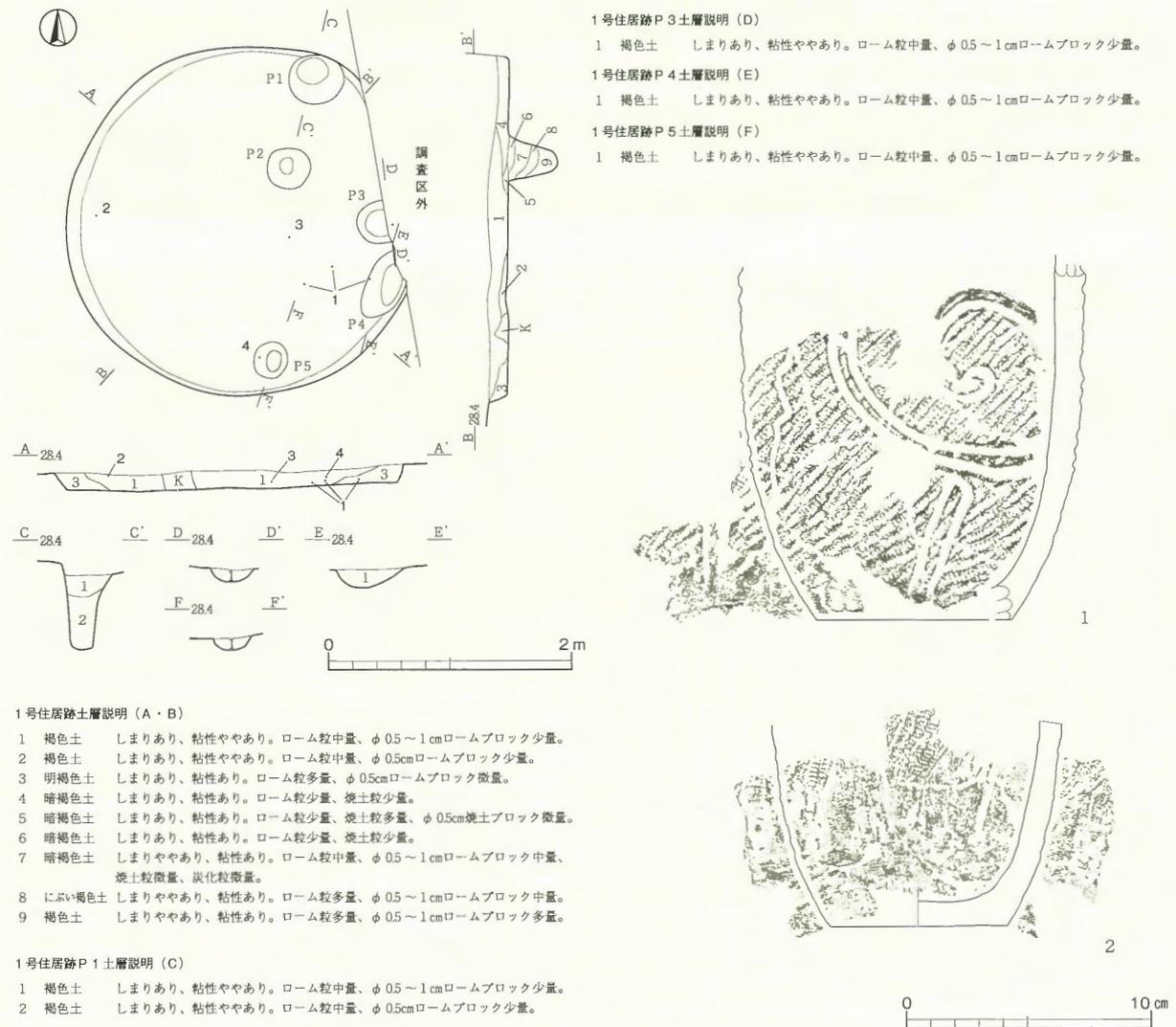
## 第4章 坂田台山古墳群

坂田台山古墳群の調査は平成23年12月14日～同年12月28日まで行われた。確認された遺構は、竪穴住居跡1軒、溝跡2条、土坑3基、古墳周溝1基、ピット7基を数える。また、隣接する梨畑の土壌改良や散水用パイプの埋設など、攪乱も多くみられた。

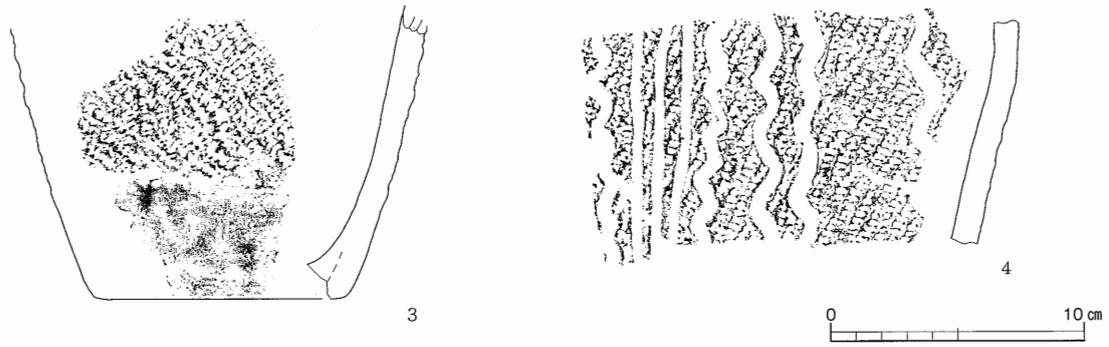
### 第1節 竪穴住居跡

#### 1号住居跡（第9・10図）

**位置** J3グリッドに位置している。**規模** 直径2.9mの円形を呈している。**主軸方位** 不明。**壁** 壁高は15cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。**床** ほぼフラットで、一部根による攪乱を受けていた。硬化面の範囲などを確認することは出来なかった。**ピット** 5基確認したが、東側に偏っており、明確に柱穴として組めるものはない。**炉** 確認することは出来なかった。**覆土** 褐色土を主体とした自然堆積とみられる。**遺物** 覆土上層～下層を中心に出土したが、小片が多く個体になるものは少なかった。また、床面直上で確認できた遺物はごくわずかであった。**所見** 床面から炉跡が確認できなかったことや、規模が直径2.9mと小型であることから、住居というよりも簡易的な小屋であった可能性も考えられる。出土遺物から縄文時代中期後葉に属するとみられる。



第9図 1号住居跡・1号住居跡出土遺物



第10図 1号住居跡出土遺物

表2 1号住居跡出土遺物観察表

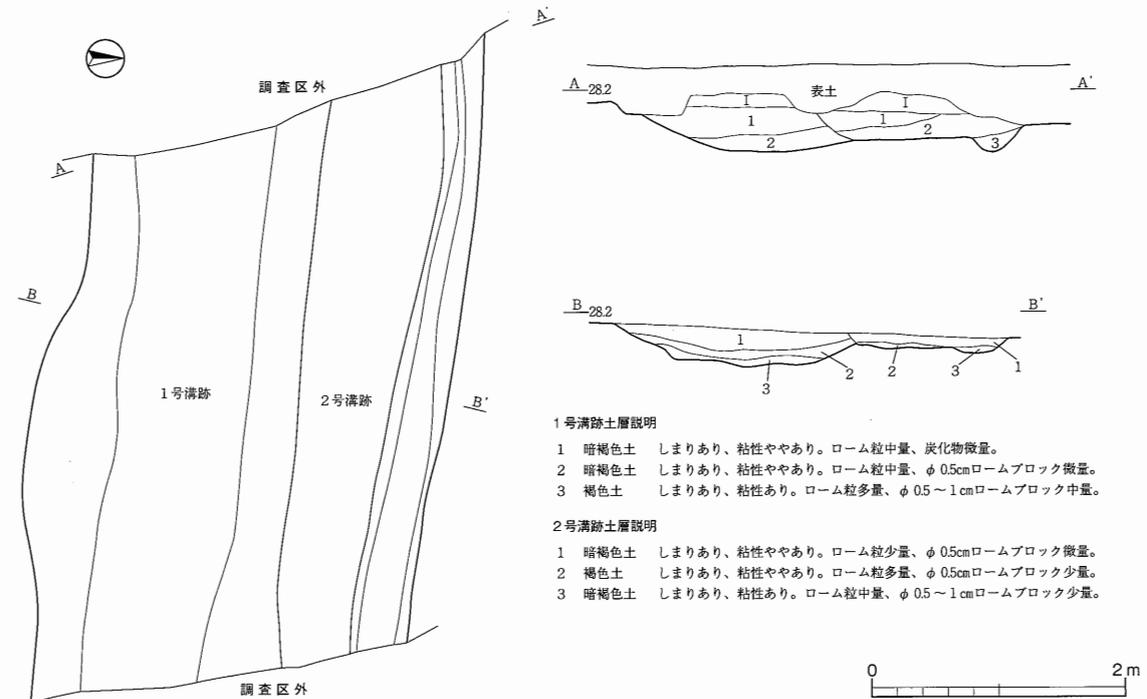
No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<15.2>	(8.2)	石英・長石 白雲母・金雲母	外—5YR6/6 橙 内—7.5YR1.7/1 黒	やや良	外面：L R単節縄文を施文後、渦巻文・蛇行沈線・逆U字状文を施す。 内面：ミガキ	大木 8a・b
2	縄文土器	深鉢	—	<8.5>	7.2	石英・長石・チャート・ 白雲母	外—5YR6/6 橙 内—7.5YR2/1 黒	やや良	外面：L R単節縄文を施文。 内面：ナデ。	加曾利 E I
3	縄文土器	深鉢	—	<11.7>	(9.6)	石英・長石・白雲母	外—5YR6/6 橙 内—7.5YR3/1 黒褐	やや良	外面：R L単節縄文を施文。底部付近ミガキ。 内面：ミガキ。	加曾利 E I
4	縄文土器	深鉢	—	<8.8>	—	石英・長石・白雲母	外—7.5YR6/4 におい橙 内—10YR6/2 灰黄褐	やや良	外面：L R単節縄文を施文後、蛇行沈線と3条の懸垂文を施す。 内面：ナデ。	加曾利 E I

## 第2節 溝跡 (第11図)

坂田台山古墳で確認された溝跡は2条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。遺物は流れ込みとみられる縄文時代の遺物が中心で、わずかに陶器片が確認されたが、明確に時期決定・掲載できる遺物はみられなかった。

表3 溝跡一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	軸方位	規模 (m)		深さ (m)	遺物	時期	備考
			上端幅	下端幅				
1号溝	I 3	N - 83° - W	2.11	1.07	0.41	縄文土器・陶磁器	中・近世?	2号溝と重複。2号溝より古い。
2号溝	I 3	N - 83° - W	1.2	0.95	0.26	縄文土器・陶磁器	中・近世?	1号溝と重複。1号溝より新しい。底面が一部硬化しており、道路跡と考えられる。



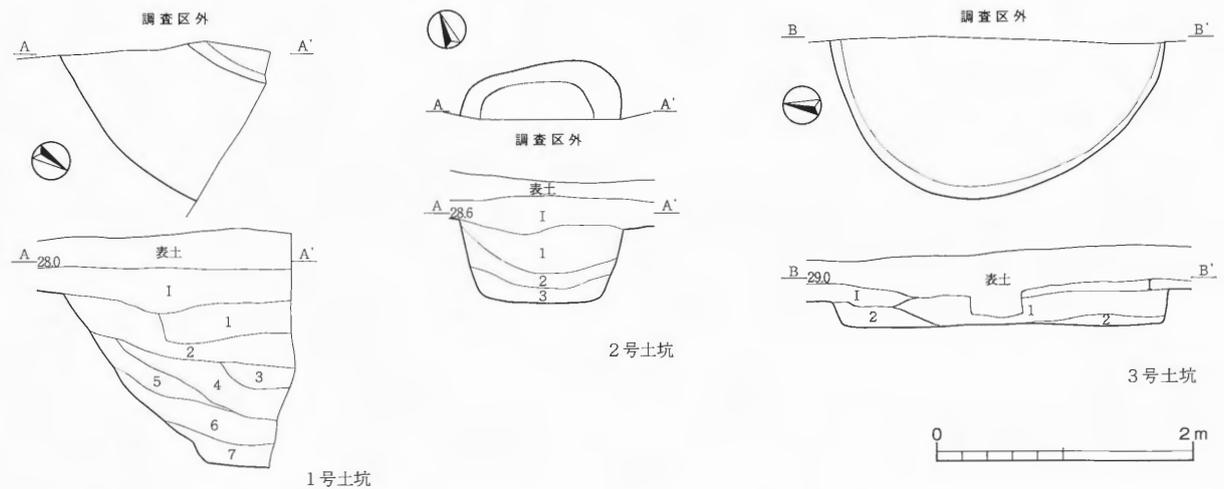
第11図 1・2号溝跡

### 第3節 土坑（第12・13図）

坂田台山古墳で確認された土坑は3基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。いずれも出土遺物から縄文時代に属するとみられるが、2・3号土坑は小片が多く、掲載遺物はない。

表4 土坑一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	長軸方位	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	遺物	時期	備考
			長軸×短軸						
1号土坑	I 3	N - 2° - W	(1.55) × (1.32)		1.4	(円形)	縄文土器・石鏃	縄文時代中期後葉	陥し穴。
2号土坑	L 3	N - 66° - W	1.25 × (0.48)		0.61	方形	縄文土器	縄文時代	
3号土坑	J 4	N - 6° - W	2.6 × (1.3)		0.22	円形	縄文土器	縄文時代	



1号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量炭化物微量。後世掘り込み。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。

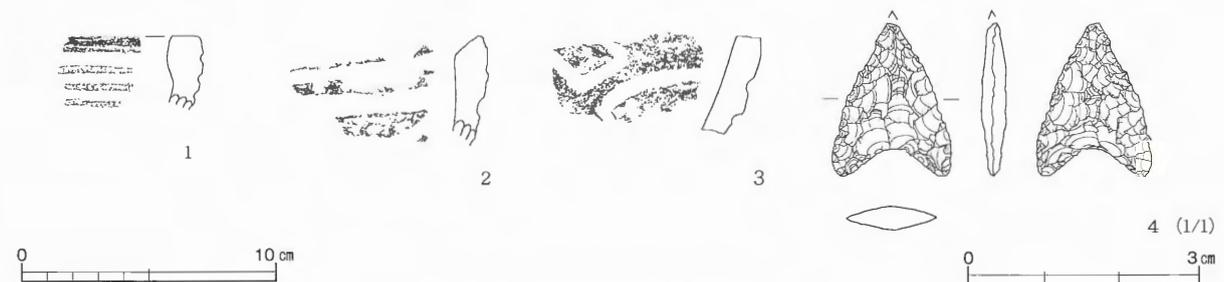
2号土坑土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 3 にぶい しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。褐色土

3号土坑土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。

第12図 1～3号土坑



第13図 1号土坑出土遺物

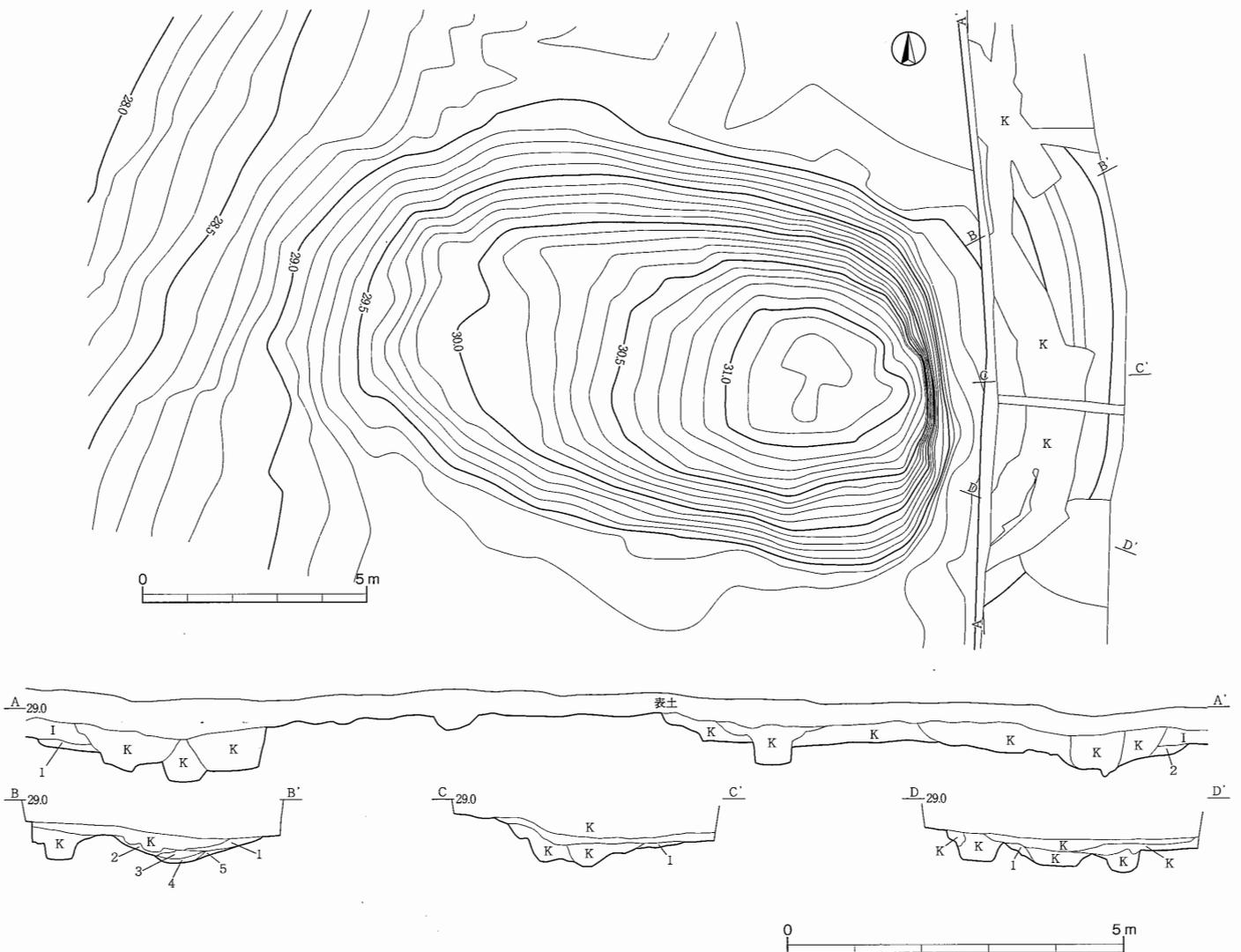
表5 1号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<2.9>	—	石英・長石 白雲母・金雲母	5YR5/4 に近い赤褐	やや良	外面：平行沈線が施さぬ、沈線間には刺突表現が施される。 内面：ナデ。	加曾利 E II
2	縄文土器	深鉢	—	<4.3>	—	石英・長石・金雲母	7.5YR7/4 に近い橙	良	外面：沈線で文様帯を区画。 内面：ミガキ。	加曾利 E II
3	縄文土器	深鉢	—	<3.8>	—	石英・長石・金雲母	7.5YR6/6 橙	良	外面：渦巻文をわずかに確認。 内面：ミガキ。	加曾利 E II
No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか		備考	
			長さ	幅	厚さ					
4	石製品	打製石鏃	<2.0>	1.6	0.3	0.76	無茎。先端部欠損。チャートを使用。			

#### 第4節 古墳（第14図）

調査区の西に位置している古墳は坂田台山古墳群の一つとして確認されている屋敷付古墳（別称：塚山古墳）で、墳丘の東側は削平されており当時の様子を窺い知ることは出来ない。現在は雑木林である。屋敷付古墳は1964年（昭和39年）に国学院大学と土浦第二高等学校によって主体部の調査が行われている。当時の調査によって、古墳の規模は約20×10mを測り、円墳または前方後円墳とされている。埋葬施設は箱式石棺で、石棺内の側面は赤彩が認められた。確認された人骨は推定5体分で、副葬品は直刀4・刀子2・鉄族26・鉄環2が出土している。埴輪は確認されておらず、出土遺物・埋葬方法から7世紀に築造されたものと考えられている。出土遺物は現在、土浦第二高等学校と国学院大学にて保管されている。

今回の調査区は古墳の東側を南北に横断する形で設定された。掘り下げを行った結果、周溝が一部確認されたが、字界のために掘られたとみられる溝が裾部と周溝を破壊し、正確な周溝の幅を確認することは出来なかった。わずかに確認された周溝は、上端幅2.1m、下端幅0.5m、深さ42cmを測る。覆土中から出土した遺物は攪乱によって混入した近現代の陶器片や金属片に加え、流れ込みとみられる縄文土器片が主体で、古墳築造期を示す遺物はほとんど出土しなかった。また、主体部調査時以来行われていなかったコンター図の作成を再度行ったが、墳丘の形状を特定することは出来なかった。



第14図 屋敷付古墳・1号周溝

土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。

土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。

土層説明 (C)

- 1 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。

土層説明 (D)

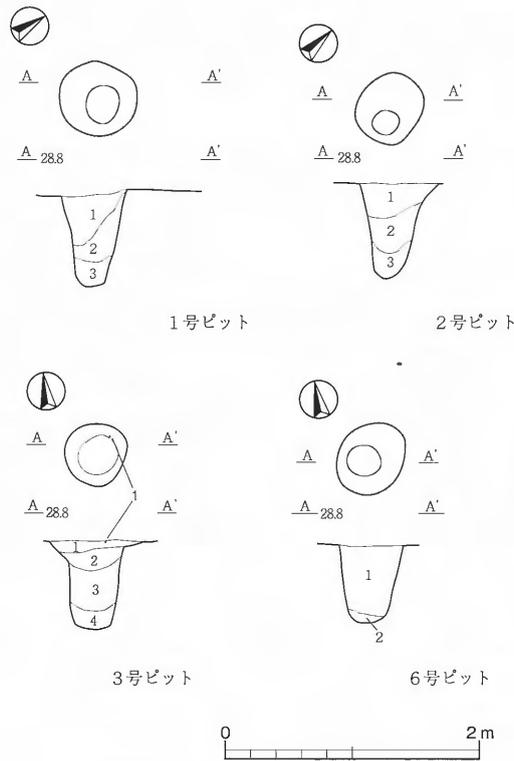
- 1 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。

### 第5節 ピット (第15・16図)

坂田台山古墳で確認されたピットは7基である。位置・規模などの詳細は一覧表にて記載した。1号ピットから5号ピットは密集しており、当初は建物跡を想定したが、明確に組めるものはなかった。遺物の出土は少なく、3号ピットより出土した遺物のみ掲載する。出土遺物から3号ピットは縄文時代中期中葉に属するとみられる。

表6 ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	備考
		長軸×短軸	深さ			
1号ピット	K 3	0.62 × 0.6	0.81	円形		
2号ピット	K 3	0.58 × 0.53	0.81	円形		
3号ピット	K 3	0.5 × 0.48	0.75	円形		
4号ピット	L 4	(0.63) × 0.6	0.68	円形		
5号ピット	K 4	0.52 × 0.52	0.37	円形		
6号ピット	L 3	0.58 × 0.5	0.61	円形		
7号ピット	J 3	0.39 × 0.37	0.49	円形		



第15図 1～3・6号ピット

1号ピット土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。

2号ピット土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。

3号ピット土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。

6号ピット土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。



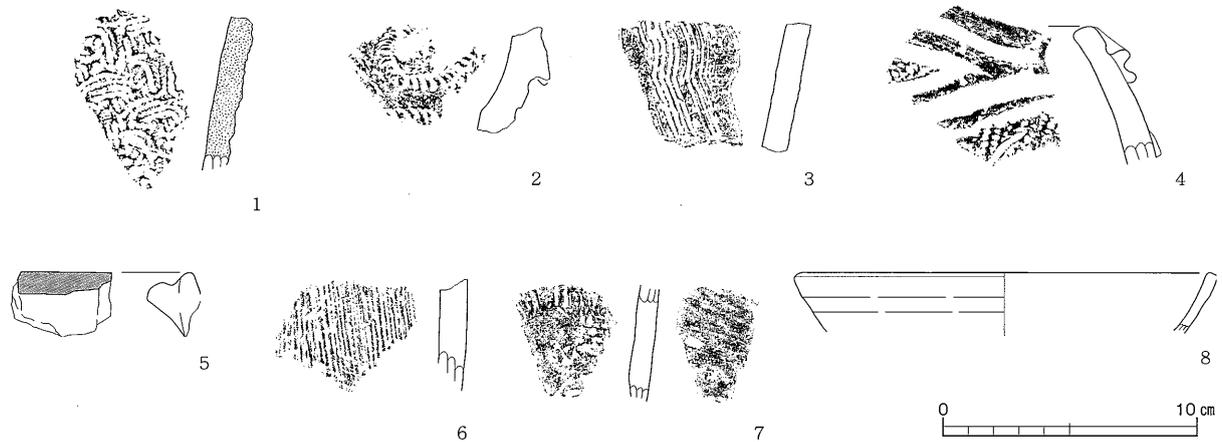
第16図 3号ピット出土遺物

表7 3号ピット出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	(26.6)	<17.8>	—	石英・長石・白雲母	外—7.5TR6/6 橙 内—7.5YR7/4 に近い橙	やや良	外面：R L 単節縄文を施文。 内面：口縁部ミガキ。体部ナデ。	阿玉台IV

## 第6節 遺構外出土遺物

坂田台山古墳群の調査で、遺構外より出土した遺物の中から8点を掲載する。遺構が確認されている縄文時代中期の土器に加えて、前期の土器もわずかに確認された。円筒埴輪とみられる小片も出土しているが、今回の調査区に隣接する屋敷付古墳は埴輪を有していないため、調査区の周囲で湮滅してしまった古墳のものと考えられる。須恵器や土師質土器も確認されたが、出土遺物の主体は縄文土器である。



第17図 遺構外出土遺物

表8 遺構外出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成形技法の特徵	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・白雲母・繊維	外—10YR4/2 灰黄褐 内—10YR6/4 におい黄褐	やや良	外面：羽状縄文を施文。 内面：ミガキ。	黒浜
2	縄文土器	深鉢	—	<4.7>	—	石英・長石・白雲母・ 金雲母	外—7.5YR4/1 褐灰 内—5YR5/6 明赤褐	やや良	外面：隆帯貼付後、隆帯の周囲に 竹管による角押文を施す。 内面：ナデ。	阿玉台
3	縄文土器	深鉢	—	<5.1>	—	石英・長石・チャート・ 白雲母	外—5YR6/6 橙 内—10YR6/4 におい黄 褐	良	外面：櫛歯状工具による懸垂文を 施す。 内面：ナデ。	阿玉台
4	縄文土器	深鉢	—	<5.5>	—	石英・長石・白雲母・ 金雲母	外—7.5YR6/6 橙 内—5YR6/6 橙	良	外面：LR単節縄文を施文後、隆 帯を貼付け、文様帯を区画。 内面：ナデ。	加曾利E I
5	縄文土器	鉢	—	<2.6>	—	石英・長石・白雲母	外—2.5YR4/8 赤褐 内—10YR6/4 におい黄 橙	良	外面：口唇部・外面に赤彩。 内面：ケズリ。	加曾利E I
6	埴輪カ	(円筒)	—	<4.5>	—	石英・黒色粒・赤色粒	7.5YR6/6 橙	やや良	外面クテハケ。内面ナデ。	
7	須恵器	甕	—	<4.5>	—	石英・長石	5Y5/1 灰	良	外面平行叩き、ヘラケズリ。内面 ヘラナデ。	
8	土師質土器	皿	(16.6)	<2.3>	—	赤色粒	5YR6/6 橙	良	轆轤整形。	

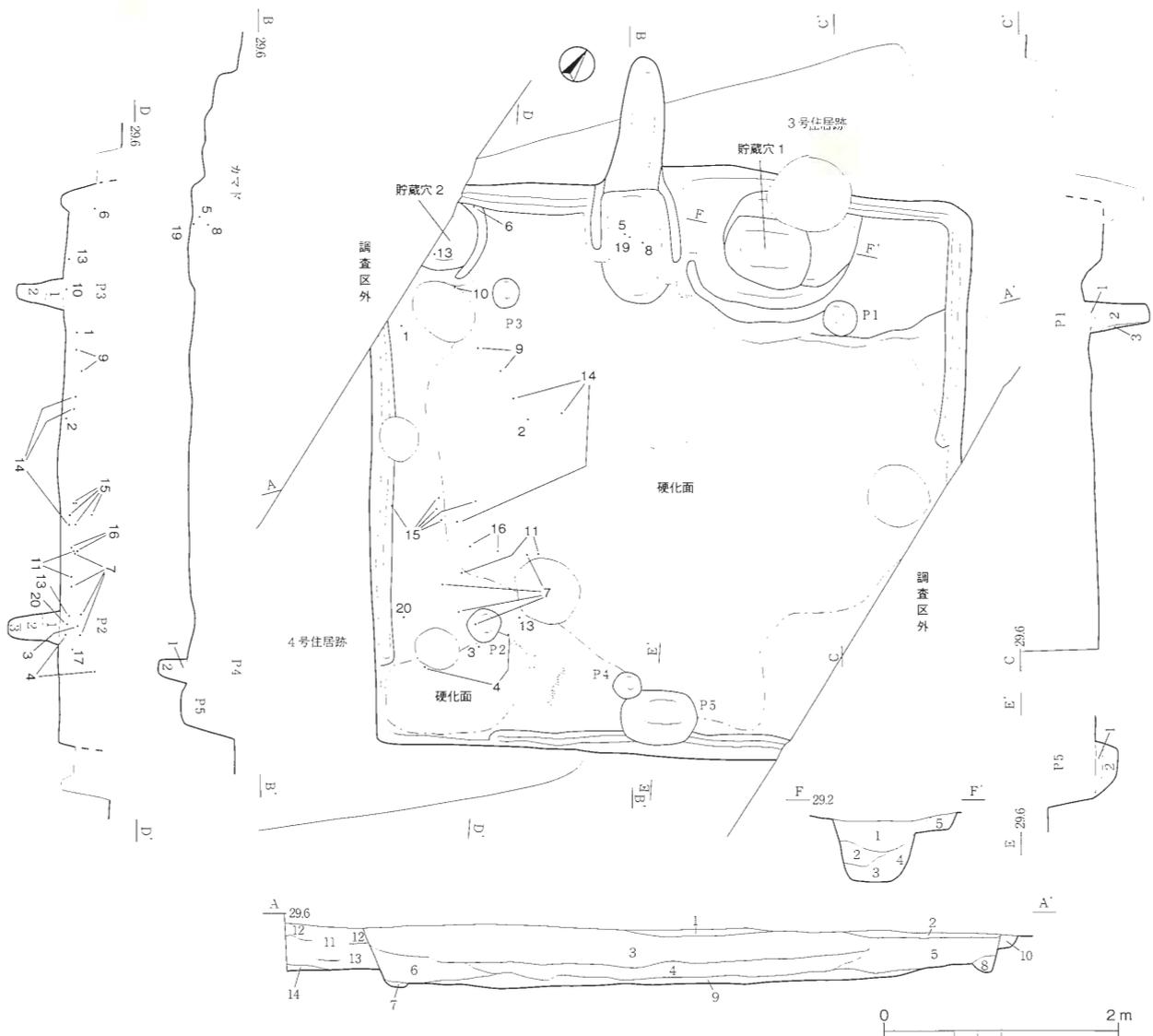
## 第5章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の調査は平成23年12月21日～平成24年3月13日まで行われた。確認された遺構は、竪穴住居跡14軒、溝16条、土坑27基、井戸1基、地点貝塚2ヶ所、建物跡、ピット35基を数える。

### 第1節 竪穴住居跡

#### 1号住居跡（第18～22図）

位置 E9・10、F9・10グリッドに位置している。規模 南北4.90m×東西5.04mの方形。重複関係 出土遺物・土層の観察から、3・4号住居跡より新しい。主軸方位 N-33°-W。壁 壁高は33cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を確認している。カマド東側の貯蔵穴周辺は床面が15cmほど高く、いわゆる棚状施設に分類されるものと考えられる。壁周溝が巡るが一部途切れる。貯蔵穴 カマドの両脇と住居南壁際（P5）で検出している。貯蔵穴1は東西幅が長い長方形で2段掘りになっており、上段幅は80cm×112cm、下段幅は55cm×76cmで、深さは54cmである。貯蔵穴2は一部調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、60cm×東西40cm以上である。深さは28cmで、貯蔵穴2



第18図 1号住居跡

1号住居跡土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5~2cm中量。後世掘り込み。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5ロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5~2cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物中量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。焼土粒微量、炭化物微量。壁溝。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 9 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。焼土粒微量、炭化物中量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。3号住居跡覆土。
- 11 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。後世掘り込み。
- 12 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。4号住居跡覆土。
- 13 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~2cmロームブロック微量。4号住居跡覆土。
- 14 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。4号住居跡覆土。

1号住居跡P4土層説明 (B)

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。

1号住居跡P1土層説明 (C)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 3 明褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cmロームブロック多量。壁崩落土。

1号住居跡P3土層説明 (D)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。

1号住居跡P2土層説明 (E)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~2cmロームブロック多量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~2cmロームブロック多量。

1号住居跡P5土層説明 (E)

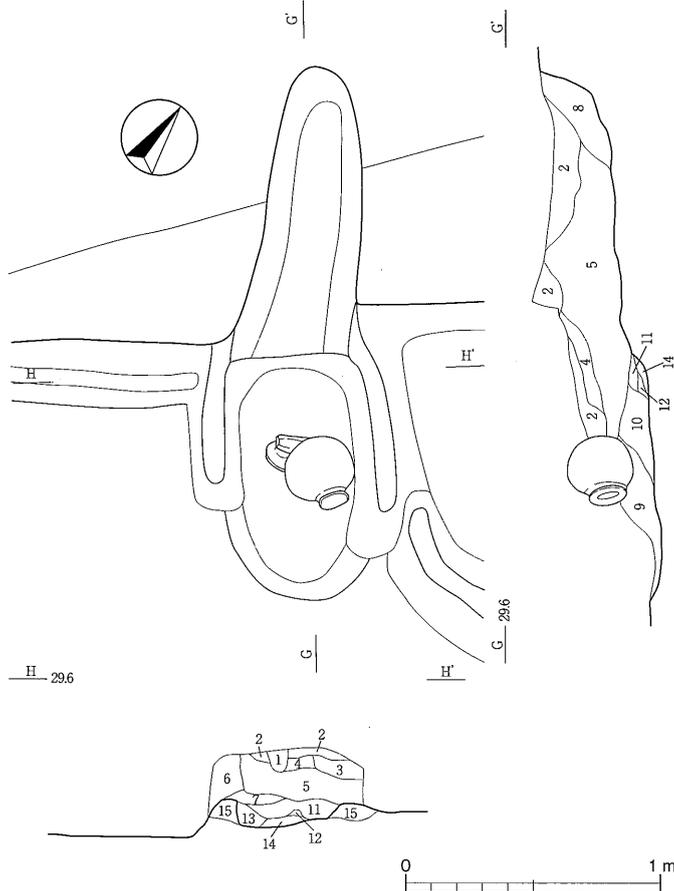
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。焼土粒少量、φ 0.5~2cm焼土ブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~2cmロームブロック中量。

1号住居跡貯蔵穴土層説明 (F)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。炭化物微量。

1号住居跡カマド土層説明 (G・H)

- 1 褐色土 しまり強い、粘性やや低い。細砂ブロック。カマド天井崩落土カ。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性やや低い。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒中量、φ 0.5~1cm焼土ブロック中量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性やや低い。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒少量、φ 0.5~1cm焼土ブロック少量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒中量、φ 0.5~1cm焼土ブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。焼土粒多量、φ 0.5~1cm焼土ブロック多量、炭化物少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。焼土粒少量、炭化物微量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒少量、φ 0.5cm焼土ブロック少量、炭化物微量。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。焼土粒少量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性やや低い。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒中量、φ 0.5cm焼土ブロック少量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒少量。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒少量、炭化物微量。
- 12 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒中量、φ 0.5cm焼土ブロック少量。
- 13 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量。焼土粒微量。
- 14 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。焼土粒微量。
- 15 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。焼土粒少量。細砂ブロック。カマド袖。

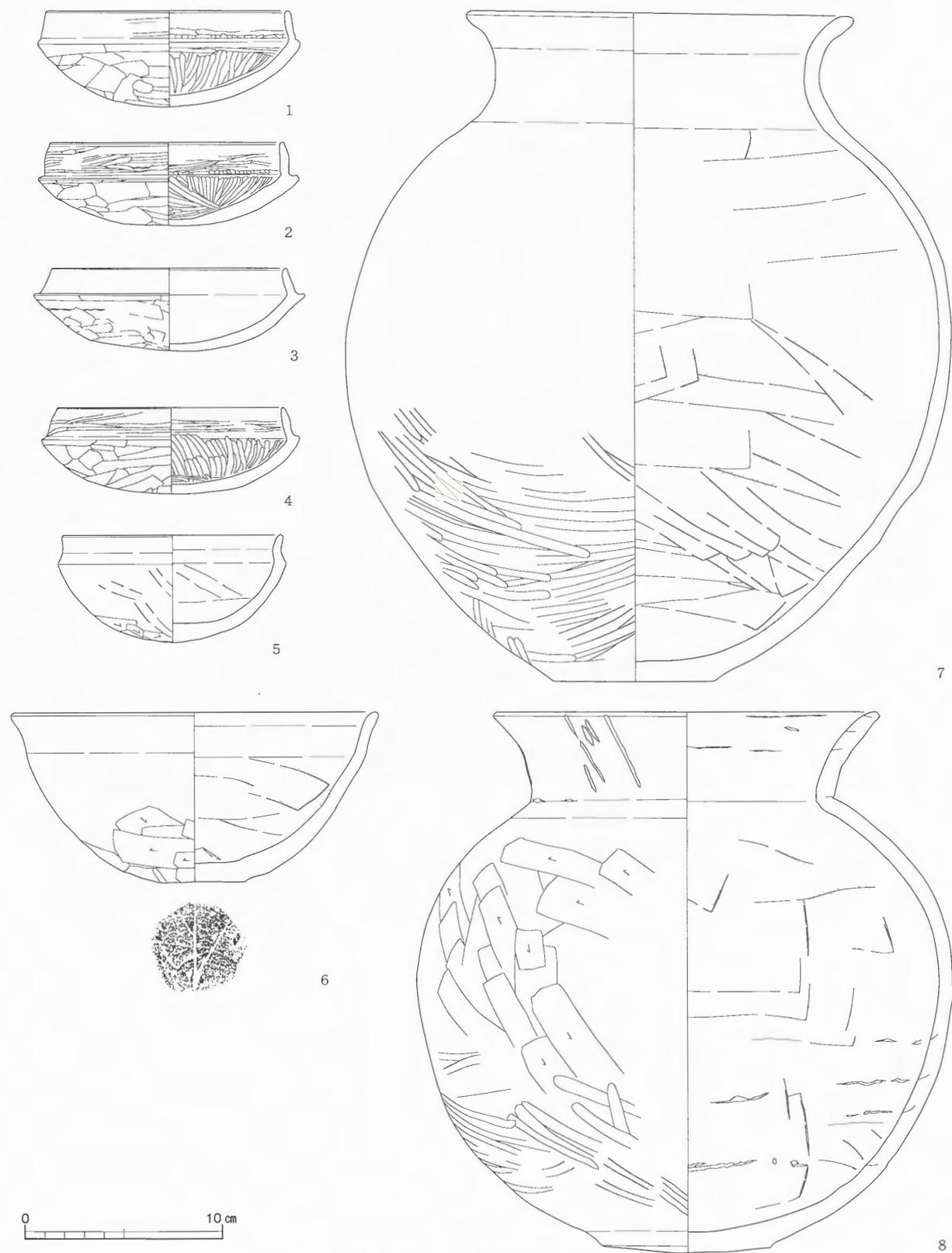


第19図 1号住居跡カマド

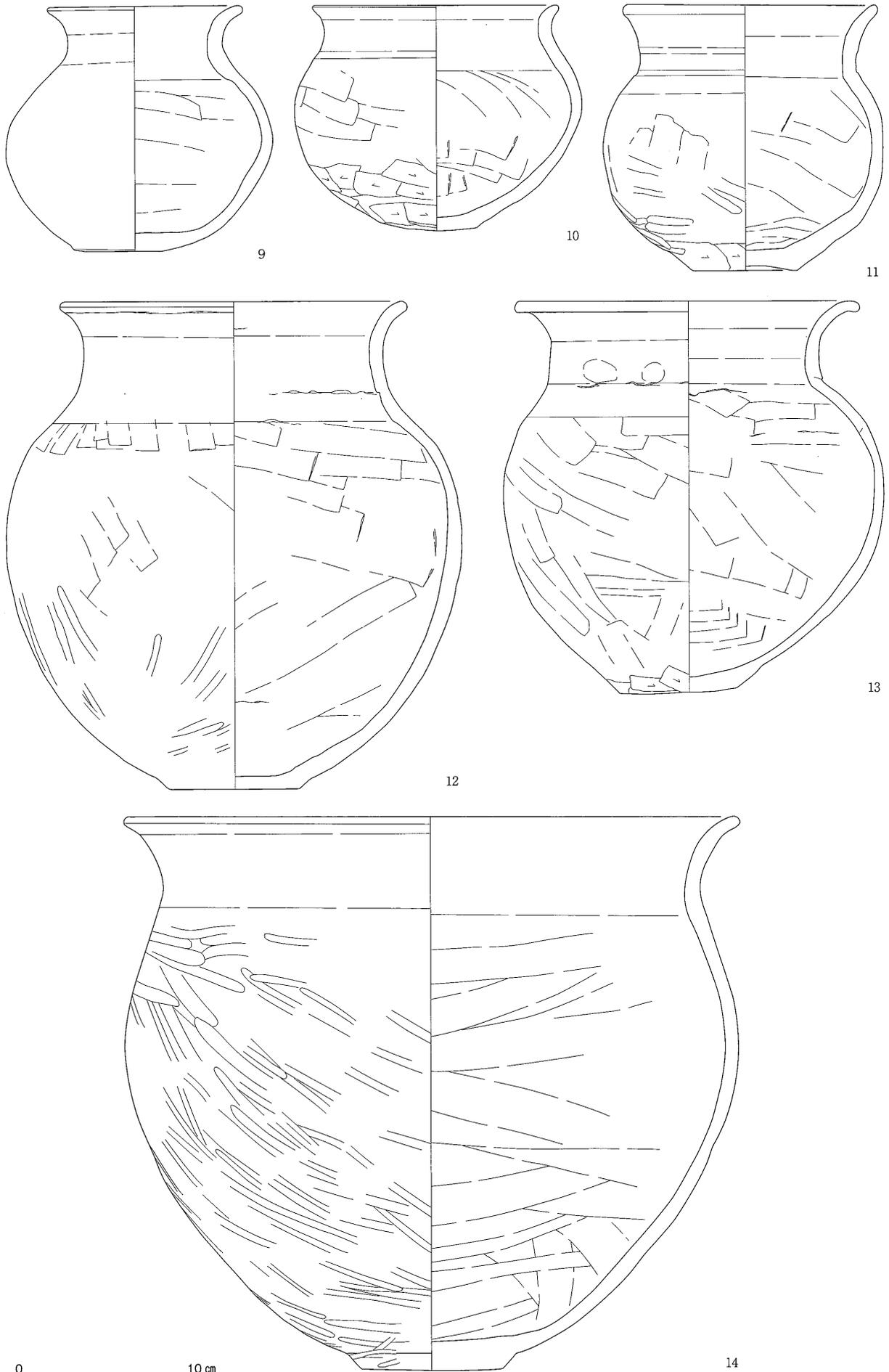
の東側は周堤状の高まりが存在している。カマド 北壁中央やや西寄りにあり、袖部はそのほとんどが壊れ、基部が残っている程度であった。燃焼部と煙道部との間には段差があり、煙道部は緩やかに立ち上がっていく。ピット 床面上では複数のピットが検出されたが、その半数は重複する3・4号住居のもので、1号住居に属するピットは5基である。P1:30×29cm、深さ44cm。P2:28×28cm、深さ39cm。P3:25×23cm、深さ24cm。P4:22×25cm、深さ24cm。P5:46×65cm、深さ19cm。柱穴になるものはP1~P3で、検

出できなかった南東部の柱穴は調査区外にあるとみられる。P 4は位置的に出入り口ピットであるとみられる。

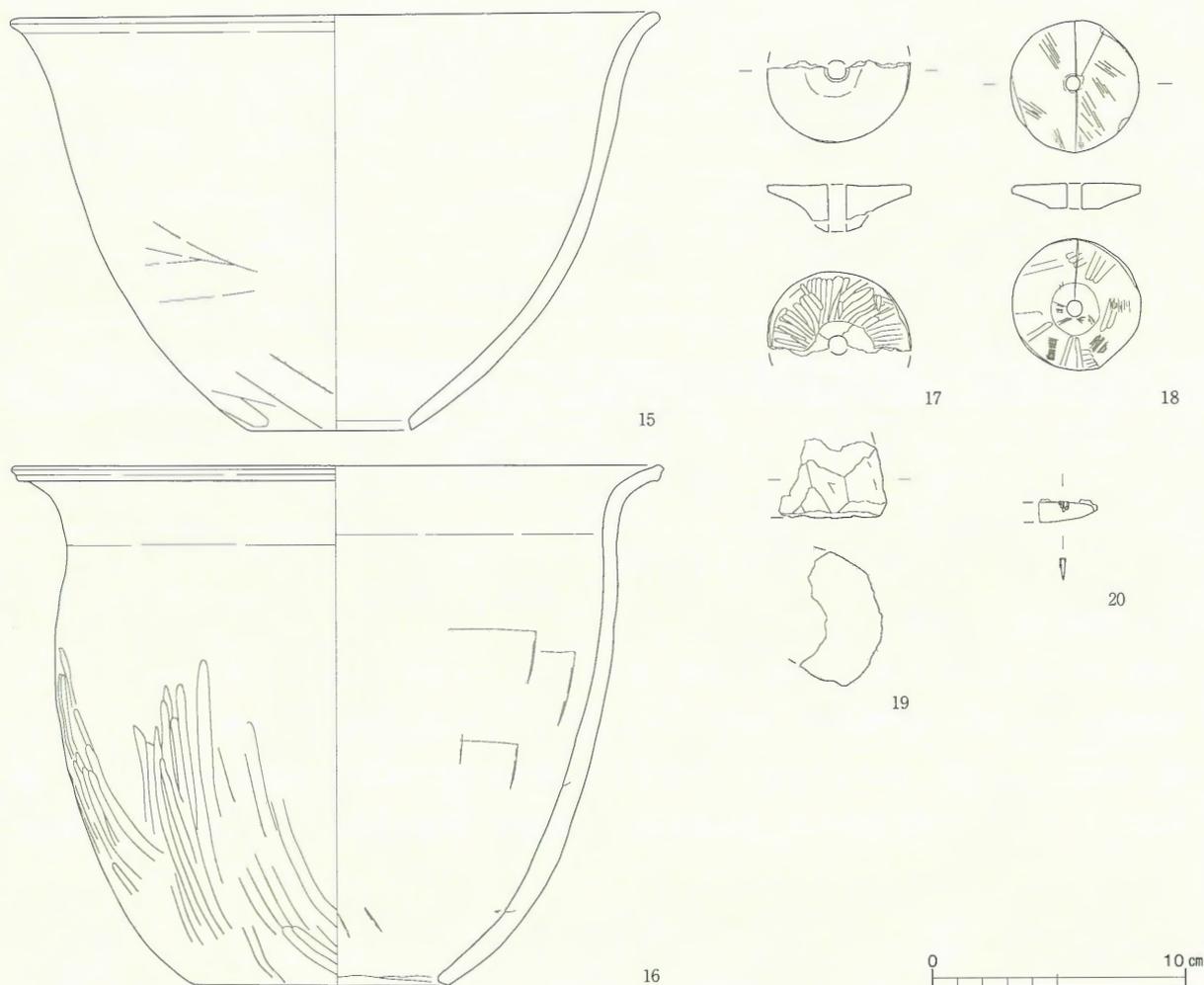
**覆土** 自然堆積である。**遺物** 遺物の出土には偏りがあり、住居の西側に集中して個体となる遺物が大量に出土している。しかし、床面直上から出土した遺物少なく、多くは覆土中層から下層にかけてである。カマド内燃焼部からは折れた状態の支脚（19）と逆位の坏（5）が壺（8）の直下で確認された。また、貯蔵穴中から目立った遺物の出土はみられなかった。**所見** 出土遺物、住居の形態から6世紀中～後葉に属する。



第 20 図 1 号住居跡出土遺物



第 21 图 1 号住居跡出土遺物



第22図 1号住居跡出土遺物

表9 1号住居跡出土遺物観察表

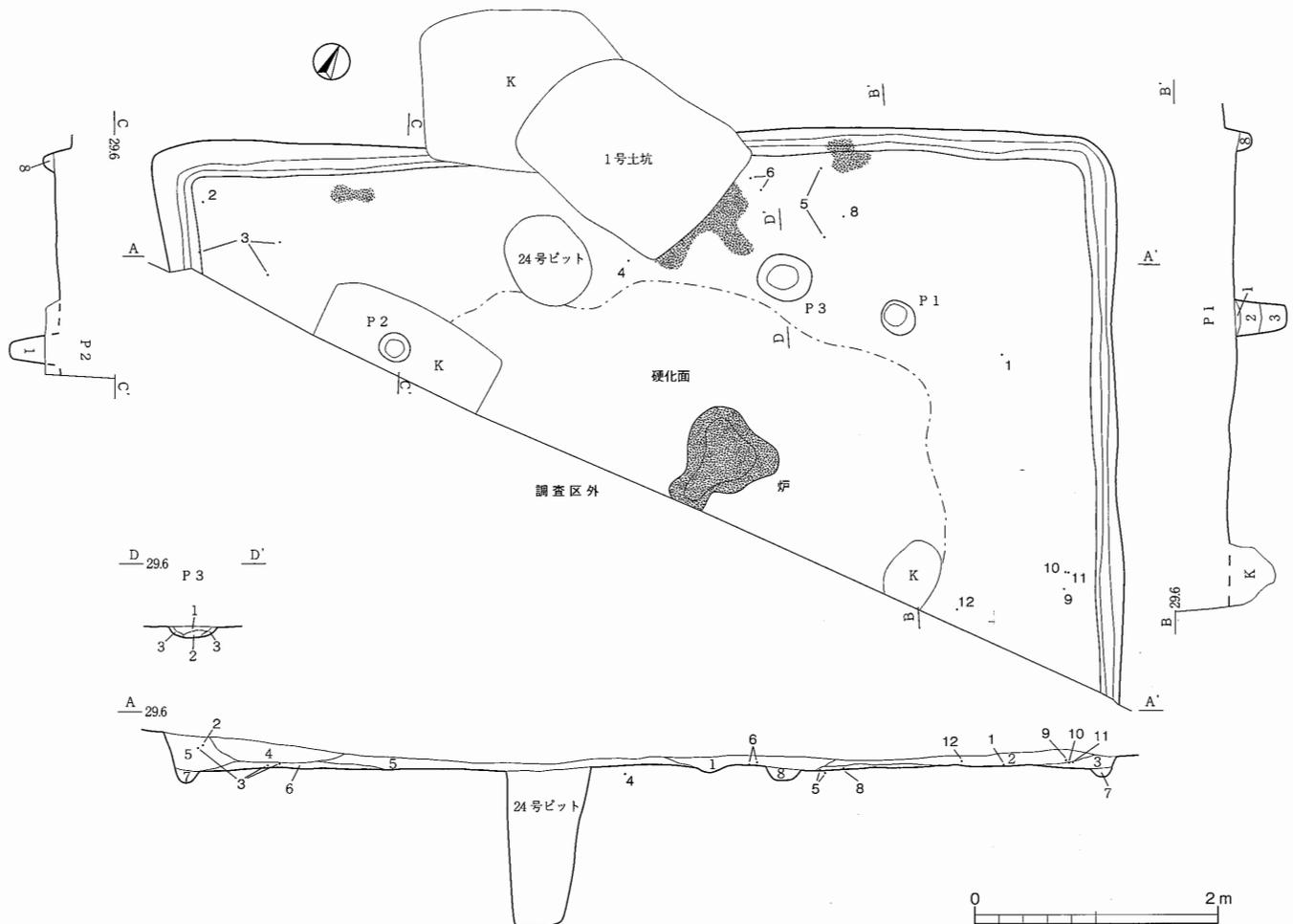
No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	坏	12.5	4.9	—	石英・白雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ。体部ヘラミガキ。	
2	土師器	坏	12.0	4.3	—	石英・白雲母	2.5YR6/8 橙	良	外面：口縁部ヘラミガキ。体部ヘラケズリ。 内面：ヘラミガキ。	
3	土師器	坏	12.0	4.3	—	石英・白雲母・海綿骨針	7.5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後ヘラナデ。 内面：ナデ。	
4	土師器	坏	11.6	4.4	—	石英・長石・白雲母	外：10YR4/2 灰黄褐 内：10YR2/2 黒褐	良	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。体部ヘラミガキ。	外面内面 黒色処理
5	土師器	坏	11.3	5.5	—	石英・長石・白雲母	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、上半ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	カマド内 出土
6	土師器	鉢	18.7	8.7	5.4	石英・長石・白雲母	10YR6/4 にぶい黄橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、上半ナデカ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	底部 木葉痕
7	土師器	壺	19.7	34.2	8.2	石英・長石・白雲母	10YR6/3 にぶい黄橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部下半ヘラミガキ。上半器面摩滅。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
8	土師器	壺	19.6	27.7	8.6	石英・長石・白雲母	10YR6/4 にぶい黄橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、下半ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	カマド内 出土
9	土師器	壺	10.6	13.5	6.5	石英・長石・白雲母	2.5YR6/8 橙	やや良	外面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
10	土師器	甕	13.4	12.3	5.2	石英・長石・白雲母	外：5YR5/6 明赤褐 内：10YR4/2 灰黄褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、上半ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
11	土師器	甕	13.6	14.6	5.5	石英・長石・白雲母	7.5YR5/6 明褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ後ヘラミガキ。上半ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	

12	土師器	甕	(18.4)	26.8	(7.0)	石英・長石・白雲母	外：5YR5/6 明赤褐 内：10YR6/4 におい黄橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ後ヘラミガキ。上半ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
13	土師器	甕	18.8	21.5	6.4	石英・長石・白雲母	7.5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ、上半ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
14	土師器	甕	(33.5)	30.3	7.6	石英・白雲母	外：10YR5/3 におい黄橙 内：10YR3/1 黒褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
15	土師器	甗	25.5	16.8	6.4	石英・長石	5YR7/6 橙	やや良	外面：体部下半ヘラケズリ・ヘラナデ。 内面：器面摩滅。
16	土師器	甗	26.0	21.0	10.0	石英・長石・白雲母	10YR6/4 におい黄橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。

No.	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
17	土製品	紡錘車	直径 5.7	孔径 0.7	1.9	19.7.7	ミガキ調整。石英・長石・白雲母を含む。	
18	石製品	紡錘車	直径 5.2	孔径 0.6	1.5	39.04	両方向からの穿孔。全面研磨。	
19	土製品	支脚	<2.8>	5.4	—	59.38	表面ケズリ。被熱により脆くなっている。石英・長石・白雲母を含む。	カマド内出土
20	鉄製品	刀子	(2.3)	0.8	0.2	1.1	木質付着。	

### 2号住居跡 (第 23・24 図)

位置 F 10 グリッドに位置している。規模 南北 4.75 m 以上×東西 7.81 m で、方形になるとみられる。重複関係 出土遺物・土層の観察から、24 号ピットより新しく、1 号土坑より古い。主軸方位 N-27°-W。壁 壁高は 31cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。一部 1 号土坑と攪乱によって破壊されている。床 ほぼフラットで、一部攪乱を受ける。壁周溝が巡る。貯蔵穴 確認できなかった。ピット 3 基確認。



第 23 図 2号住居跡

2号住居跡土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒少量、白色砂粒少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。焼土粒微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。焼土粒微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5~1cmロームブロック微量。φ 0.5~1cm焼土ブロック微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 6 暗褐色土 しまり強い、粘性やや低い。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。φ 0.5~1cm焼土ブロック少量。白色細砂多量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒少量。
- 8 P3覆土

2号住居跡P1土層説明 (B)

- 1 黒褐色 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 3 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。

2号住居跡P2土層説明 (C)

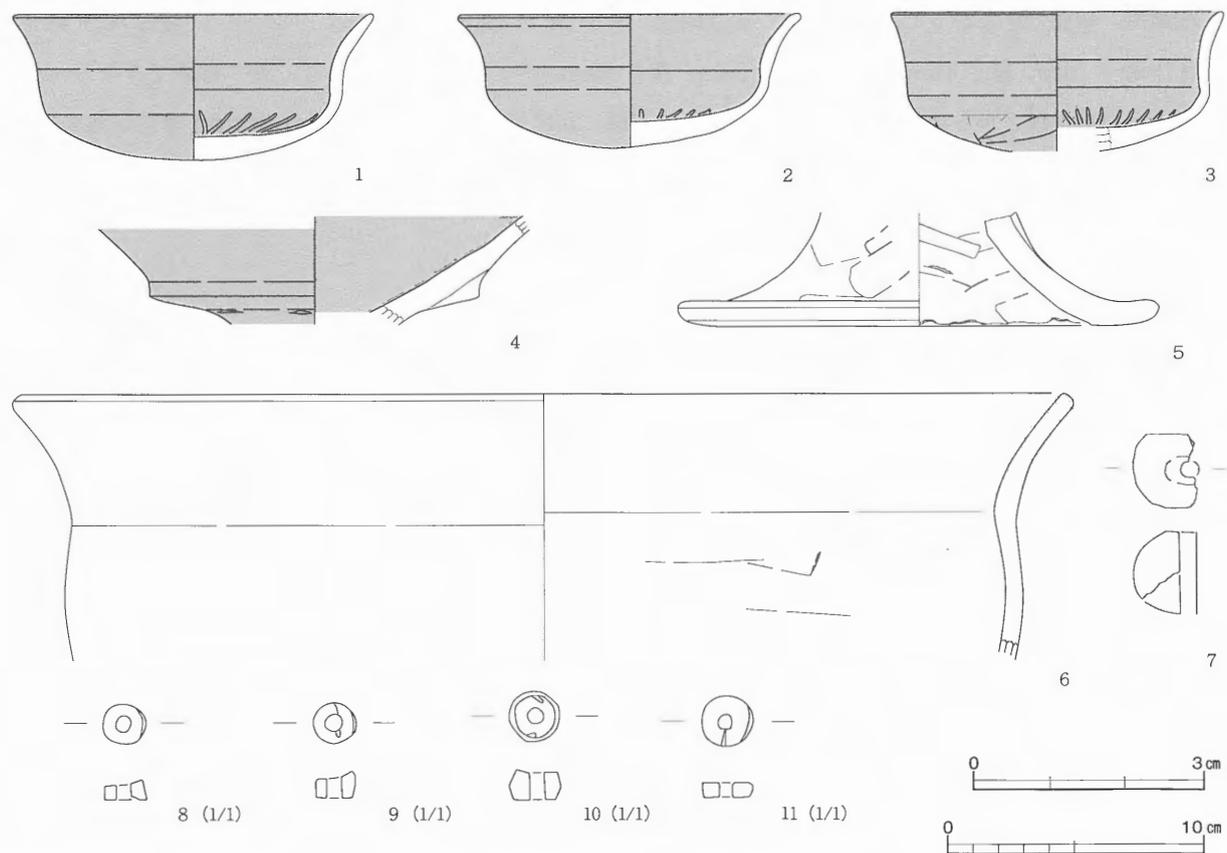
- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。

2号住居跡P3土層説明 (D)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。焼土粒中量、φ 0.5cm焼土ブロック少量。白色細砂少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒少量。白色細砂少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。焼土粒微量。白色細砂多量。砂層。

P1 : 25 × 25cm、深さ 42cm。P2 : 30 × 27cm、深さ 29cm。P3 : 40 × 45cm、深さ 18cm。P1・2は柱穴である。P3は浅いピットであるが、セクションで確認したところ、覆土中に白色細砂が混入した層を確認した。

炉 住居が方形であった場合、住居中央やや北寄りに位置している。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層~床面直上にかけて出土し、その多くが柱穴の外側で確認されている。白玉4点は住居東側で確認されたもので、いずれも床面直上からの出土である。所見 出土遺物、住居の形態から6世紀前~中葉に属する。



第24図 2号住居跡出土遺物

表10 2号住居跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	坏	14.2	5.7	—	石英・長石・白雲母	2.5YR4/8 赤褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部放射状暗文。	赤彩
2	土師器	坏	(13.5)	5.3	—	石英・長石・白雲母	2.5YR4/6 赤褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。 内面：口縁部ヨコナデ。体部放射状暗文。	赤彩
3	土師器	坏	13.0	<5.5>	—	石英・長石・白雲母	2.5YR4/6 赤褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面：ナデ。体部放射状暗文。	赤彩
4	土師器	高坏	—	<4.4>	—	石英・長石・白雲母	2.5YR4/8 赤褐	良	外面：体部ナデ。 内面：体部ナデ。	赤彩

5	土師器	高坏	—	<4.5>	(19.0)	石英・長石・白雲母	5YR5/6 明赤褐	良	外面：脚部ヘラナデ。 内面：ヘラケズリ、ヘラナデ。
6	土師器	甕	(41.6)	<10.6>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/6 明黄褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。

No.	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	高さ			
7	土製品	土玉	直径(4.0)	孔径0.6	<2.7>	13.8	ナデによる整形。石英を含む。	
8	石製品	白玉	直径0.5	孔径0.2	0.3	0.07	全面研磨。一方向からの穿孔。	
9	石製品	白玉	直径0.5	孔径0.2	0.4	0.14	全面研磨。一方向からの穿孔。	
10	石製品	白玉	直径0.7	孔径0.2	0.4	0.27	全面研磨。一方向からの穿孔。	
11	石製品	白玉	直径0.7	孔径0.2	0.2	0.17	全面研磨。一方向からの穿孔。	

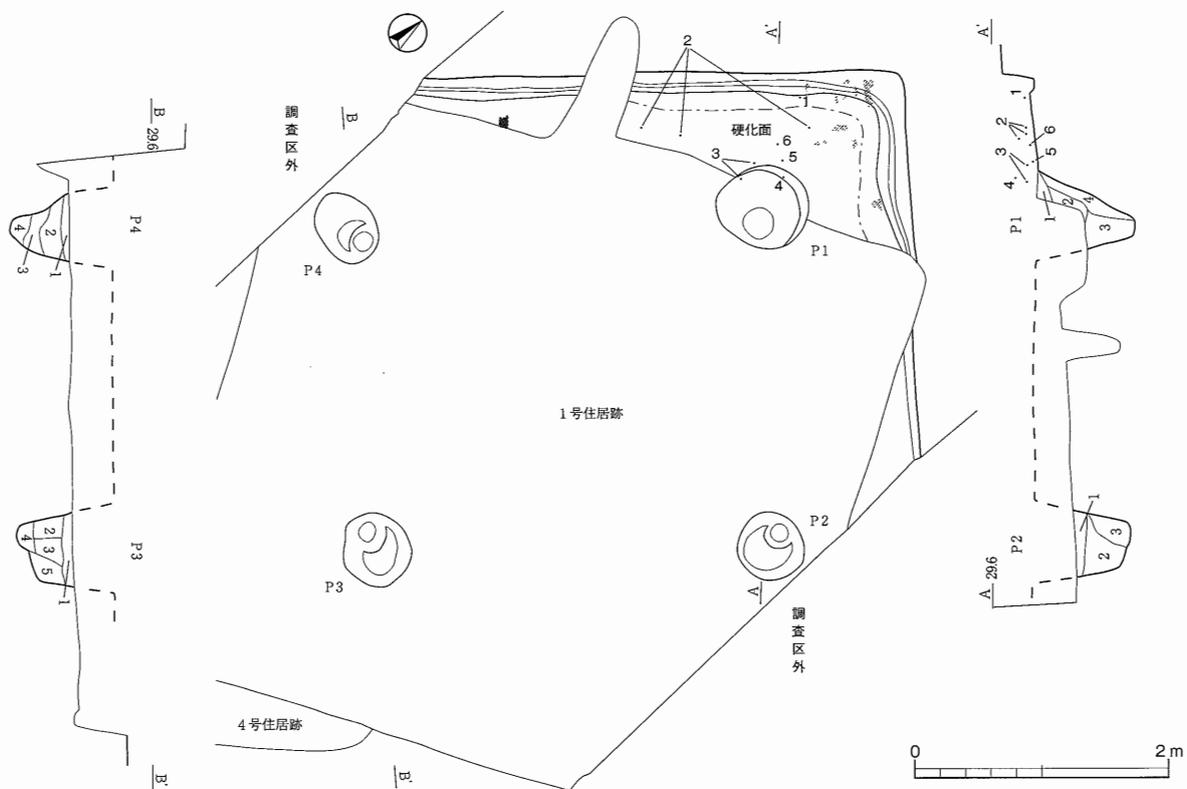
### 3号住居跡 (第25・26図)

位置 E9・10、F9・10に位置している。規模 南北3.05m以上×東西3.7m以上の方形であるとみられる。

重複関係 出土遺物・土層の観察から1号住居跡より古い。4号住居跡とも若干の重複があったとみられるが、1号住居跡によって重複箇所が破壊されてしまっているため、4号住居跡との新旧関係は不明である 主軸方位 N-52°-W。壁 壁高は26cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床 フラットで、壁周溝が巡る。

貯蔵穴 確認できなかった。ピット 4基確認。P1:66×72cm、深さ78cm。P2:55×52cm、深さ45cm。P3:60×54cm、深さ44cm。P4:55×50cm、深さ46cm。いずれも柱穴である。炉 確認できなかった。

覆土 自然堆積とみられる。遺物 覆土上層～下層にかけて出土したが、一部の遺物は1号住居跡の覆土中に混入しており、接合関係が認められた遺物も確認している。所見 出土遺物、住居の形態から4世紀前半代に属するとみられる。



#### 3号住居跡P1土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～3cmロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～1cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～5cmロームブロック多量。

#### 3号住居跡P2土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～1cmロームブロック多量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～4cmロームブロック多量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～1cmロームブロック中量。

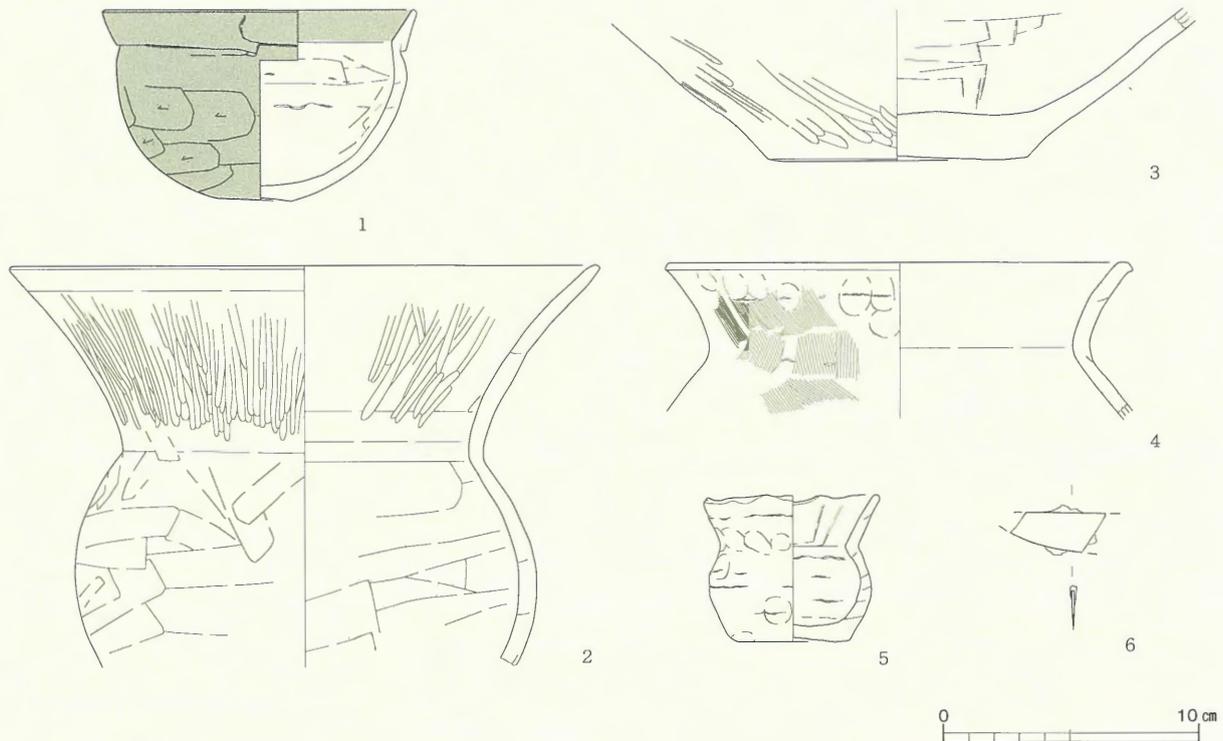
第25図 3号住居跡

3号住居跡P3土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 3 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 5 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。

3号住居跡P4土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 4 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。



第 26 図 3号住居跡出土遺物

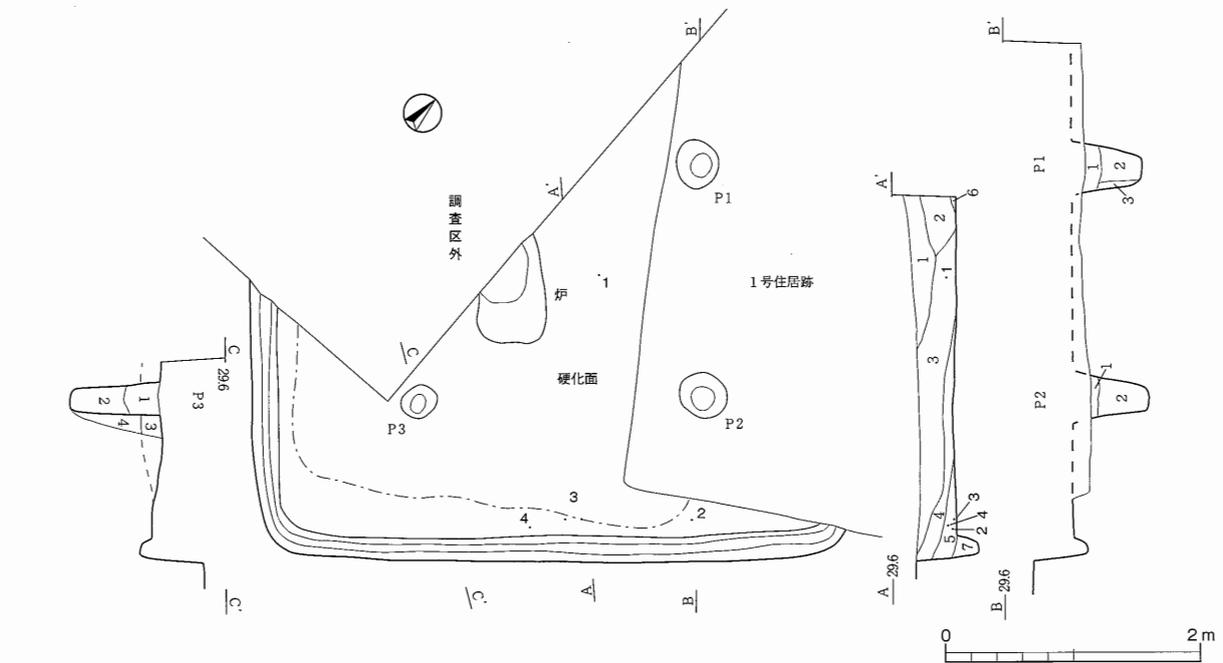
表 11 3号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	碗	12.3	7.6	2.8	石英・長石・白雲母	7.5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	外面赤彩
2	土師器	壺	23.2	<16.0>	—	石英・長石・白雲母	10YR7/6 明黄褐	良	外面：口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヘラミガキ。体部ヘラナデ。	
3	土師器	壺	—	<6.0>	10.3	石英・長石・白雲母	外：10YR6/6 明黄褐 内：10YR7/4 に ぶい 黄褐	やや良	外面：体部ヘラミガキ。底部付近ヘラケズリ。 内面：体部ヘラナデ。	
4	土師器	甕	(18.4)	<6.2>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/6 明黄褐	やや良	外面：口縁部タテハケ、指頭痕。 内面：口縁部ヨコハケ (摩滅)。	
5	土師器	ミニチュア土器	6.9	5.8	4.4	石英・長石・白雲母	7.5YR6/6 橙	良	外面：指頭痕。 内面：口縁部ヘラナデ、体部指頭痕。	
No.	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考		
			長さ	幅	厚さ					
6	鉄製品	刀子	<3.9>	1.6	0.1	308				

4号住居跡 (第 27 図)

位置 F9・10グリッドに位置している。規模 南北2.25m以上×東西4.7mの方形であるとみられる。唯一残存している南西コーナーはやや丸味を帯びている。重複関係 出土遺物・土層の観察から1号住居跡より古い。主軸方位 N-45°-W。壁 壁高は30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、貼り床が施してあるが、一部根による攪乱を受ける。貯蔵穴 確認できなかった。ピット 3基確認。P1:40×34cm、深さ44cm。P2:35×37cm、深さ46cm。P3:25×28cm、深さ69cm。いずれも柱穴である。炉 住居中央部やや西寄り確認している。90cm以上×55cmの南北に長い楕円形を呈し、中心部分の火床

面は硬化している。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土したが、その多くは小片で、全体的な出土量も少なかった。個体になるようなものは住居の南壁に沿うような形で出土した。所見 出土遺物、住居の形態から4世紀前半代に属するとみられる。



4号住居跡P1土層説明 (A)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。
- 5 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。

4号住居跡P1土層説明 (B)

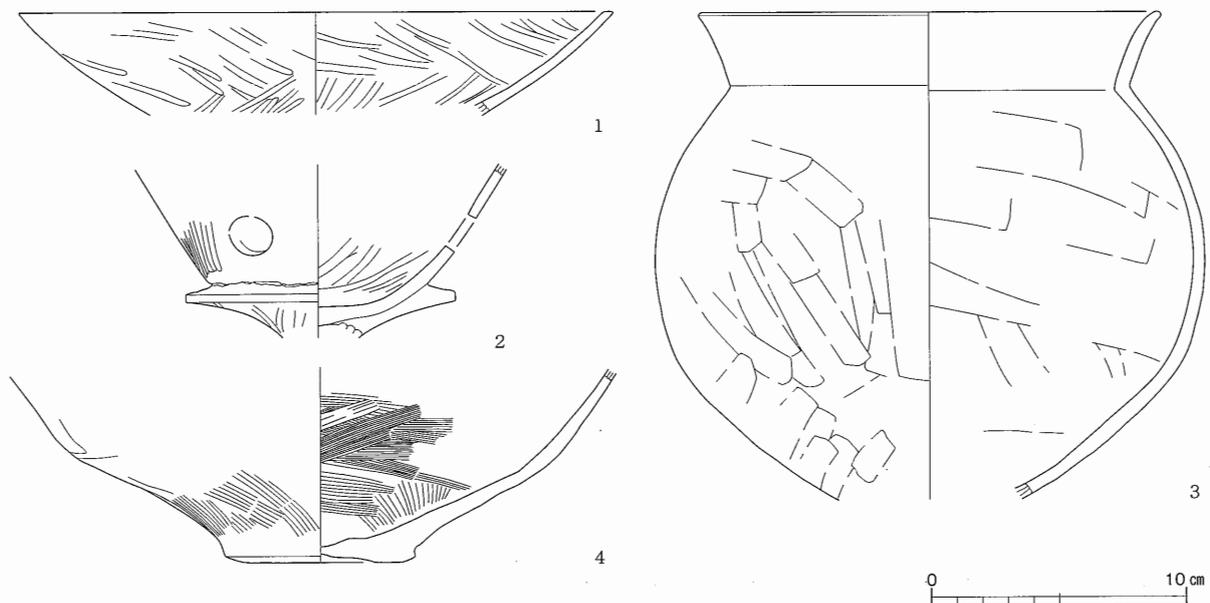
- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。

4号住居跡P2土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック中量。

4号住居跡P3土層説明 (C)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 3 黒褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。貼り床。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。



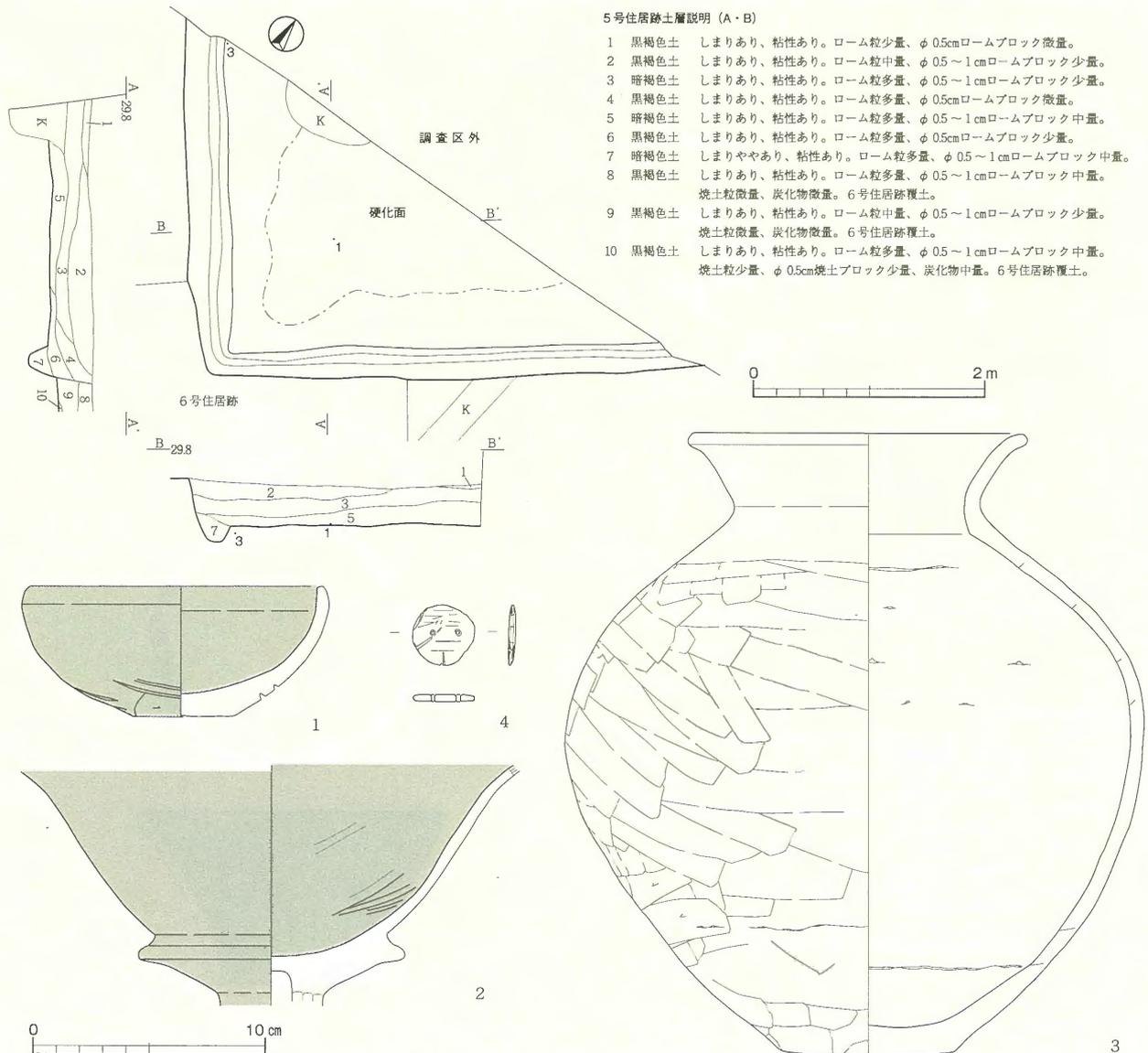
第27図 4号住居跡・4号住居跡出土遺物

表 12 4号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	高坏	(11.7)	<4.1>	—	石英・長石・白雲母	外：7.5YR5/8 明褐 内：10YR5/4 黄褐	良	外面：ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内面：ヘラミガキ。	
2	土師器	器台	—	<6.9>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/6 明黄褐	やや良	外面：体部ヘラミガキ。体部穿孔3箇所。 内面：ヘラミガキ。	
3	土師器	甕	(18.2)	<6.0>	10.3	石英・チャート	外：10YR5/2 灰黄褐 内：10YR6/4 にぶい黄橙	やや良	外面：口縁部ヨコナデ。体微ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
4	土師器	甕	—	<7.7>	7.5	石英・長石・白雲母	外：5YR5/4 にぶい赤褐 内：10YR5/3 にぶい黄橙	やや良	外面：体部ヘラケズリ、底部付近タテハケ。 内面：ヨコハケ。	

5号住居跡 (第 28 図)

**位置** F 8 グリッドに位置している。 **規模** 南北 3.1 m 以上×東西 4.2 m 以上の方形であるとみられる。  
**重複関係** 出土遺物・土層の観察から 6号住居跡より新しい。 **主軸方位** N - 35° - W。 **壁** 壁高は 42cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。 **床** ほぼフラットで、硬化面が確認できた。また、一部攪乱を受けてる。  
**ピット** 確認できなかった。 **炉** 確認できなかった。 **覆土** 自然堆積である。 **遺物** 覆土上層～床面直上にかけて出土したが、個体になるものは少ない。住居北西部の床面直上からはほぼ完形の壺 (3) が 1 点出土している。 **所見** 出土遺物、住居の形態から 5 世紀後葉に属するとみられる。



第 28 図 5号住居跡・5号住居跡出土遺物

表 13 5号住居跡出土遺物観察表

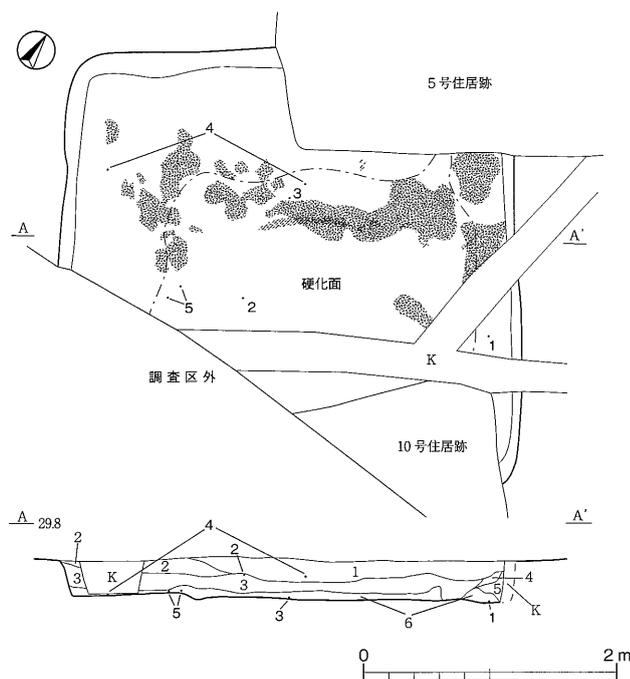
No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	碗	(12.1)	5.7	4.3	石英・長石・白雲母	5YR5/8 明赤褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。 下半ヘラケズリ、キザミ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。	赤彩
2	土師器	高坏	—	<10.4>	—	石英・長石・白雲母	5YR3/6 暗赤褐	やや良	外面：体部ヘラミガキ。 内面：ヘラミガキ。	赤彩
3	土師器	壺	(14.8)	27.1	7.8	石英・長石・白雲母	10YR6/6 明黄褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ 後、上半ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
4	石製品	双孔円盤	直径 3.5	孔径 0.15	0.4	7.07	全面研磨。一方向からの穿孔。	

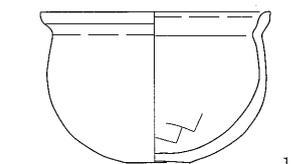
6号住居跡 (第 29・30 図)

位置 F 8 グリッドに位置している。規模 3.5 × 3.5 m の方形の住居である。重複関係 出土遺物・土層の観察から 5・10号住居跡より古い。主軸方位 N - 35° - W。壁 壁高は 31cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットである。ピット 確認できなかった。炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。覆土下層では焼土が多量に確認され、炭化物・炭化材も確認された。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土した。所見 出土遺物、住居の形態から 4 世紀前半代に属するとみられる。また、覆土中で確認された焼土・炭化材から焼失家屋であるとみられるが、屋根部材となる炭化材は圧倒的に少ない。

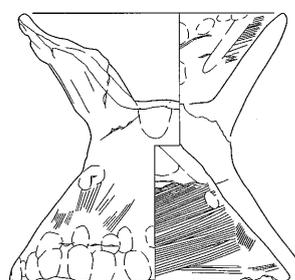


6号住居跡土層説明 (A)

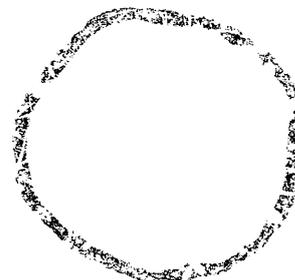
- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5 ~ 1 cm ロームブロック中量。  
焼土粒微量、炭化物微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5 cm ロームブロック微量。  
焼土粒微量、炭化物微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5 ~ 1 cm ロームブロック少量。  
焼土粒微量、炭化物微量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5 cm ロームブロック微量。  
焼土粒微量、炭化物微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5 ~ 1 cm ロームブロック多量。  
焼土粒微量、炭化物微量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5 ~ 1 cm ロームブロック中量。  
焼土粒少量、φ 0.5 cm 焼土ブロック少量。炭化物中量。



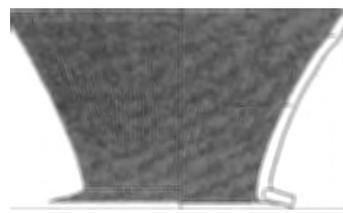
1



2



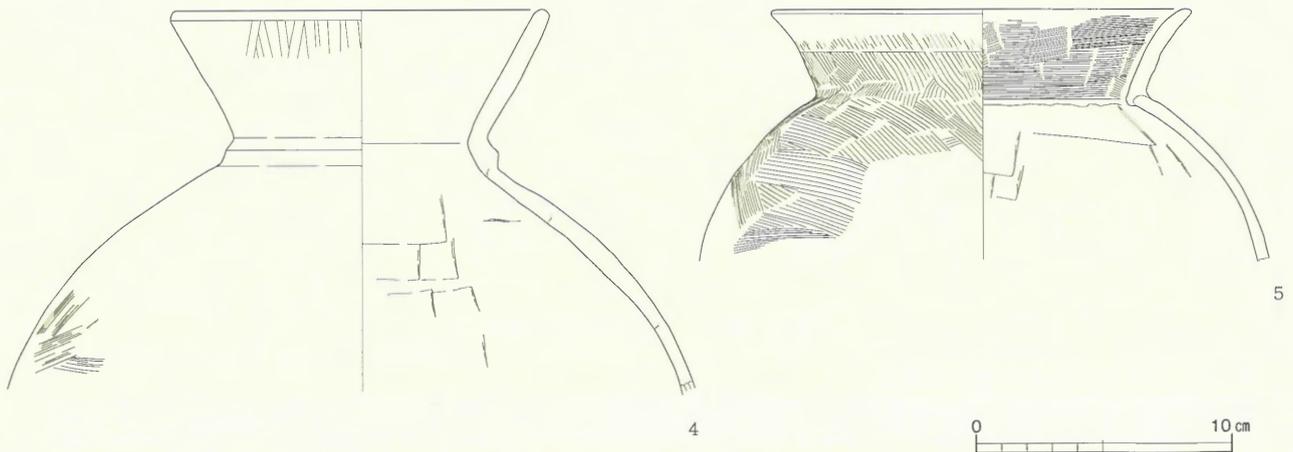
2



3



第 29 図 6号住居跡・6号住居跡出土遺物



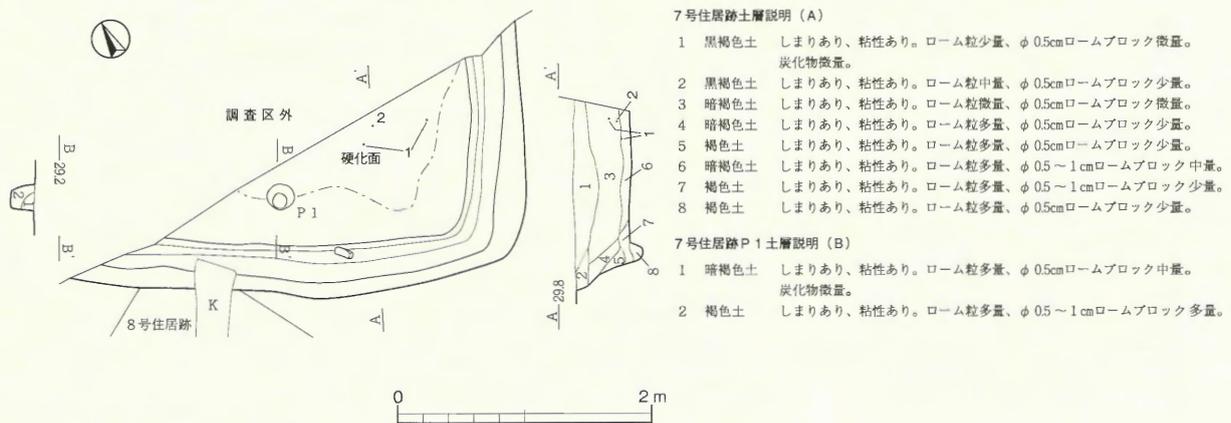
第30図 6号住居跡出土遺物

表14 6号住居跡出土遺物観察表

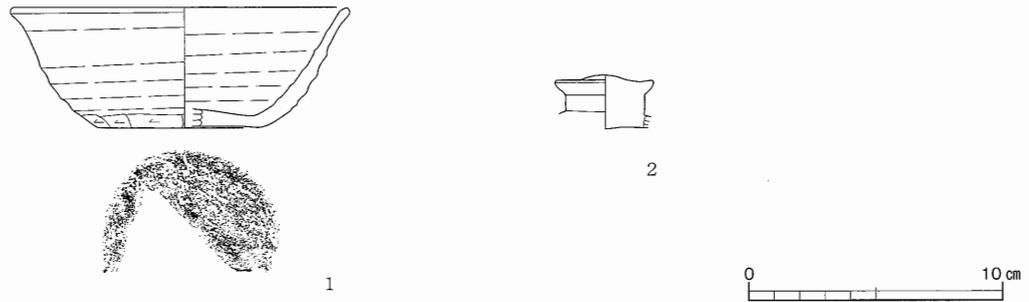
No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	碗	9.1	6.0	2.5	白雲母・白色粒	5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、丁寧なナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ後、ヨコナデ。	
2	土師器	粗製器台	(10.2)	10.8	11.7	石英・長石・白雲母	5YR5/6 明赤褐	良	外面：台部ナデ。脚部タテハケ、底部付近指頭痕。 内面：台部ハケ後、ナデ。脚部ヨコハケ、指頭痕。	台部と脚部に穿孔はない。
3	土師器	壺	13.3	<7.8>	—	石英・長石・白雲母	5YR4/8 赤褐	良	外面：口縁部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヘラミガキ。	赤彩
4	土師器	壺	14.9	<15.3>	—	石英・長石・白雲母	5YR5/6 明赤褐	やや良	外面：口縁部ヘラミガキ。体部タテハケ後、ヘラミガキ。器面摩滅。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	外面赤彩
5	土師器	壺	(16.6)	<10.0>	—	石英・長石・白雲母	5YR5/6 明赤褐	良	外面：口縁部タテハケ後、ヨコナデ。体部タテハケ・ヨコハケ。 内面：口縁部ヨコハケ。体部ヘラナデ。	

7号住居跡 (第31・32図)

**位置** F8グリッドに位置している。 **規模** 南北2.2m以上×東西3.6m以上の方形であるとみられる。  
**重複関係** 出土遺物から8号住居跡より新しい。 **主軸方位** N - 29° - E。 **壁** 壁高は44cmで、緩やかに立ち上がる。一部攪乱を受ける。 **床** ほぼフラットで、硬化面の範囲を検出している。 **ピット** 1基確認している。P1：18×21cm、深さ19cm。住居の南壁際で確認していることから、出入り口ピットであるとみられる。 **カマド** 確認できなかった。 **覆土** 自然堆積である。一部攪乱を受ける。 **遺物** 覆土上層～下層にかけて出土した。 **所見** 出土遺物と住居の形態から、8世紀後葉～9世紀前葉に属するとみられる。



第31図 7号住居跡



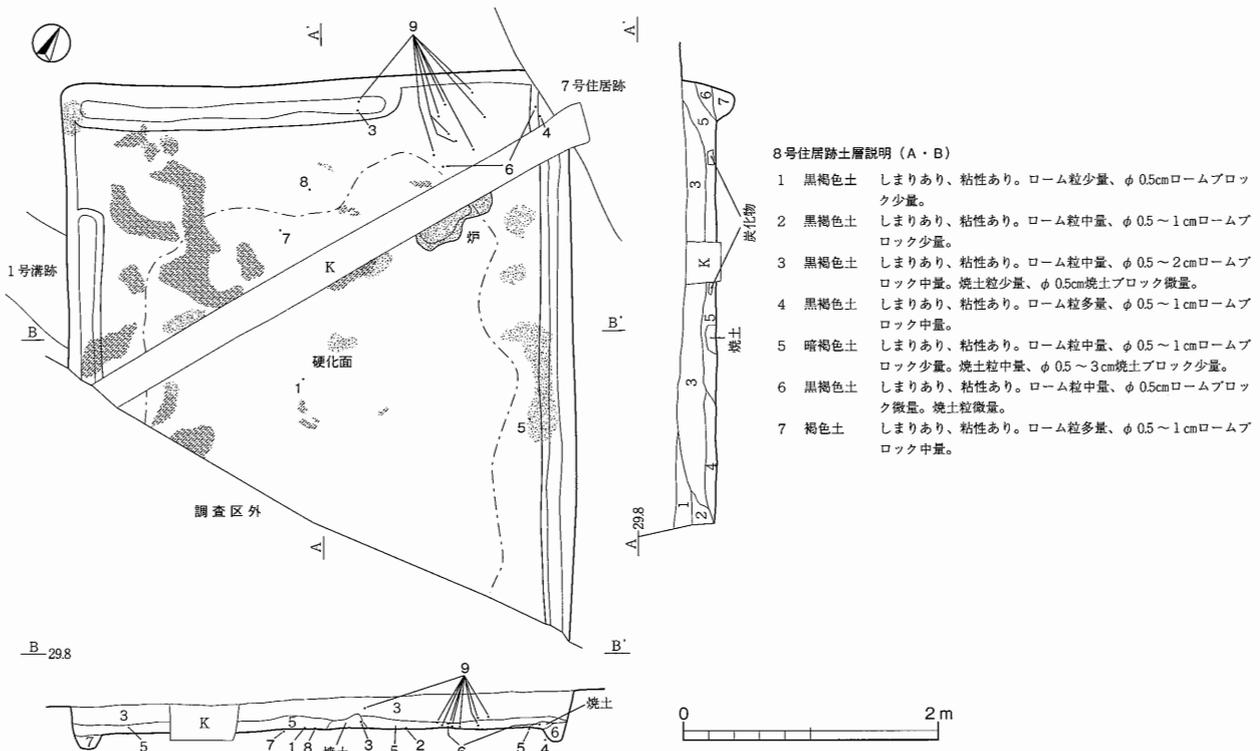
第32図 7号住居跡出土遺物

表15 7号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	完成	成形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	須恵器	杯	13.3	4.8	6.3	石英・長石・白雲母	2.5YR6/2 灰黄	良	外面：ロクロ整形。体部下部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面：ロクロ整形。	
2	須恵器	蓋	—	<21>	—	石英・長石・白雲母	2.5YR6/2 灰黄	良	外面：ナデ。内面：ナデ。	

8号住居跡 (第33・34図)

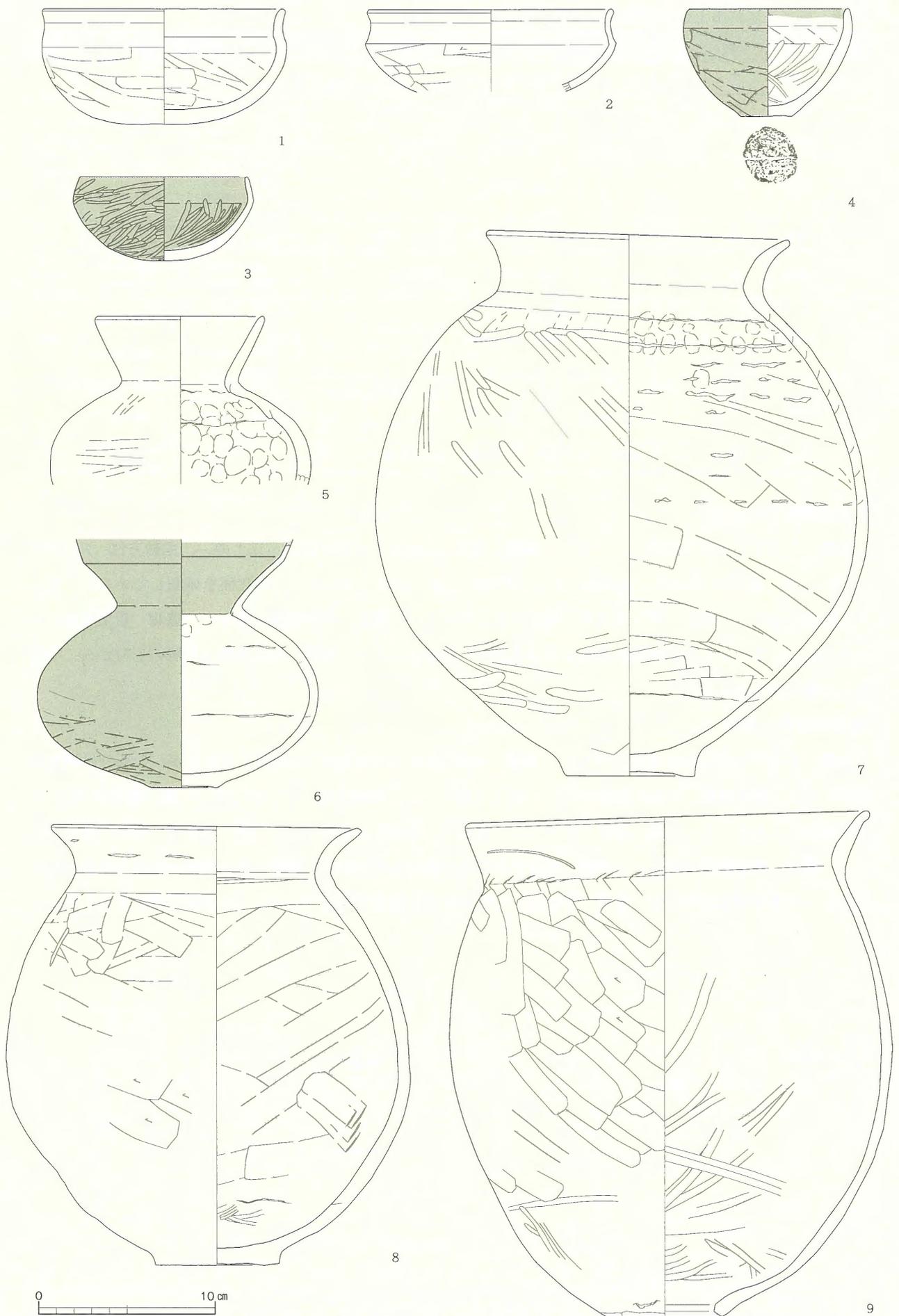
**位置** F7・8グリッドに位置している。 **規模** 南北4.55m以上×東西4.0mの長方形の住居である。  
**主軸方位** N-30°-W。 **重複関係** 出土遺物と土層の観察から7号住居跡より古く、1号溝跡より新しい。  
**壁** 壁高は33cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。一部攪乱を受ける。 **床** ほぼフラットで、硬化面の範囲を検出している。住居の中央部分は攪乱によって床面が壊されている。 **ピット** 確認できなかった。 **炉** 住居内北東部においてわずかに焼土の範囲と硬化面を検出した。 **覆土** 自然堆積である。覆土中層～下層にかけて焼土・炭化物が多量に確認されている。 **遺物** 覆土上層～床面直上にかけて出土している。個体となるものは住居北壁付近に集中している。 **所見** 住居覆土中から多量の焼土・炭化物が確認されたことから焼失家屋であるとみられる。また、住居北西部で確認された炭化物は籐状の細い形状をしていた。出土遺物と住居の形態から、5世紀後葉に属する。



8号住居跡土層説明 (A・B)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ0.5cmロームブロック少量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ0.5～1cmロームブロック少量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ0.5～2cmロームブロック中量。焼土粒少量、φ0.5cm焼土ブロック微量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～1cmロームブロック中量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒中量、φ0.5～3cm焼土ブロック少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ0.5～1cmロームブロック中量。

第33図 8号住居跡



第 34 图 8 号住居跡出土遺物

表 16 8号住居跡出土遺物観察表

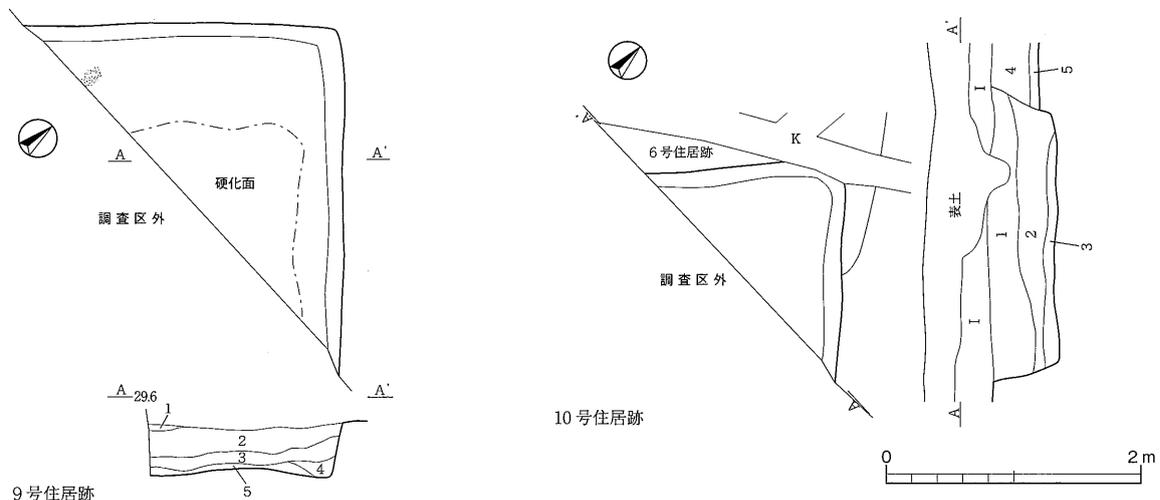
No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	坏	13.8	6.6	—	石英・長石・白雲母	外：5YR5/6 明赤褐 内：7.5YR5/4 にぶい褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ	
2	土師器	坏	(14.0)	<4.7>	—	石英・白雲母・チャート	5YR5/6 明赤褐	やや良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。	
3	土師器	坏	9.5	4.8	—	石英・白雲母	10R4/6 赤	良	外面：口縁部～体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。	赤彩
4	土師器	碗	8.9	6.2	2.9	石英・白雲母	10R5/6 赤	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ後、ヘラミガキ。	外面赤彩 底部ヘラ 記号
5	土師器	壺	(9.6)	<9.6>	—	石英・長石・白雲母	7.5YR5/6 明褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部指頭痕。	
6	土師器	壺	—	<14.2>	3.8	石英・長石・白雲母	5YR4/8 赤褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部指頭痕。	外面赤彩 内面頸部 まで赤彩
7	土師器	壺	16.2	31.1	7.2	石英・長石・白雲母	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラナデ後、ヘラミガキ。下半ヘラケズリ後ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ、指頭痕。	二次被熱
8	土師器	甕	17.6	25.7	7.0	石英・長石・白雲母	外：10YR6/3 にぶい黄橙 内：7.5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、上半ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部付近ヘラミガキ。	
9	土師器	甕	(22.8)	29.0	6.6	石英・長石・白雲母	7.5YR4/4 褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。	

9号住居跡 (第 35 図)

位置 F7グリッドに位置している。規模 南北2.8 m以上×東西2.55 m以上の。主軸方位 N - 50° - W。壁 壁高は35cmで、ほぼ直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面を確認している。ピット 確認できなかった。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層から下層にかけて出土したが、個体になるものは見受けられなかった。所見 出土遺物と住居の形態から、平安時代に属するとみられる。

10号住居跡 (第 35 図)

位置 F8グリッドに位置している。規模 南北1.8 m以上×東西1.6 m以上であるが、大部分は調査区外となる。重複関係 土層の観察からS I 06より新しい。主軸方位 N - 40° - W。壁 壁高は52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラット。ピット 確認できなかった。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 確認することは出来なかった。所見 出土遺物がみられなかったため正確な帰属時期は不明だが、重複している6号住居跡が4世紀であることから、4世紀以降と考えられる。



第 35 図 9号住居跡・10号住居跡

9号住居跡土層説明 (A)

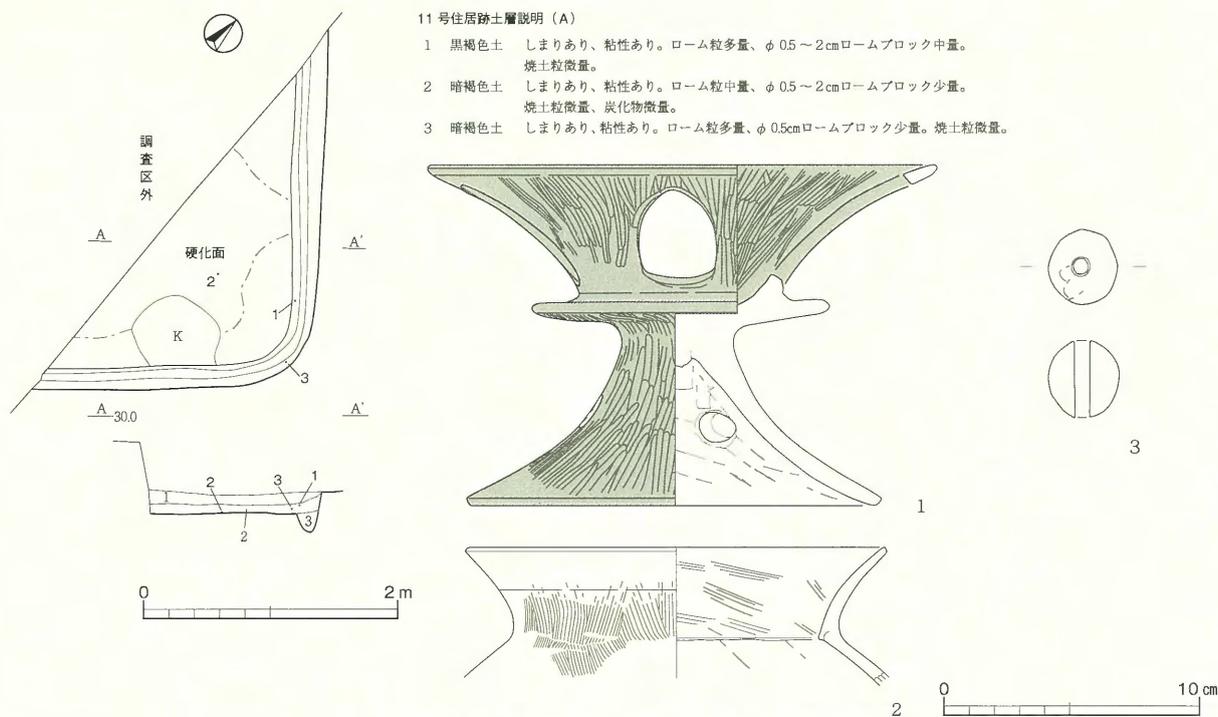
- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。  
焼土粒少量、φ 0.5cm焼土ブロック微量、炭化物微量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。

10号住居跡土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。  
焼土粒微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。  
焼土粒微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。  
焼土粒微量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。  
焼土粒微量、炭化物微量。6号住居跡覆土。
- 5 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。  
焼土粒微量、炭化物微量。6号住居跡覆土。

11号住居跡 (第36図)

位置 D9グリッドに位置している。規模 南北2.85m以上×東西2.2m以上であるが大部分は調査区外となる。主軸方位 N - 42° - W。壁 壁高は18cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を確認している。壁周溝が巡る。ピット 確認できなかった。炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～覆土下層にかけて出土しているが、出土数は少ない。住居南東隅から器台と土玉が出土している。所見 出土遺物と住居の形態から4世紀前半代に属するとみられる。



第36図 11号住居跡・11号住居跡出土遺物

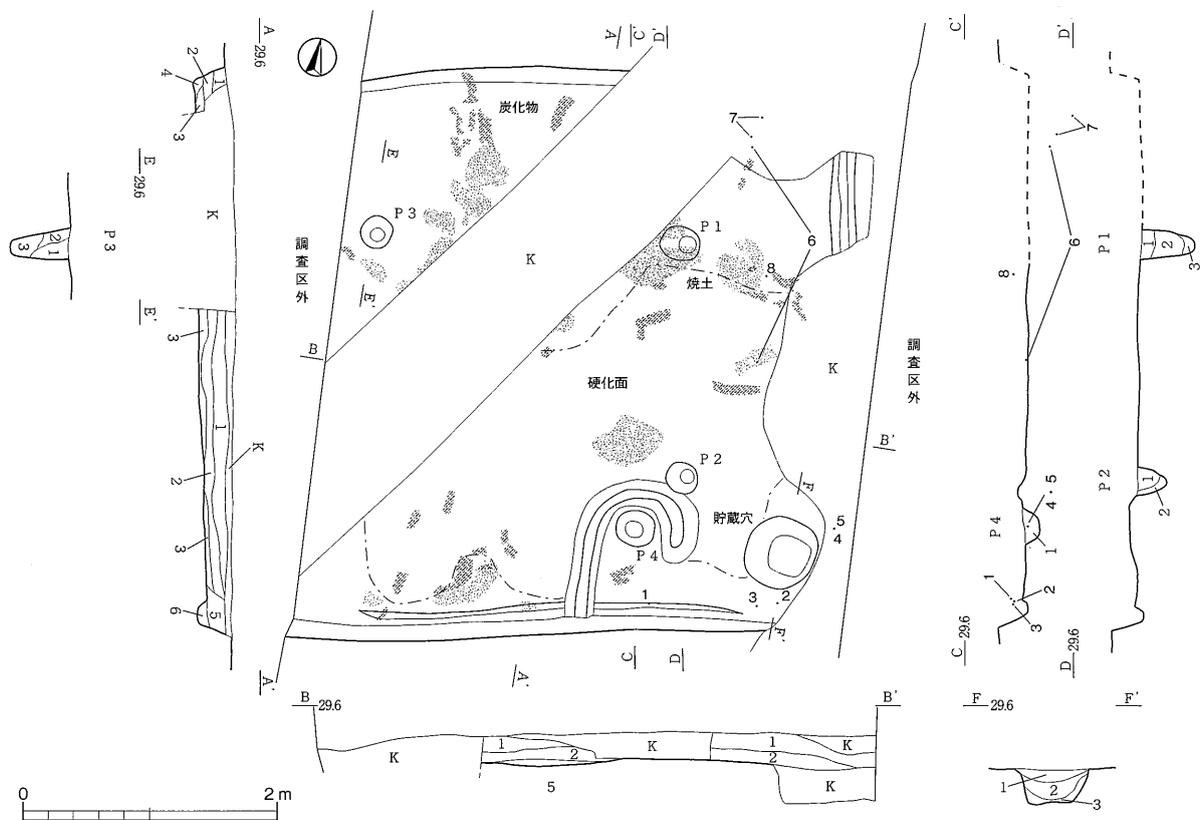
表17 11号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	器台	20.2	13.6	16.5	石英・海綿骨針	外: 2.5YR5/6 明赤褐 内: 10YR に近い黄橙	良	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 台部に三角形の透孔4箇所。 内面: 台部ヘラミガキ。脚部ヘラナデ。 円形の透孔3箇所。	脚部内面 以外赤彩
2	土師器	甕	(16.6)	<5.2>	—	石英・白雲母	7.5YR6/6 橙	良	外面: 口縁部タテハケ後、ヨコナデ。体部タテハケ。 内面: 口縁部ヨコハケ後、ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
No.	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考		
			長さ	幅	厚さ					
3	土製品	土玉	直径2.8	孔径0.6	3.0	23.55	ナデによる整形。一方からの穿孔。石英を含む。			

13号住居跡 (第37・38図)

位置 C9、D9グリッドに位置している。規模 南北4.5m×東西4.0m以上の方形になるとみられる。主軸方位 N - 13° - W。壁 壁高は27cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで硬化面を

確認しているが、住居中央部分は大きく攪乱を受けている。出入り口とみられる住居南側では、ピットの周囲に周堤状の高まりを有している。貯蔵穴 住居南東隅で検出しており、54cm×56cm、深さ25cmを測る。ピット 4基確認している。P 1:26×29cm、深さ42cm。P 2:24×25cm、深さ22cm。P 3:25×25cm、深さ46cm。P 4:28×30cm、深さ11cm。柱穴になるものはP 1～P 3で、P 4は出入り口ピットであるとみられる。カマド・炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。覆土中層～下層にかけて焼土・炭化物が多量に確認されている。遺物 南壁から東壁に沿うような形で遺物が出土している。また、カマドがあったとみられる東壁付近からは、土製の模造鏡(8)が覆土の下層から出土している。所見 覆土中から焼土・炭化材を多量に確認したことから焼失家屋とみられ、出土遺物と住居の形態から5世紀後葉に属するとみられる。



13号住居跡土層説明 (A・B)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。焼土粒少量、炭化物微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒少量、φ 0.5～2cm焼土ブロック少量、炭化物中量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 5 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。炭化物少量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。

13号住居跡P 4土層説明 (C)

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。

13号住居跡P 1土層説明 (D)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。焼土粒微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。

13号住居跡P 2土層説明 (C)

- 1 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。

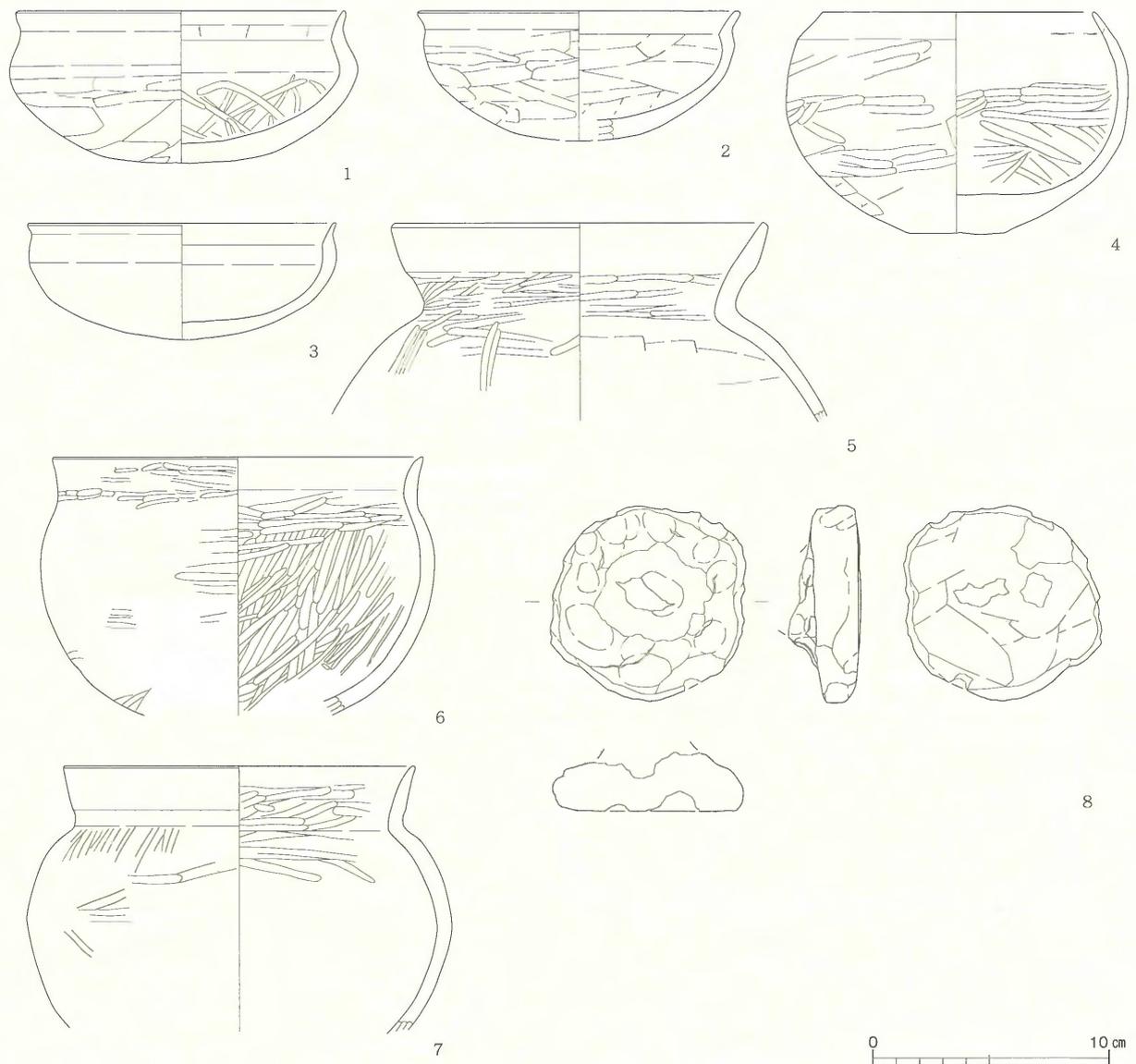
13号住居跡P 3土層説明 (E)

- 1 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 2 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。

13号住居跡P 5土層説明 (F)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。

第37図 13号住居跡



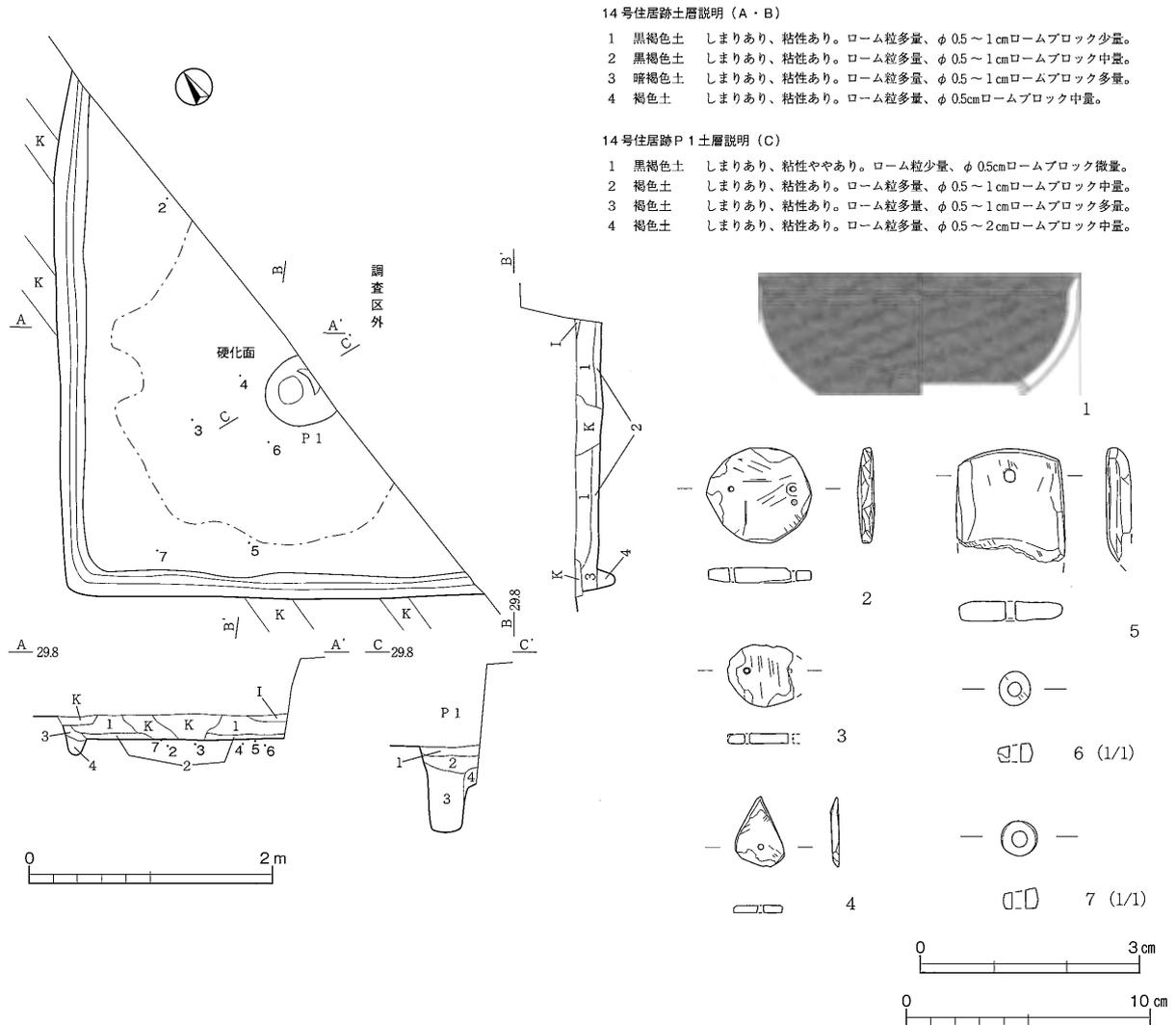
第 38 図 13 号住居跡出土遺物

表 18 13 号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	坏	13.8	6.5	—	石英・長石・白雲母	5YR5/6 明赤褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラナデ。体部ヘラミガキ。	
2	土師器	坏	(13.8)	<5.5>	—	石英・長石・白雲母	5YR4/6 赤褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
3	土師器	坏	13.2	5.0	—	石英・長石・白雲母	外：10YR4/2 灰黄褐 内：5YR4/6 赤褐	やや良	外面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。 内面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。	
4	土師器	鉢	11.6	9.4	4.0	石英・長石・白雲母	10R6/6 明黄褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内面：口縁部ナデ。体部ヘラミガキ。	
5	土師器	壺	15.6	<8.2>	—	石英・長石・白雲母		やや良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ。体部ヘラナデ。	
6	土師器	塞	(15.6)	<11.1>	—	石英・長石・白雲母	外：7.5YR4/3 褐 内：5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。	
7	土師器	甕	(14.8)	<11.5>	—	石英・長石・白雲母	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ナデ。体部ヘラミガキ。	
No.	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか		備考	
			長さ	幅	厚さ					
8	土製品	模造鏡	8.3	8.1	1.8	168.93	鈕欠損。鏡面はヘラナデによる整形。文様面は指ナデによる整形。石英・長石・白雲母を含む。			

14号住居跡 (第39図)

位置 B9・C9グリッドに位置している。規模 南北4.3m以上、東西3.5m以上の方形とみられる。主軸方位 N-35°-E。壁 壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで硬化面を確認しているが、一部攪乱を受けるピット1基確認している。P1:56cm×50cm以上、深さ70cmを測る。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土しているが、土器は小片がほとんどで、個体になるものはない。床面直上からは石製模造品が4点出土している。所見 出土遺物と住居の形態から5世紀後葉に属するとみられる。



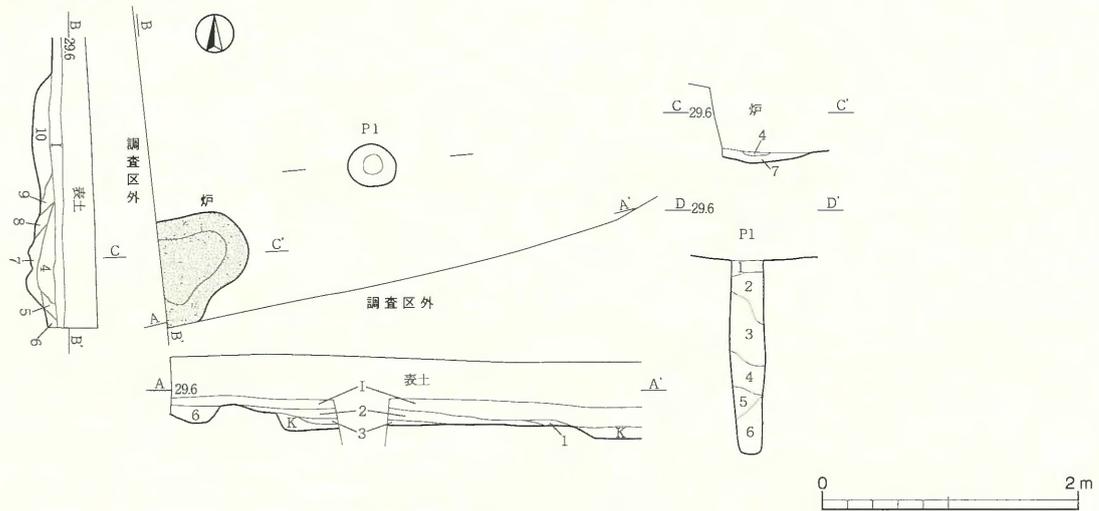
第39図 14号住居跡・14号住居跡出土遺物

表19 14号住居跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	坏	(13.0)	<4.9>	—	石英・白雲母	外: 5YR4/8 赤褐 内: 2.5YR4/6 赤褐	良	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ	赤彩
2	石製品	双孔円盤	3.8	4.2	0.7	14.45	全面研磨。一方向からの穿孔。			1箇所未穿孔
3	石製品	双孔円盤	2.1	<2.7>	0.4	4.91	全面研磨。一方向からの穿孔。			
4	石製品	剣形模造品	2.9	2.1	0.3	2.31	全面研磨。一方向からの穿孔。			
5	石製品	斧形模造品	<4.7>	4.5	1.0	30.42	全面研磨。一方向からの穿孔。			
6	石製品	白玉	直径0.5	孔径0.15	0.25	0.10	全面研磨。一方向からの穿孔。			
7	石製品	白玉	直径0.5	孔径0.2	0.29	0.08	全面研磨。一方向からの穿孔。			

15号住居跡（第40図）

位置 B9・C9グリッドに位置している。規模 不明。主軸方位 不明。壁 不明。床 硬化面等を確認することは出来なかったが、調査区壁面において一部硬化している層を確認している。ピット 1 基確認している。P1：34cm×38cm、深さ153cmを測る。炉 62×82cm、深さ10cmを測る。覆土 自然堆積である。遺物 確認できなかった。所見 遺物の出土もなく、他の遺構との重複関係も認められないため、帰属時期は不明である。



第40図 15号住居跡

15号住居跡土層説明（A～C）

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 2 灰褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。  
焼土粒少量。硬化面（床面か？）
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。焼土粒微量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性やや低い。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。  
焼土粒多量、φ 0.5～1cm焼土ブロック中量。板熱により脆い。炉。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。焼土粒少量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。  
焼土粒少量。炉。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック微量。  
焼土粒微量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。  
焼土粒微量、炭化物微量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。

15号住居跡P1土層説明（D）

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。

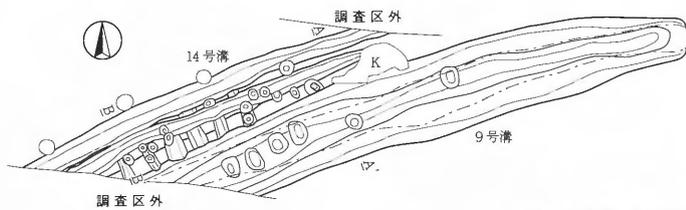
第2節 溝跡（第41～44図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認された溝跡は16条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。調査区幅の制約から遺構の全体像が把握できないものが多く、2・4号溝に関しては土坑である可能性が高い。また、溝の多くは調査区の北側で確認されており、そのほとんどは中世に帰属するものである。遺物の掲載に関しては基本的に遺構に帰属するものを主としているが、流れ込みとみられる遺物の中からも特徴的なものは掲載対象としている。

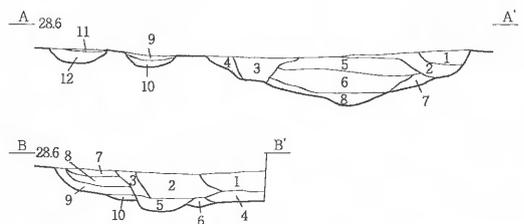
表20 溝跡一覧表

遺構名	位置 グリッド	軸方位	規模 (m)		深さ (m)	遺物	時期 (推定)	備考
			上端幅	下端幅				
1号溝	F 7	N - 85° - W	1.2	0.95	0.2	なし	不明	
2号溝	F 5	N - 18° - E	0.78	0.26	0.14	縄文土器・骨	縄文時代後期前～ 中葉	土坑か？
3号溝	D 9	N - 50° - E	0.75	0.4	0.07	縄文土器・土師器・ 陶磁器・泥面子	近世	
4号溝	C 9	N - 80° - W	1.6	1.2	0.61	縄文土器	縄文時代中期？	土坑か？
5号溝	B 9	N - 80° - E	0.97	0.78	0.43	縄文土器・土師器・ 須恵器・土錘	平安	





9・14号溝 (1/200)

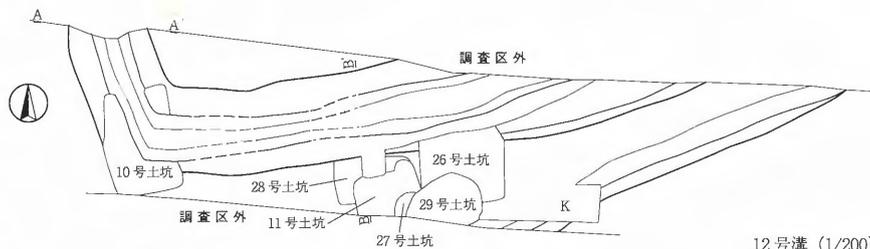


9・14号溝跡土層説明 (A)

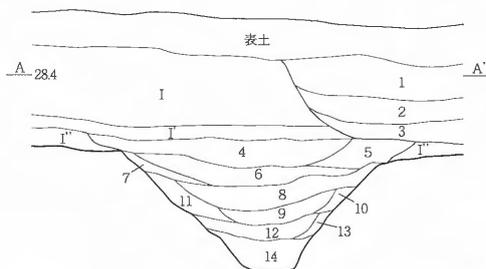
- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 5 黒褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。硬化面。道路として使用されていた面か？
- 6 黒褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。赤褐色粒少量。
- 7 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。
- 8 灰褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。赤褐色粒多量。
- 9 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。赤褐色粒少量。
- 10 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。
- 11 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。赤褐色粒中量。
- 12 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。赤褐色粒中量。

14号溝跡土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。赤褐色粒多量。
- 2 黒褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 4 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。赤褐色粒多量。
- 5 灰褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。赤褐色粒中量。
- 6 褐色土 しまり強い、粘性ややあり。ローム粒多量。赤褐色粒中量。ロームブロックがマール状に混ざる。
- 7 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック大量。
- 8 灰褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。赤褐色粒多量。
- 9 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。赤褐色粒少量。
- 10 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。



12号溝 (1/200)

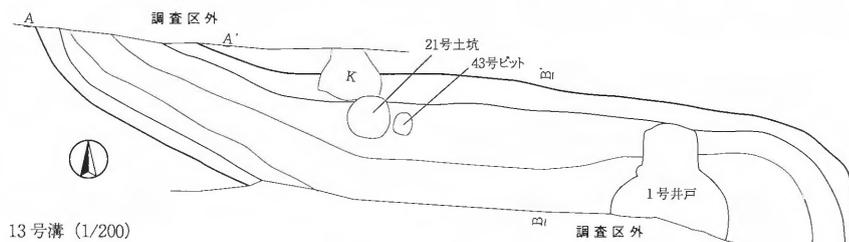


12号溝跡土層説明 (A)

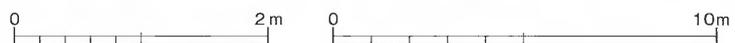
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。
- 9 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 10 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 12 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 13 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 14 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。

12号溝跡土層説明 (B)

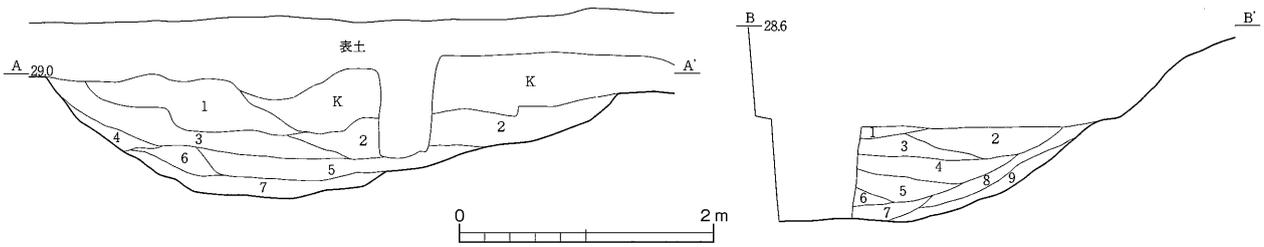
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。白色細砂混入。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。φ 0.5cm白色粘土ブロック少量。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 9 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。
- 10 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。
- 12 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。白色細砂混入。
- 13 にくい褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5cmロームブロック多量。白色細砂混入。



13号溝 (1/200)



第42図 9・12～14号溝跡



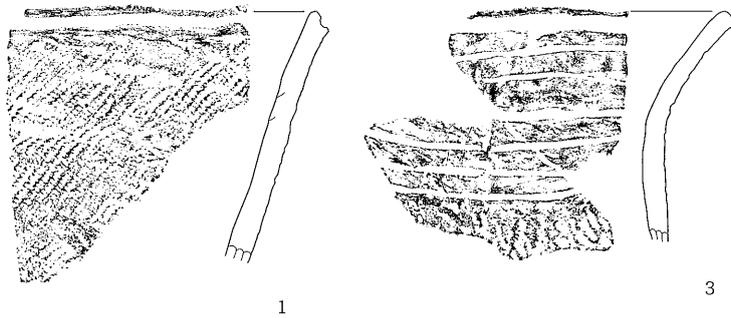
13号溝跡土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cmロームブロック多量。根によるカクランを受ける。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 7 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。

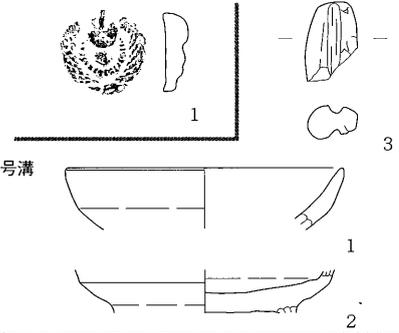
13号溝跡土層説明 (B)

- 1 明黄褐色土 しまり弱い、粘性なし。砂層。1号井戸掘削時の天地返し。
- 2 にぶい しまりやや弱い、粘性なし。φ 0.5~1cm礫中量。砂礫層。  
黄褐色土 1号井戸掘削時の天地返し。
- 3 褐色土 しまりややあり、粘性なし。φ 0.5cm白色粘土ブロック少量。シルト層。
- 4 褐色土 しまりややあり、粘性なし。φ 0.5~3cm白色粘土ブロック中量。シルト層。
- 5 明褐色土 しまりややあり、粘性なし。φ 0.5~1cmロームブロック少量。砂層。
- 6 にぶい しまりややあり、粘性なし。φ 0.5~2cmロームブロック中量。  
褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5~2cmロームブロック中量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5~2cmロームブロック中量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cmロームブロック多量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。

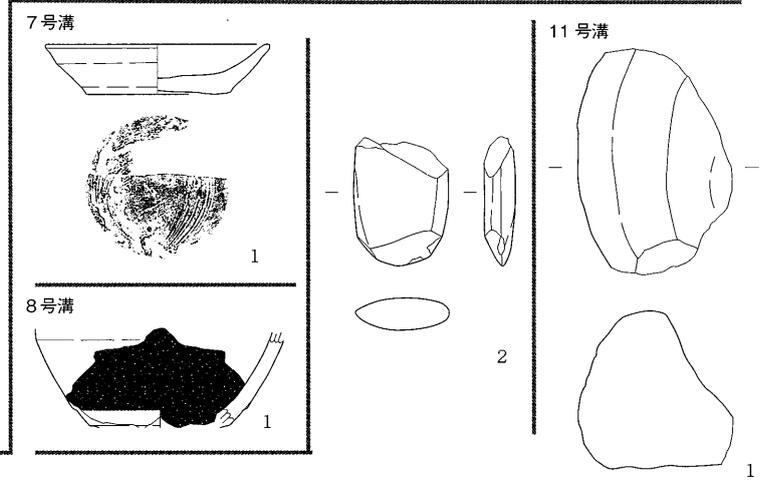
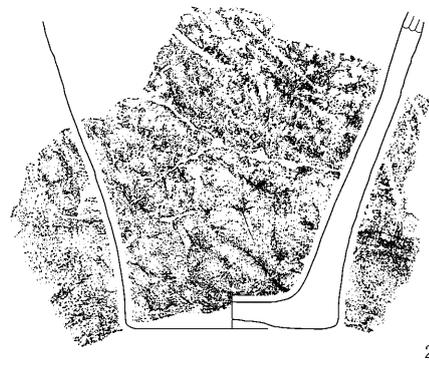
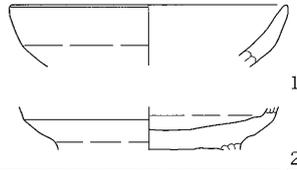
2号溝



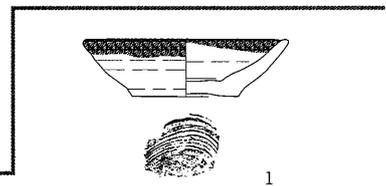
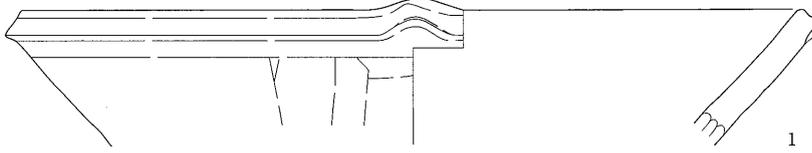
3号溝



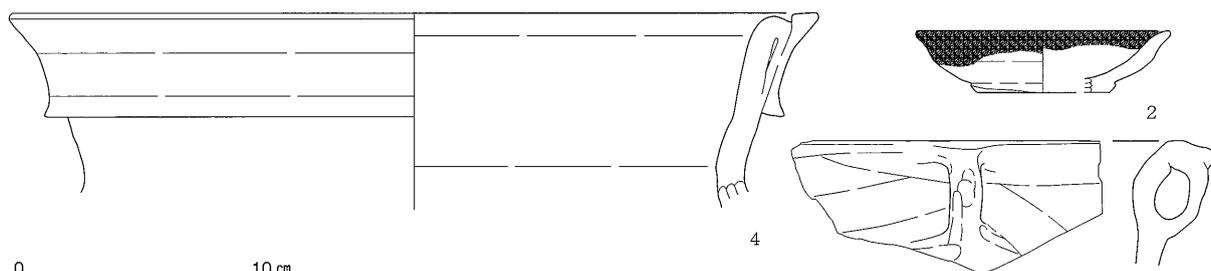
5号溝



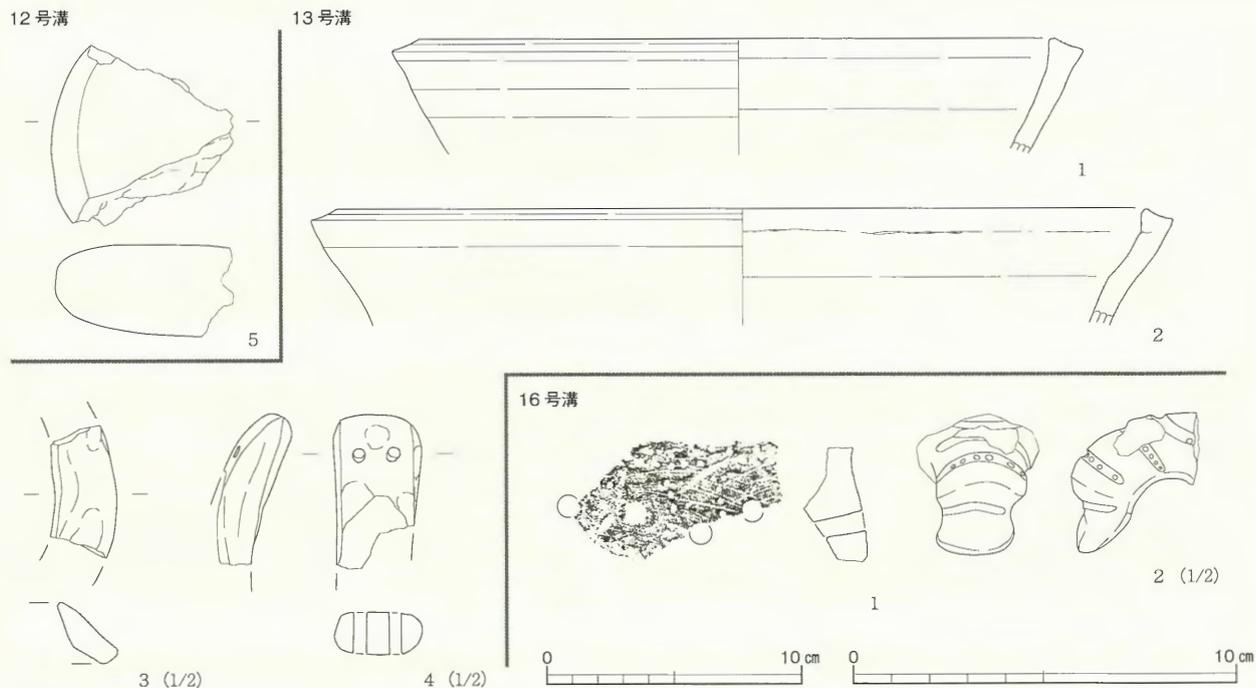
9号溝



12号溝



第43図 2・3・5・7~9・11・12号溝跡出土遺物



第44図 12・13・16号溝跡出土遺物

表21 2号溝跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<100>	—	石英・白雲母・白色粒	外：10YR5/2 灰黄褐 内：10YR7/4 におい黄橙	良	外面：口縁部に沈線を巡らす。体部LR単節縄文を施文。 内面：ナデ。	堀之内I
2	縄文土器	深鉢	—	<126>	8.2	石英・角閃石・白雲母 海綿骨針・赤色粒	5YR6/8 橙	やや良	外面：ミガキ。斜位の条線を2条確認。 内面：粗いミガキ。	堀之内II
3	縄文土器	深鉢	—	<95>	—	石英・海綿骨針・赤色粒	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR3/1 黒褐	良	外面：平行沈線を巡らし、列点状の表現を加える。 内面：粗いミガキ。	加曾利B2

表22 3号溝跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
1	土製品	泥面子	直径3.5	—	0.9	6.87	型に粘土を充填して整形。裏面に指紋あり。文様は鳥とみられる。石英を含む。	

表23 5号溝跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	皿	(11.0)	<25>	—	石英・白雲母	2.5YR4/2 暗灰黄	良	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。	
2	須恵器	高台杯	—	<17>	—	石英・長石	N5/ 灰	良	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。	

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
3	土製品	土錘	<3.1>	2.1	1.3	7.48	ナデによる整形。石英・白色粒を含む。	

表24 7号溝跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器土器	かわらけ	8.9	2.0	5.7	石英・白色粒・赤色粒	5YR6/8 橙	良	外面：ロクロ整形。底部回転糸切り。 内面：ロクロ整形。ナデ。	

表25 8号溝跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	陶器	茶碗	—	<40>	—	白色粒	2.5Y8/2 灰白	堅緻	外面：ロクロ整形。鉄軸。 内面：ロクロ整形。鉄軸。	天目

表26 9号溝跡出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	陶器	播鉢	(3.8)	<54>	—	石英・長石	10YR5/2 灰黄褐	堅緻	外面：口縁部ヨコナデ。口唇部に指による押圧。体部ヘラナデ。 内面：ヨコナデ。	

No.	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
2	石製品	磨製石斧	<5.2>	3.7	1.3	38.75	基部欠損。結晶片岩を使用。	

表 27 11号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
1	石製品	石皿	<8.9>	<6.0>	6.2	305.48	表面1面使用。多孔質安山岩を使用。	

表 28 12号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師質土器	灯明皿	(8.2)	2.3	4.2	白色粒	75YR6/6 橙	良	外面：ロクロ整形。口唇部油煙。底部回転糸切り。 内面：ロクロ整形。口唇部油煙。	
2	土師質土器	灯明皿	(10.0)	2.4	5.2	白色粒・赤色粒	5YR6/6 橙	良	外面：ロクロ整形。口唇部油煙。底部回転糸切り。 内面：ロクロ整形。口唇部油煙。	
3	土師質土器	鍋	—	<5.3>	—	石英・白雲母・赤色粒	外：10YR3/1 黒褐 内：10YR6/6 橙	良	外面：ナデ。スス附着 内面：ナデ。	
4	陶器	甕	(32.0)	<7.1>	—	石英・長石	10YR4/2 灰黄褐	堅緻	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	常滑

No.	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
5	石製品	磨石	<7.1>	<7.2>	3.5	215.05	表・裏・側面磨り痕。安山岩。	

表 29 13号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師質土器	鍋	(28.0)	<4.6>	—	石英・白雲母	外：75YR4/3 褐 内：75YR5/6 明褐	良	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	
2	土師質土器	鍋	(32.0)	<4.6>	—	石英・白雲母	75YR5/6 明褐色	良	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	

No.	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
3	土製品	貝輪形	<3.5>	1.6	0.7	5.79	外面ナデ。内面ケズリ。石英・赤色粒を含む。	
4	土製品	手種形	<4.0>	2.3	1.1	9.17	手種形土製品の柄とみられる。ナデによる整形。穿孔2箇所。石英・白雲母を含む。	

表 30 16号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	台付鉢	—	<4.5>	—	石英・長石	10YR5/3 におい黄橙	良	外面：細い糸線を施文後、刺突表現を加える。穿孔は一方向から行われ、4ヶ所残存している。 内面：ナデ。	安行 3a～3b

No.	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
2	土製品	土偶	<4.6>	2.5	1.8	23.97	ミミズク型土偶腕部。ナデによる整形後、沈線を施し、刺突表現を加える。 石英・長石・白雲母を含む。	安行 1

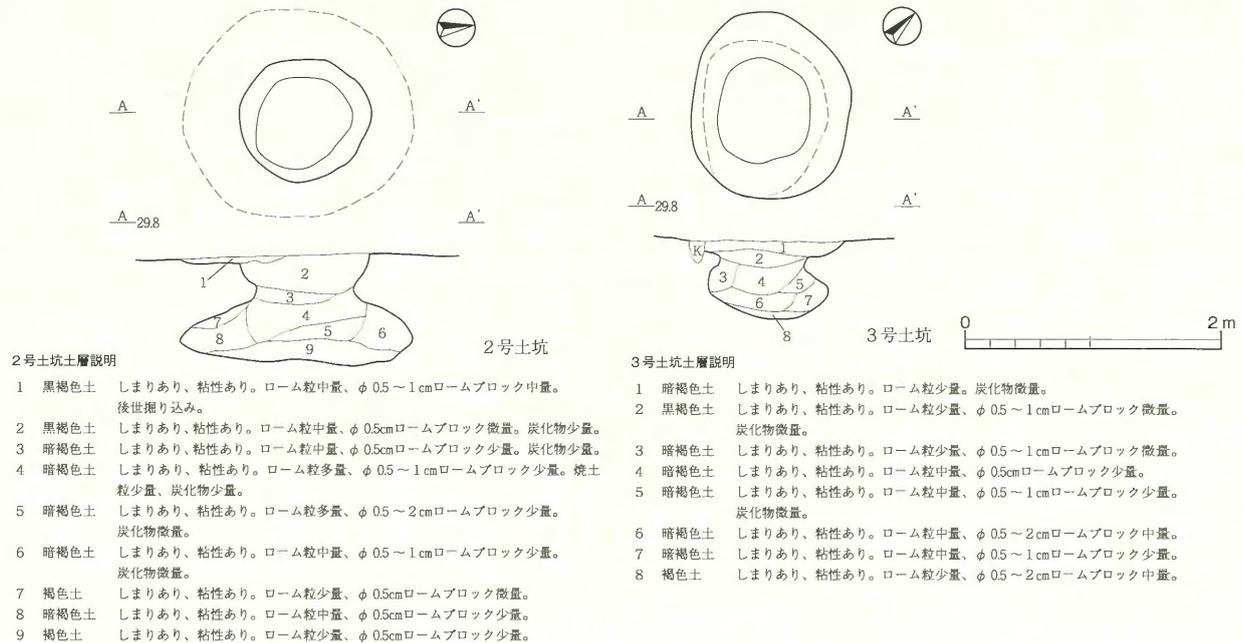
### 第3節 土坑 (第45～52図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認された土坑は27基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。確認された土坑のほとんどは縄文時代に属する土坑で、分布域に若干の差がみられる。調査区の南側～中央部にかけては袋状・フラスコ状土坑がみられ、分布状況は密ではない。調査区の北側に移ると、12号溝(堀)の西側で遺構が多く確認され、炉跡とみられる浅い土坑や検出面から底面までが1.5m以上を測る円筒形の土坑など、遺構数は増加し、分布状況は密となる。15・21・25号土坑はいずれも円筒形を呈す土坑で、15号土坑は深さが2mを超える。25号土坑は10号土坑に一部削平されていたものの、覆土中から注口土器と大量の貝が確認されたことが注目される。なお、貝の詳細は第7章にて記載する。

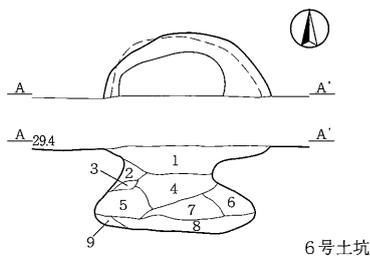
古墳時代、奈良・平安時代の土坑はほぼなく、中世の土坑が12号溝の周囲で確認されるに留まる。中でも12号溝に隣接する形で確認された11号土坑は馬が埋納された土坑で、ほぼ全身が出土している。

表 31 土坑一覽表

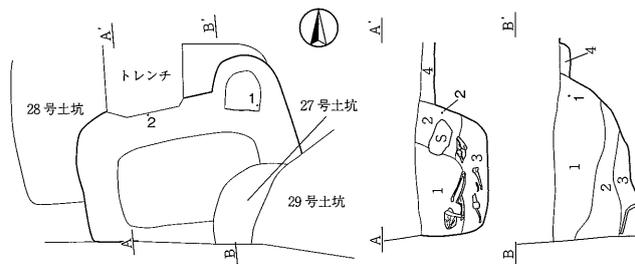
遺構名	位置 (グリッド)	軸方位	規模 (m)	深さ (m)	平面 形態	遺物	時期	備考
			長軸×短軸					
1号土坑	F 10	N - 77° - W	1.66 × 1.28	0.32	方形	縄文土器・土師器・鉄滓	古墳～奈良	2号住居跡と重複。1号土坑が新しいと判断される。
2号土坑	F 9	N - 5° - E	1.75 × 1.63	0.87	円形	縄文土器	縄文時代中期中葉	袋状土坑。
3号土坑	F 9	N - 44° - W	1.25 × 0.97	0.62	円形	縄文土器	縄文時代中期中葉	袋状土坑。
5号土坑	F 9・10	N - 84° - E	1.63 × (0.73)	0.69	不整形	縄文土器 (細片)	不明	
6号土坑	F 6・7	N - 85° - E	1.10 × (0.47)	0.69	円形	縄文土器	縄文時代中期中葉～後葉	袋状土坑。カクランによって遺構の半分は消失している。
7号土坑	E 10	N - 7° - W	1.95 × (0.85)	0.66	円形	なし	不明	
8号土坑	E 9	N - 58° - W	1.0 × 0.9	0.32	円形	縄文土器 (細片)	不明	一部焼土を確認。炉跡か？
9号土坑	B 9	N - 8° - W	2.5 × (1.6)	0.95	円形	縄文土器	縄文時代中期中葉・後期後葉	フラスコ状土坑。上層は首谷式が出土した掘り込みで、フラスコ状土坑自体は阿玉台に属する。
10号土坑	A 8	N - 8° - W	2.79 × 1.8	0.64	方形	なし	15～16世紀？	12号溝と重複。新旧関係は不明。地下式坑か？
11号土坑	A 8	N - 77° - E	1.75 × 1.18	0.68	方形	かわらけ・銅・馬骨	15～16世紀	馬埋納坑。肋骨と前足の一部を除いて、ほぼ全身が出土。頭部は頸部をねじって無理矢理土坑内に押し込んでいるような状況。また、後足も土坑内に収まらず、こちらは足がはみ出る部分のみ土坑を拡張している。
12号土坑	A 6	N - 20° - E	1.18 × 1.14	1.11	円形	縄文土器・骨・獣骨魚骨	縄文時代後期前葉	
13号土坑	A 6	N - 21° - W	1.2 × 1.11	0.42	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉・後葉	堀之内期の土坑と安行期の土坑が重複。
14号土坑	A 5	N - 66° - E	1.43 × 0.94	0.73	楕円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
15号土坑	A 5	N - 85° - E	1.2 × 1.0	2.25	円形	縄文土器	縄文時代晩期前葉	大型土坑。16号土坑と重複。15号土坑が新しい。
16号土坑	A 5	N - 68° - W	1.52 × (1.19)	0.83	不整形	縄文土器	縄文時代後期前葉	15号土坑と重複。16号土坑が古い。
18号土坑	A 6	N - 84° - W	0.96 × 0.8	0.28	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉？	
19号土坑	A 5	N - 6° - W	1.18 × 1.0	0.34	円形	縄文土器	縄文時代後期	
20号土坑	A 6	N - 40° - W	0.97 × 0.82	0.22	円形	縄文土器	縄文時代後期	
21号土坑	A 7	N - 8° - E	1.16 × 1.11	1.53	円形	縄文土器	縄文時代後期後葉～晩期前葉	大型土坑。遺物少量。
22号土坑	A 5	N - 67° - W	1.32 × 0.97	0.86	楕円	縄文土器	縄文時代後期中葉	
23号土坑	A 5	N - 84° - W	1.18 × (0.63)	0.55	(円形)	縄文土器	縄文時代後期前葉	
24号土坑	A 6	N - 8° - E	2.0 × 0.9	1.51	長楕円	縄文土器	縄文時代後期	陥し穴。別遺構 (ピット?) と重複か？
25号土坑	A 8	(不明)	(0.84) × 0.79	0.53	円形	縄文土器・注口土器貝輪・貝・獣骨・魚骨	縄文時代晩期前葉	大型土坑？貝が大量に堆積した層の直上に口縁部と注口部が欠損した注口土器が正位置で出土。貝輪は底面直上から出土。10号土坑と重複。25号土坑が古いと判断される。
26号土坑	A 8	N - 85° - E	2.22 × (1.93)	0.49	方形	なし	15後半～16世紀	29号土坑と重複。26号土坑が古いと判断される。ピット2基を確認。底面で一部被熱範囲を確認しているが、部分的である。
27号土坑	A 8	(不明)	(0.7) × (0.34)	0.16	(円形)	縄文土器・骨角器	縄文時代後期後葉～晩期前葉	11・29号土坑と重複。両土坑より古いと判断される。
28号土坑	A 8	N - 86° - E	1.98 × (1.2)	0.2	方形	なし	15～16世紀？	11号土坑と重複。11号土坑より古い。
29号土坑	A 8	N - 57° - E	1.85 × (1.8)	1.43	方形	縄文土器	15～16世紀？	地下式坑。天井部は崩落。多くの縄文土器は流れ込みである。26号土坑と重複。29号土坑が新しいと判断される。



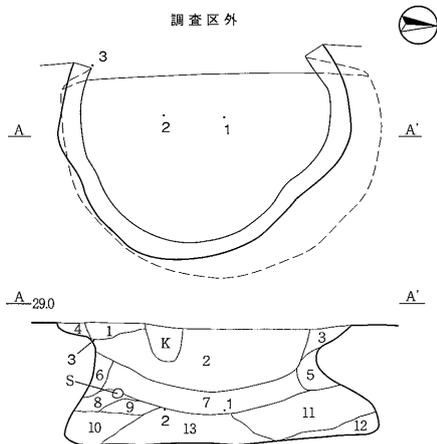
第 45 図 2・3号土坑



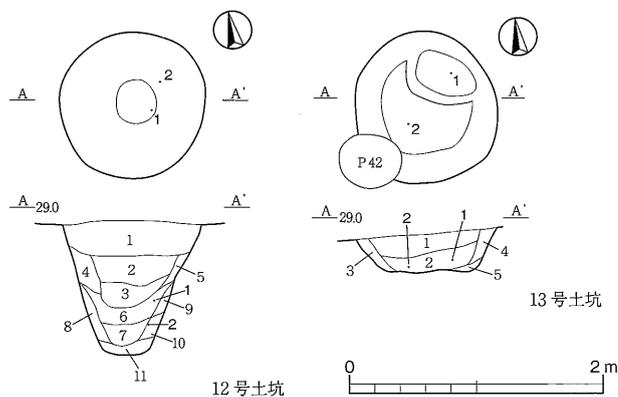
6号土坑



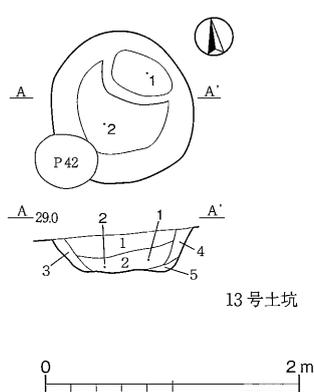
11号土坑



9号土坑



12号土坑



13号土坑

6号土坑土層説明

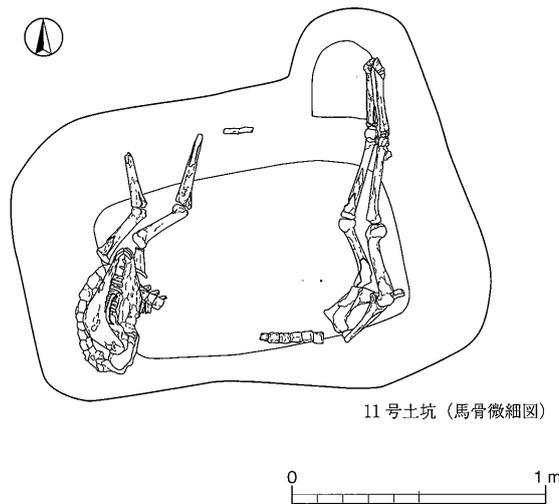
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～5cmロームブロック多量。崩落土。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒微量、炭化物少量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 8 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 9 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。焼土粒微量。

9号土坑土層説明 (1～4層曾谷、5～13層阿玉台)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。炭化物微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 9 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。
- 11 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 12 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 13 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。

11号土坑土層説明 (A・B)

- 1 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。φ 0.5～3cm白色粘土ブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。φ 0.5cm白色粘土ブロック少量。
- 3 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 4 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。φ 0.5～1cm白色粘土ブロック量。



11号土坑 (馬骨微細図)

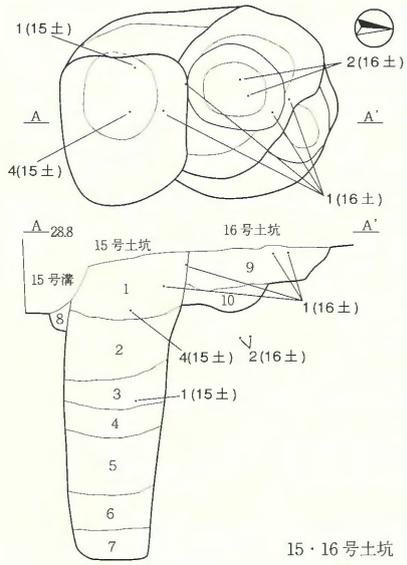
12号土坑土層説明

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。獣骨混入。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。獣骨・貝混入。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、0.5cmロームブロック微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。貝混入。
- 7 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 8 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 9 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。貝混入。
- 10 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。獣骨混入。

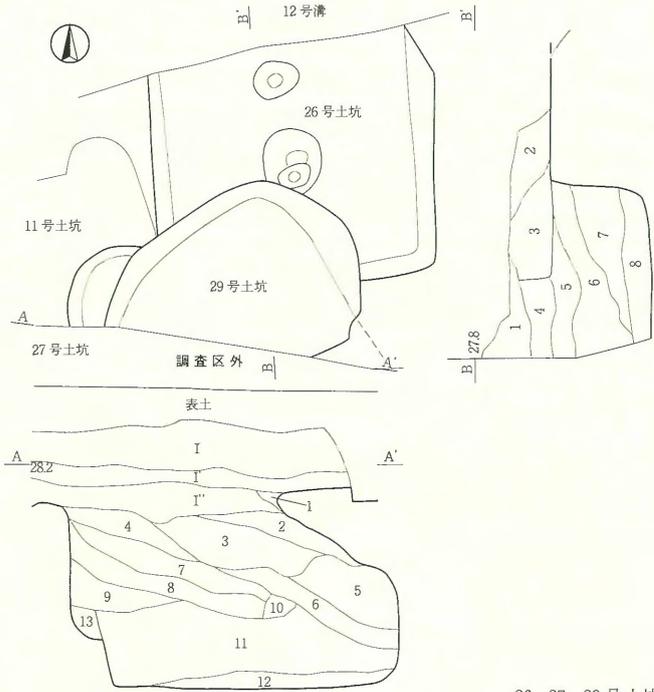
13号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。

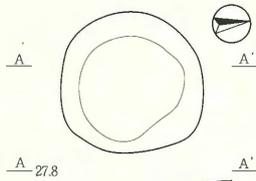
第46図 6・9・11～13号土坑



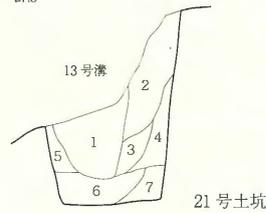
15・16号土坑



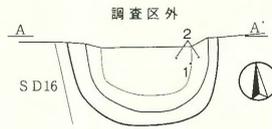
26・27・29号土坑



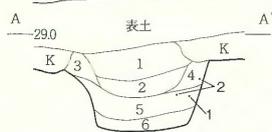
27.8



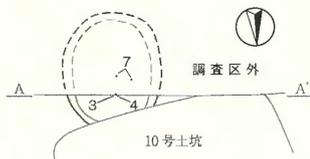
21号土坑



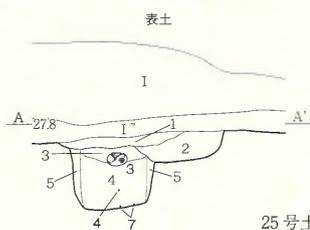
23号土坑



24号土坑



10号土坑



25号土坑

15・16号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 4 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 5 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 6 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。焼土粒少量、炭化物微量。崩れたような焼土ブロック（赤褐色土）混入。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。壁崩落土？
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 10 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。

21号土坑土層説明

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 4 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 5 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 6 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 7 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック中量。炭化物微量。

23号土坑土層説明（1～4層後世掘り込みか？）

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。炭化物微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、焼土粒微量、炭化物微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。φ 0.5～2cm礫少量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。

24号土坑土層説明（1～4層別ビットとみられる）

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。



第47図 15・16・21・23～27・29号土坑

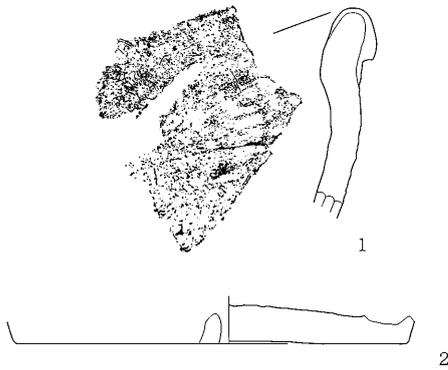
25号土坑土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 3 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。  
炭化物微量。注口土器（正位置）出土。
- 4 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。  
炭化物微量。貝大量。
- 5 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。  
炭化物微量。

26・27・29号土坑土層説明（B）

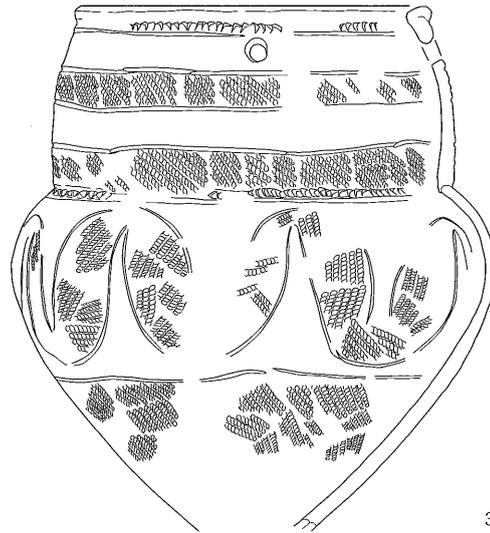
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～3cmロームブロック中量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。  
26号土坑覆土。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。  
26号土坑覆土。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～7cmロームブロック多量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～15cmロームブロック大量。  
天井崩落土。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～4cmロームブロック多量。

9号土坑

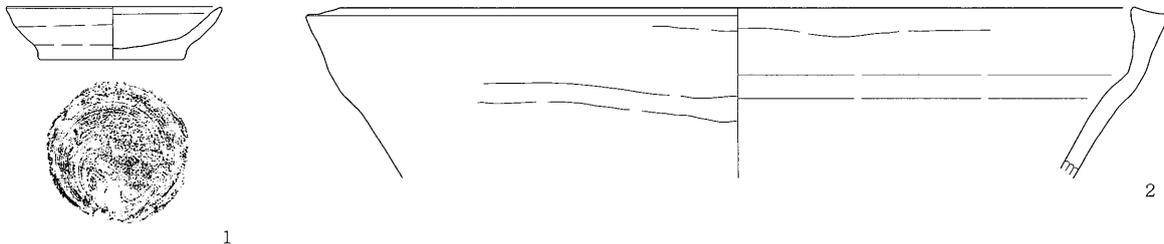


26・27・29号土坑土層説明（A）

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック大量。崩落土。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～15cmロームブロック多量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～5cmロームブロック少量。  
焼土粒微量。
- 8 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック少量。
- 9 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～10cmロームブロック多量。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5～15cmロームブロック大量。  
天井崩落土。
- 12 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～4cmロームブロック多量。
- 13 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。  
27号土坑覆土。



11号土坑

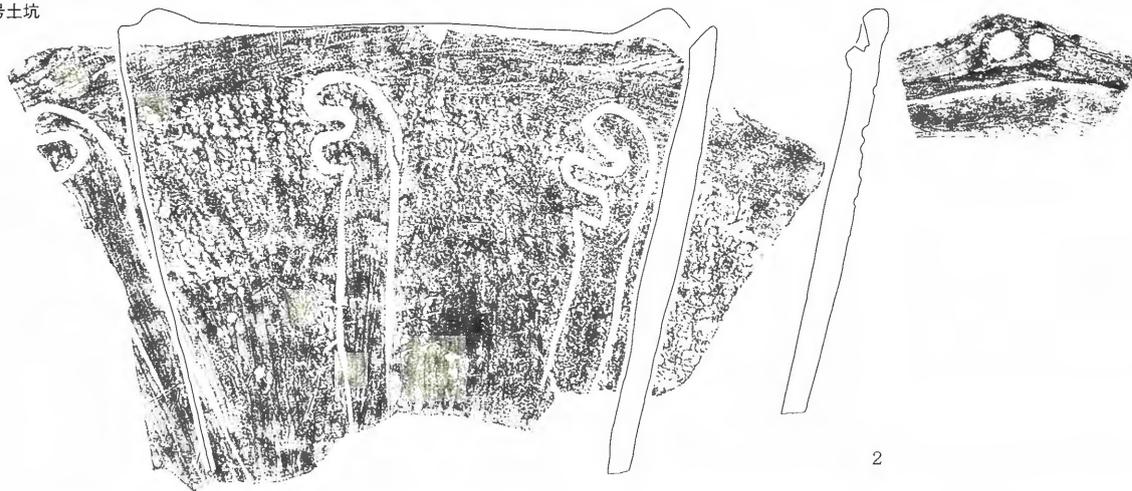


12号土坑

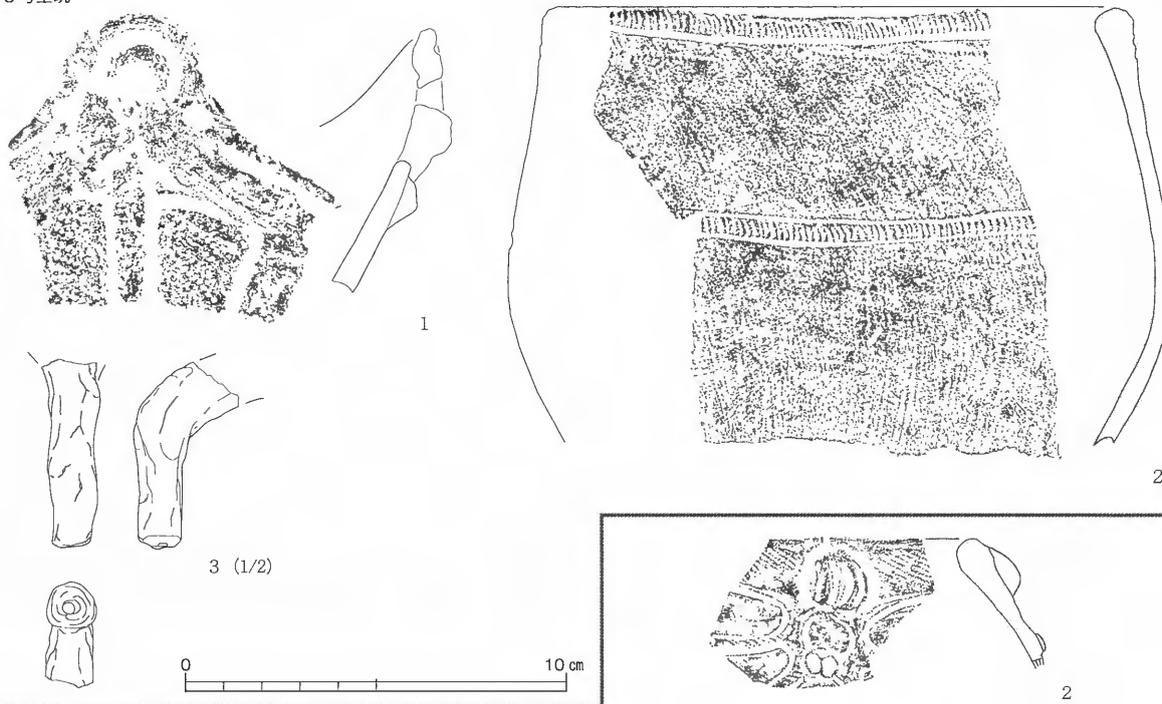


第48図 9・11・12号土坑出土遺物

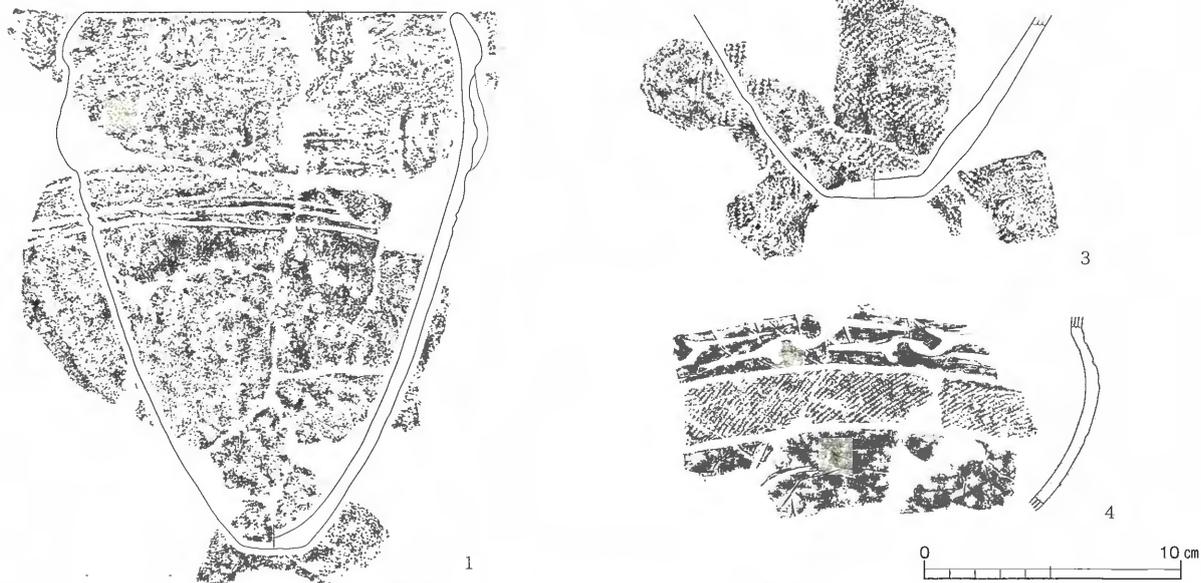
12号土坑



13号土坑

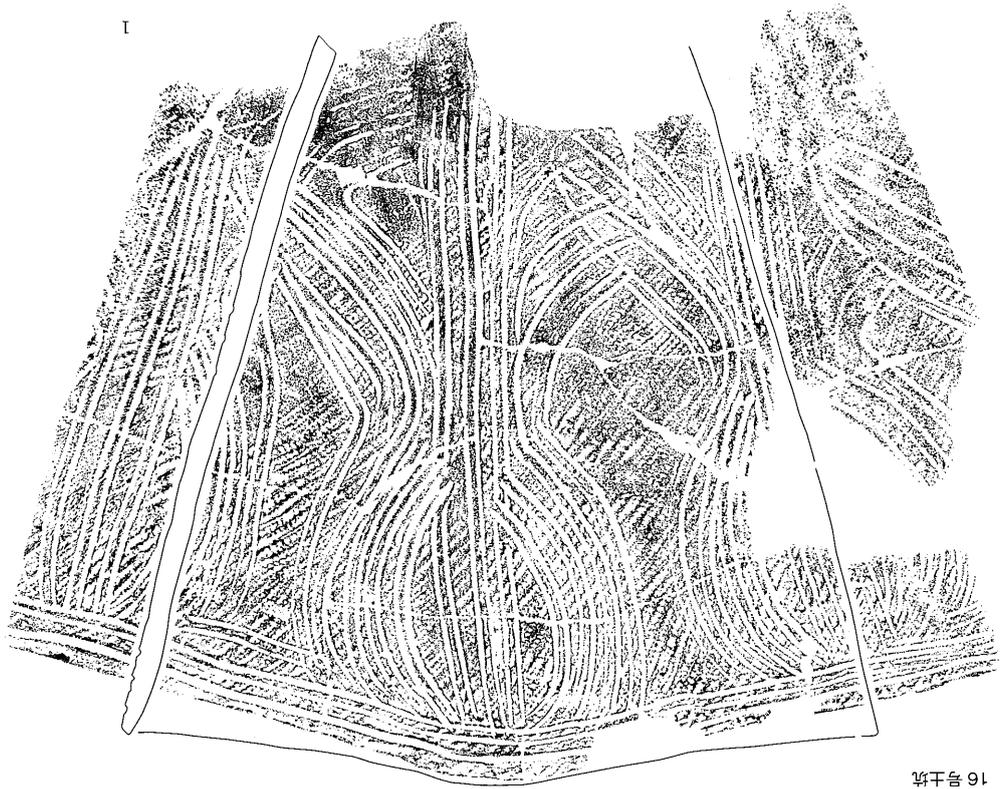
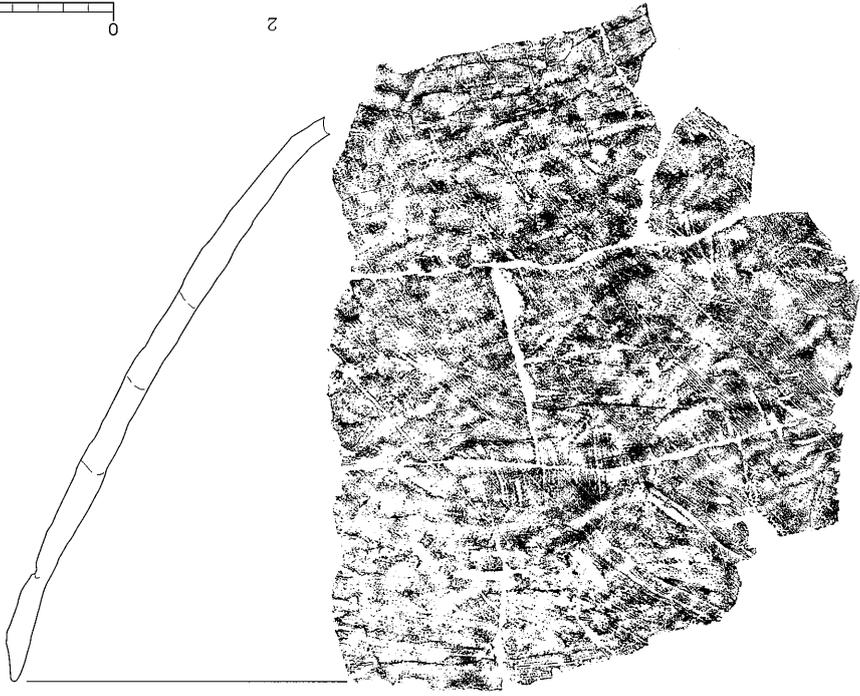


15号土坑

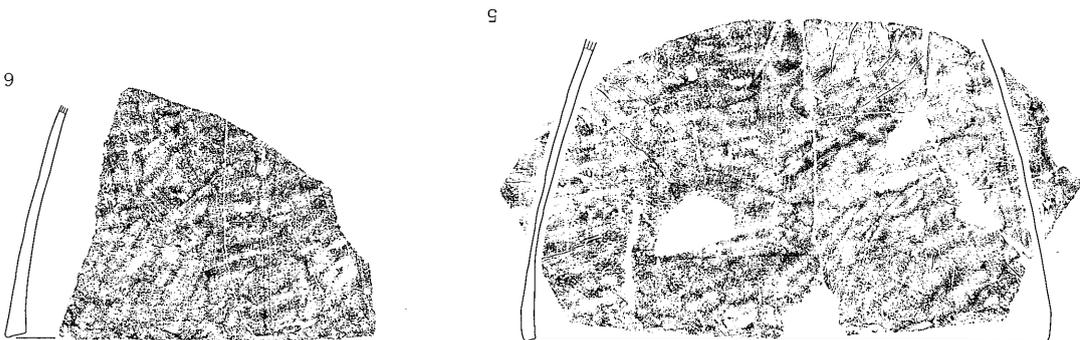


第49图 12·13·15号土坑出土遺物

第50图 15·16号土坑出土遺物



16号土坑

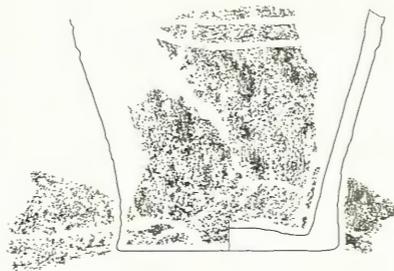
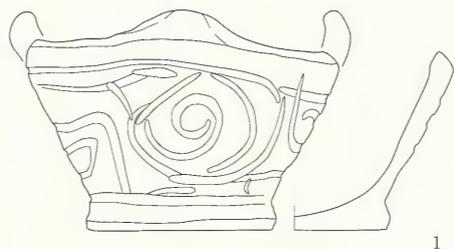


15号土坑

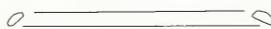
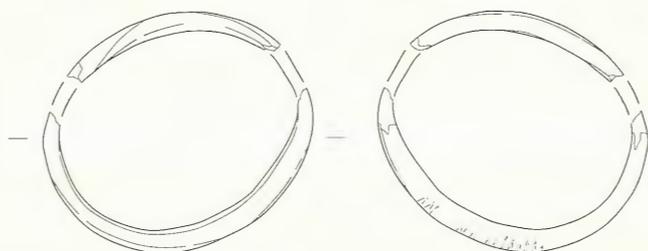
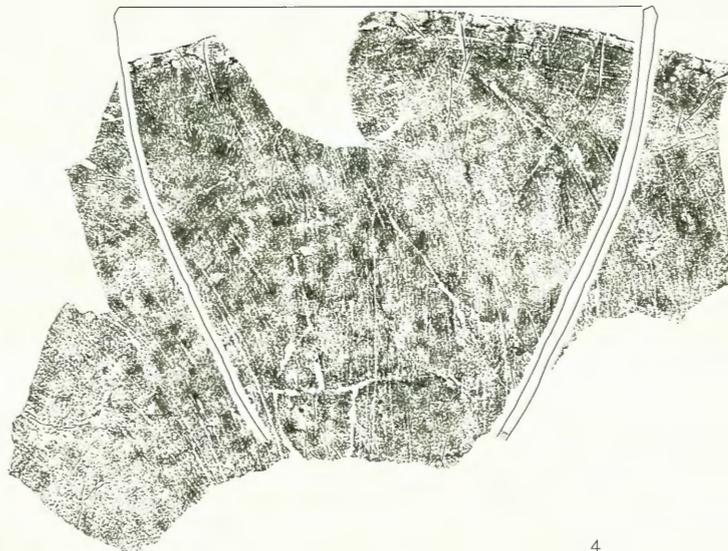
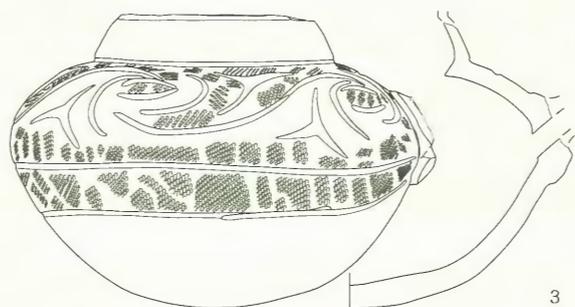
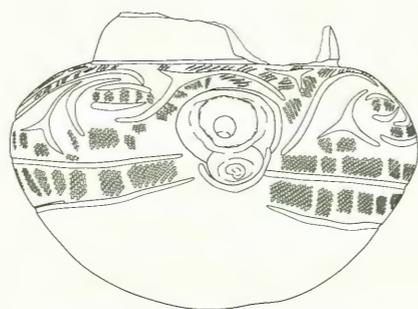
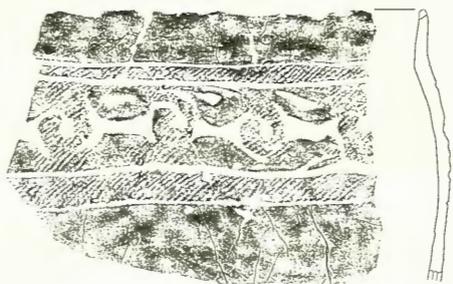
9

5

23号土坑



25号土坑

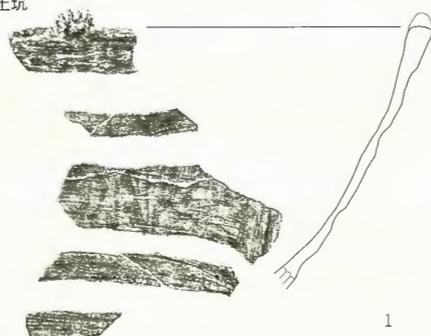


26号土坑



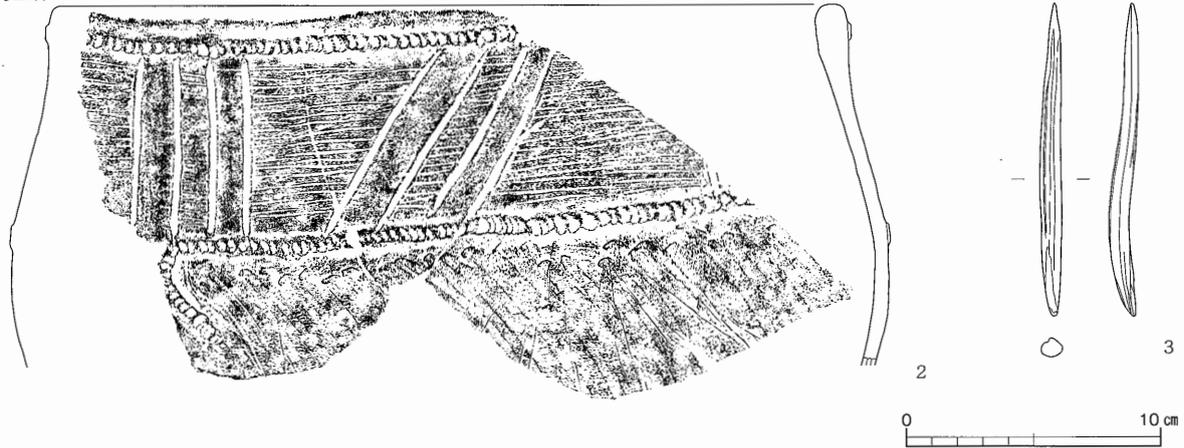
1

27号土坑



1

第51图 23·25~27号土坑出土遗物



第52図 27号土坑出土遺物

表32 9号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<8.4>	—	石英・長石・白雲母・金雲母	10YR3/3 暗褐	やや良	外面：口縁部に隆帯貼付。 内面：ミガキ。	阿玉台IV
2	縄文土器	深鉢	—	<15>	15.4	石英・長石・白雲母・金雲母	10YR4/2 灰黄褐	良	外面：文様帯を区画するための沈線を施す。 内面：ナデ	阿玉台IV
3	縄文土器	瓢型土器	(14.0)	<20.9>	—	石英・長石・白雲母	7.5YR3/2 黒褐	良	外面：口縁部穿孔。体部にR L単節縄文を使用した互連弧充填縄文を施す。口縁部と頸部には刺突表現が巡る。 内面：ミガキ。	曾谷

表33 11号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師質土器	かわらけ	8.5	2.1	5.7	金雲母・白色粒・赤色粒	外：5YR6/8 橙 内：7.5YR7/6 橙	良	外面：ロクロ整形。底部回転糸切り。 内面：ロクロ整形。	
2	土師質土器	鍋	(34.0)	<6.8>	—	白色粒・赤色粒	5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部スス付着。 内面：口縁部ヨコナデ。	

表34 12号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<20.0>	—	石英・長石・白雲母・白色粒	外：5YR4/4 におい赤褐 内：7.5YR4/2 灰褐	良	外面：R L単節縄文を施文。体部下半ケズリ。 内面：粗いナデ。	称名寺2
2	縄文土器	深鉢	(23.6)	<18.3>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒	10YR6/3 におい黄橙	良	外面：F字形の巖手状文を施す。 内面：ミガキ。口縁部に3対あるとみられる突起の内側には刺突表現が施される。	網取1

表35 13号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<5.5>	—	石英・長石・白雲母	外：7.5YR3/1 黒褐 内：10YR5/6 明赤褐	良	外面：沈線によって文様帯を区画、R L単節縄文を施文。口縁部に隆帯を貼付、円形の刺突表現と穿孔を施す。 内面：ミガキ。	堀之内
2	縄文土器	深鉢	(22.0)	<17.3>	—	石英・長石・白雲母・黒雲母	外：7.5YR5/6 明褐 内：7.5YR5/4 におい褐	良	外面：浅い斜位の条線を施し、口縁部と体部に刺突表現を巡らす。 内面：ミガキ。	安行

No.	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
3	土製品	不明	<5.0>	1.2	1.6	11.87	粘土を棒状にして折り曲げる。動物あるいは土偶の手か？先端に穿孔あり。石英・石色粒を含む。	

表36 15号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	(14.6)	21.4	2.6	石英・白雲母・白色粒	外：10YR4/1 褐灰 内：10YR6/4 におい黄橙	やや良	外面：粘土瘤が隆帯でつながる。体部に横位の条線が残るも、全体的に器面摩滅。 内面：器面摩滅。	安行3b
2	縄文土器	深鉢	—	<5.2>	—	石英・海綿骨針・白雲母	10YR6/4 におい黄橙	良	外面：口縁部に粘土瘤を貼付、隆帯と隆帯に沿う形で沈線を施し文様帯を区画。豚鼻状貼付文。 内面：ナデ。	大洞b2

3	縄文土器	深鉢	—	<7.3>	3.8	石英・白雲母	外：10YR5/3 ぶい黄褐 内：7.5YR6/6 橙	良	外面：体部下部までLR単節縄文を施文。 内面：ナデ。	大洞
4	縄文土器	注口土器	—	<7.7>	—	石英・白雲母	2.5Y4/1 黄灰	良	外面：沈線により文様帯を区画。上部は玉抱三叉文、下部はLR単節縄文を施文。 内面：ミガキ。	大洞 b 2
5	縄文土器	製塩土器	(20.5)	<12.0>	—	石英・長石・白雲母	7.5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ケズリ調整。体部ケズリ。 内面：ナデ。	安行 3b
6	縄文土器	製塩土器	—	<9.3>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/4 ぶい黄橙	良	外面：口縁部ケズリ調整。体部ケズリ。 内面：ナデ。	安行 3b

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
7	土製品	円盤	4.2	4.2	0.7	15.01	石英・角閃石を含む。	
8	土製品	円盤	5.4	6.3	1.0	40.01	口縁部片を利用。石英・白色粒を含む。	未製品。

表 37 16号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	29.5	<29.8>	—	石英・白雲母・白色粒	外：10YR4/2 灰黄褐 内：10G6/6 明黄褐	良	外面：口縁部に3条の沈線を巡らす。体部にはLR単節縄文を地文とし、懸垂文を施す。 内面：ミガキ。	堀之内 1
2	縄文土器	深鉢	—	<22.5>	—	石英・角閃石・金雲母・白色粒・赤色粒	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR4/2 灰黄褐	やや良	外面：細い櫛歯状工具による斜位の条線が施される。 内面：ケズリ後、粗いミガキ。	堀之内 1

表 38 23号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	11.2	8.8	7.0	石英・白雲母・白色粒・赤色粒	外：10YR7/4 ぶい黄橙 内：10YR6/2 灰黄橙	良	外面：沈線による渦巻文を施す。 内面：ミガキ。	
2	縄文土器	深鉢	—	9.2	8.8	石英・白雲母・白色粒	外：7.5YR6/6 橙 内：10YR4/2 灰黄褐	やや良	外面：ミガキ。横位の沈線2条残存。 内面：ミガキ。	

表 39 25号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<10.8>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒	5Y2/1 黒	良	外面：沈線により文様帯を区画。沈線内にはLR単節縄文と玉抱三叉文を施す。 内面：粗いミガキ。	安行 3a
2	縄文土器	深鉢	—	<2.5>	(9.0)	石英・長石・角閃石・白色粒	5Y2/1 黒	良	外面：ミガキ。底部網代痕。 内面：ミガキ。	安行 3a
3	縄文土器	注口土器	—	<11.7>	—	白雲母・海綿骨針・白色粒	2.5Y2/1 黒	良	外面：体部上半は三叉文・弧線文・磨り消し縄文 (LR単節) を施す。下半は2条の平行沈線が巡る。 内面：ナデ。	安行 3a
4	縄文土器	製塩土器	(21.1)	<17.2>	—	石英・チャート・白色粒	外：5YR5/6 明赤褐 内：5YR6/8 橙	良	外面：口縁部ケズリ。体部ケズリ。 内面：ナデ。	安行 3a
5	縄文土器	手捏土器	(3.0)	2.2	1.1	石英・白雲母	7.5YR6/6 橙	良	外面：指頭痕。 内面：指頭痕。爪痕。	

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
6	土製品	耳飾り	直径 1.3	孔径 0.1	0.8	1.24	ナデによる整形。鼓形。石英・白雲母を含む。	
7	貝製品	貝輪	7.1	(6.4)	0.4	5.36	風化が著しい。ペンケイガイを使用か？	

表 40 26号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	注口土器	—	<4.2>	—	石英・白雲母・白色粒・赤色粒	7.5YR3/1 黒褐	良	外面：ミガキ。4条の条線を施す。	流れ込み

表 41 27号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<10.4>	—	石英・白雲母・白色粒	7.5YR6/6 橙	やや良	外面：口縁部に粘土瘤貼付。太い沈線を施す。 内面：ナデ。	安行
2	縄文土器	深鉢	(30.6)	<14.4>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒	外：5YR5/4 ぶい赤褐 内：5YR5/6 明赤褐	やや良	外面：口縁部と体部に紐線貼付後、体部上半は横位条線を施文し、縦位と斜位の条線を4条施文。縦位・斜位条線内の横位状態は磨消される。下半は浅い斜位条線を施す。 内面：ケズリ後、ナデ。	安行

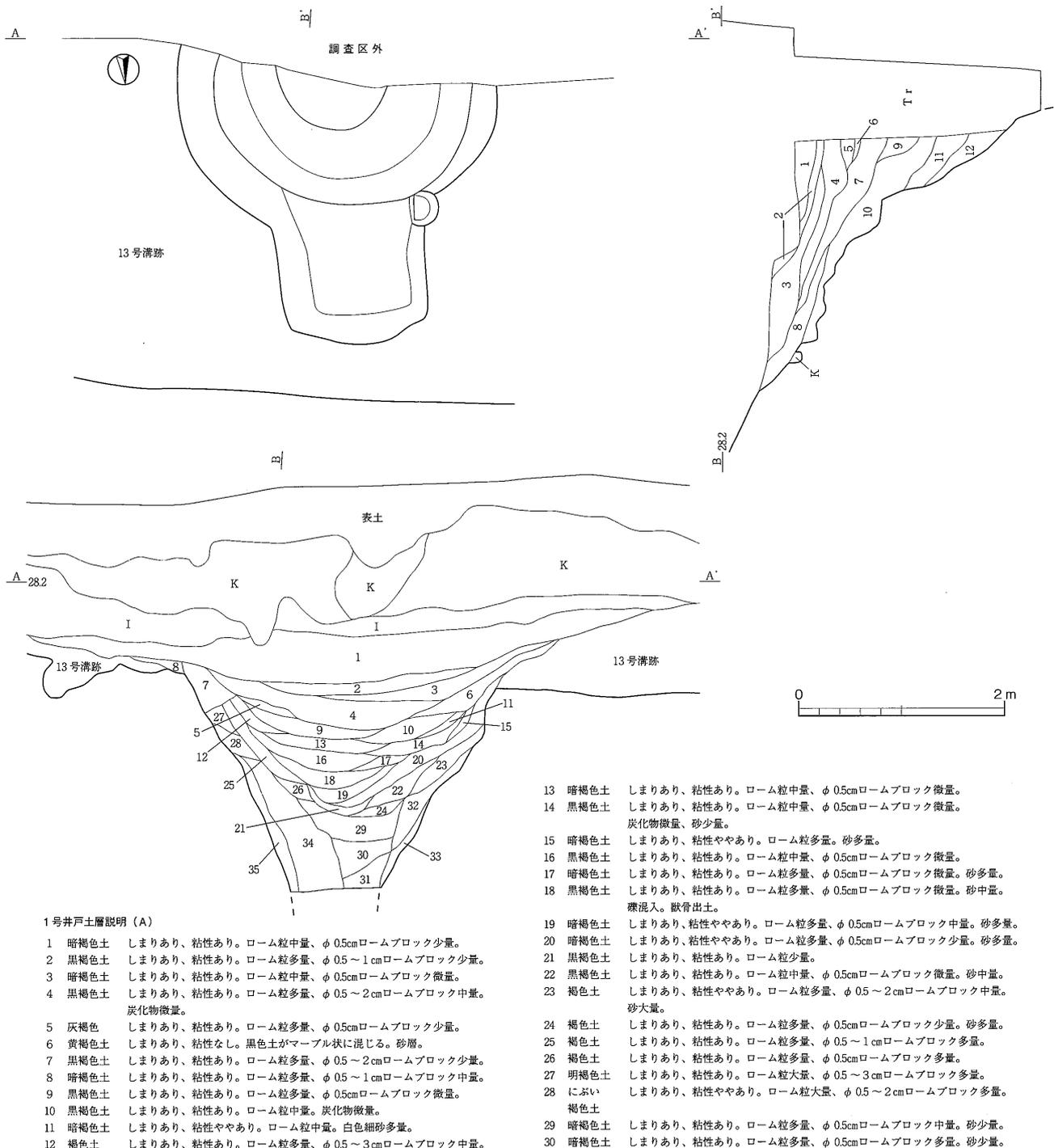
  

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
3	骨角器	ヤス	12.4	0.9	0.8	8.56	鹿骨を使用。被熱により曲がっている。	

#### 第4節 井戸 (第53・54図)

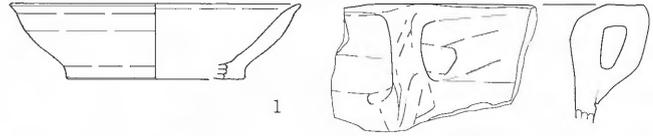
井戸跡は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の北側、13号溝跡と重複する形で確認された。調査区幅の制約から全体像を窺い知ることは出来なかったが、推定直径3.1mの円形を呈するとみられ、北側には方形形状の平場を有している。掘削を行ったが、底面を確認することができず、検出面から約3.5m掘り下げたところで安全面を考慮し掘削を停止した。

調査区の壁面にて確認した土層から13号溝跡より新しいと判明。13号溝跡の覆土には井戸跡を掘削した時の粘土ブロックや砂が大量に混入していた。出土遺物はかわらけ・鍋・陶磁器が確認されており、15世紀後半～16世紀に属するものと思われる。また、流れ込みであるが、残存状態が良好な石製品が確認できたので掲載する。



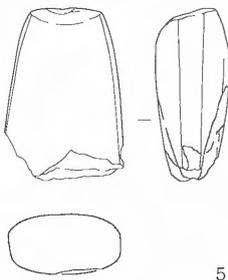
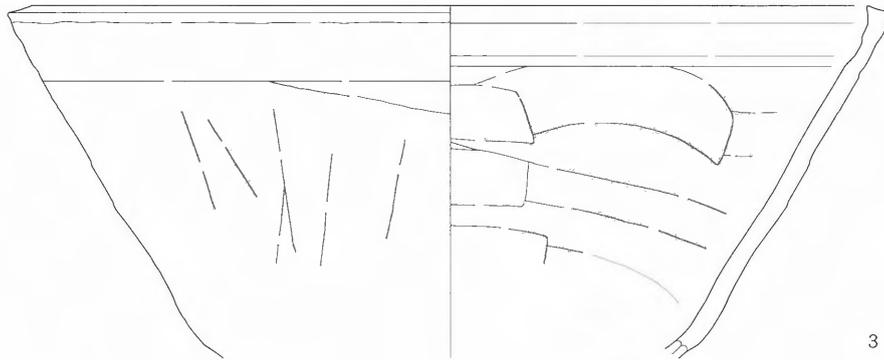
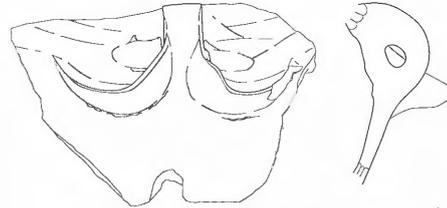
第53図 1号井戸跡

- 31 褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。砂中量。
- 32 明褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。砂多量。
- 33 にぶい しまりややあり、粘性なし。砂層。
- 黄褐色土
- 34 褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。砂多量

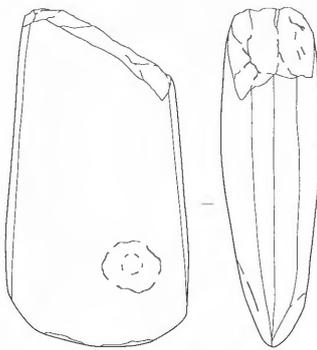


1号井戸土層説明 (B)

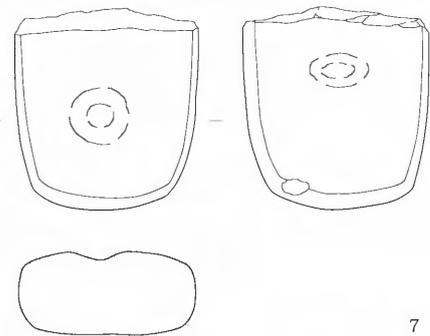
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。炭化物微量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 10 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。砂少量。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。砂多量。
- 12 にぶい しまりややあり、粘性。砂層。
- 黄褐色土



5



6



7



第54図 1号井戸跡出土遺物

表 42 1号井戸跡出土遺物観察表

№	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師質土器	かわらけ	(11.4)	3.0	(7.0)	白色粒・赤色粒	7.5YR7/6 橙	良	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。	
2	土師質土器	鍋	—	<4.7>	—	石英・白雲母	外：10YR3/1 黒褐 内：7.5YR6/6 橙	良	外面：ナデ。スス附着。 内面：ナデ。	
3	土師質土器	鍋	(33.1)	<14.0>	—	石英・白雲母・赤色粒	外：7.5YR4/1 褐灰 内：5YR5/6 明褐	良	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 スス附着。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
4	土師質土器	茶釜	—	<7.2>	—	石英・白雲母	5YR4/4 にぶい赤褐色	良	外面：ナデ。 内面：ナデ。	

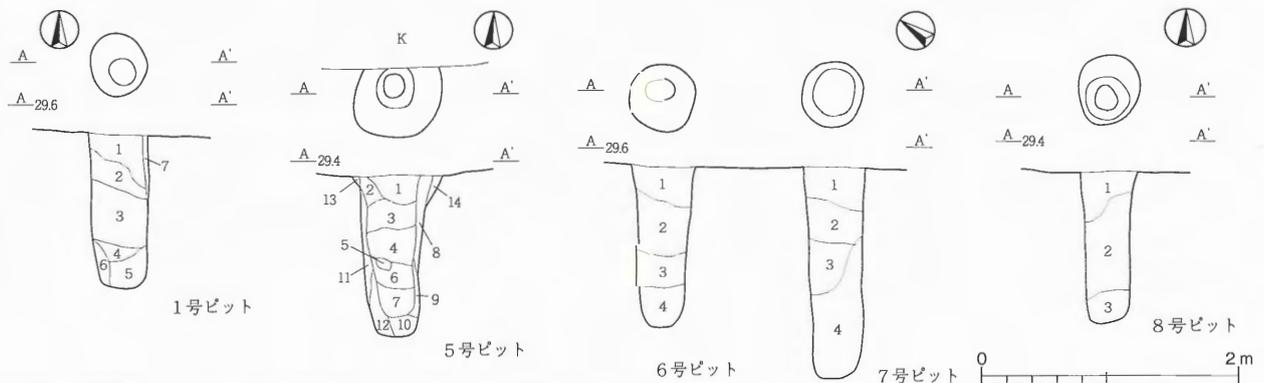
№	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
5	石製品	磨製石斧	<6.8>	4.7	2.9	135	先端部欠損。砂岩。	流れ込み。
6	石製品	磨製石斧	<13.3>	7.1	3.9	630	基部欠損。緑色凝灰岩。	流れ込み。
7	石製品	磨石	<8.0>	7.2	3.3	330	表・裏・側面磨痕。表・裏面に敲打痕。安山岩。	流れ込み。



確な帰属時期は不明であるが、調査区の南側に位置しているピットは概ね縄文時代中期中葉～後期後葉に比定出来るとみられる。調査区北西部に位置しているピットは比較的浅く、32～42号ピットが密集しているが、こちらも建物跡として組めるものはない。P 35・36から遺物が出土しており、概ね縄文時代後期中葉～晩期前葉に比定出来るとみられる。

表 43 ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	備考	遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	備考
		長軸×短軸	長軸×短軸										
1号ピット	F 10	0.5 × 0.44	1.17	円形		22号ピット	E 9	0.45 × 0.45	1.18	円形	底面一部硬化。		
3号ピット	F 9	0.51 × (0.1)	0.31	円形	4号ピットと重複。	23号ピット	E 9	0.71 × 0.62	1.6	円形	底面一部硬化。		
4号ピット	F 9	0.46 × (0.37)	0.54	円形	3号ピットと重複。	24号ピット	F 10	0.78 × 0.64	1.27	円形	底面一部硬化。		
5号ピット	F 7	0.66 × (0.34)	1.32	円形	底面一部硬化。	27号ピット	E 9	0.38 × 0.36	0.33	円形			
6号ピット	F 10	0.55 × 0.53	1.31	円形		29号ピット	E 9	0.32 × 0.29	0.6	円形			
7号ピット	F 10	0.5 × 0.48	1.67	円形		30号ピット	C 9	0.85 × 0.7	0.79	円形			
8号ピット	F 10	0.55 × 0.49	1.25	円形	底面一部硬化。	31号ピット	B 9	0.82 × 0.75	1.15	方形			
9号ピット	F 7	0.44 × 0.37	0.4	円形		33号ピット	A 6	0.55 × 0.5	0.53	円形			
10号ピット	F 6	0.52 × 0.45	1.44	円形	底面一部硬化。	34号ピット	A 6	0.6 × 0.55	0.96	円形			
11号ピット	F 5		0.66	円形		35号ピット	A 6	0.62 × 0.58	0.74	円形			
12号ピット	F 5	0.56 × 0.55	0.61	円形		36号ピット	A 6	0.47 × 0.44	0.34	円形			
16号ピット	F 5	0.5 × 0.47	0.65	円形		37号ピット	A 6	0.42 × 0.38	0.35	円形			
17号ピット	F 5	0.5 × (0.38)	0.61	円形		39号ピット	A 6	0.57 × 0.55	0.51	円形			
18号ピット	F 6	0.5 × (0.27)	0.58	(円形)		40号ピット	A 6	0.49 × 0.47	0.66	円形			
19号ピット	F 5	0.48 × (0.42)	0.56	楕円形		41号ピット	A 6	0.48 × 0.41	0.51	円形			
20号ピット	E 9	0.5 × 0.48	1.87	円形	底面一部硬化。	42号ピット	A 6	0.5 × 0.43	0.5	円形	13号土坑と重複。		
21号ピット	E 9	0.52 × 0.48	1.42	円形	底面一部硬化。	43号ピット	A 7	0.58 × 0.49	1.12	円形	13号溝と重複。		



1号ピット土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。焼土粒微量、炭化物微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。

5号ピット土層説明

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、炭化物微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。焼土粒微量、炭化物少量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒微量、炭化物少量。
- 5 灰白土 しまり強い、粘性高い。白色粘土ブロック。細砂混入。
- 6 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 7 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。炭化物微量。

- 9 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。炭化物少量。
- 10 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック大量。
- 11 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 12 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 13 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 14 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。炭化物微量。

6号ピット土層説明

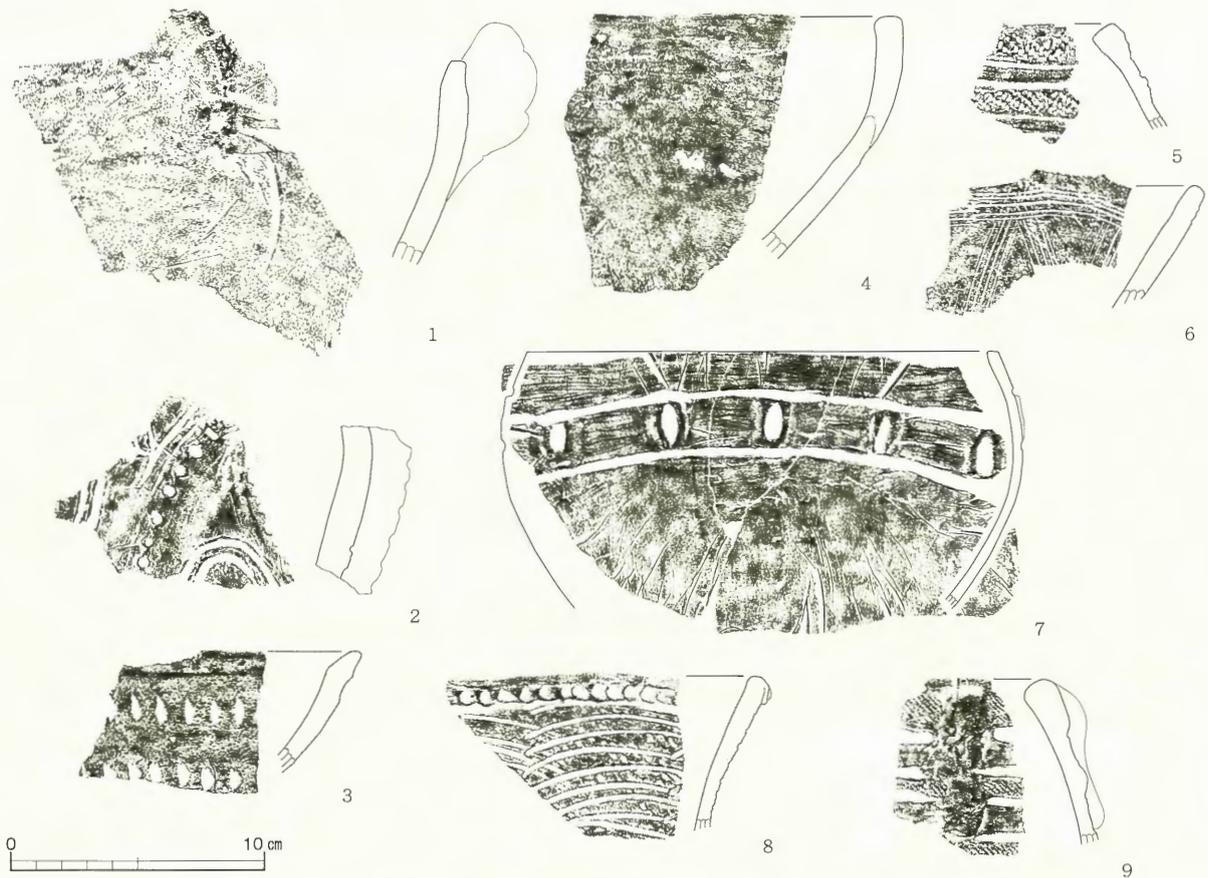
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック多量。

7号ピット土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～3cmロームブロック多量。炭化物微量。

第 56 図 1・5～8号ピット





第59図 ピット出土遺物

表44 ピット出土遺物観察表

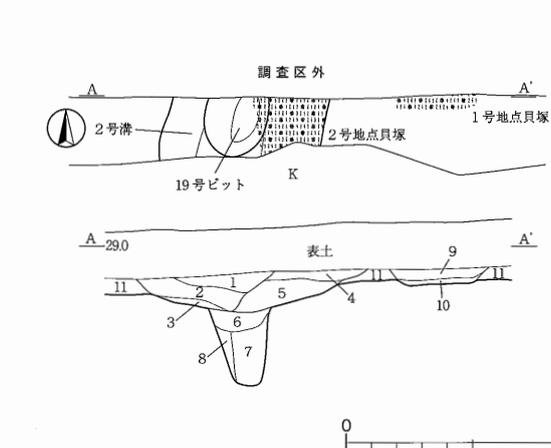
No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<9.6>	—	石英・長石・白雲母	外: 10YR3/2 黒褐 内: 2.5Y3/1 黒褐	やや良	外面: 口縁部に3個の粘土帯を貼付、突起を表現。 内面: ナデ。	阿玉台 P 5 出土
2	縄文土器	深鉢	—	<6.7>	—	石英・長石・白雲母	7.5YR6/4 におい橙	良	外面: 口縁部の把手。隆帯を貼付、周囲に沈線を施す。 内面: ナデ。	阿玉台 P 5 出土
3	縄文土器	鉢	—	<4.8>	—	石英・長石・白雲母	外: 10YR5/4 におい黄褐 内: 7.5YR5/4 におい褐	良	外面: ナデ整形後、角押文を施す。 内面: ナデ。	阿玉台 P 5 出土
4	縄文土器	鉢	—	<9.6>	—	石英・チャート・白雲母・金雲母	7.5YR6/6 橙	やや良	外面: ミガキ。輪積み痕。 内面: ミガキ。輪積み痕。	阿玉台 P 17 出土
5	縄文土器	瓢型土器?	—	<4.2>	—	石英・白雲母・赤色粒	7.5YR3/1 黒褐	良	外面: 平行沈線を施し、文様帯を区画。R L 単節縄文を施文。 内面: ナデ。	後期後葉 P 20 出土
6	縄文土器	深鉢	—	<4.9>	—	石英・白雲母・白色粒	外: 5YR5/4 におい赤褐 内: 5Y2/1 黒	良	外面: 櫛歯状工具による斜位条線後、口縁部に横位条線を施す。 内面: ミガキ。	堀之内 P 33 出土
7	縄文土器	鉢	—	<10.3>	—	石英・白雲母・海綿骨針	10YR7/4 におい黄褐	良	外面: 2条の平行沈線を施文後、粘土瘤を貼付。 内面: 丁寧なミガキ。	安行 P 35 出土
8	縄文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・海綿骨針・白色粒	10YR5/4 におい黄褐	良	外面: 横位条線を施文後、口縁部に粗線文を貼付。 内面: ミガキ。	安行 P 35 出土
9	縄文土器	深鉢	—	<6.6>	—	石英・白雲母・海綿骨針	外: 5YR5/6 明赤褐 内: 7.5YR5/4 におい褐	良	外面: 粘土瘤、隆帯貼付後、沈線を施して文様帯を区画。R L 単節縄文を施文。 内面: ナデ。	安行 P 36 出土

## 第7節 地点貝塚 (第60図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区では、調査区の南西部で2ヶ所の地点貝塚を確認している。確認された地点貝塚は小規模なもので、試掘調査によって判明していた畑地帯の地点貝塚の一部であるとみられる。土層観察の結果、浅い窪地に貝が投棄されて貝塚が形成されたものと考えられる。出土した貝はヤマトシジミを主体としており、貝製品も確認されたが、貝塚の大部分は攪乱によって消滅している。

表 45 地点貝塚一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	貝層の厚積 (cm)	平面 形状	遺物	時期	備考
1号地点貝塚	F 5	0.55 × 0.37	0.12	不整形	縄文土器・骨・貝	縄文時代後期	
2号地点貝塚	F 5	0.54 × 0.12	0.24	不整形	縄文土器・骨・貝・ 鹿角・貝輪	縄文時代後期	2号溝と重複。2号溝が新しい。

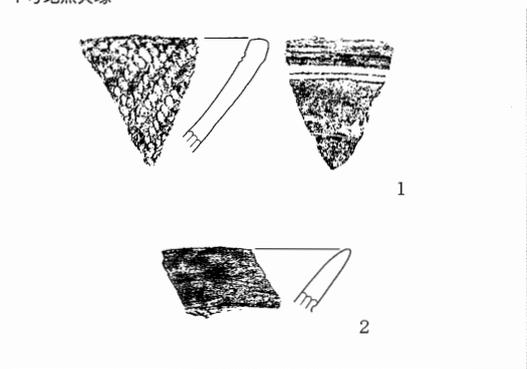


地点貝塚土層説明

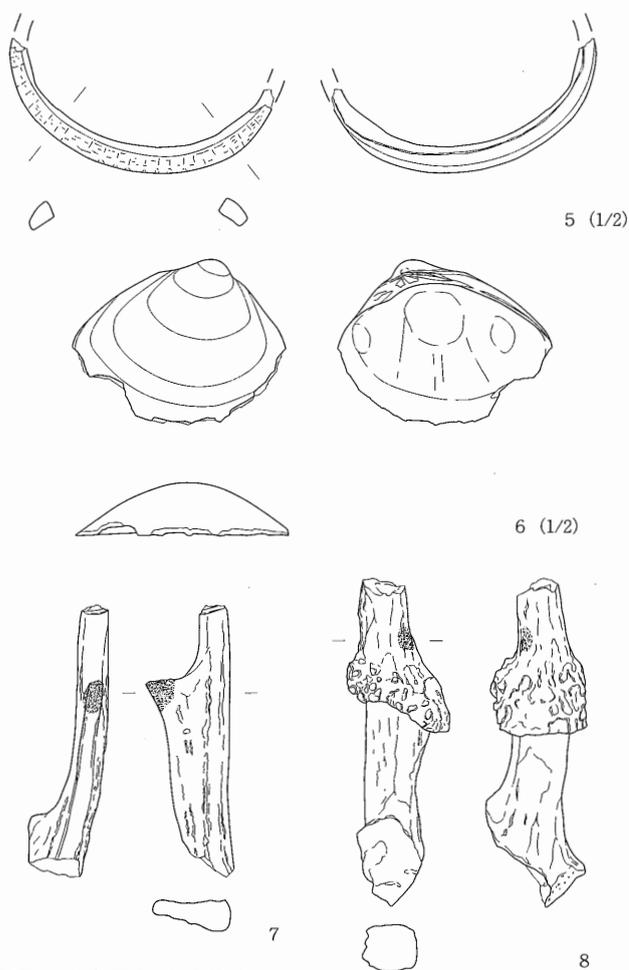
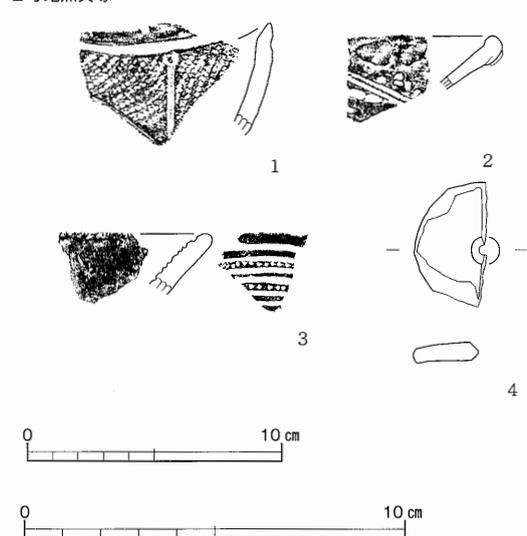
(1～3層：2号溝、4・5層：2号地点貝塚、6～8層：19号ピット、9・10層：1号地点貝塚)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒少量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒少量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。焼土粒微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。焼土粒微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。貝大量（ヤマトシジミ他、鹿角、貝輪出土）。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。貝大量（ヤマトシジミ他）。
- 10 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。貝少量。
- 11 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5～2cmロームブロック少量。漸移層とみられる。

1号地点貝塚



2号地点貝塚



第 60 図 地点貝塚・地点貝塚出土遺物

表 46 1号地点貝塚出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	浅鉢	—	<4.3>	—	石英・白雲母	10YR6/4 におい黄褐	良	外面：L R 単節縄文を施文。 内面：2条の平行沈線を施す。	堀之内 2 ～加曾利 B 1
2	縄文土器	深鉢	—	<2.5>	—	石英・白雲母	10YR2/1 黒	良	外面：ミガキ。沈線残存。 内面：ミガキ。	堀之内 2 ～加曾利 B 1

表 47 2号地点貝塚出土遺物観察表

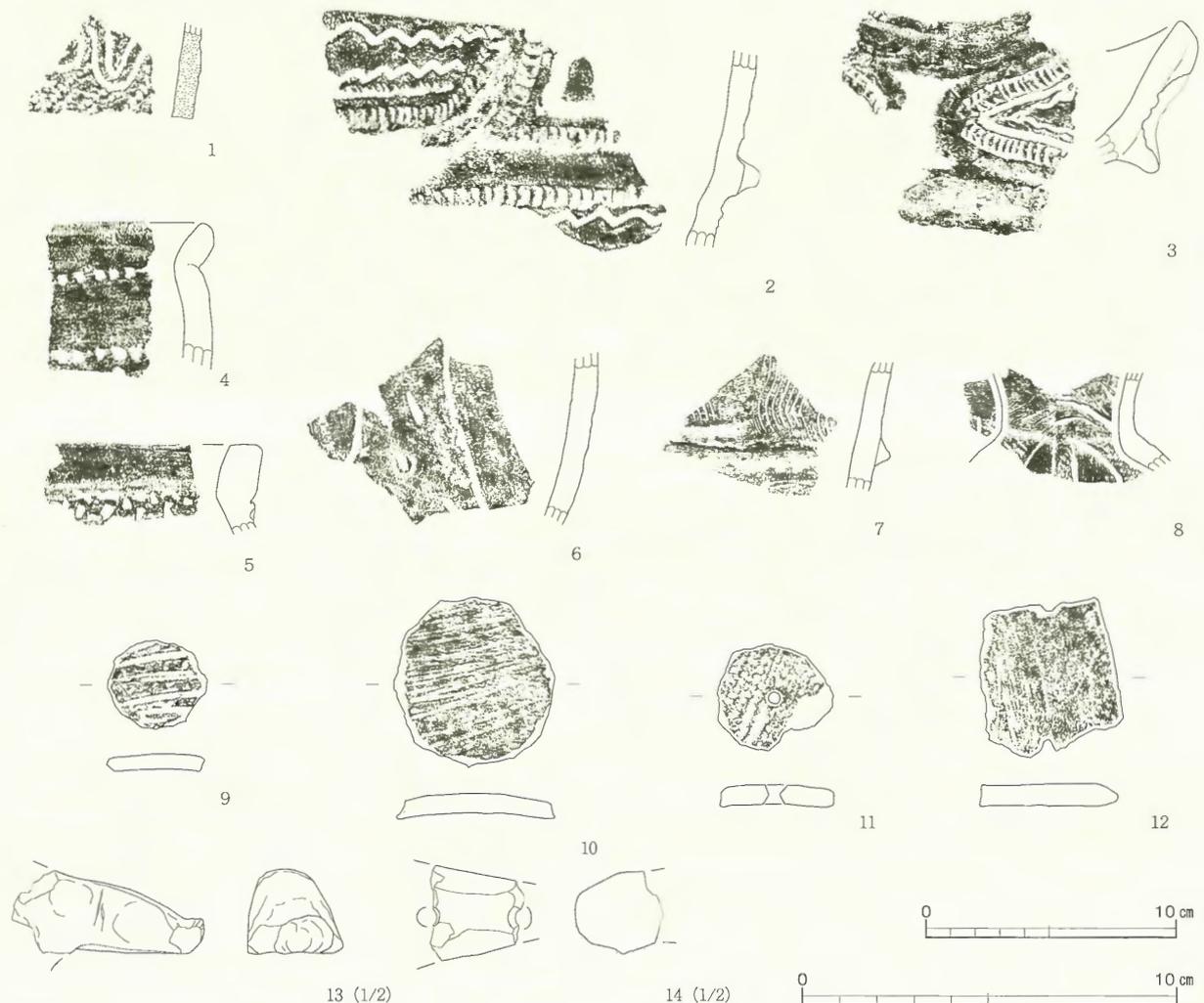
No.	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<4.4>	—	石英・白雲母・白色粒	外：5YR6/8 橙 内：10YR6/4 にぶい黄橙	良	外面：LR 単節縄文を施文後、沈線と竹管状の刺突表現を施す。 内面：ミガキ。	堀之内 1
2	縄文土器	浅鉢	—	<2.1>	—	石英・白雲母・海綿骨針	外：10YR3/2 黒褐 内：10YR6/3 にぶい黄橙	良	外面：斜位条痕を施す。口縁部隆帯貼付。 内面：ミガキ。	堀之内 2 ～加曾利 B 1
3	縄文土器	浅鉢	—	<2.4>	—	石英・白雲母	7.5YR5/3 にぶい褐	良	外面：ミガキ。 内面：平行沈線を巡らし、沈線間に刺突表現を施す。	加曾利 B 1

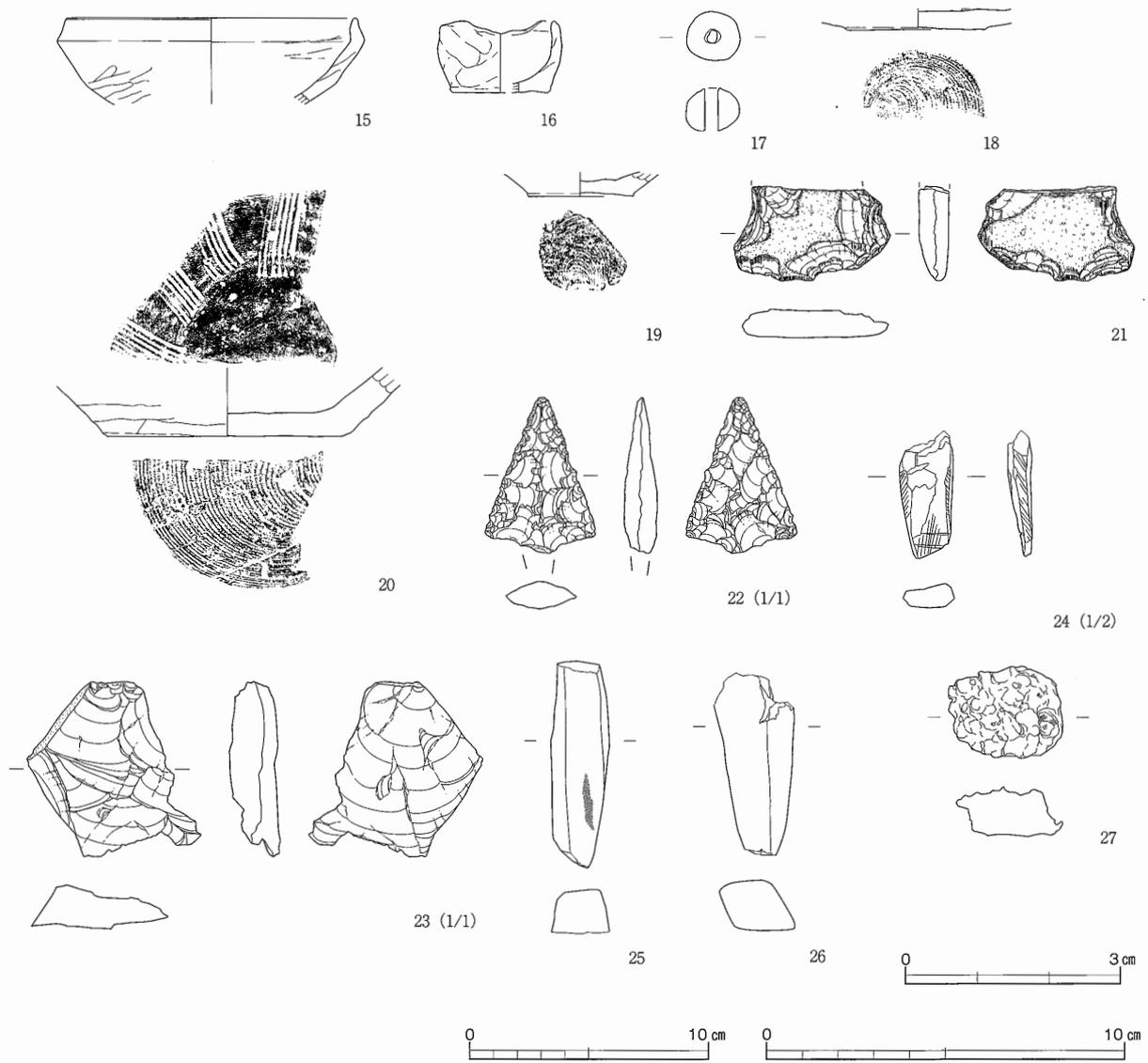
No.	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
4	土製品	有孔円盤	5.0	<2.6>	0.7	12.15	両方向からの穿孔。石英を含む。	
5	貝製品	貝輪	<7.1>	0.7	0.7	6.54	内外研磨。完成品。破損後の廃棄か？ベンケイガイを使用。	
6	貝製品	貝刃	4.3	5.6	1.4	9.35	螺番部を除く約 60% が刃部として使用。腹部の一部は使用によって減少。ハマグリを使用。	
7	獣骨	鹿角	<10.8>	3.3	1.2	19.11	一部被熱により黒ずんでいる。上部は分割する際の刻みとみられる痕跡が確認できる。	
8	獣骨	鹿角	<13.0>	4.0	1.8	50.94	一部被熱により黒ずんでいる。	

### 第 8 節 遺構外出土遺物 (第 61 図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 1 区の調査で、遺構外より出土した遺物の中から 27 点を掲載する。坂田台山古墳群と同様に縄文時代前期の土器がわずかに確認される。また、土製品・石器も多数確認された。古墳時代～中世にかけての遺物も出土するが、縄文時代の遺物に比べると出土数は少ない。また、椀形滓も確認されたことから、調査区周辺にて小鍛冶が行われていた可能性が考えられる。



第 61 図 遺構外出土遺物



第62図 遺構外出土遺物

表48 遺構外出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<4.0>	—	白雲母・繊維・白色粒	外：5YR5/6 明赤褐 内：10YR6/4 におい黄橙	良	外面：LR単節縄文・弧条線を施す。 内面：ミガキ	黒浜
2	縄文土器	深鉢	—	<8.0>	—	石英・長石・白雲母・金雲母	10YR7/4 におい黄橙	良	外面：隆帯を貼付け、隆帯の周囲に角押文・波状の沈線を施す。 内面：ナデ。	勝坂
3	縄文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・長石・白雲母・金雲母	10YR7/4 におい黄橙	良	外面：隆帯を貼付け、隆帯で区画された中に角押文・波状の沈線を施す。 内面：ナデ。	阿玉台Ⅲ
4	縄文土器	深鉢	—	<6.0>	—	石英・長石・白雲母・金雲母	10YR7/6 明黄橙	良	外面：角押文を施す。 内面：ナデ。	阿玉台Ⅲ
5	縄文土器	深鉢	—	<3.7>	—	石英・長石・白雲母・金雲母	7.5YR6/4 におい橙	良	外面：口縁部直下に刺突文が交互に施される。 内面：ミガキ。	加曾利E
6	縄文土器	深鉢	—	<7.0>	—	石英・長石・白雲母	外：7.5YR6/6 橙 内：10YR4/1 褐灰	良	外面：沈線区画内に列点文を施す。 内面：ナデ。	称名寺2
7	縄文土器	深鉢	—	<5.3>	—	石英・長石	外：10YR5/3 におい黄橙 内：10YR5/4 におい黄橙	良	外面：隆帯を貼付け、櫛歯状工具により懸垂文を施す。 内面：ナデ。	称名寺2
8	縄文土器	壺形土器	—	<4.0>	—	石英・長石・白雲母	10YR3/1 黒褐	良	外面：体部に縦位と斜位の沈線で文様帯を区画。LR単節縄文を施す。 内面：ミガキ。	安行2
15	土師器	坏	(120)	<3.6>	—	石英・白雲母・白色粒	外：7.5YR4/3 褐色 内：10YR5/4 におい黄褐	良	外面：ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内面：ヘラナデ。	

16	土師器	ミニチュア土器	(5.0)	4.0	(3.0)	石英・白雲母・白色粒	10YR4・6にぶい黄橙	良	外面：ナデ。 内面：ナデ。
18	土師質土器	小皿	—	<1.0>	4.5	石英・白色粒	5YR6・6橙	良	外面：ロクロ整形。底部回転糸切り。 内面：ロクロ整形。
19	陶器	皿	—	<0.9>	5.8	白色粒	5Y7/1灰白	良	外面：ロクロ整形。底部回転糸切り。 内面：灰釉。重ね焼痕あり。
20	陶器	播鉢	—	<2.9>	(10.2)	白色粒・赤色粒	5YR7/6橙	良	外面：ヘラケズリ後、ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ後、櫛目6本。

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
9	土製品	円盤	4.0	3.6	0.7	10.5	石英・白色粒を含む。	
10	土製品	円盤	6.9	6.0	0.7	46.48	石英・海綿骨針・白色粒を含む。	
11	土製品	有孔円盤	4.7	4.3	0.8	17.96	両方向からの穿孔。石英・白色粒を含む。	
12	土製品	土器片鏢	6.3	5.7	0.8	42.22	口縁部片を利用。2ヶ所に切り込みを入れる。石英・白色粒を含む。	
13	土製品	動物(?)	<5.2>	2.6	2.3	22.46	棒状粘土を指による押圧で整形。動物の尾?石英・白色粒を含む。	
14	土製品	不明	<2.0>	2.6	<2.9>	15.78	棒状粘土を指による押圧で整形。2ヶ所の穿孔を確認。用途不明。石英・白色粒を含む。	
17	土製品	土玉	直径2.0	孔径0.5	1.8	7.52	ナデによる整形。一方向からの穿孔。石英・白色粒を含む。	
21	石製品	打製石斧	<3.9>	6.4	1.3	42.05	基部欠損。	
22	石製品	打製石鏃	<2.1>	1.6	0.4	1.05	有茎。茎部欠損。チャートを使用。	
23	石製品	石器剥片	2.5	2.1	0.7	2.88	未製品か。チャートを使用。	
24	石製品	不明	<3.6>	1.0	0.7	4.89	3面を研磨。線条痕を確認。用途不明。結晶片岩を使用。	
25	石製品	砥石	8.8	2.4	2.3	37.96	3面を使用。一部に朱とみられる範囲を確認。安山岩を使用。	
26	石製品	砥石	7.6	3.3	2.1	51.68	4面を使用。凝灰岩を使用。	
27	椀形滓		5.3	3.8	2.1	52.57	木炭痕を確認。	

## 第6章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区

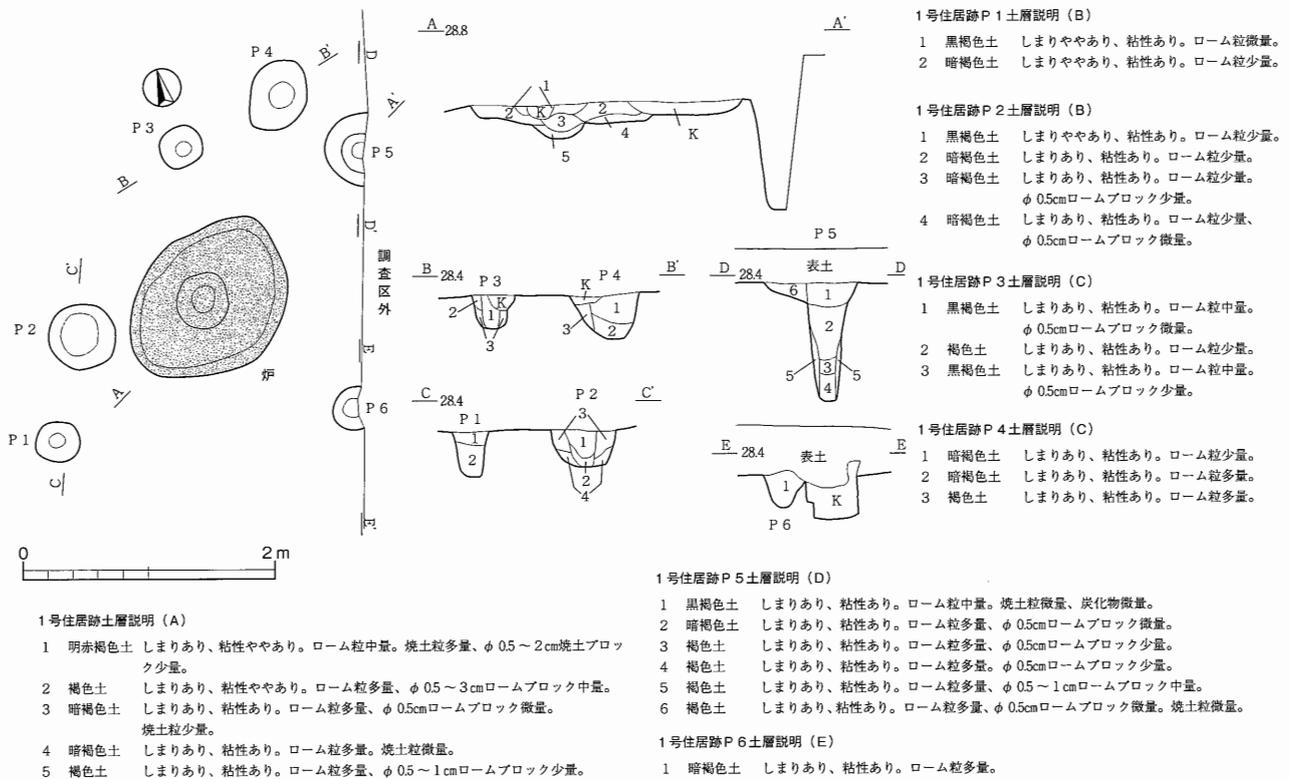
下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区の調査は平成24年3月2日～平成24年3月16日まで行われた。確認された遺構は、竪穴住居跡2軒、溝2条、土坑16基、ピット24基を数える。

### 第1節 竪穴住居跡

#### 1号住居跡（第63図）

**位置** B1・2グリッドに位置している。床 硬化面等は確認できなかった。ピット 炉跡の周囲に6基のピットが巡るが、不規則でピットの深さも一定ではない。炉 長軸145cm×短軸110cm、深さ26cmを測る。

**遺物** 炉跡内から縄文土器の小片が出土したのみである。**所見** 検出された炉と、炉の周囲で確認されたピットから住居であると想定したが、明確に住居として捉えられる要素は少ない。帰属時期は不明である。

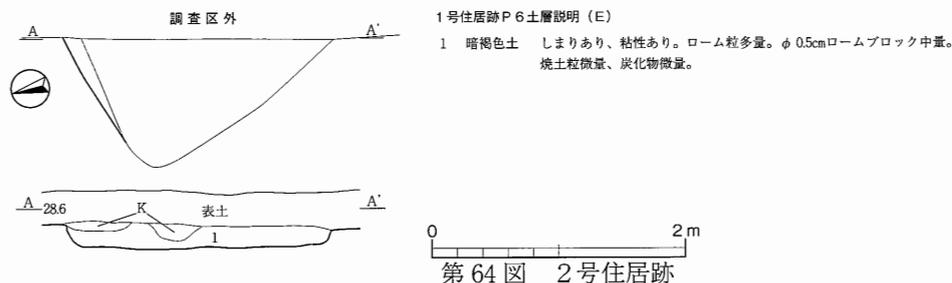


第63図 1号住居跡

#### 2号住居跡（第64図）

**位置** A2グリッドに位置している。規模 南北1.8m以上×東西1.25m以上mの方形を呈すとみられる。主軸方位 N - 20° - W。壁 壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットであるが、硬化面は確認できなかった。ピット 確認できなかった。遺物 覆土中から遺物の出土はみられなかった。

**所見** 住居であると想定したが、明確に住居として捉える要素は少なく、帰属時期は不明である。



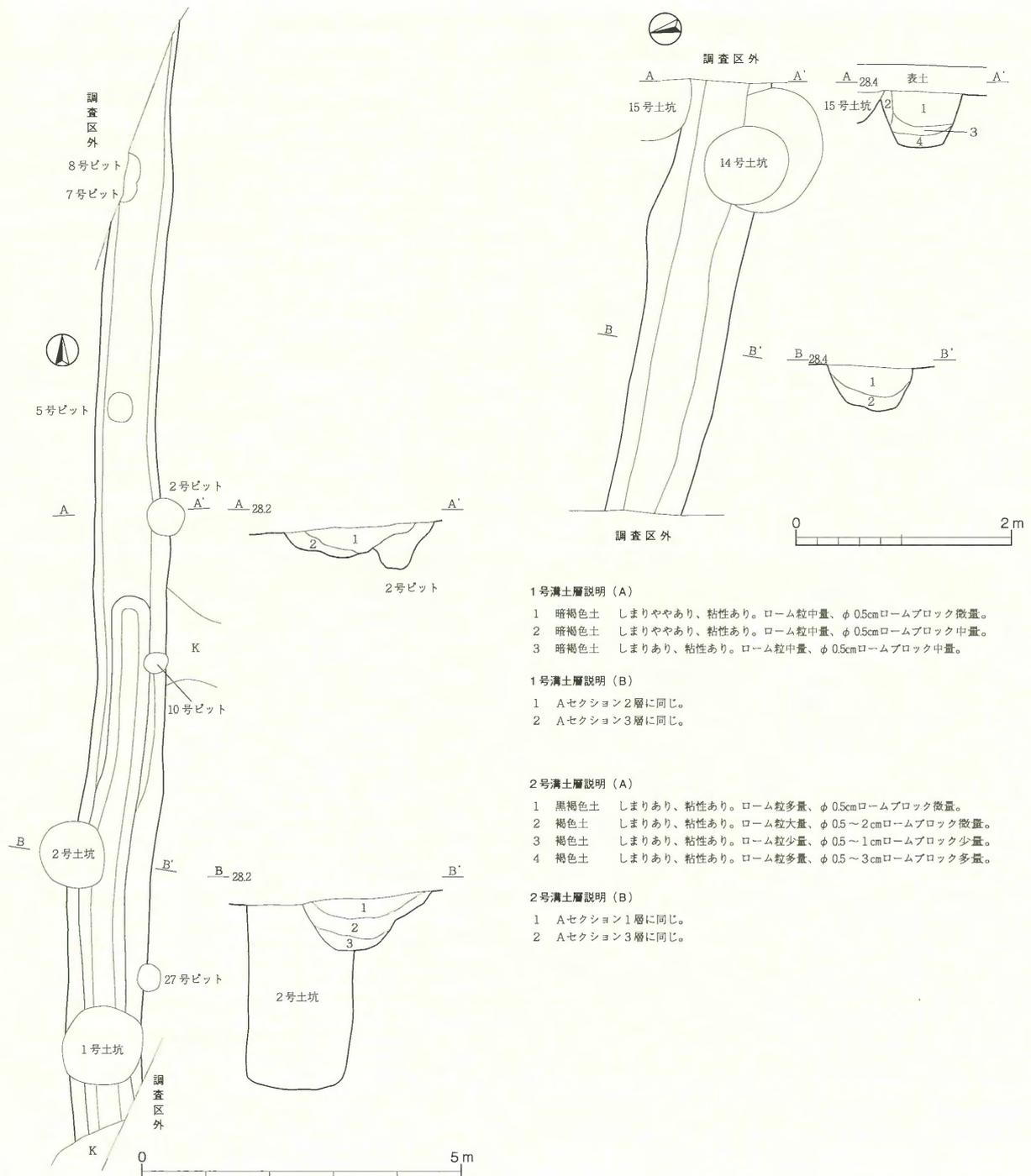
第64図 2号住居跡

## 第2節 溝跡 (第65図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認された溝跡は2条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。1号溝跡は南北方向に走行し、2号溝跡は東西方向に走行する。いずれも覆土中からは流れ込みとみられる縄文時代の土器片が出土するが、帰属時期は中世であるとみられる。

表 49 溝跡一覧表

遺構名	位置 グリッド	軸方位	規模 (m)		深さ (m)	遺物	時期	備考
			上端幅	下端幅				
1号溝	I 3	N - 1° - E	1.3	0.34	0.82	縄文土器	中世?	1・2号土坑と重複。1・2号土坑より新しい。
2号溝	I 3	N - 63° - W	0.96	0.42	0.53	縄文土器・陶磁器	中世?	14・15号土坑と重複。15号土坑より古い。



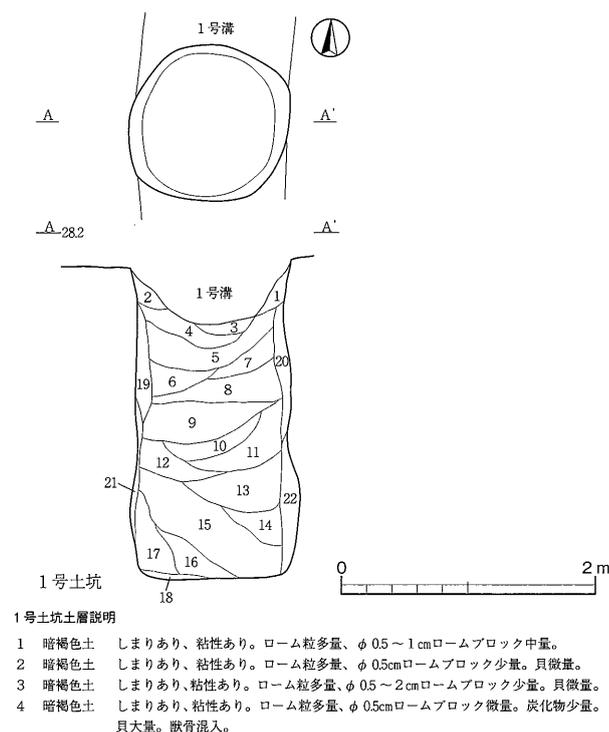
第65図 1・2号溝跡

### 第3節 土坑（第66～70図）

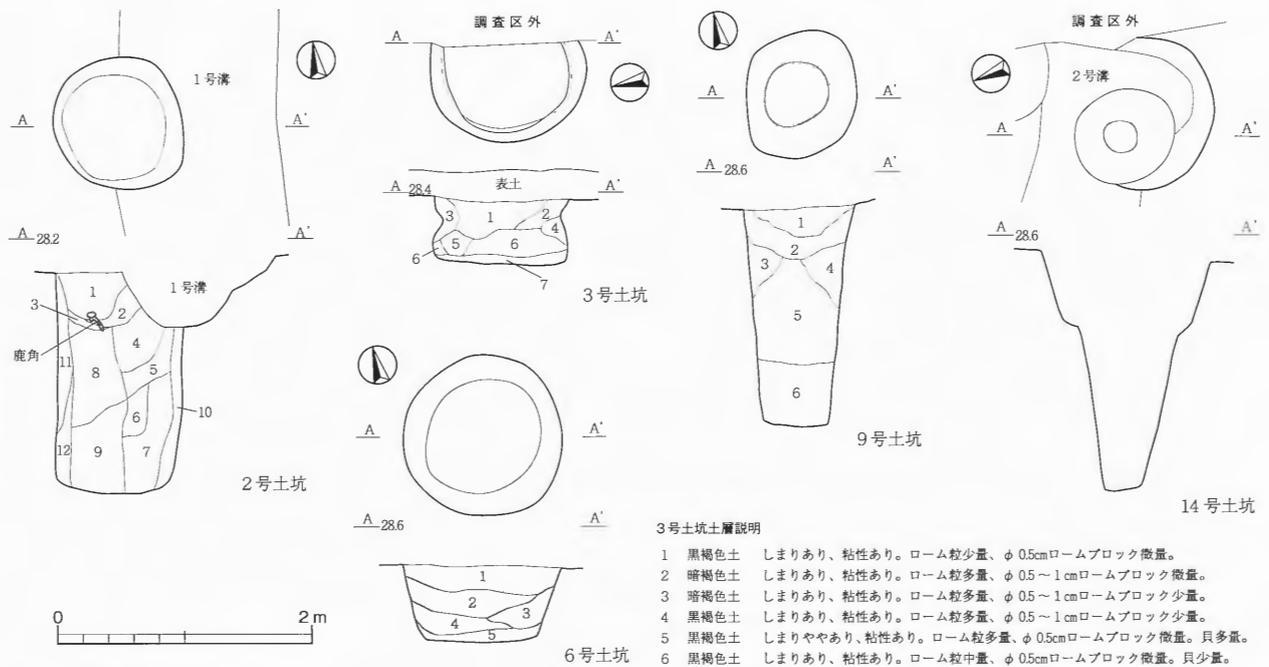
下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認された土坑は16基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。出土した遺物から、確認された土坑のほとんどは縄文時代後期に属するとみられるが、1・2号土坑は縄文時代晩期前葉に比定される円筒形の土坑である。1区15・21・25土坑と同様の深い土坑で、覆土中に貝が混入している点では、1区25号土坑と類似している。ただし、1号土坑と2号土坑では覆土中の貝の量に大きな差がある。円筒形の土坑に関しては第7章にて記載する。

表50 土坑一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	長軸方位	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形態	遺物	時期	備考
1号土坑	C 1	—	1.25 × 1.25	2.5	円形	縄文土器・貝・ 獣骨魚骨	縄文時代晩期前葉	土坑内の覆土全体に大量の土器と貝が混入。覆土上層は貝の混入が多く、下層はやや少なくなる。
2号土坑	B 1	N - 41° - W	1.08 × 1.0	1.78	円形	縄文土器・貝・ 鹿角獣骨・魚骨	縄文時代晩期前葉	土坑内の覆土に貝が混入している層が確認できた。底面からはイノシシの頭骨とみられる骨が出土。一部後世掘り込み？
3号土坑	B 2	N - 16° - E	1.23 × (0.76)	0.45	円形	縄文土器・貝	縄文時代後期前葉	袋状土坑。一部に貝が混入している層を確認。
4号土坑	B 1	N - 33° - E	0.87 × 0.84	0.23	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
5号土坑	A 2	N - 14° - W	0.97 × 0.9	0.48	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
6号土坑	A 2	N - 66° - W	1.29 × 1.25	0.66	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
7号土坑	A 2	N - 69° - E	1.77 × 1.46	0.65	方形	縄文土器・陶器	縄文時代後期前葉 ～中葉	陶器は重複する13号土坑のものか？
8号土坑	A 2	N - 35° - E	1.36 × (0.73)	0.63	不整形	縄文土器	縄文時代後期	
9号土坑	A 2	N - 9° - W	1.03 × 0.87	1.56	円形	縄文土器	縄文時代後期後葉	
10号土坑	A 2	N - 9° - W	1.14 × 0.85	0.21	不整形	なし	不明	覆土中に焼土を確認。炉跡？
11号土坑	A 2	N - 52° - W	0.64 × 0.6	1.34	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
12号土坑	A 2	N - 52° - E	0.69 × 0.65	1.13	不整形	縄文土器	縄文時代後期後葉	
13号土坑	A 2	N - 41° - W	1.16 × 1.07	1.0	円形	なし	近世以降？	後世掘り込み。井戸跡か？
14号土坑	A 2	N - 29° - W	(1.22) × 1.18	1.82	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	2号溝と重複。14号土坑が古い
15号土坑	A 2	N - 17° - E	0.95 × (0.57)	0.3	円形	縄文土器	中世？	2号溝と重複。15号土坑が新しい。
16号土坑	A 2	N - 15° - E	1.06 × (0.37)	1.45	円形	縄文土器	縄文時代後期中葉 ～後葉	



第66図 1号土坑



2号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5~4cmロームブロック少量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 6 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 7 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒大量、φ 0.5~1cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 8 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。炭化物中量。貝多量。
- 9 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~5cmロームブロック少量。炭化物少量。貝多量。
- 10 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 11 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 12 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。

3号土坑土層説明

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 5 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。貝多量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。貝少量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。

6号土坑土層説明

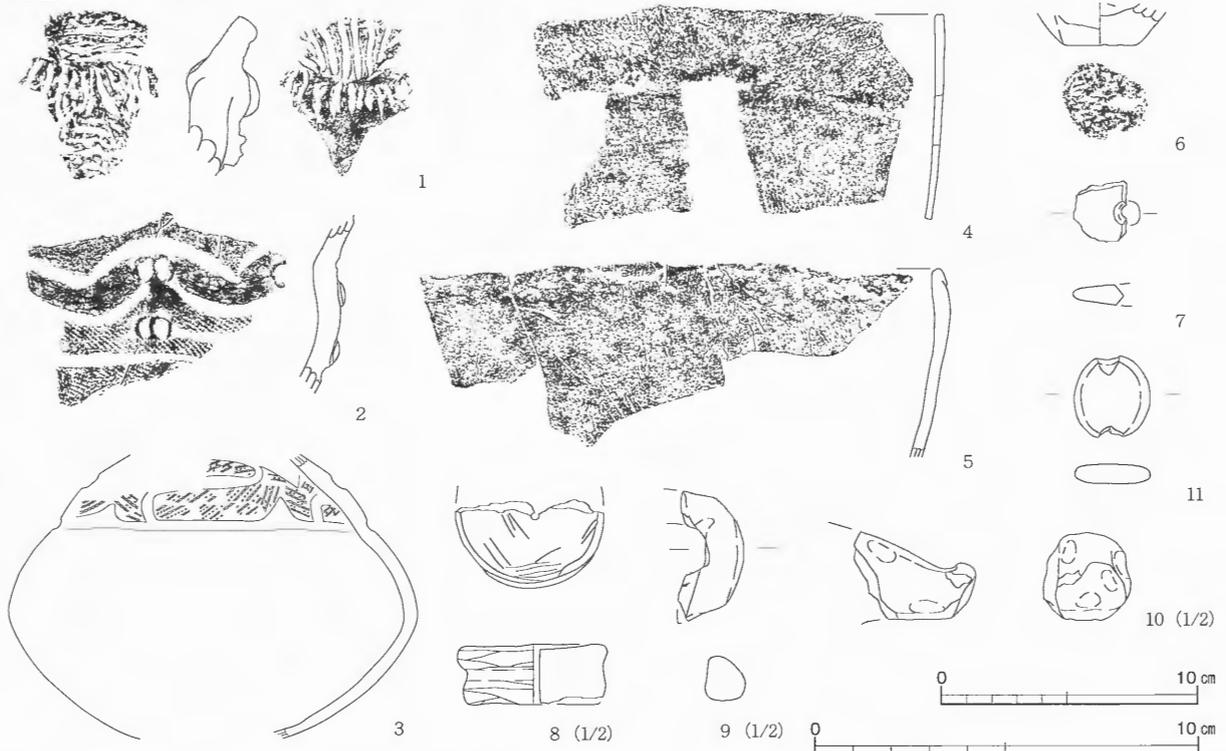
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。

9号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~2cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cmロームブロック微量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cmロームブロック多量。

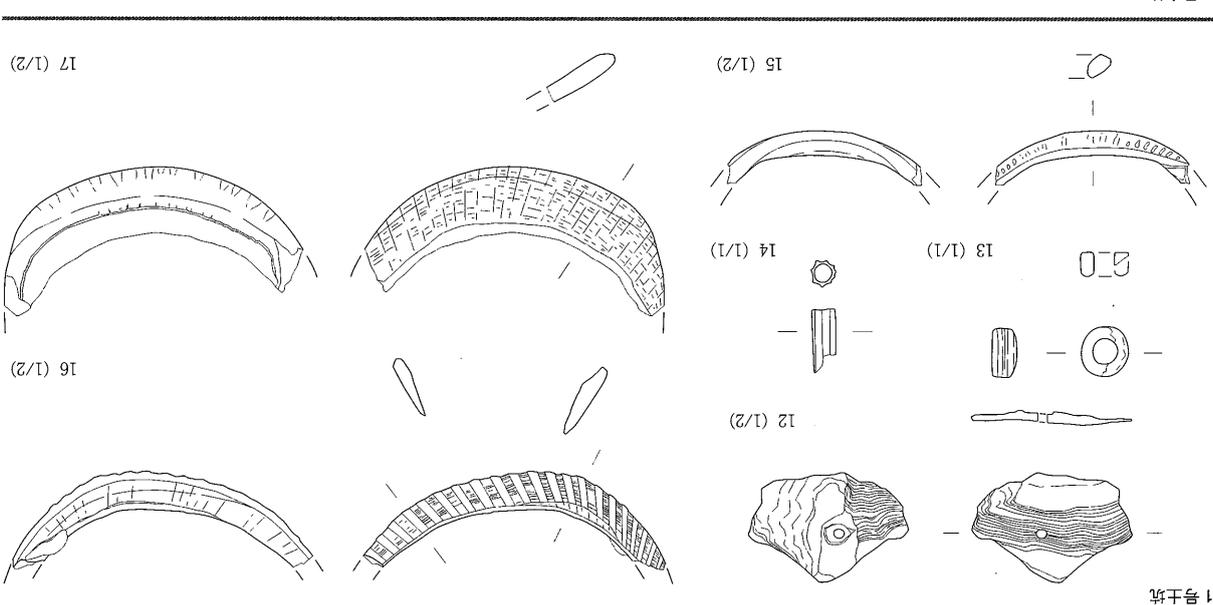
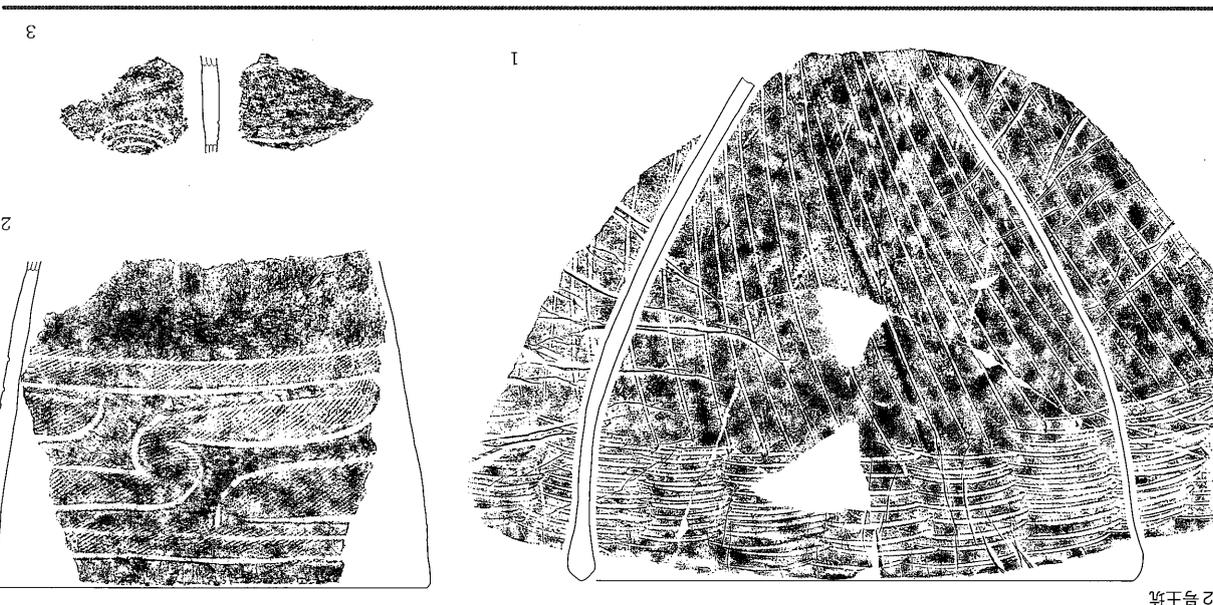
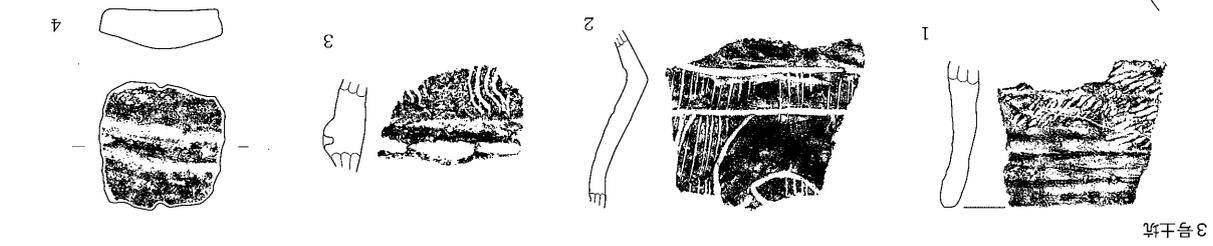
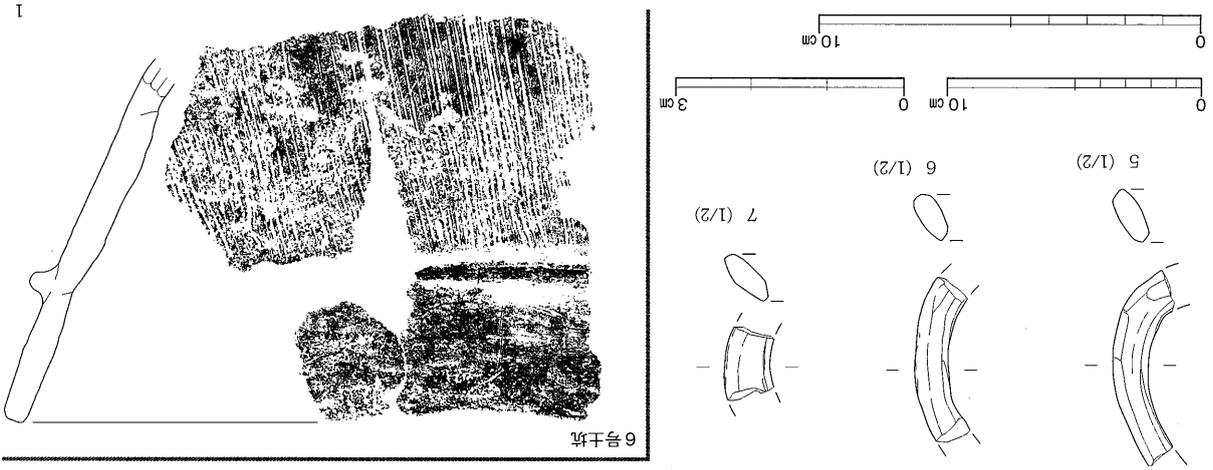
第67図 2・3・6・9・14号土坑

1号土坑



第68図 1号土坑出土遺物

第69图 1·2·3·6号土坑出土遗物



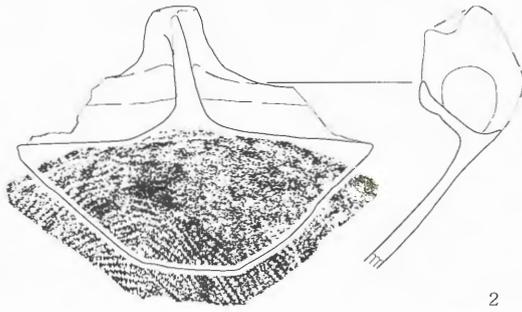
1号土坑

2号土坑

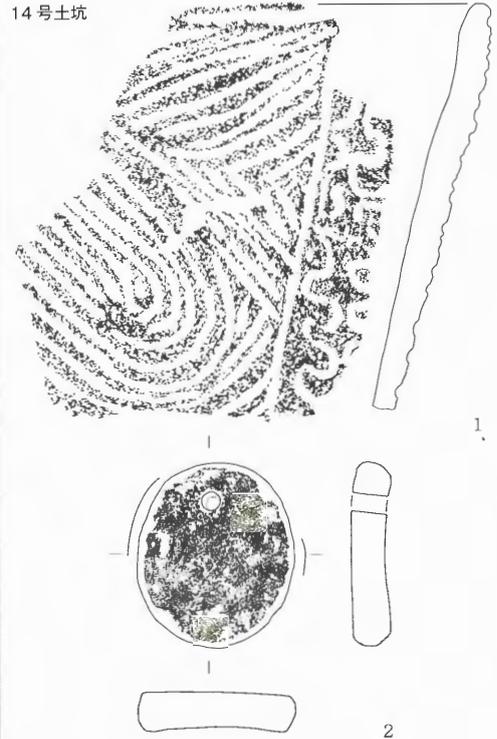
3号土坑

6号土坑

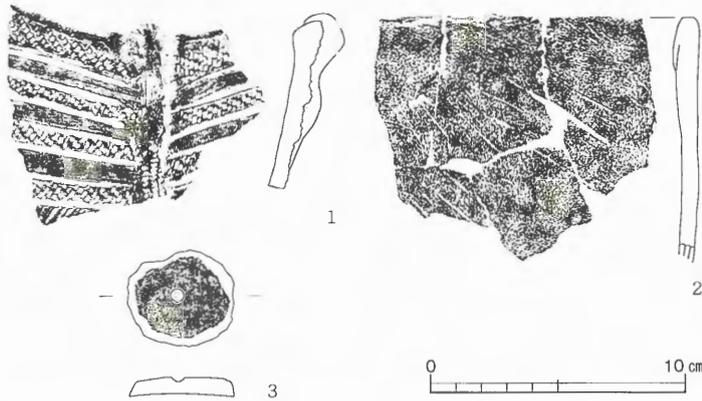
6号土坑



14号土坑



9号土坑



第70図 6・9・14号土坑出土遺物

表51 1号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<6.3>	—	石英・白雲母・海綿骨針	外：7.5YR1.7/1 黒 内：5YR5/6 明赤褐	良	外面：波状口縁の装飾。粘土瘤の貼付け後、沈線を施す。 内面：。沈線を施す。	安行 3a
2	縄文土器	深鉢	—	<7.1>	—	石英・白雲母・角閃石	10YR2/1 黒	やや良	外面：沈線を弧状に施し豚鼻状貼付文を加える。RL単節縄文を施す。 内面：粗いミガキ。	安行 3a
3	縄文土器	注口土器	—	<11.3>	—	石英・白雲母	10YR2/1 黒	良	外面：沈線で文様帯を区画し、軸縄不明の附加条縄文LR+2rを施す。 内面：ナデ。	安行 3a
4	縄文土器	製塩土器	—	<8.2>	—	石英・長石・白雲母	5YR6/6 橙	良	外面：器面摩滅。 内面：ナデ。	安行 2～3a
5	縄文土器	製塩土器	—	<7.5>	—	石英・白雲母・白色粒	10YR8/6 黄橙	良	外面：ケズリ。 内面：ナデ。	安行 2～3a
6	縄文土器	製塩土器	—	<1.6>	2.9	石英・白雲母・赤色粒	5YR6/6 橙	良	外面：ケズリ。底面網代痕。 内面：ナデ。	安行 2～3a

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
7	土製品	有孔円盤	<2.3>	<1.9>	0.8	4.08	両方向からの穿孔。石英・白雲母を含む。	
8	土製品	耳飾り	直径 3.9	孔径 0.2	1.6	15.33	全面ミガキ調整。鼓形。石英・白雲母・金雲母・赤色粒を含む。	
9	土製品	耳飾り?	直径 (3.5)	幅 1.0	1.2	5.19	ナデによる整形。球状耳飾りか? 白雲母・金雲母を含む。	
10	土製品	動物?	3.3	2.3	2.4	11.86	ナデによる整形。動物の尾か? 石英・白雲母を含む。	
11	石製品	石錘	3.2	2.9	0.8	10.23	両端に切れ目。	
12	貝製品	装飾品?	4.2	2.8	0.3	2.95	両方向からの穿孔。未製品? アワビを使用。	
13	貝製品	平玉	直径 0.6	孔径 0.3	0.3	0.06	小巻貝を輪切りにしている。ウミニナ類を使用か?	
14	貝製品	管玉	<0.8>	直径 0.3	孔径 0.25	0.03	上部欠損。ヤカドツノガイを使用。	
15	貝製品	貝輪	<5.0>	0.6	0.4	2.84	内外面研磨。ベンケイガイを使用。	
16	貝製品	貝輪	<7.9>	1.1	0.4	12.37	外面研磨。未製品。サルボウ類を使用。	
17	貝製品	スクレイパー?	<7.8>	1.8	0.5	20.46	表面摩滅。土器の文様付けに使用か? ハマグリの大形か?	

表52 2号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	(21.6)	<20.0>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒	外：5YR6/8 橙 内：5YR6/8 橙	良	外面：横位条線後、縦位条線を施す。 内面：ナデ。	安行 3b
2	縄文土器	深鉢?	—	<7.1>	—	石英・白雲母・角閃石	10YR2/1 黒	やや良	外面：平行沈線と人組文で文様帯を区画し、LR単節縄文を施す。 内面：粗いミガキ。	安行 3b
3	縄文土器	鉢	—	<11.3>	—	石英・長石・白雲母	10YR3/1 黒褐	良	外面：粗いミガキ。 内面：粗いミガキ。弧文線を施す。	安行 3b

表 53 3号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<5.8>	—	石英・白雲母・赤色粒	7.5YR7/6 橙	良	外面：L R 単節縄文を施す。 内面：ミガキ。	称名寺 2
2	縄文土器	深鉢	—	<7.2>	—	石英・白雲母・角閃石	10YR7/3 にぶい黄橙	良	外面：沈線によって文様帯を区画し、櫛歯状工具で懸垂文を施す。 内面：ミガキ。	称名寺 2
3	縄文土器	深鉢	—	<3.7>	—	石英・長石・白雲母	2.5YR4/6 赤褐	良	外面：隆帯を貼付け、櫛歯状工具で懸垂文を施す。 内面：ナデ。	網取 1

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
4	土製品	土器片錘	5.1	4.9	1.5	38.3	両端に切れ目。石英・長石・白雲母を含む。	
5	土製品	貝輪形	<7.2>	1.4	2.1	20.79	外面：ケズリ後、ナデ。内面：ケズリ。石英・長石・白雲母を含む。	
6	土製品	貝輪形	<6.5>	1.4	1.8	15.79	外面：ナデ。内面：ケズリ。石英・長石・白雲母を含む。	
7	土製品	貝輪形	<3.0>	1.8	1.9	6.35	外面：ナデ。内面：ケズリ。石英・白雲母・赤色粒を含む。	

表 54 6号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<14.5>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/3 にぶい橙	やや良	外面：隆帯を貼付け、櫛歯状工具で縦位条線を施す。 内面：粗いミガキ。	網取 1
2	縄文土器	浅鉢	—	<10.5>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/4 にぶい黄橙	やや良	外面：口縁部に把手を取り付け、体部には R L 単節縄文を施す。 内面：器面摩滅。	網取 1

表 55 9号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<6.7>	—	石英・白色粒・赤色粒	外：5YR3/3 赤褐 内：7.5YR2/1 黒	良	外面：隆帯と粘土瘤を貼付け、沈線で文様帯を区画し、隆帯上部に R L 単節縄文を施す。 内面：ミガキ。	安行 1
2	縄文土器	深鉢	—	<9.7>	—	石英・角閃石・白雲母・海綿骨針	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：7.5YR6/6 橙	良	外面：ケズリ。 内面：ナデ。	安行 1

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
3	土製品	有孔円盤	3.8	4.1	0.6	13.32	穿孔途中で廃棄か？未製品。石英・白雲母・海綿骨針を含む。	

表 56 14号土坑出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<16.1>	—	石英・長石・白雲母・赤色粒	外：10YR7/6 明黄褐 内：10YR4/2 灰黄褐	やや良	外面：蕨手状文・斜位条線・U 字状条線を施す。 内面：粗いミガキ。	堀之内 2

No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
2	土製品	土版？	7.3	6.1	1.4	84.14	焼成前穿孔。側面には一部研磨の痕跡が確認できるが、全体的に摩滅している。両面ミガキ。石英・長石・白雲母を含む。	

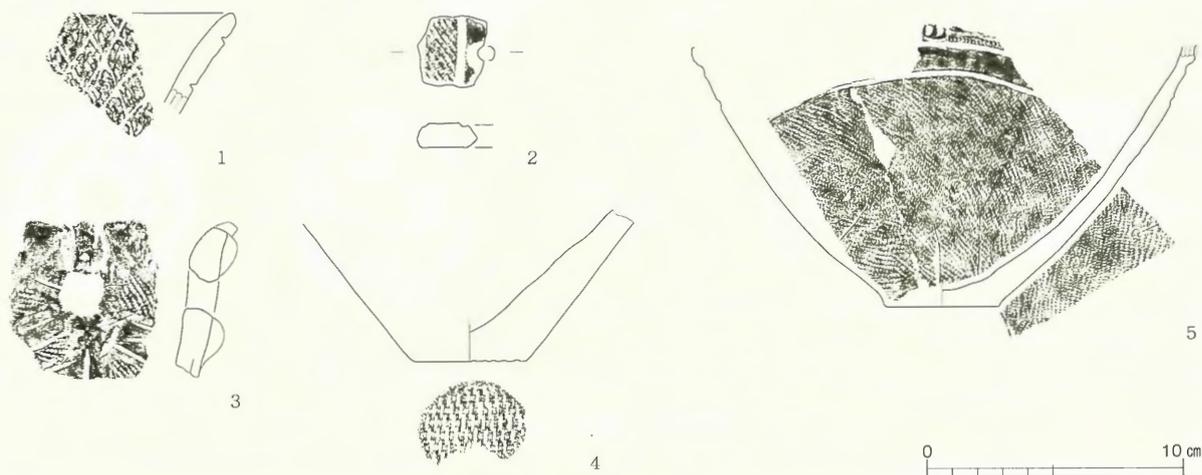
#### 第4節 ピット (第72図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 2 区で確認されたピットは 24 基である。遺物の出土量には差があり、個体となるものはほとんど見受けられなかった。出土した土器は縄文時代後期が主体となり、わずかに晩期前葉の土器を確認している。ピットは 1 区と比べると全体的に浅く、深さが 1 m を超えるピットは 2 基のみである。

表 57 ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面形態	備考	遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面形態	備考
		長軸	短軸						長軸	短軸			
1号ピット	B 1	0.52	0.46	0.45	方形		7号ピット	B 1	(0.37) × (0.21)	0.38	円形	8号ピットと重複。	
2号ピット	B 1	0.62	0.58	0.45	円形		8号ピット	B 1	(0.43) × (0.24)	0.48	円形	7号ピットと重複。	
4号ピット	B 1	0.84	0.74	0.96	円形		10号ピット	B 1	0.4 × 0.34	0.44	円形		
5号ピット	B 1	0.46	0.39	0.44	円形		11号ピット	B 2	0.35 × 0.22	0.31	円形	1号住居跡 P 6	
6号ピット	B 1	0.4	0.42	0.48	円形		12号ピット	B 1	0.35 × 0.33	0.48	円形	1号住居跡 P 1	

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	時期	遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	時期
		長軸×短軸							長軸×短軸				
13号ピット	B 1	0.54 × 0.54		0.35	円形	1号住居跡P 2	20号ピット	A 2	0.7 × 0.58		1.15	円形	
14号ピット	B 2	0.37 × 0.32		0.29	円形	1号住居跡P 3	21号ピット	A 2	0.5 × 0.44		0.67	円形	
15号ピット	B 2	0.58 × 0.45		0.38	円形	1号住居跡P 4	22号ピット	A 2	0.52 × 0.47		0.44	円形	
16号ピット	B 2	0.58 × (0.3)		0.88	円形	1号住居跡P 5	24号ピット	A 2	0.49 × 0.46		1.23	円形	
17号ピット	B 1	0.49 × 0.39		0.41	円形		25号ピット	A 2	0.6 × 0.58		0.51	円形	
18号ピット	A 2	0.47 × 0.41		0.29	円形		26号ピット	A 2	0.5 × 0.47		0.81	円形	
19号ピット	A 2	0.4 × 0.34		0.25	円形		27号ピット	B 1・C 1	0.64 × (0.42)		0.38	円形	



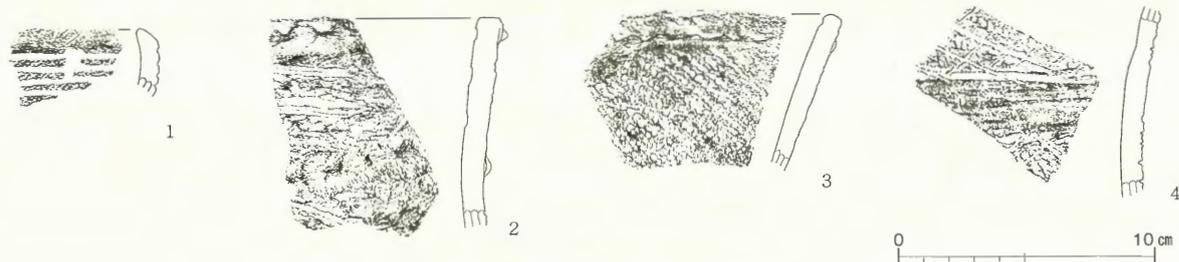
第71図 ピット出土遺物

表58 ピット出土遺物観察表

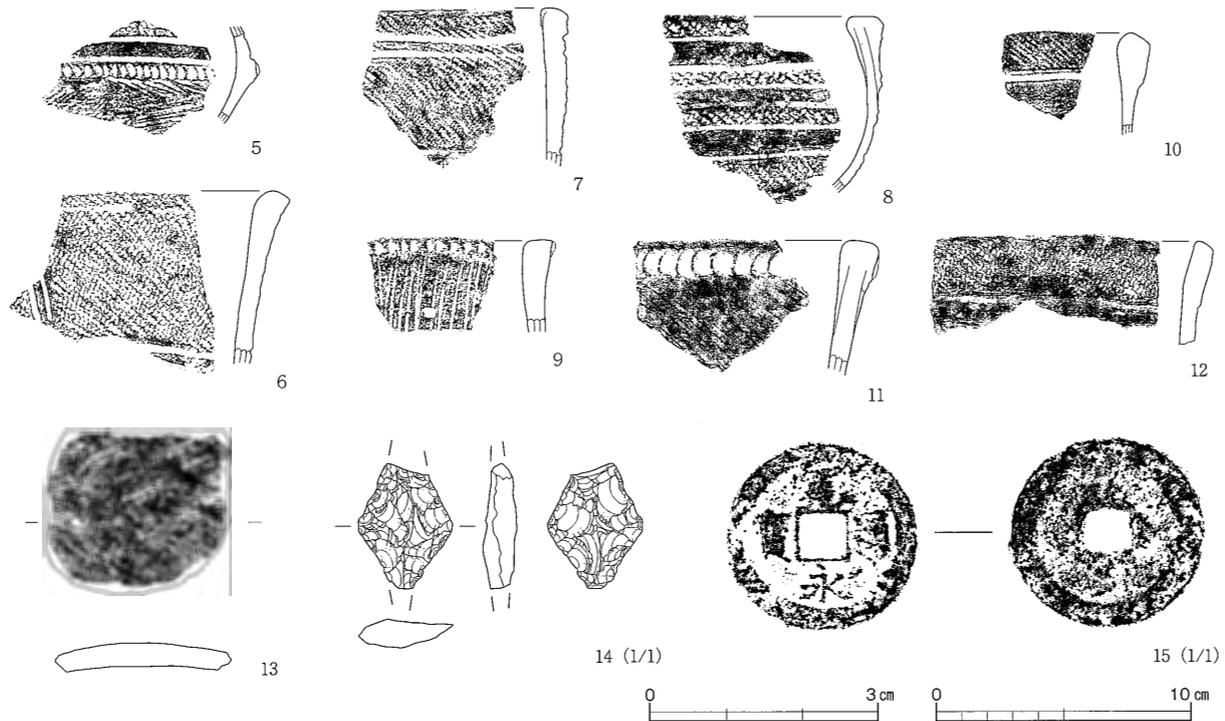
No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<4.0>	—	石英・白色粒	10YR2/1 黒	良	外面:斜格子目文を施す。 内面:ミガキ。	加曾利 B 2 P 1 出土
3	縄文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・長石・白色粒	外:5YR3/1 黒褐 内:7.5YR4/6 赤褐	良	外面:粘土瘤を貼付け、穿孔。沈線によつて文様帯を区画し、RL単節縄文を施す。 内面:ミガキ。	安行 1 P 4 出土
4	縄文土器	深鉢	—	<6.0>	4.4	石英・長石・角閃石・白色粒	5YR6/8 橙	良	外面:ケズリ後、粗いミガキ。底部網代痕。 内面:ナデ。	安行(古) P 17 出土
5	縄文土器	深鉢	—	<10.3>	4.4	石英・長石・白雲母・赤色粒	10YR4/2 灰黄褐	良	外面:沈線によって文様帯を区画。体部下半はRL単節縄文を、上半は沈線上部に刺突表現を加え、豚鼻状条貼付文を施す。 内面:ナデ。	安行 2 P 19 出土
No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか		備考	
			長さ	幅	厚さ					
2	土製品	有孔円盤	<2.7>	<2.6>	1.0	8.96	両方向から穿孔。石英・長石・白雲母を含む。		P 2 出土	

## 第5節 遺構外出土遺物 (第73図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区の調査で、遺構外より出土した遺物の中から15点を掲載する。2区においては縄文時代中期以前の土器は確認されておらず、掲載遺物のほとんどは縄文時代後期に帰属する。また、直接帰属する該期の遺構は確認できなかったが、「寛永通宝」が1点出土している。



第72図 遺構外出土遺物



第73図 遺構外出土遺物

表59 遺構外出土遺物観察表

No	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<2.6>	—	石英・白雲母・赤色粒	75YR6/6 橙	良	外面：平行沈線を巡らし、沈線間にLR単節縄文を施す。 内面：ミガキ。	加曾利 B 1
2	縄文土器	深鉢	—	<8.2>	—	石英・白雲母	5YR6/6 橙	良	外面：紐線文を貼付け、斜位の条線を施す。 内面：ミガキ。3条の平行沈線を巡らす。	加曾利 B 1
3	縄文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒	外：75YR4/2 灰褐 内：75YR6/6 橙	良	外面：RL単節縄文を施し、口縁部に紐線文を貼付ける。 内面：粗いミガキ。口縁部に沈線を巡らす。	加曾利 B 1
4	縄文土器	深鉢	—	<7.6>	—	石英・白雲母・白色粒	5YR4/6 赤褐	良	外面：RL単節縄文を施した後、沈線で文様帯を区画。沈線間は縄文を磨消し、文様帯には斜格子目文を施す。 内面：ミガキ。	加曾利 B 2
5	縄文土器	台付鉢?	—	<3.8>	—	石英・白雲母・赤色粒	外：75YR4/4 褐 内：75YR3/1 黒褐	良	外面：隆帯を貼付け、刺突表現を加える。 体部上半は平行沈線を巡らす。 内面：ミガキ。	加曾利 B 3
6	縄文土器	深鉢	—	<6.9>	—	石英・白雲母・白色粒	10YR3/1 黒褐	良	外面：RL単節縄文を施し、沈線で文様帯を区画。沈線間は縄文を磨消す。 内面：ミガキ。	曾谷
7	縄文土器	深鉢	—	<6.9>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒	外：10YR6/4 におい黄橙 内：7.5YR4/2 灰褐	良	外面：RL単節縄文を施し、平行沈線を巡らす。 内面：ミガキ。	曾谷
8	縄文土器	深鉢	—	<7.0>	—	石英・長石・白雲母	10YR5/3 におい黄橙	やや良	外面：平行沈線で文様帯を区画し、RL単節縄文を施す。 内面：ナデ。	安行1
9	縄文土器	深鉢	—	<3.7>	—	石英・白雲母・白色粒	外：10YR4/2 灰黄褐 内：7.5YR4/2 灰褐	良	外面：口縁部に刺突表現を加え、体部には縦位条線を施す。 内面：ミガキ。	安行1
10	縄文土器	深鉢	—	<4.1>	—	石英	10YR6/4 におい黄橙	良	外面：口縁部にRL単節縄文を施す。 内面：ナデ。	安行2
11	縄文土器	深鉢	—	<5.4>	—	石英・白雲母	5YR5/4 におい赤褐	良	外面：浅い斜位条線を施し、口縁部を折り返して押圧する。 内面：粗いミガキ。	安行2
12	縄文土器	深鉢	—	<4.1>	—	石英・長石・白雲母	10YR5/4 におい黄褐	良	外面：口縁部にRL単節縄文を施す。 内面：ミガキ。	安行3b
No	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴はか	備考		
			長さ	幅	厚さ					
13	土製品	土製円盤	6.5	7.1	0.9	61.5	口縁部片を利用。未製品。石英・白雲母・海綿骨針・赤色粒を含む。			
14	石製品	石鏃	<1.7>	1.3	0.4	2.72	有茎・先端部と基部を欠損。チャートを使用。			
15	銅製品	古銭	直径 2.6	—	0.15	3.13	「寛永通宝」			

## 第7章 まとめ

今回の坂田台山古墳群、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚（1・2区）の調査は調査区に制約があり、遺構の全体像を窺い知ることが困難であった。調査の結果、縄文時代中期中葉～縄文時代晩期前葉・古墳時代～近世にわたる幅広い遺構を確認することができた。以下、時期別の遺構にみる下坂田地区の土地利用、確認された特殊な遺構について述べる。

### 第1節 遺跡の概観

縄文時代の下坂田地区において明確に人為的な痕跡が確認できるのは、縄文時代中期中葉～後葉からである。遺構の分布は調査区の南～東側にみられ、北～西側では遺構が確認できていない。後期になると遺構の分布は調査区の南側ではみられなくなり、北西側や東側で確認される。後期においては調査区外の梨畑を中心に地点貝塚が形成されるため、貝塚の周囲に遺構が展開しているものと考えられる。晩期の遺構数は少なくなるが、次節で述べるような円筒形の土坑が中心となる。おそらく、晩期の遺構分布域の中心は調査区外であるとみられ、今回の調査区で確認された遺構は、その際にあたるものと考えられる。

弥生時代の遺構・遺物は確認することができず、古墳時代前期（4世紀）になると再び土地の利用が再開される。古墳時代における住居跡の展開は調査区の東側を中心としており、6世紀後葉まで集落が営まれたことが確認された。7世紀代になると住居跡はみられなくなり、屋敷付古墳を中心とした坂田台山古墳群が形成され、墓域として展開していったようである。

平安期（8世紀後葉以降）になるとわずかであるが調査区の東側で住居跡が確認される。古墳時代の住居が営まれた地点とほぼ同じであることから、居住域として調査区の東側が適していたということが窺える。その後、15世紀代になるまで土地の利用はなく、調査区の北側に堀や道路跡などが確認されたことから、中世期の下坂田地区は台地の縁辺よりも、内陸側の土地が利用されたようである。

### 第2節 馬埋納土坑について

1区12号溝跡（堀跡）に隣接する形で馬の埋納土坑（1区11号土坑）を確認した。出土した馬骨の詳細については付章にて掲載する。埋納土坑は東西方向に長軸を持ち、馬は背を南、足を北に向けた状態で出土している。頭部と後足部分は土坑に収まりきらず、後足部分は一部土坑を拡張することで埋納しており、頭部はねじって体部に乗せている。供伴する遺物から15世紀後半～16世紀のものと考えられる。

周辺において同様の埋納土坑を有している遺跡として、入ノ上遺跡<sup>1)</sup>が挙げられる。入ノ上遺跡は土浦市沖宿町に所在しており、本遺跡から南東方向に約10kmほどの霞ヶ浦沿岸の台地に位置する。入ノ上遺跡では馬埋納土坑が6基確認されているが、遺物が伴っているのは104号土坑のみで、出土した遺物は土師質土器の灯明皿で15世紀後半に位置づけられるものである。また、馬は全身が残っているものが多く、丁寧に埋葬された印象を受ける。入ノ上遺跡では複数の馬埋納土坑を確認していることから、周囲に牧が存在したことを裏付けるものであるとしている。

本遺跡の馬埋納土坑は肋骨と椎骨が消失しているものの、ほぼ全身が揃っている。また、頭骨の納め方は若干強引のようにも見受けられるが、遺構の掘り込みや後足の一部拡張など丁寧な部分も多い。出土した遺物も入ノ上遺跡とほぼ同時期である。当初は12号溝跡が薬研状の堀であること、周囲に館跡（上坂田館の内館）があることから、11号土坑も館跡に伴う堀に隣接した埋納土坑と考えられたが、埋葬の方法からすると入ノ

上遺跡と同様に、牧に伴う埋納土坑である可能性も否定できない。

### 第3節 縄文時代後期後葉～晩期前葉にみられる大型土坑について

今回1・2区の調査で円筒形の深い土坑を複数確認した。1区15・21・25号土坑と、2区1・2号土坑であるが、いずれも出土した土器から縄文時代後期後葉～晩期前葉に属すと考えられる。規模は、直径1m～1.5m、深さは1.5～2.5m、壁面は垂直に立ち上がる。1区25号土坑は検出できた深さが53cmと浅いが、中世の堀跡(12号溝跡)によって削平を受けているため、本来は他の土坑と同様に2m前後の深い土坑であったと考えられる。

このような円筒形の深い土坑は東関東でいくつか事例が確認されている。茨城県内の調査では、土浦市に隣接するつくば市上境旭台貝塚<sup>(2)</sup>で6基の円筒形土坑(縄文時代後期後葉～晩期前葉)を、境町本田遺跡<sup>(3)</sup>では4基の円筒形土坑(いずれも縄文時代後期後葉)が確認されている。他県に目を向けると、千葉県印西市馬場遺跡<sup>(4)</sup>(第5地点241号土坑:晩期前葉)、佐倉市井野長割遺跡(第8次28号土坑:晩期前葉)、埼玉県馬場小室山遺跡(第5次調査51号土坑:晩期前葉、第32次調査1・13・14・36号土坑:晩期前葉)などでも類例が確認されている。中でも印西市馬場遺跡で確認された土坑は直径約2.3m、深さが5.46mを測る巨大な円筒形の土坑で、覆土中には貝・炭化物・灰・動物遺体を含み、晩期前葉のまとまった土器が出土している。加えて、中層からは注口土器が正位置で出土し、さらに下層からはシカの頭骨が正位置で出土している。上記(千葉・埼玉)の土坑を比較・検討した田中大介氏<sup>(5)</sup>は、円筒形の大型土坑に関して①規模が大きい、②若干の時期差はあるものの、晩期前葉の良好な遺物が一括して出土する、③覆土中に炭化物・灰が多量に認められる、としている。

そこで本遺跡の円筒形土坑を振り返ると、1区15号土坑は晩期前葉の土器が出土、1区21号土坑は13号溝跡に削平された影響もあってか遺物の出土量は少なく、確認できた遺物は後期後葉の土器を中心としている。1区25号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・貝製品を含み、注口土器(晩期前葉)が正位置で出土している。2区1号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・貝製品・動物遺体・灰、2区2号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・動物遺体が確認された。加えて2区2号土坑の底面からはイノシシの頭骨が出土している、などの特徴が挙げられる。規模は全体的に小振りな印象だが、晩期前葉の土器を主体とする点や、貝・動物遺体を大量に含む、正位置の遺物が出土する点など、他地域との共通点が多々見受けられる。また、遺構の性格が廃棄するためのものであるのか、もしくは埋納するためのものであるのかといった点については、明確な位置付けが困難である。1区25号土坑では正位置の遺物が出土しているが、他の土坑においては個体になるものは少なく大多数は破片であるといった差異も見受けられるため、個々の円筒形土坑によって用途を区別していた可能性も考えられる。共通して言えることは晩期前葉の東関東において、直径1～2m、深さが2mを超えるような円筒形の大型土坑を掘るという認識を持ち合わせていたということであろう。

### 第4節 1区25号土坑・2区1号土坑出土の貝について

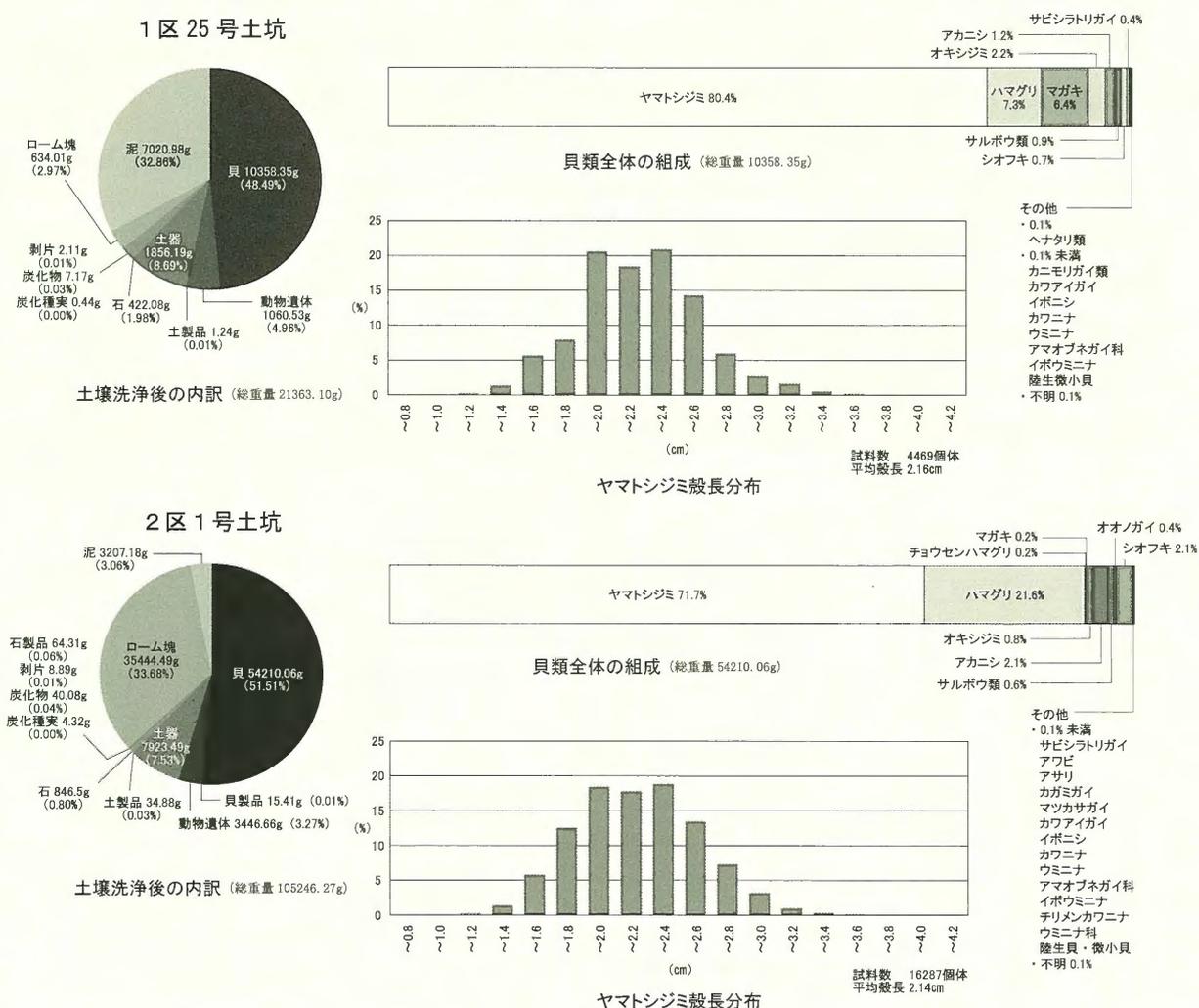
今回の調査を通して、1区地点貝塚(2地点)・1区25号土坑、2区1・2・3号土坑から貝を確認している。地点貝塚は攪乱を受けているため出土した量は多くなく、2区2・3号土坑も同様に出土量は少ないが、1区25号土坑と2区1号土坑は覆土に大量に貝が混入しており、出土量の8割ほどを占める。本節においては、貝が大量に出土した両土坑について、種別と出土量の表を掲載する。出土した貝の種別同定に関しては、西本豊弘氏に依頼した。1区25号土坑は圧倒的にヤマトシジミが多く、次いでハマグリ・マガキ・オキシジミ・アカニシと続く。2区1号土坑も圧倒的な出土量はヤマトシジミであるが、ハマグリ・マガキはほとんどなく

アカニシ・シオフキ・オキシジミ・サルボウ類と続く。両土坑に共通するのは汽水域の貝であるヤマトシジミがほとんどであるが、アカニシ・シオフキといった内湾水域の貝も採取している。また2区1号土坑については、わずかではあるがアワビやチョウセンハマグリといった沿岸水域（外洋）の貝もあることから、内陸の下坂田から霞ヶ浦を出て貝の採取を行っていたことが窺える。

註

- (1) 窪田恵一・黒田友紀・黒沢春彦『入ノ上遺跡 一都市計画道路田村沖宿線道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土浦市教育委員会 1997年8月
- (2) 江原美奈子『上境旭日台貝塚2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV』『茨城県教育財団文化財調査報告書』第364集 2012年3月
- (3) 江原美奈子『本田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告書』第313集 2009年3月
- (4) 喜多裕明『道作古墳群（第2次）・馬場遺跡第5地点（第1次・第2次）—印西市道00-031号線道作古墳群・馬場遺跡埋蔵文化財調査—』『財団法人 印旛郡市文化財センター発掘調査報告書』第295集 2011年3月
- (5) 田中大介『【資料紹介】印西市馬場遺跡第5地点241号土坑について—遺物出土状況と類似遺構の紹介—』『印西の歴史』第六号 2012年3月

表 60 土壌洗浄・貝分類表



遺構名		殻長 (cm)															殻長計測数	計測数合計	殻長不明個体数	個体数合計			
		~0.8	~1.0	~1.2	~1.4	~1.6	~1.8	~2.0	~2.2	~2.4	~2.6	~2.8	~3.0	~3.2	~3.4	~3.6					~3.8	~4.0	~4.2
1区 SK25	右殻	0	1	5	33	129	35	505	430	454	312	134	52	39	10	5	2	1	0	2147	4469	2878	9713
	左殻	0	0	2	26	122	318	414	394	480	326	130	66	32	11	1	0	0	0	2322		2366	
2区 SK1	右殻	0	0	12	126	527	1075	1555	1460	1638	1122	603	247	77	26	5	0	0	0	8473	16287	11574	38375
	左殻	0	3	17	91	411	963	1446	1440	1425	1066	580	263	76	18	11	3	0	1	7814		10514	

ヤマトシジミ殻長計測

# 付章 動物遺体について

国立歴史民俗博物館 西本豊弘

はじめに

2012年度の下坂田貝塚の発掘調査で少量の動物遺体が出土した。発掘区が1区と2区に分かれており出土遺構も異なるので、動物遺体の内容は遺構ごとに表にまとめた。それらの所属時期は縄文時代晩期前葉と中世の二時期に分けられる。縄文時代晩期はシカとイノシシが主体であり、中世はウマが主体である。

## 1. 縄文時代の動物遺体

哺乳類ではイノシシが最も多く、その次にシカが多い。その他にタヌキ・アナグマ・ノウサギ・ツキノワグマが見られた。鳥類は、カモ類とツル類、魚類はクロダイ・ボラ類・フグ類・エイ類・ウグイ類・ヒラメなどが少量出土している。

ヒトの骨や歯も少量見られた。2区1号土坑の頭蓋骨は薄く、女性かも知れない。2区2号土坑の頭蓋骨は厚く、男性であろう。縫合が閉じていないので20～30代であろう。

## 2. 中世の動物遺体

中世の遺構では、シカ・イノシシ・イヌ・ウマが出土している。1区11号土坑では、ウマ1体が埋葬されていた。出土状態から見ると、解体されずに遺体そのまま横倒しの状態で埋葬されたようである。消失した骨もあるが、大部分の骨格が保存されていた。ただし骨質の保存状態は悪く、骨は脆くなっていた。

ウマの形質を見ると、頭部は大きい歯は細くモウコウマ系であり在来馬である。四肢骨の長さから体高を推定してみると約120cmである。臼歯の摩耗は進んでいるが老年ではなく10～12歳程度であろう。犬歯を伴うので雄獣である。

表1 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区出土動物遺体一覧表

遺構	時期	種類	部位	LR	残存部位・崩式	数量	備考
12号土坑	縄文	イノシシ	第4中手骨	L	近位部	1	
		イノシシ	後臼歯		破片	1	
		シカ	基節骨		完存	1	
		陸獣			破片	11	
		クロダイ	前上顎骨	LR	L:2 R:1	3	
20号土坑	縄文	陸獣			破片	8	
21号土坑	縄文	陸獣			破片	13	
25号土坑	縄文	イノシシ	頭蓋骨	L	頭頂骨・頬骨	3	
		イノシシ	上顎歯	L	I1	1	
		イノシシ	上顎歯	L	I2	1	
		イノシシ	上顎歯	L	I3	1	
		イノシシ	下顎骨	L	下顎枝	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎枝	1	
		イノシシ	下顎骨		下顎枝破片	3	
		イノシシ	下顎骨		下顎連合部	1	
		イノシシ	下顎歯	R	I3	1	
		イノシシ	下顎歯	R	P4	1	
		イノシシ	下顎歯	R	d4m4	1	
		イノシシ	大腿骨	R	遠位部	1	骨端はずれ若獣
		イノシシ	距骨	R	完存	1	
		イノシシ	第4中手骨	R	近位部	1	
		イノシシ	基節骨			1	大
		イノシシ	末節骨			1	大
		シカ	頭蓋骨	L	頬骨	1	
		シカ	頸椎		ほぼ完存	1	大型
		シカ	中足骨	R	近位部	1	
		ツキノワグマ	基節骨			1	
		タヌキ	上顎歯	R	M1	1	
		カモ(中)	尺骨	R		1	
		カモ(中小)	大腿骨	R		1	
		ツル類	鳥口骨	L	近位部	1	
		クロダイ	前上顎骨	L		6	中～大
		クロダイ	前上顎骨	R		2	中
		クロダイ	前上顎骨	R		2	
		クロダイ	主上顎骨	R		2	
		クロダイ	歯骨	L		2	
		クロダイ	歯骨	R		2	中
		クロダイ	角骨	L		1	
		クロダイ	第1血管線			1	
タイ	歯			1			

25号土坑	縄文	スズキ	歯骨	L		1			
		フグ	上顎骨	R					
		ボラ	椎骨			2			
		エイ	椎骨			1	大		
		エイ	尾棘		破片	1			
		ヒラメ	椎骨			1			
		陸獣・魚類			破片	750			
		不明			破片	77			
		27号土坑	縄文	イノシシ	後臼歯		破片	4	
				陸獣			破片	2	焼骨
35号ピット	縄文	シカ	上顎歯	L	M2	1			
地点貝塚1	縄文	陸獣			破片	1			
地点貝塚2	縄文	陸獣			破片	20			
貝塚周辺	縄文	クロダイ	歯骨	R		2			
		陸獣			破片	1	焼骨		
12号溝	中世	イノシシ	踵骨	R	近位部	1			
		シカ	下顎歯	L	M3	1	磨減なし若獣		
		シカ	踵骨	L	遠位部	1			
		イヌ	上顎歯	L	(P4)	1			
		ウマ	下顎歯	R	M1	1	セメント質剥離		
		魚類	棘			1			
		不明			破片	13			
		13号溝	中世	イノシシ	下顎歯	R	M3後部1/2	1	破損・未萌出歯若獣
シカ	上顎歯			R	M2?	1	破損		
シカ	踵骨			R	遠位部	1			
陸獣	四肢骨				骨幹部破片	1			
不明					破片	6			
1号井戸	中世	イノシシ	下顎骨	L	(M23)	1	M3第3咬頭まで磨減		
		イノシシ	上顎歯	R	I1	1			
		イノシシ	基節骨			1			
		ウマ	中足骨	L	近位部	1			
		ウマ	上顎歯	R	P2	1	老獣		
		陸獣			破片	12			

表採	種別	部位	LR	残存部位・歯式	数量	備考
	イノシシ	頭蓋骨		右後頭部	1	
	イノシシ	上顎歯	L	(xM3)	1	第3咬頭まで磨滅
	イノシシ	上顎歯	R	(M3)	1	第3咬頭まで磨滅 ②
	イノシシ	上顎歯	R	I1	1	同一?
	イノシシ	下顎歯	R	I2	1	
	イノシシ	下顎歯	R	C	1	
	イノシシ	下顎骨	L	下顎枝	1	
	シカ	上顎歯	R	(M12)	1	M2後部磨滅なし 若獣
	シカ	下顎歯	R	M2	1	未萌出歯
	アナグマ	尺骨	R	骨幹部	1	
	スズキ	主髁蓋骨		破片	1	
	不明			破片	16	

注：Iは切歯、Pは前臼歯、Mは後臼歯、数字は歯の順番を示す。

表2 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区出土動物遺体一覧表

遺構	時期	種類	部位	LR	残存部位・歯式	数量	備考
1号土坑	縄文	イノシシ	頭蓋骨		右後頭部	1	
		イノシシ	頭蓋骨		右涙骨他破片	3	
		イノシシ	頭蓋骨		頭蓋底破片	2	
		イノシシ	上腕骨	R	遠位部	3	骨端はずれ 若獣
		イノシシ	上腕骨	R	遠位部	1	
		イノシシ	橈骨	L	近位部	1	
		イノシシ	橈骨	R	遠位部	1	骨端はずれ 幼獣
		イノシシ	末節骨			1	
		イノシシ	上顎骨(切歯骨)	L	(I1xx)	1	
		イノシシ	上顎骨	L	(CxxP34)	1	♂
		イノシシ	上顎骨	L	(I1xxdm234m12)	1	I1未萌出・M2後部破損・若獣
		イノシシ	上顎骨	L	(xM1)	1	磨滅著しい 老獣
		イノシシ	上顎歯	L	I1	1	幼獣
		イノシシ	上顎歯	L	M2	1	
		イノシシ	上顎骨(切歯骨)	R	(I12x)	1	
		イノシシ	上顎骨(切歯骨)	R	I1~3部分	1	歯は脱落
		イノシシ	上顎骨	R	(P123xM123)	1	M3第3・4咬頭わずかに磨滅
		イノシシ	上顎骨	R	(P4M123)	1	M3第3咬頭わずかに磨滅
		イノシシ	上顎骨	R	(M23)	1	M3磨滅進行
		イノシシ	上顎歯	R	P4	1	
		イノシシ	下顎歯	L	I1	1	
		イノシシ	下顎歯	L	I2	1	
		イノシシ	下顎歯	L	I2	1	
		イノシシ	下顎歯	L	dm2	1	幼獣
		イノシシ	下顎歯	L	M2	1	
		イノシシ	下顎歯	L	M3	1	第1咬頭のみ磨滅 若獣
		イノシシ	下顎歯	L	M3	1	第2咬頭まで磨滅 若獣
		イノシシ	下顎歯	L	I1	2	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎体破片	1	
		イノシシ	下顎骨	R	(xM12x)	1	M3は未萌出? 若獣
		イノシシ	下顎骨	R	(P4M12)	1	M3は未萌出? 若獣
		イノシシ	肩甲骨	L	中間部	1	幼獣
		イノシシ	橈骨	L	近位部	1	
		イノシシ	尺骨	R	近位部	1	骨端はずれ・若獣
		イノシシ	尺骨	R	遠位部	1	骨端はずれ・若獣
		イノシシ	寛骨	R	関節臼・坐骨・恥骨	1	
		イノシシ	脛骨	L	近位部	1	骨端はずれ・若獣
		イノシシ	脛骨	L	遠位部	1	
		イノシシ	腓骨	L	骨幹部	1	
		イノシシ	踵骨	R		1	遠位骨端はずれ・若獣
		イノシシ	第5中手骨	L	完存	1	
		イノシシ	第4中手骨	R	近位部	1	
		イノシシ	頸椎			1	骨端はずれ・若獣
		イノシシ?	胸椎		棘突起	1	
		シカ	角	R	中間部	1	枝2本 ♂
シカ	角		先端部・中間部破片	2	♂		
シカ	前頭骨+角突起	R		1	♂		
シカ	頭蓋骨	R	側頭骨・後頭骨	2			
シカ	頸椎			1			
シカ	上顎歯	L	dm3	1			
シカ	下顎歯	R	(P4M1)	1			
シカ	下顎歯	L	M3	1			
シカ	下顎歯	L	(M12)	1			

1号土坑	縄文	シカ	下顎骨	L	(xxP4M123)	1	
		シカ	下顎骨	R	(P234M123)	1	M3第3咬頭磨滅なし
		シカ	肩甲骨	L	近位部	1	
		シカ	膝蓋骨	R		1	
		シカ	中足骨	R	近位部	1	
		シカ	中足骨		骨幹部	1	
		シカ	中足骨		遠位部	1	
		シカ	中手/中足骨		骨幹部破片	1	
		シカ	距骨	R	完存	1	
		シカ	基節骨		完存	2	
		シカ	中節骨		完存	2	基節骨と同一個体
		シカ	頸椎		ほぼ完存	1	骨端はずれ・若獣
		シカ	胸椎			1	骨端はずれ・若獣
		シカ/イノシシ	脛骨	L	骨幹部	1	
		シカ/イノシシ	肋骨		骨幹部破片	2	
		アナグマ	脛骨	L	完存	1	
		アナグマ	脛骨	R	遠位部	1	
		タヌキ	環椎			1	
		タヌキ	輪椎			1	
		タヌキ	下顎骨	LR		2	幼獣
		タヌキ?	下顎骨	R	下顎体	1	P1~P4部分
		ウサギ	脛骨	R	骨幹部	1	両骨端はずれ・若獣
		ヒト	頭蓋骨		破片	6	
		ヒト	寛骨	R	前部上縁	1	成人 女性
		ヒト	上顎歯	L	M1	1	
		ヒト	下顎歯	R	小臼歯	1	
		ヒト	下顎歯	L?	M1	1	磨滅進行 老人
		ヒト	下顎骨	L	(xM3)	1	M3磨滅著しい 老人
		鳥類	肢骨		骨幹部	1	
		クロダイ	主上顎骨	R		3	
		クロダイ	前上顎骨	L		6	
		クロダイ	前上顎骨	R		3	
		クロダイ	歯骨	L		4	
		クロダイ	歯骨	R		3	
		クロダイ	第2髯鱗			1	
		タイ科	角骨			1	
		タイ科	主髁蓋骨	R		1	
		スズキ	前上顎骨	L		1	
		ウグイ	椎骨		第1椎骨?	1	
		ボラ	椎骨			1	
		陸獣	四肢骨		破片	2	
		陸獣			破片	1632	
		魚類	椎骨			2	
		陸獣・魚類			破片	700	
		不明			破片	103	
2号土坑	縄文	イノシシ	頭蓋骨		前頭骨~後頭骨	1	上顎骨と同一個体
		イノシシ	上顎骨	LR	L:(M23) R:(M23)	2	M3第3咬頭まで磨滅
		イノシシ	下顎骨	LR	L:(I12xCP234M123) R:(I1xxCP234M123)	1	♀
		イノシシ	下顎骨	L	関節突起部分	1	関節部分未完成・若獣
		イノシシ	上顎歯	L	C	1	♂ 若獣
		イノシシ	橈骨	R	近位部	1	
		イノシシ	踵骨	L		1	遠位骨端はずれ・幼獣
		イノシシ	第4中足骨	R	近位部	1	
		イノシシ	基節骨			1	近位骨端はずれ・若獣
		イノシシ	胸椎		ほぼ完存	1	骨端はずれ 若獣
		シカ	角	R	角座~中間部	1	落角・枝2本 ♂
		シカ	中手骨		骨幹部破片	1	
		シカ	中節骨			1	
		シカ/イノシシ	肋骨	L	近位部	1	骨端はずれ・破損
		シカ/イノシシ	肋骨		骨幹部破片	5	
シカ/イノシシ	不明		破片	6			
ヒト	頭蓋骨	R?	頭頂骨?破片	1			
9号土坑	縄文	イノシシ	下顎歯		M3破片	1	焼骨
		ヒト?	足根骨		破片	1	踵骨?
		ボラ	主髁蓋骨	L			大型
		陸獣	椎骨		椎体	3	焼骨
14号土坑	縄文	不明			破片	16	焼骨
		不明			破片	4	焼骨
16号土坑	縄文	シカ	中手骨		骨幹部破片	1	
		イノシシ	上顎歯	L	M3	1	第1・2咬頭わずかに磨滅
4号ピット	縄文	不明			破片	40	
		シカ	寛骨	L	坐骨	1	
20号ピット	縄文	イノシシ	下顎歯	L	M3	1	第1・2咬頭わずかに磨滅・若獣
		不明			破片	10	

表3 1区11号土坑出土ウマ

部位	LR	残存部位・歯式	数量	備考	最大長(mm)	推定体高(cm)
頭蓋骨		側頭骨他	1	1個体分		
上顎骨	LR	L:(I123CP234M123) R:(I12xxP234M123)	2	推定年齢:10~12歳 ♂		
下顎骨	LR	L:(I123CP234M123) R:(I123CP234M123)	1			
環椎			1			
軸椎			1			
頸椎			5			
胸椎			7			
椎骨		椎体のみ	6	腰椎部分か		
肋骨		近位部	9			
肩甲骨	L	骨端と辺縁部破損	1			
肩甲骨	R	骨端と辺縁部破損	1			
上腕骨	L	近位骨端破損	1			
上腕骨	R	近位骨端破損	1		260 ±	120
橈骨	L	遠位部破損	1		305 ±	123
尺骨	L		1	橈骨に付着		
橈骨	R	近位部	1			
尺骨	R	遠位部	1	橈骨付着部分のみ残		
中手骨	L?	遠位部	1			
基節骨	L?	近位部	1			
寛骨	L	関節臼~坐骨・腸骨	1			
寛骨	R	関節臼~坐骨・腸骨	1			
大腿骨	L	近位骨端破損	1			
大腿骨	R	遠位部	1			
脛骨	L	骨幹部破損	1			
脛骨	R	骨端・骨幹部破損	1			
膝蓋骨	L		1			
中足骨	L	骨幹部破損	1			
中足骨	R	骨幹部破損	1	第2・4中足骨あり		
踵骨	L	完存	1			
距骨	L	完存	1			
踵骨	R	遠位部	1			
距骨	R		1			
足根骨	L		3			
足根骨	R		5			
基節骨		近位部	1			

表4 1区11号土坑出土 ウマ歯計測表 (mm)

	上顎歯					下顎歯				
	歯種	左右	長さ	最大幅		歯種	左右	長さ	前幅	後幅
上顎歯	P2	L	38.9	21.7	下顎歯	P2	L	31.1	—	13.7
	P3	L	25.8	25.3		P3	L	26.1	14.9	14.4
	P4	L	24.0	25.5		P4	L	25.5	15.0	15.3
	M1	L	22.2	25.5		M1	L	22.0	14.2	12.5
	M2	L	22.2	23.5		M2	L	24.1	13.4	12.1
	M3	L	27.0	21.9		M3	L	31.2	11.5	—
	P2	R	38.0	21.9		P2	R	30.3	—	13.5
	P3	R	26.4	25.3		P3	R	25.7	13.7	14.2
	P4	R	24.0	24.9		P4	R	24.6	15.0	14.6
	M1	R	21.4	24.6		M1	R	21.7	14.4	12.7
	M2	R	22.1	23.9		M2	R	23.3	13.6	11.8
	M3	R	26.1	22.1		M3	R	31.7	11.7	—

注:Pは前臼歯、Mは後臼歯、数字は歯の順番を示す。

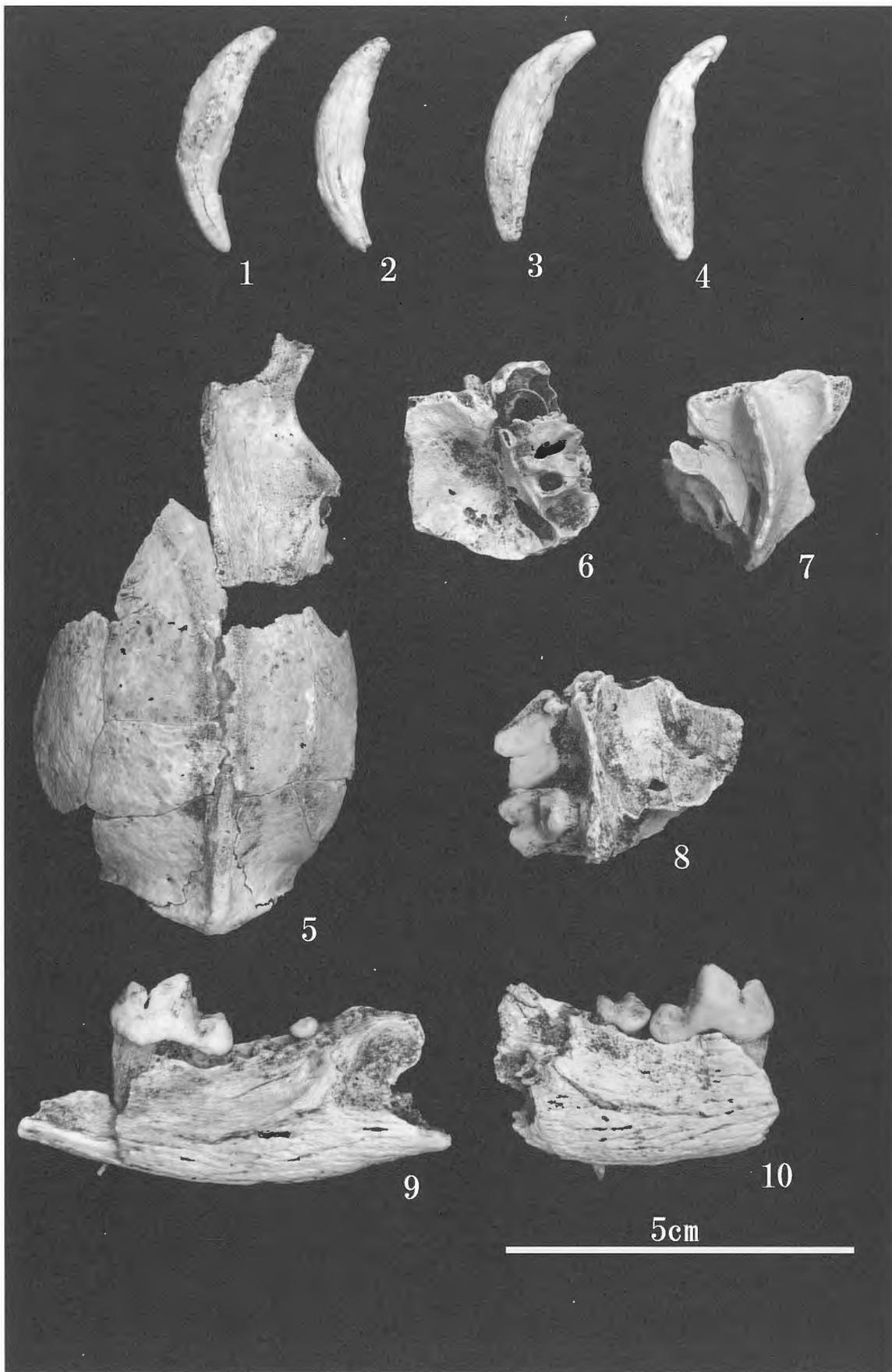


写真1 イノシシ

1：上顎骨（幼獣） 2：上顎骨（成獣） 3：後頭部 4：頸椎 5：尺骨 6：脛骨近位部（若獣） 7：脛骨遠位部 8：寛骨 9・10：下顎骨（雌獣）

（1・6・7・9は左側、2・5・8・9は右側。幼獣・若獣の記載がないものは成獣）

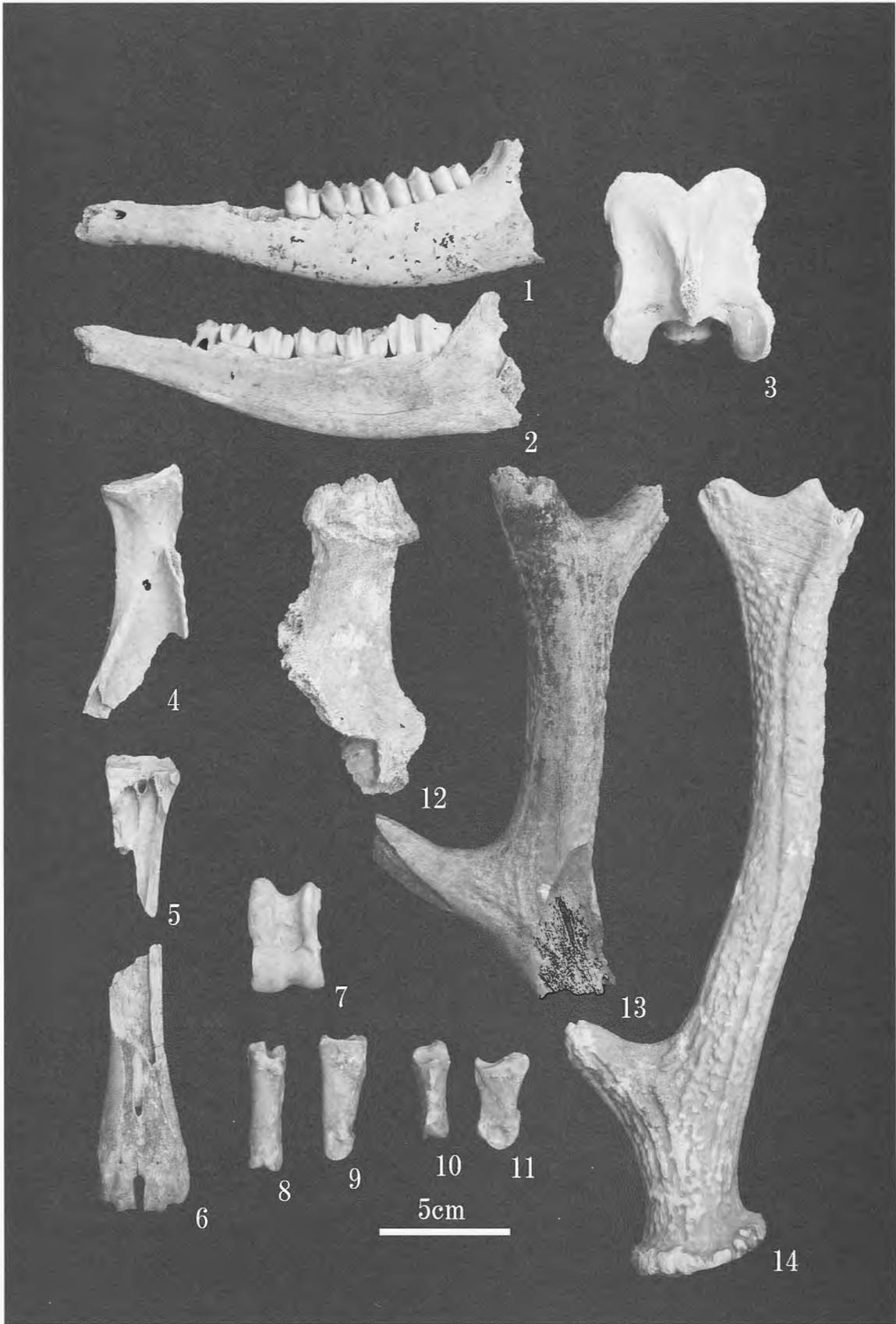


写真2 シカ

1・2：下顎骨 3：頸椎 4：肩甲骨 5・6：中足骨 7：距骨 8・9：基節骨 10・11：中節骨  
 12：頭骨と角突起 13：鹿角 14：落角  
 (1・4は左側、2・5・7・12は右側)



写真3 ウマ (1区11号土坑)

1 : 左右上顎骨 2 : 左側下顎骨 3a・b : 右側下顎骨



写真4 ウマ (1区11号土坑)

1 : 第1頸椎 2 : 第2頸椎 3 : 肩甲骨 4 : 上腕骨 5 : 橈骨 6 : 大腿骨 7 : 脛骨 8 : 寛骨  
 9 : 中足骨 10 : 中手骨遠位部 11 : 踵骨 12 : 距骨

(1・2・10以外は左側)

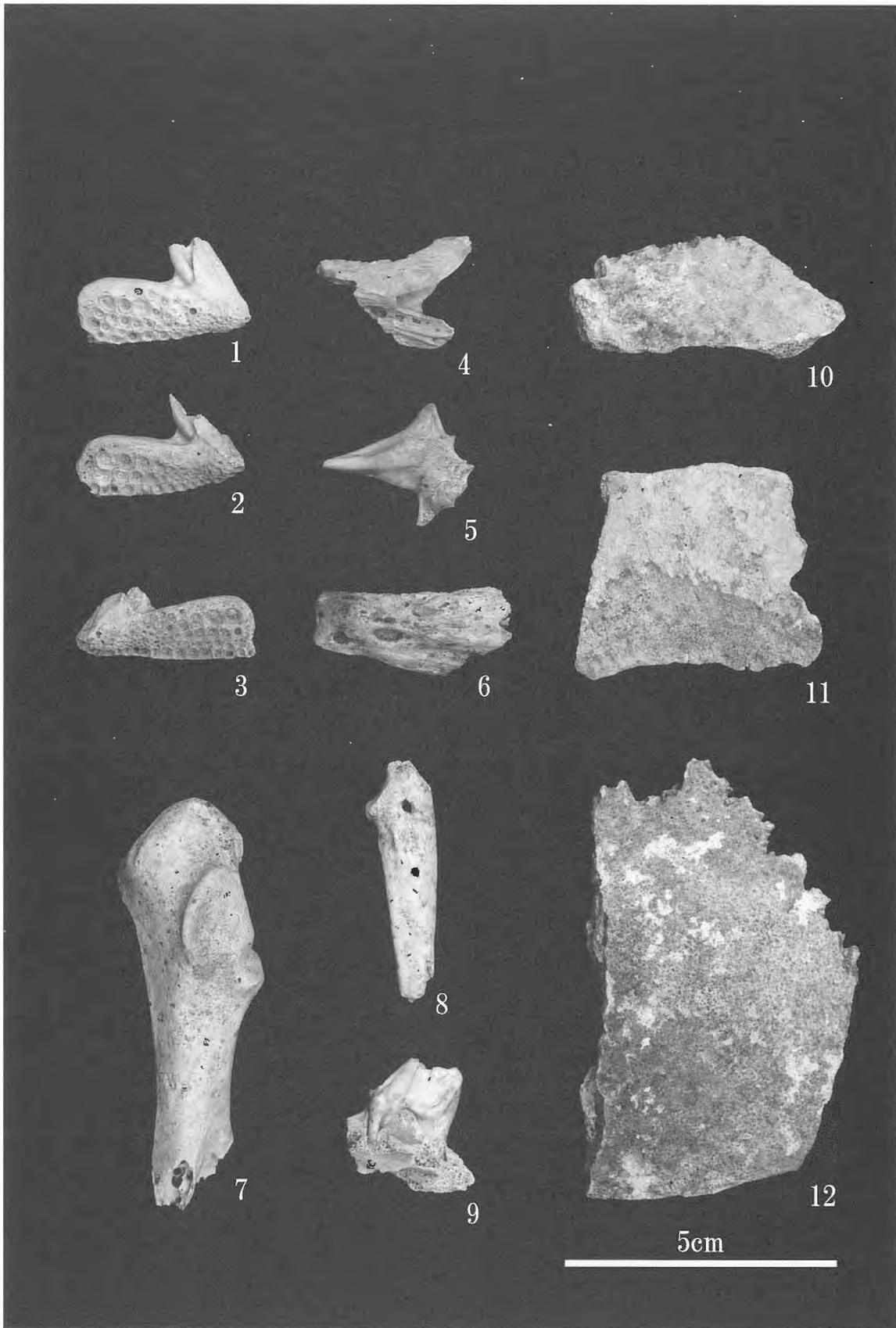


写真5 魚類（1～6）・鳥類・哺乳類・ヒト（10～12）

1～3：クロダイ前上顎 4：クロダイ歯骨 5：タイ類関節骨（角骨） 6：スズキ歯骨 7：ツル類鳥口骨 8：アナグマ尺骨 9：イヌ上顎骨 10～12：ヒト頭蓋骨  
 （1・2・4～9は左側、3は右側）

# 写 真 图 版



1号住居跡全景（南西から）



1号住居跡遺物出土状況（南西から）



1号・2号溝跡全景（東から）



1号土坑（陥し穴）全景（東から）



2号土坑全景（北から）



3号土坑全景（西から）



屋敷付古墳調査前全景（北から）



1号墳周溝全景（北から）



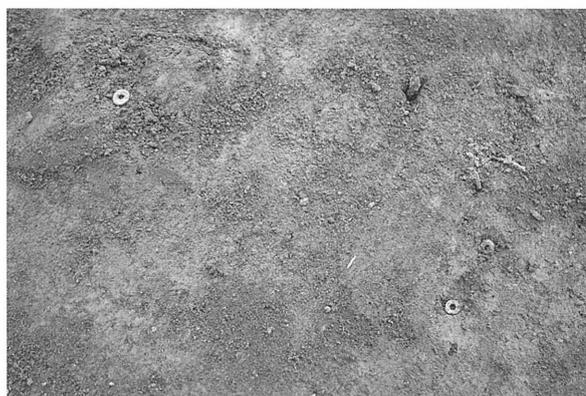
1号住居跡全景 (南東から)



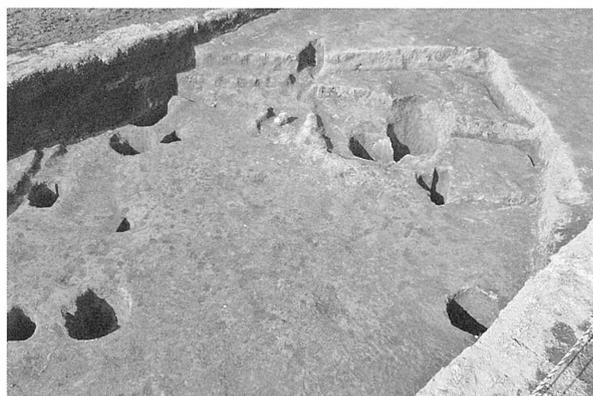
1号住居跡カマド (南東から)



2号住居跡全景 (北西から)



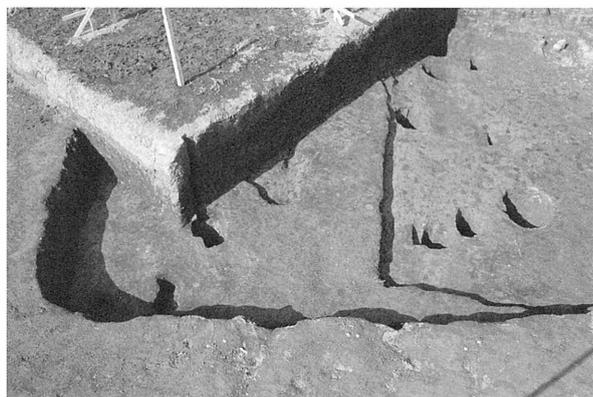
2号住居跡白玉出土状況 (北東から)



3号住居跡全景 (南東から)



3号住居跡遺物出土状況 (北東から)



4号住居跡全景 (南東から)



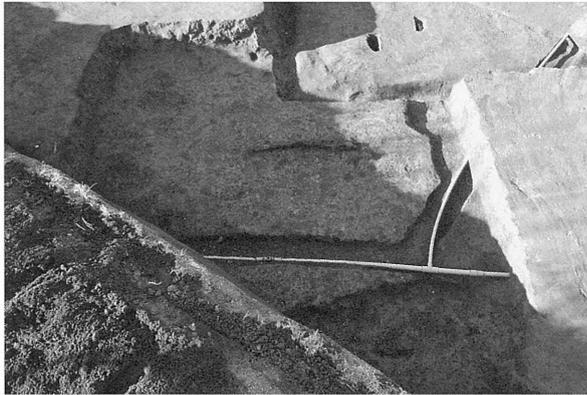
4号住居跡遺物出土状況 (西から)



5号住居跡全景（南東から）



5号住居跡遺物出土状況（東から）



6号住居跡全景（南東から）



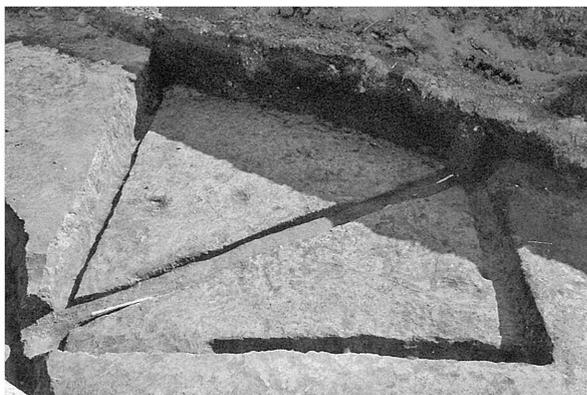
6号住居跡遺物出土状況（南東から）



7号住居跡全景（南西から）



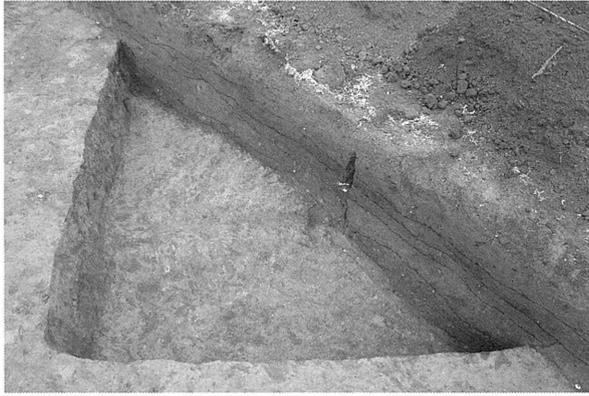
7号住居跡遺物出土状況（南東から）



8号住居跡全景（北西から）



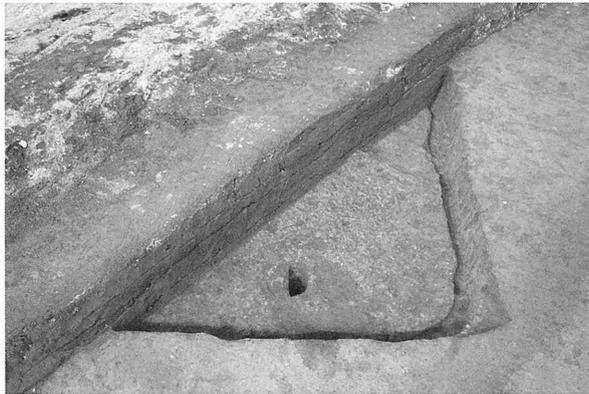
8号住居跡遺物出土状況（北西から）



9号住居跡全景（北西から）



10号住居跡全景（北西から）



11号住居跡全景（南東から）



11号住居跡遺物出土状況（南から）



13号住居跡全景（南から）



13号住居跡遺物出土状況（南から）



13号住居跡土製模造鏡出土状況（南から）



14号住居跡全景（南西から）



14号住居跡石製模造品出土状況（西から）



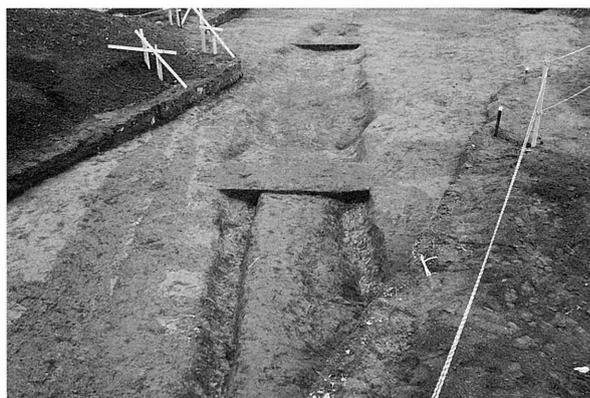
2号溝跡遺物出土状況（南から）



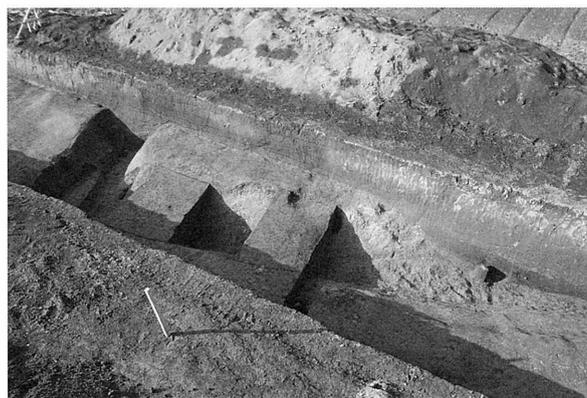
6号溝跡全景（東から）



7・8・10号溝跡全景（東から）



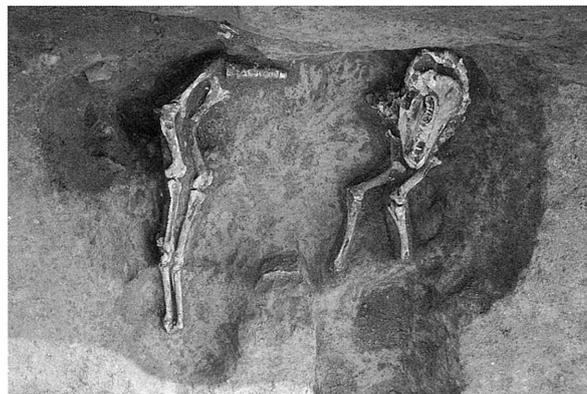
9号溝跡硬化面検出状況（南西から）



12号溝跡（堀跡）全景（南東から）



13号溝跡全景（東から）



11号土坑馬骨出土状況（北から）



24号土坑(陥し穴)全景(南から)



25号土坑注口土器出土状況(北から)



1号建物跡検出状況(南から)



1号井戸跡全景(北から)



地点貝塚検出状況(南東から)



20~23号ピット全景(南東から)



1区南側東西路線全景(西から)



1区北側東西路線全景(東から)



1号住居跡全景（西から）



2号住居跡全景（西から）



1号溝跡全景（南から）



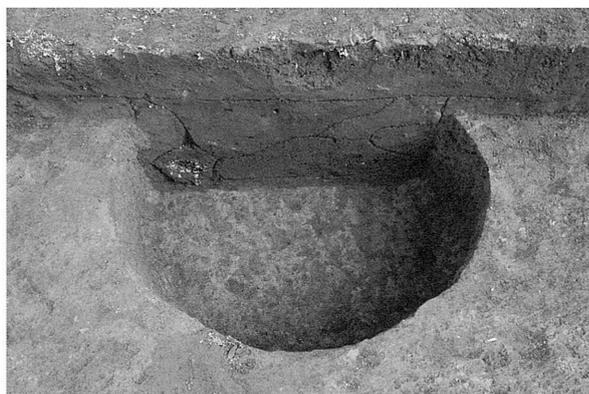
2号溝跡全景（南東から）



1号土坑セクション（南から）



2号土坑セクション（南から）



3号土坑全景（西から）



2区全景（南西から）

坂田台山古墳群



1住-1



1住-2



1住-4



1住-3



1土-1



1土-3



1土-2



1土-4



P 3-1



遺外-1



遺外-2



遺外-3



遺外-4



遺外-5



遺外-6

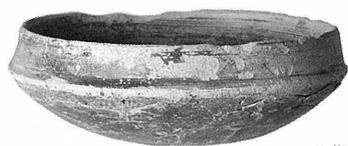


遺外-7



遺外-8

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 1 区



1住-1



1住-4



1住-2



1住-5



1住-6



1住-3



1住-7



1住-9



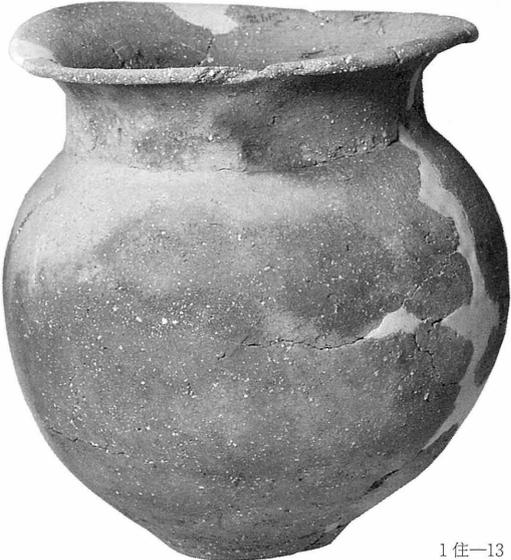
1住-10



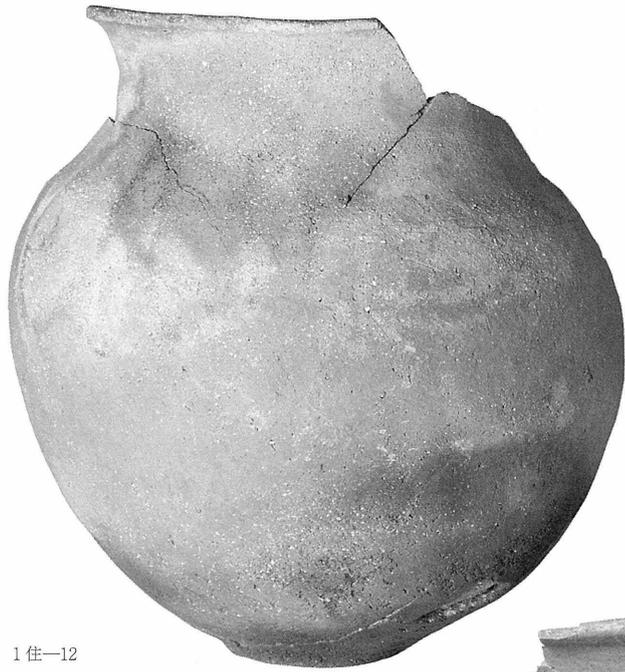
1住-11



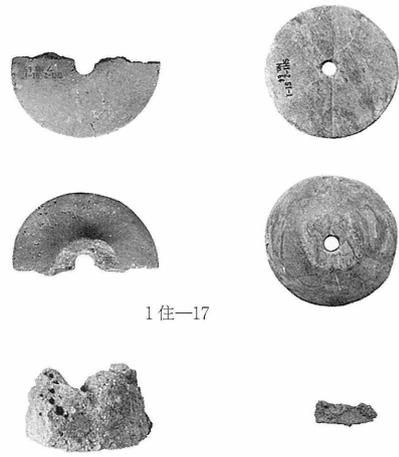
1住-8



1住-13



1住-12



1住-17

1住-18

1住-19

1住-20



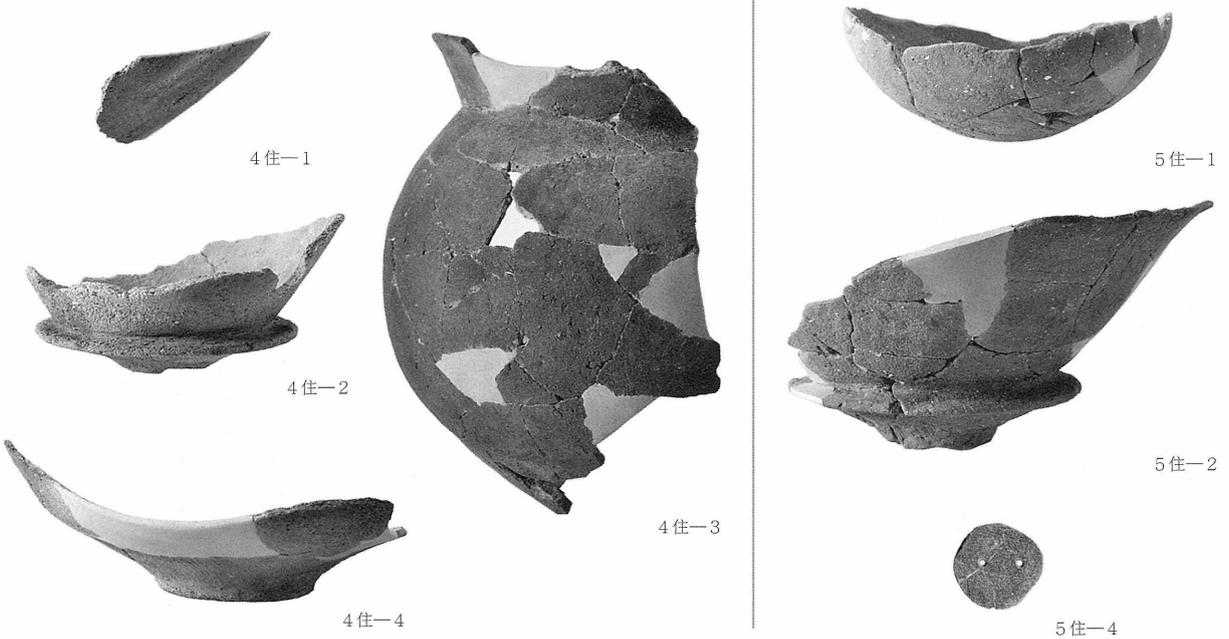
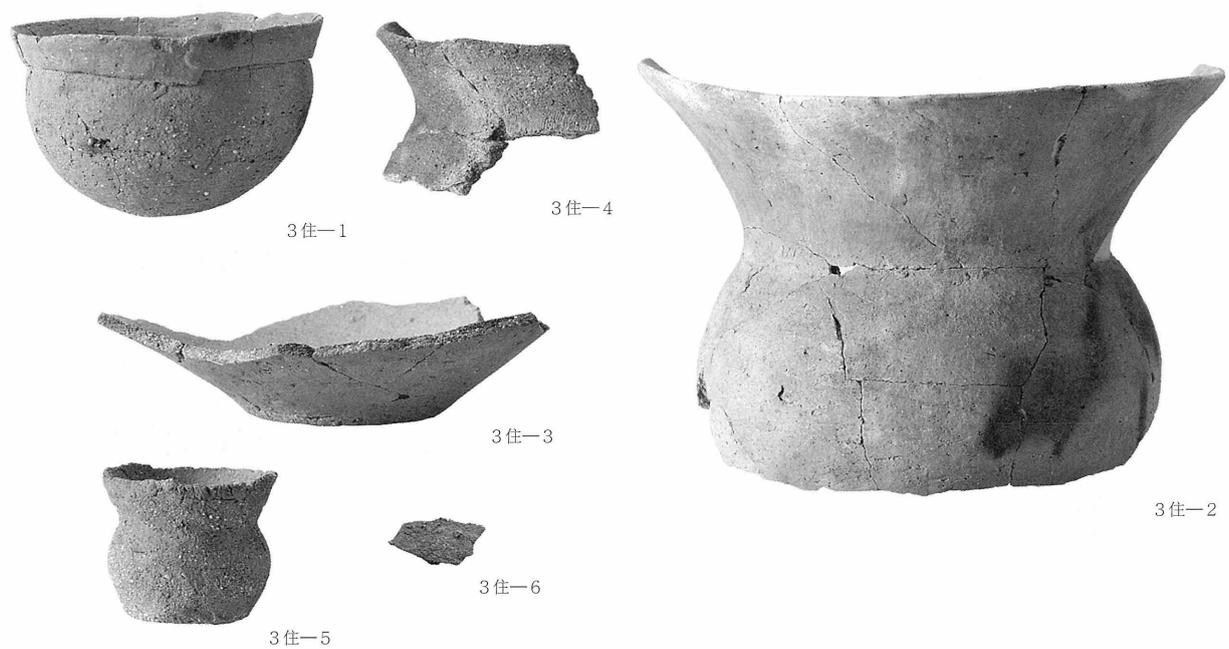
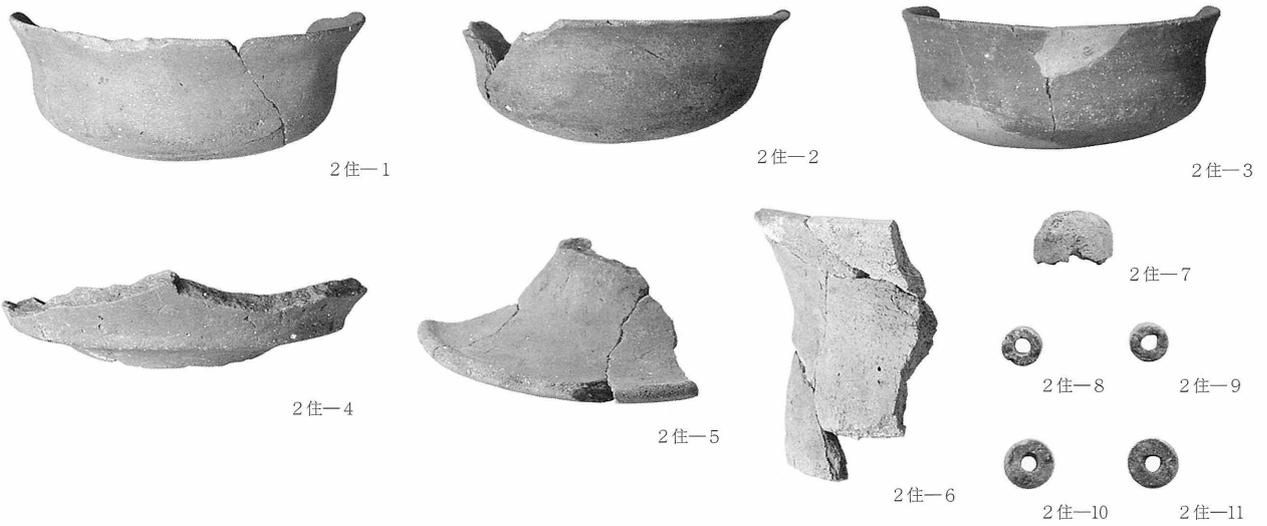
1住-14



1住-15



1住-16







8住-7



8住-8



8住-9



11住-1



11住-2



11住-3



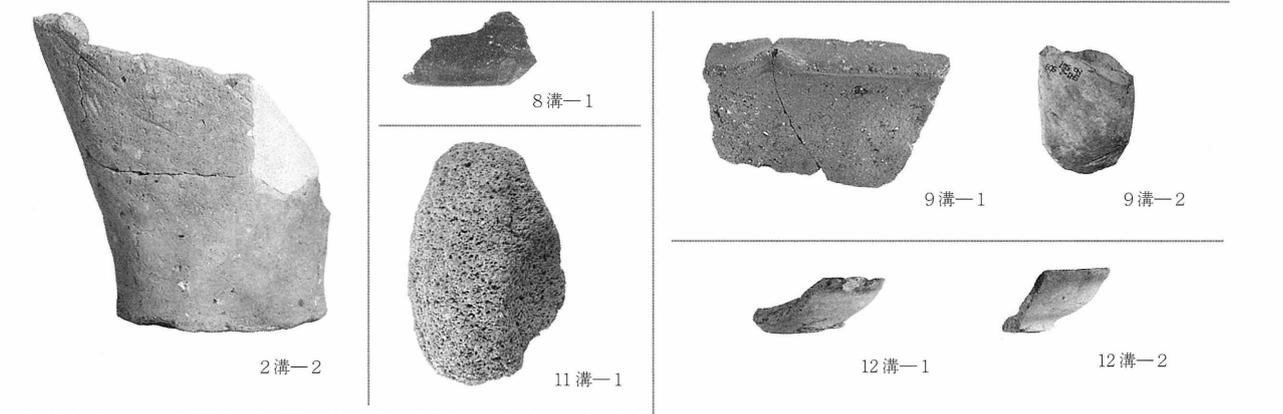
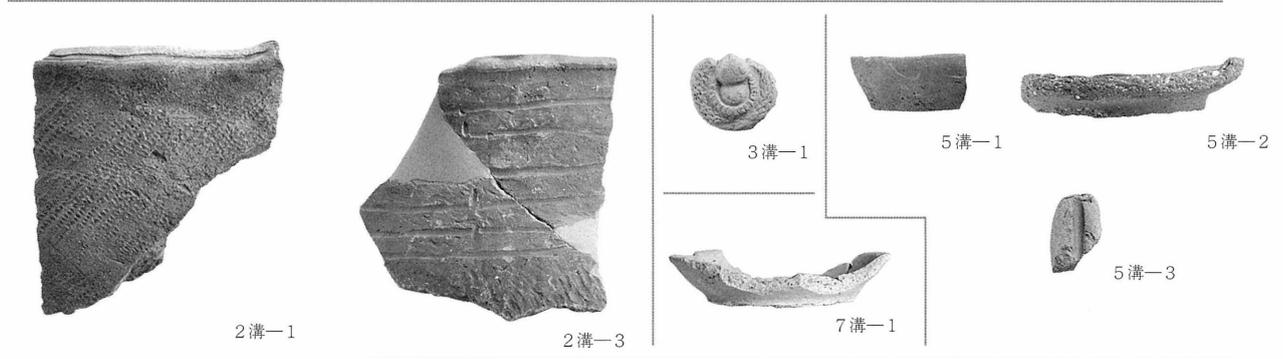
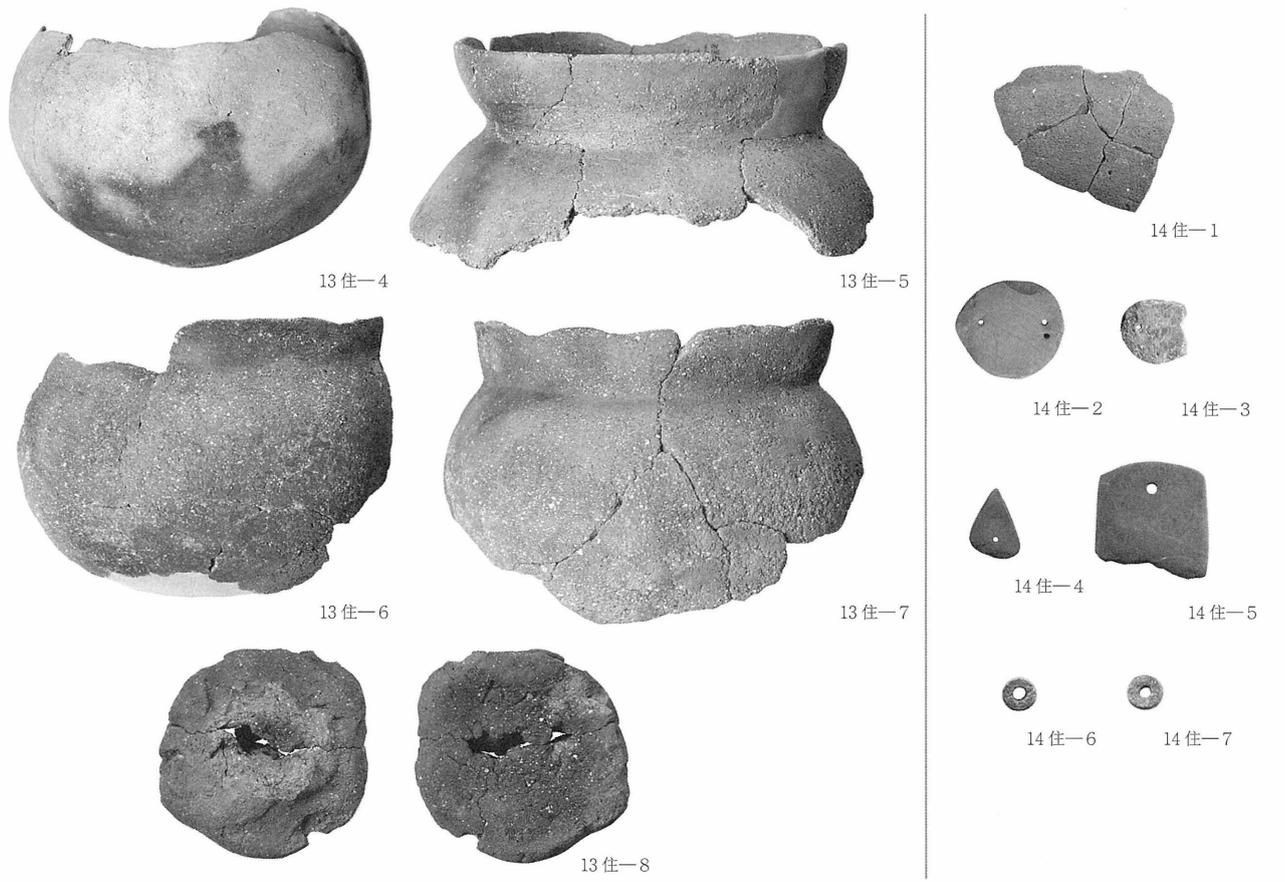
13住-1



13住-2



13住-3





13 溝-1



13 溝-3



13 溝-4



13 溝-2



16 溝-1



16 溝-2



9 土-1



9 土-2



11 土-1



11 土-2



9 土-3



12 土-1



13 土-1



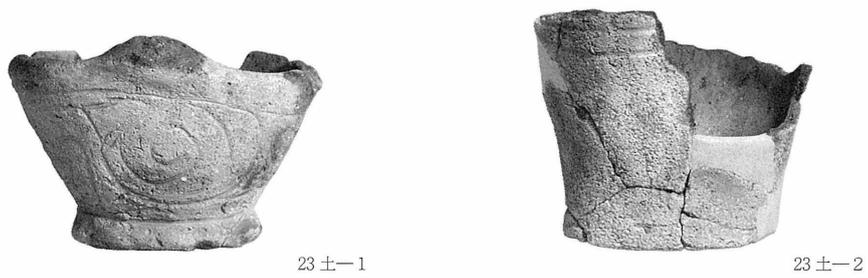
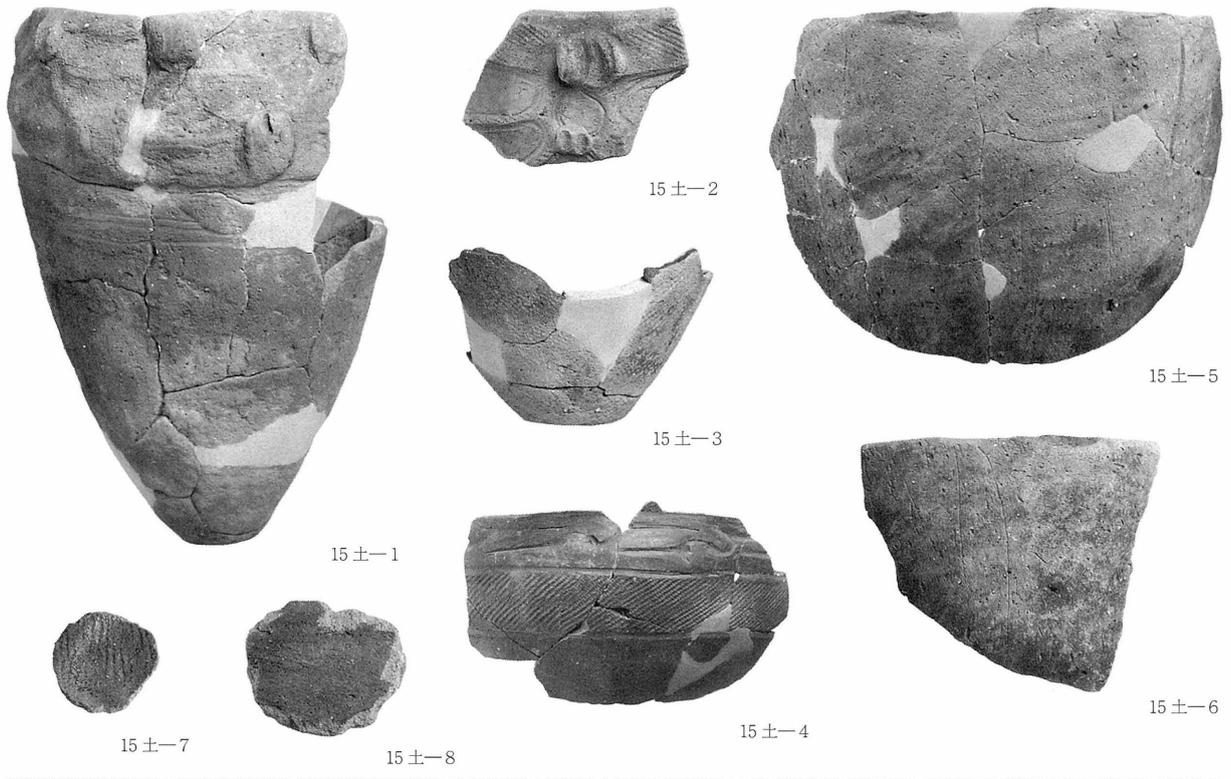
13 土-3



12 土-2



13 土-2

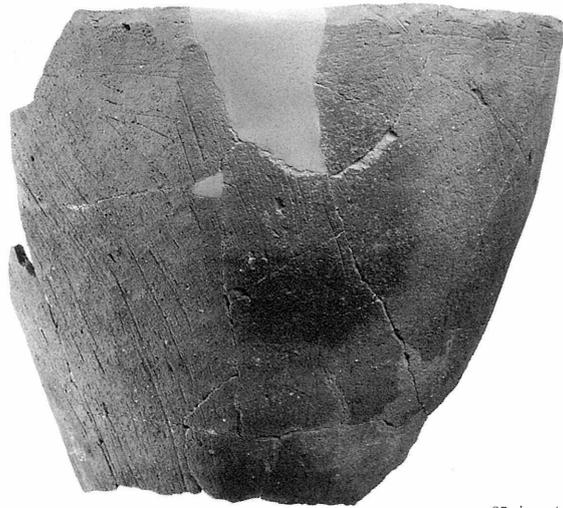




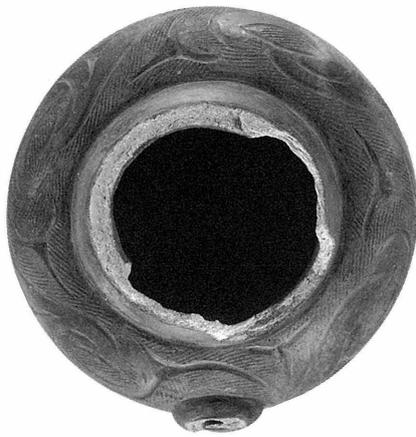
25 土-1



25 土-2



25 土-4



25 土-3



25 土-5



25 土-6



25 土-7



26 土-1



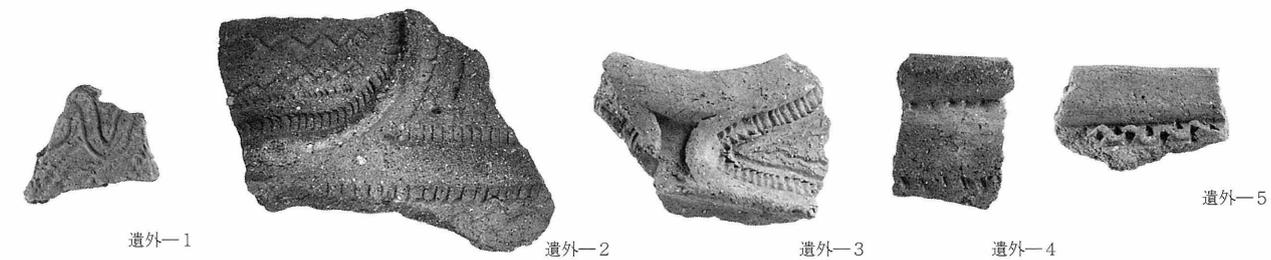
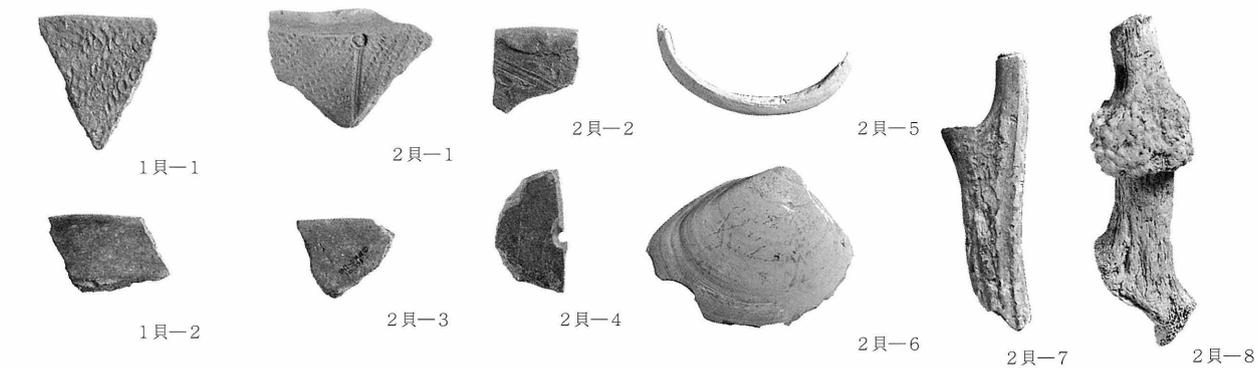
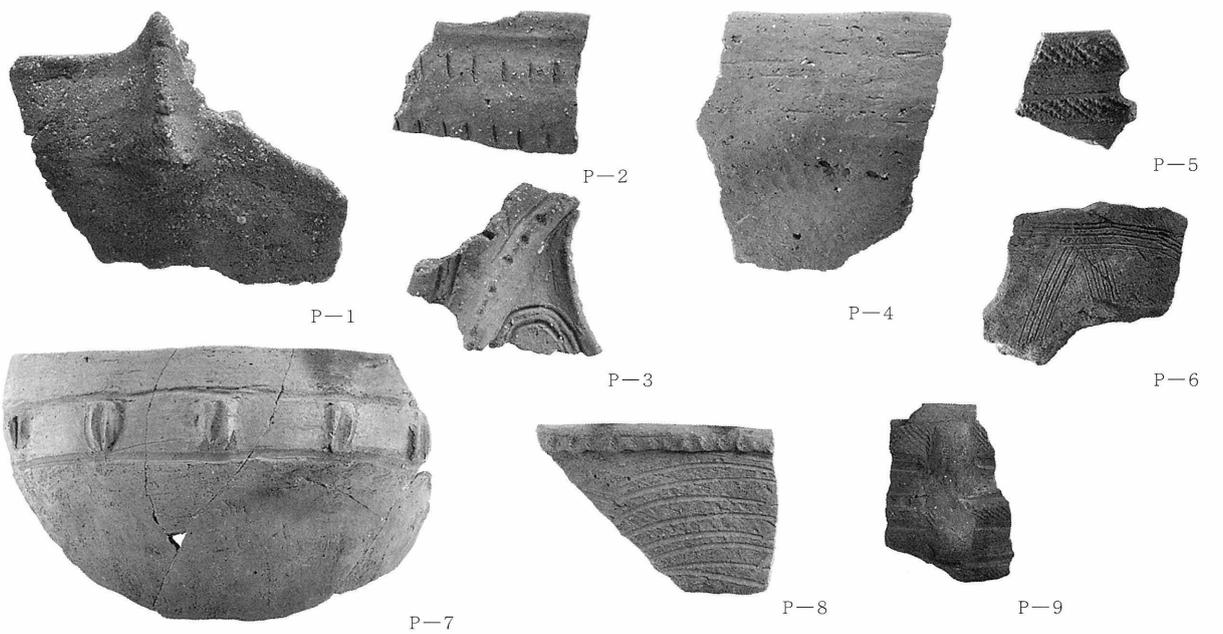
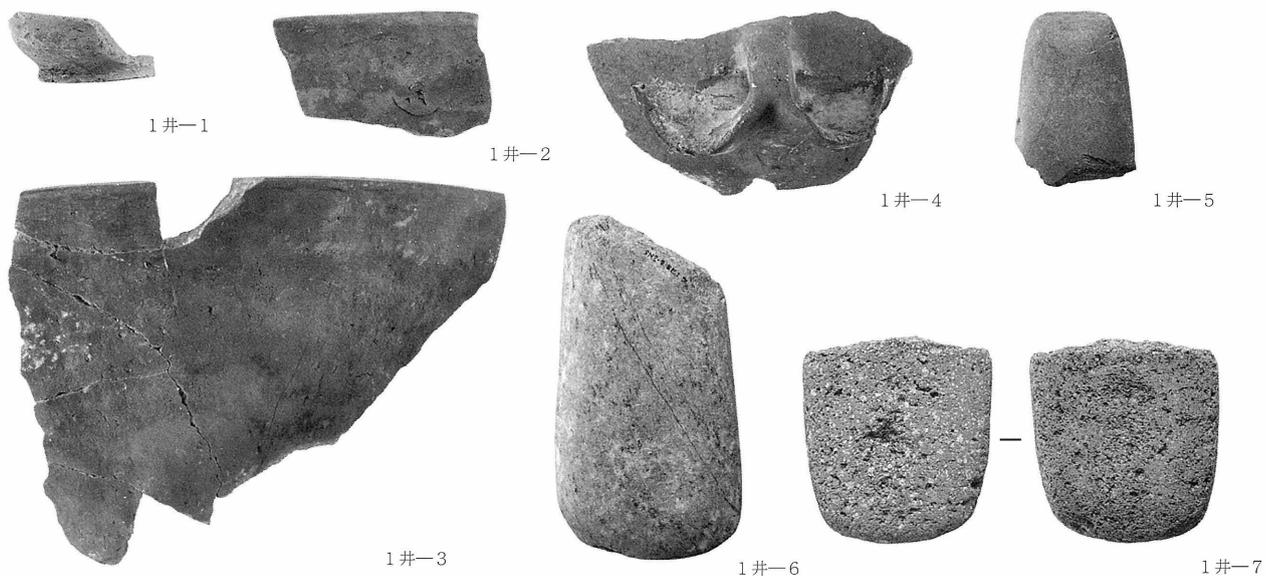
27 土-1

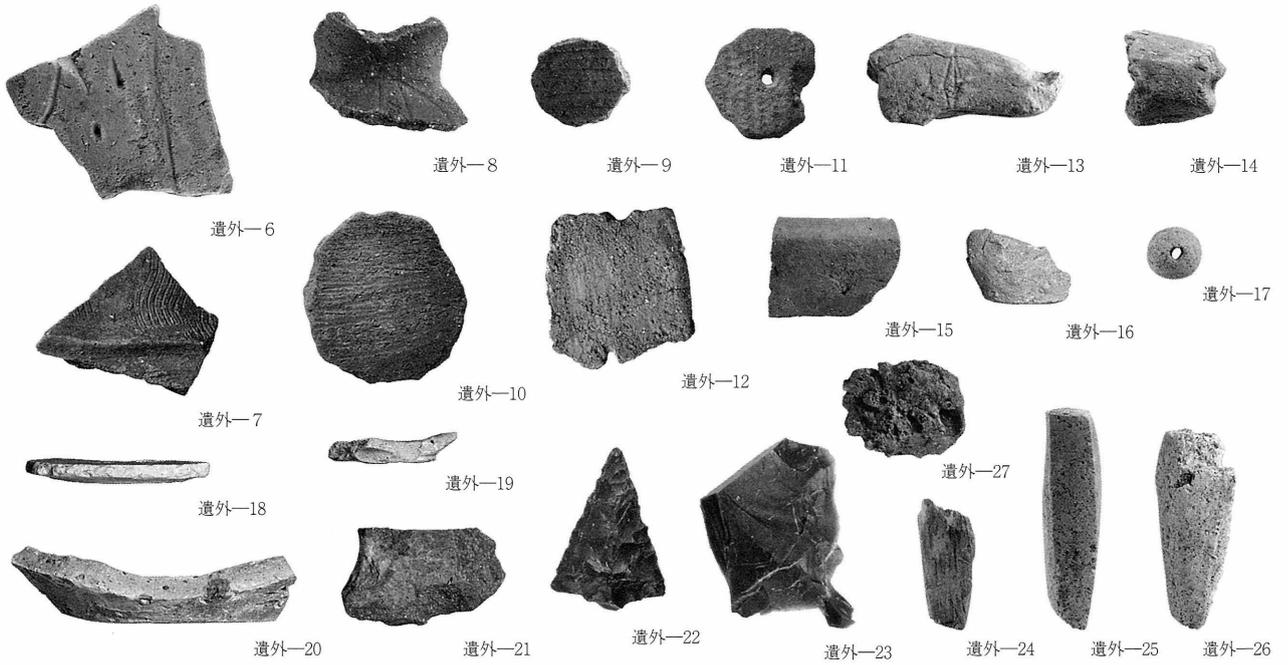


27 土-2

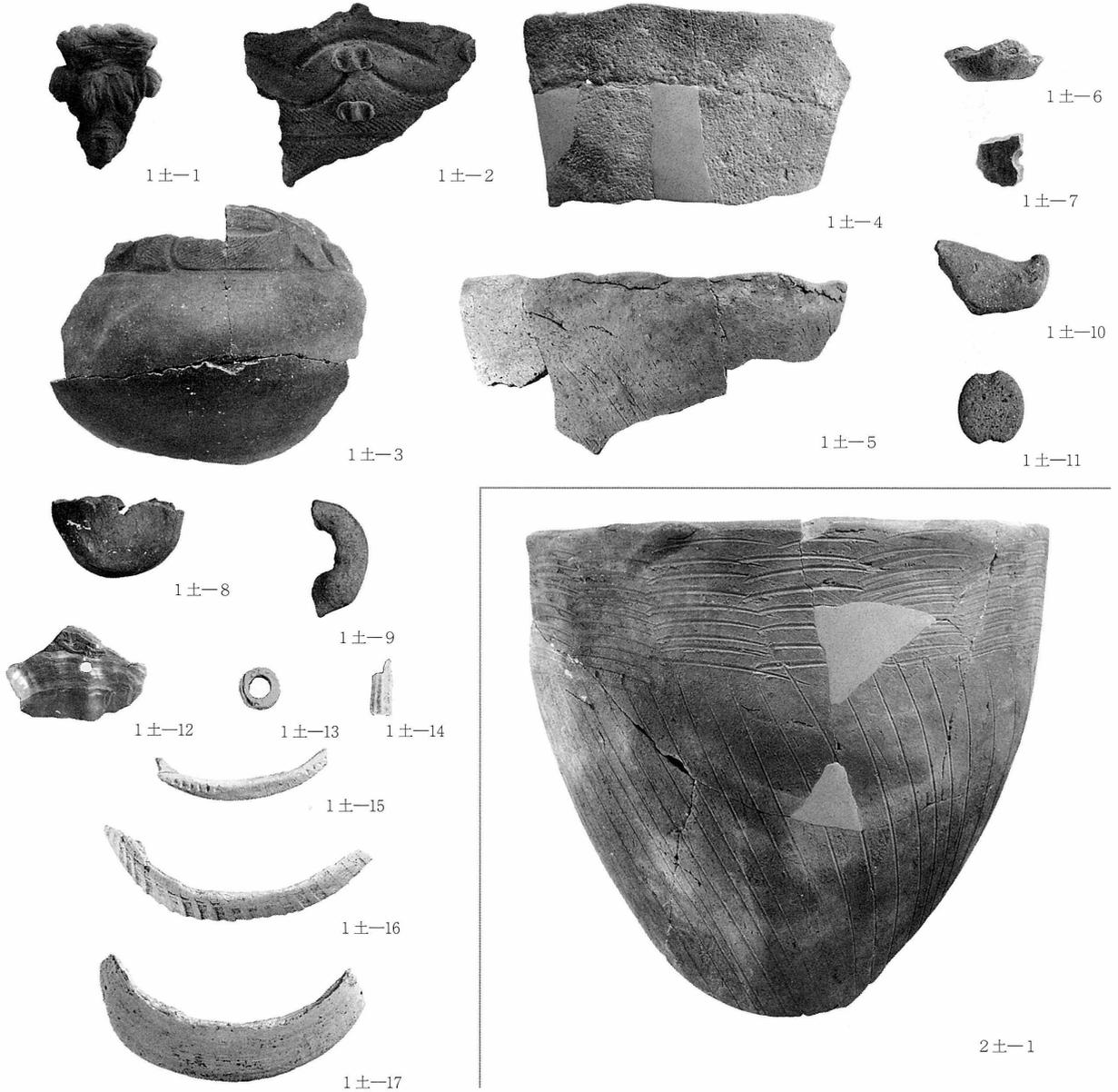


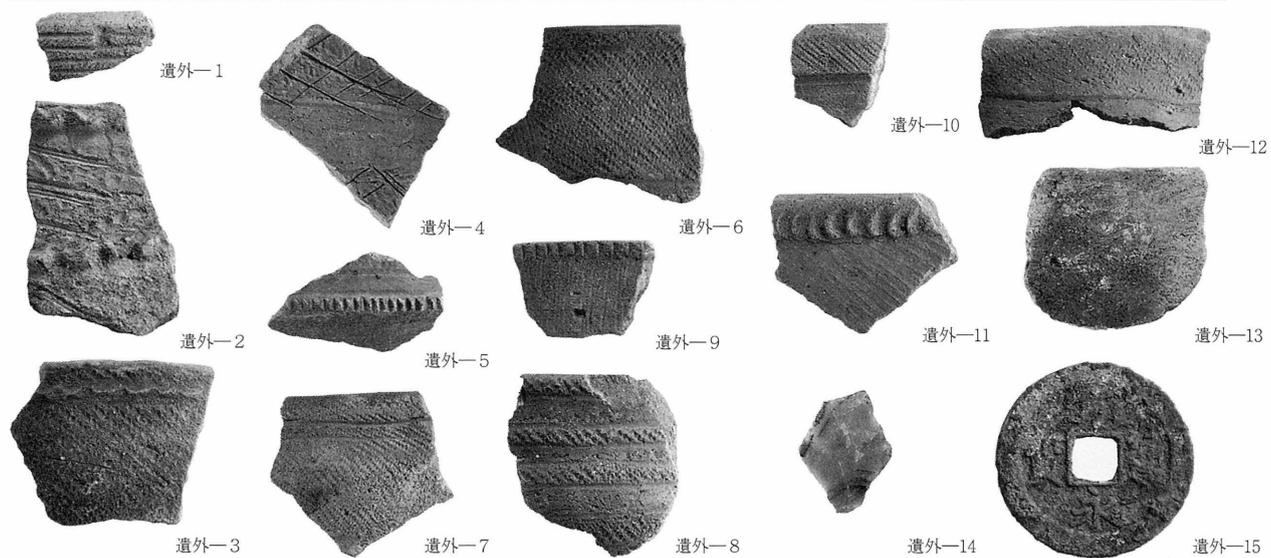
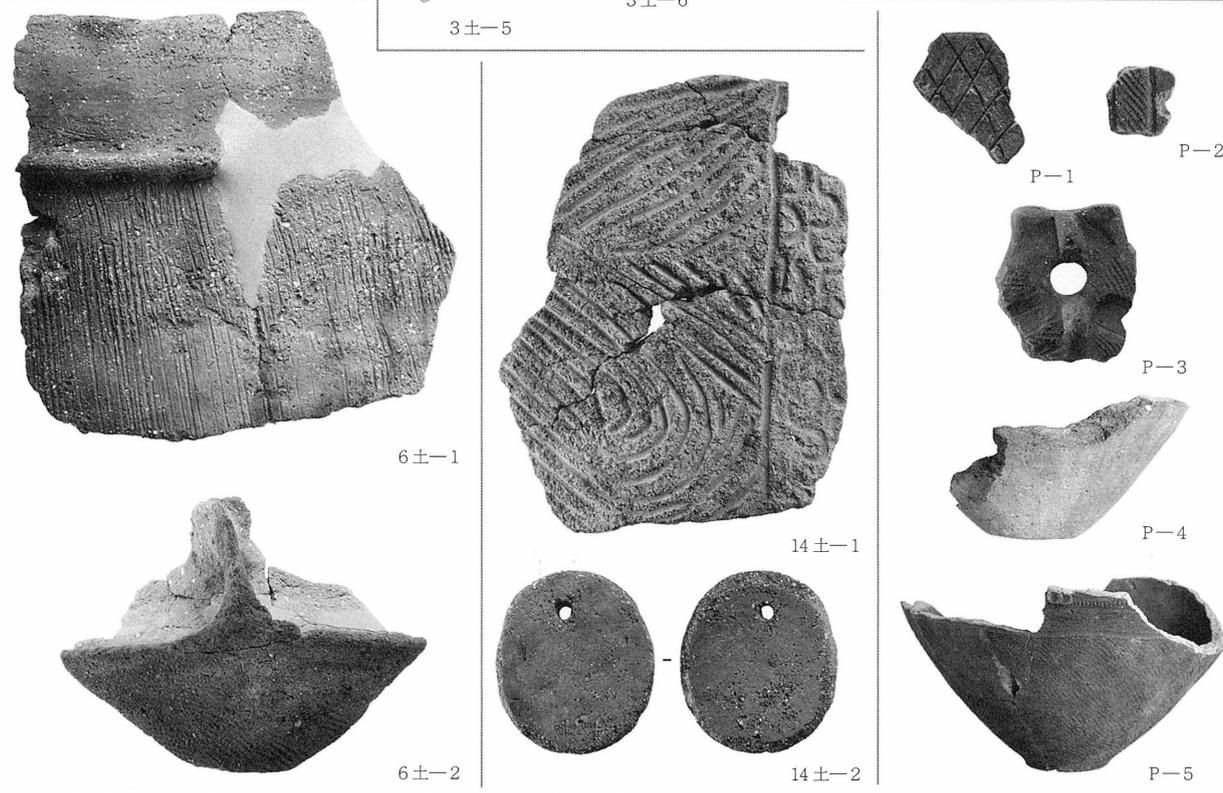
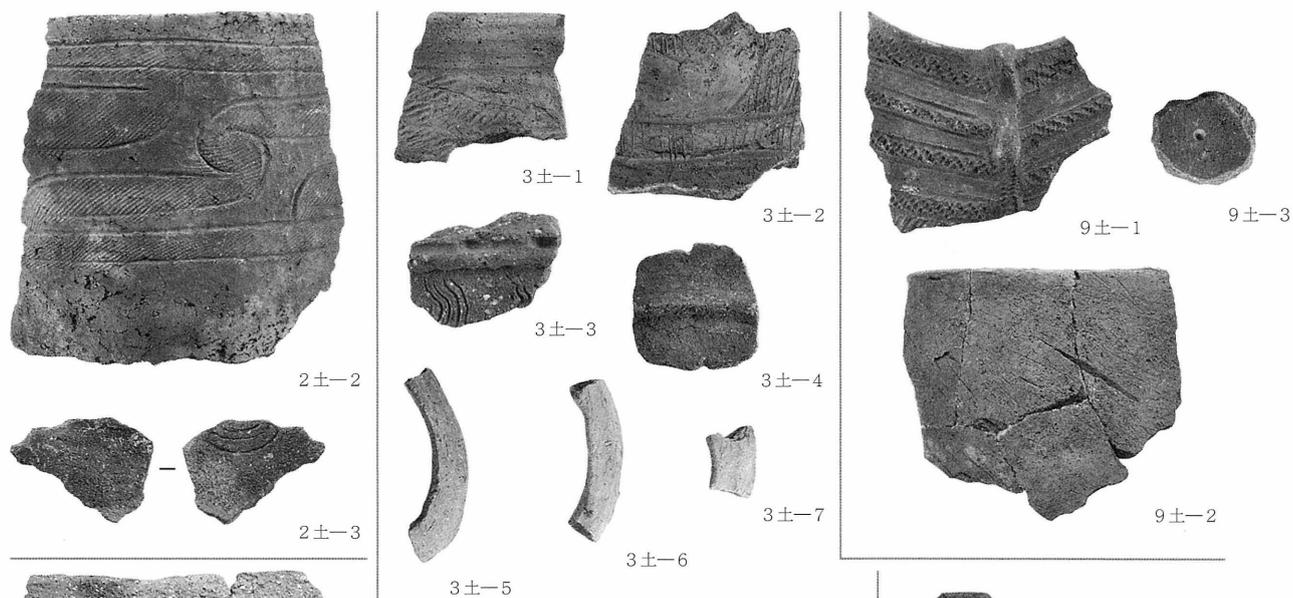
27 土-3





下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区





# 報告書抄録

ふりがな	さかただいやまこふんぐん・しもさかたなかだいいせき・しもさかたかいづか							
書名	坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚							
副書名	坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名								
編集者名	柴田洋孝							
著者名	比毛君男・西本豊弘・柴田洋孝							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 茨城支所							
所在地	〒 300-0811 茨城県常総市菅生町 2042-1 TEL 0297-27-0722							
発行年月日	平成 25 年 3 月 8 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかただいやまこふんぐん 坂田台山古墳群 しもさかたなかだいいせき 下坂田中台遺跡 しもさかたかいづか 下坂田貝塚	つちうらししもさかた 土浦市下坂田 1467 番地外	465	008 005 006	36° 06' 31"	140° 10' 05"	2011.12.14 ～ 2012.03.21	2,760㎡	畑地帯総合 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
坂田台山古墳群	集落 古墳	縄文	竪穴住居跡 土坑		1 軒 3 基	縄文土器・石器（打製石 鏃）		縄文時代中期後葉の遺 構を確認。 屋敷付古墳の周溝は攪 乱の影響が著しい。
		古墳	周溝		1 基	縄文土器・土師器・陶磁 器		
		中・近世	溝跡 道路状遺構		1 条 1 条	縄文土器・陶磁器		
下坂田中台遺跡 下坂田貝塚	貝塚 集落 城館	縄文	竪穴住居跡？ 土坑 地点貝塚		3 軒 36 基 2ヶ所	縄文土器・土製品（土偶・ 腕輪・土版・土器片円盤・ 土器片錘）・石器（打製 石鏃・打製石斧・磨製石 斧）・骨角製品（ヤス）・ 貝製品（貝輪）・貝・獣骨・ 魚骨		縄文時代中期中葉～晩 期前葉までの遺構を確認。 地点貝塚は後期前 葉～中葉にかけて形成 されたとみられる。晩 期前葉においては円筒 形の深い土坑を確認し ており、覆土中から完 形の注口土器や、大量 の貝・獣骨等を確認。 古墳時代の住居跡は前 期から後期までを確認。 1区13号住居跡 からは土製の模造鏡が 出土している。 中世期における堀跡は 館跡、もしくは牧に関 連するものとみられ る。また、馬の埋納土 坑を1基、堀跡に隣接 して確認している。
		古墳	竪穴住居跡		11 軒	土師器・土製品（紡錘車・ 模造鏡）・石製品（紡錘車・ 白玉・模造品）		
		奈良・平安	竪穴住居跡 溝跡 土坑		2 軒 2 条 1 基	土師器・須恵器		
		中世	掘立柱建物跡？ 溝跡 堀跡 道路状遺構 土坑 地下式坑 馬埋納土坑 井戸跡		1 棟 11 条 2 条 2 条 3 基 1 基 1 基 1 基	かわらけ・土師質土器 （鍋・茶釜）・陶器（壺・甕）		
		近世	溝跡 井戸跡？		1 条 1 基	泥面子		

茨城県土浦市  
坂田台山古墳群  
下坂田中台遺跡  
下坂田貝塚

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）  
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成 25 年 3 月 5 日

発行 平成 25 年 3 月 8 日

- 編集 有限会社毛野考古学研究所 茨城支所  
〒303-0044 茨城県常総市菅生町2042-1  
TEL 0297-27-0722
- 発行 土浦市教育委員会  
〒300-0811 茨城県土浦市藤沢975  
TEL 029-826-1111
- 印刷 朝日印刷工業株式会社  
〒371-0846 群馬県前橋市元総社町67  
TEL 027-251-1212